

# 長谷川如是閑著作目録

松 田 義 男 編  
改訂 2024 年 3 月 5 日  
2009 年 6 月 14 日

## 目次

- I 著作選集
- II 著書
- III 共著(序文等含む)
- IV 出版内容見本(パンフレット・リーフレット)
- V 編集・監修書など
- VI 評論等(新聞・雑誌掲載)
- VII 初出一覧(1 単行書、2 著作選集)

## 凡例

- \*著作の形態に応じて、「Ⅰ 著作選集」、「Ⅱ 著書」、「Ⅲ 共著(序文等含む)」、「Ⅳ 内容見本(パンフレット)」、「Ⅴ 編集・監修書など」、「Ⅵ 評論等(新聞・雑誌掲載)」に分類し、それぞれを年次順に配列した。また、「Ⅰ 著作選集」および「Ⅱ 著書」の創作集・評論集については、「Ⅶ 初出一覧(1 著書、2 著作選集)」を付した。
- \*「Ⅱ 共著」は初出の場合のみ採録した。再録の場合は、初出掲載の注記として[ ]に記した。
- \*新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- \*雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。
- \*新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[ ]で示したほか、無題の場合は[ ]に示して仮題とした。
- \*長谷川如是閑、如是閑、長谷川万次郎以外の署名の場合は《 》に記した。
- \*著作内容に関する補足的事項は【 】に記した。座談会・対談などについては、実施年月日、出席者などを記した。
- \*収録書については、[ ]で示した。
- \*その他、編者の注記は適宜[ ]で示した。
- \*掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1-1 と表記し、日刊新聞の号数は省略した。なお、第二次大戦後の『婦人公論』には、巻次の乱れがあるが、本著作目録では日本近代文学館の巻号表示により 1946 年を 30 巻、以後各年を 1 巻、1954 年を 38・39 巻とし、1955 年を 40 巻、以後各年を 1 巻とした。
- \*新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- \*編者未見の著作については、表題冒頭に\*を付した。

## 謝辞

本著作目録作成に際しては、「著作目録」(長谷川如是閑著作目録編集委員会編『長谷川如是閑 人・時代・思想と著作目録』中央大学、1985 年)、「著作目録補遺」(中央大学人文科学研究所長谷川如是閑著作目録索引編集委員会編『長谷川如是閑 人・時代・思想と著作目録 著作目録索引』中央大学、1987 年)、『長谷川如是閑集 全 8 巻』(岩波書店、1989-1990 年)各巻所収の「初出・再録解題」を参照したほか、愛媛県立図書館、NHK 放送博物館、大阪市立大学学術情報総合センター、大阪府立中央図書館・中之島図書館、大谷大学図書館、お茶の水図書館、神奈川近代文学館、神奈川県立川崎図書館、京都大学附属総合図書館・教育学部図書室、京都府立総合資料館、熊本県立図書館、県立長野図書館、国立教育政策研究所教育図書館、国立国会図書館、国際子ども図書館、埼玉県立熊谷図書館、昭和館、中央大学図書館、東京造形大学図書館上木文庫、東京大学経済学図書室、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター(明治新聞雑誌文庫)、東京大学東洋文化研究所、東京都庁都民情報ルーム、同志社大学人文科学研究所、日本カメラ博物館 JCI ライブラリー、日本近代文学館、日本新聞博物館新聞ライブラリー、日本体育大学図書館、日本大学総合学術情報センター、広島県立図書館、邦字新聞デジタル・コレクション、法政大学多摩図書館、山口県立山口図書館、龍谷大学学術情報センター大宮図書館、早稲田大学中央図書館・同現代政治経済研究所より調査・閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

## 付記

- 上記「著作目録」および「著作目録補遺」に採録されている下記著作は、本目録では採録を保留した。
- ・「新聞週間に寄せて―大衆は正しいものを望む」『新聞協会報』1946 年 4 月。  
掲載紙および掲載年月日に誤記がある。第 1 回の新聞週間は、1948 年 10 月である。同一表題の寄稿は 1948 年 10 月 3 日付『京都新聞』、『京都市日新聞』で確認できるが、『新聞協会報』への寄稿はない。
  - ・「日本民族と民主主義」『民主主義大講座 第 5 巻』日本正学館、1947 年。  
『民主主義大講座 第 5 巻』(日本正学館)は、1948 年 9 月 10 日刊である。その他の巻も含めて同講座に収録はない。
  - ・以下は、掲載を確認できなかった。  
随想『毎日新聞』1950 年 9 月 6 日  
趣味と実益―今日あるのは弓のお蔭『中国新聞[夕刊]』1954 年 11 月 4 日
  - ・「閑叟」署名の『都新聞』「狙撃兵」欄の下記著作は、如是閑の著作としては疑義があり採録しなかった。  
東亜解放の為に「狙撃兵」『都新聞』1940 年 7 月 7 日  
魂のない産報「狙撃兵」『都新聞』1940 年 7 月 14 日  
荻窪会談の結論「狙撃兵」『都新聞』1940 年 7 月 21 日  
基本国策の公表「狙撃兵」『都新聞』1940 年 7 月 28 日

## I. 著作選集

\*収録評論および初出については、「Ⅶ 初出一覧(1 単行書、2 著作選集)」参照。

\*「:」以下は、Ⅱ以下で使用する収録書としての略号である。

『長谷川如是閑創作集 第1編』我等社、1923年2月5日:『創作集1』(我等社)

『長谷川如是閑創作集 第2編』我等社、1923年3月17日:『創作集2』(我等社)

『長谷川如是閑創作集 第1編』叢文閣、1924年5月10日:『創作集1』(叢文閣)

『長谷川如是閑創作集 第2編』叢文閣、1924年9月28日:『創作集2』(叢文閣)

『長谷川如是閑創作集 第3編』叢文閣、1925年6月5日:『創作集3』(叢文閣)

『奇妙な精神病者 長谷川如是閑集』<現代ユウモア全集 第4巻>現代ユウモア全集刊行会、1929年3月15日:『奇妙な精神病者』

『現代日本文学全集 第41篇 長谷川如是閑集・内田魯庵集・武林無想庵集』改造社、1930年7月13日:『現代日本文学全集41』

『如是閑文芸全集 第1巻 小説1』学芸社、1933年5月30日:『文芸全集1』

『如是閑文芸全集 第2巻 小説2』学芸社、1933年6月30日:『文芸全集2』

『如是閑文芸全集 第5巻 随筆』学芸社、1933年7月15日:『文芸全集5』

『如是閑文芸全集 第7巻 紀行1』学芸社、1933年8月20日:『文芸全集7』

『如是閑文芸全集 第6巻 題言録』学芸社、1933年12月30日:『文芸全集6』

『如是閑文芸全集 第8巻 紀行2』学芸社、1933年12月30日:『文芸全集8』

『如是閑著作集 第1巻 国家篇』養徳社、1948年5月15日:『著作集1』

『如是閑著作集 第8巻 創作篇2』養徳社、1948年11月30日:『著作集8』

『現代随想全集 第2巻 長谷川如是閑・福原麟太郎集』創元社、1953年11月30日:『現代随想全集2』

『昭和文学全集 第37巻 長谷川如是閑 大内兵衛 笠信太郎集』角川書店、1954年5月30日:『昭和文学全集37』

『現代知性全集 第32 長谷川如是閑集』日本書房、1960年5月28日[復刻:『日本人の知性7 長谷川如是閑』学術出版会、2010年]

『随想全集 第12巻 長谷川如是閑 武者小路実篤 笠信太郎集』尚学図書、1969年10月5日:『随想全集12』

『長谷川如是閑選集 第1巻』栗田出版会、1969年10月20日：『選集1』  
『長谷川如是閑選集 第2巻』栗田出版会、1969年12月10日：『選集2』  
『長谷川如是閑選集 第3巻』栗田出版会、1970年1月20日：『選集3』  
『長谷川如是閑選集 第4巻』栗田出版会、1970年3月5日：『選集4』  
『長谷川如是閑選集 第5巻』栗田出版会、1970年4月20日：『選集5』  
『長谷川如是閑選集 第6巻』栗田出版会、1970年6月5日：『選集6』  
『長谷川如是閑選集 第7巻』栗田出版会、1970年7月20日：『選集7』  
『長谷川如是閑選集 補巻』栗田出版会、1970年9月20日：『選集 補巻』

『強盗共和国 如是閑創作集』栗田出版会、1973年3月20日：『強盗共和国』

『現代日本文学大系 40 魚住折蘆 安倍能成 阿部次郎 和辻哲郎 生田長江 倉田百三 長谷川如是閑 辻潤 集』筑摩書房、1973年2月20日：『現代日本文学大系40』

『近代日本思想大系 15 長谷川如是閑集』筑摩書房、1976年1月20日

『近代日本ユウモア叢書 2 長谷川如是閑集』双柿舎、1981年4月1日：『近代日本ユウモア叢書2』

『長谷川如是閑評論集』飯田泰三・山領健二編<岩波文庫>岩波書店、1989年6月16日：『評論集』

『長谷川如是閑集 第1巻』岩波書店、1989年10月20日：『如是閑集1』  
『長谷川如是閑集 第2巻』岩波書店、1989年11月10日：『如是閑集2』  
『長谷川如是閑集 第3巻』岩波書店、1989年12月20日：『如是閑集3』  
『長谷川如是閑集 第4巻』岩波書店、1990年1月19日：『如是閑集4』  
『長谷川如是閑集 第5巻』岩波書店、1990年2月20日：『如是閑集5』  
『長谷川如是閑集 第6巻』岩波書店、1990年5月18日：『如是閑集6』  
『長谷川如是閑集 第7巻』岩波書店、1990年4月20日：『如是閑集7』  
『長谷川如是閑集 第8巻』岩波書店、1990年9月7日：『如是閑集8』

『如是閑文芸選集 第1巻 小説1』岩波書店、1990年11月28日：『文芸選集1』

『如是閑文芸選集 第2巻 小説2』岩波書店、1990年12月：『文芸選集2』

『如是閑文芸選集 第3巻 小説3』岩波書店、1991年1月28日：『文芸選集3』

『如是閑文芸選集 第4巻 戯曲・紀行』岩波書店、1991年2月28日：『文芸選集4』

『ふたすじ道・馬』<岩波文庫>岩波書店、2011年4月15日

## II. 著書

- 『額の男』政教社、1909年8月2日(政教社、1912年5月)[『現代日本文学全集41』、『文芸全集1』、『選集6』、『文芸選集2』収録]
- 『倫敦』政教社、1912年5月1日(復刊:『倫敦!倫敦?』<岩波文庫>岩波書店、1996年5月16日)[『文芸全集8』収録。志賀直哉・佐藤春夫・川端康成監修『世界紀行文学全集 第3巻 イギリス篇1』(修道社、1959年)、『昭和文学全集37』、『文芸全集8』、『如是閑集2』抄録。「鉄道から見た倫敦 6無愛想、親切、丁寧」を林望編『紳士』<日本の名随筆 別巻75>(作品社、1997年)収録]
- 『搦手から』<大正名著文庫 第13編>至誠堂書店、1915年3月1日(修文社、1930年2月5日)
- 『日本アルプス縦断記』大鑑閣、1917年7月23日[『文芸全集7』、串田孫一編『山1』(筑摩書房、1960年)、『選集7』、『文芸選集4』収録。深田久彌編『峠』(青木書店、1939年)、志賀直哉他監修『現代紀行文学全集』第3、6、10巻(修道社、1958年)、近藤信行編『山の旅 明治・大正篇』<岩波文庫>(岩波書店、2003年)抄録、「針木峠の頂上」を一部略し「針の木峠の大観」と題して桑田春風編『紀行旅信 山水巡礼』(隆文館、1921年6月)収録]
- 『現代国家批判』弘文堂書房、1921年6月15日[「議会政治の存在理由と崩壊」を高木斐川編『政治及社会思想』(教文社、1924年)、「国家の進化と愛国的精神」を『評論集』、「第2編 政治」を多田道太郎編『現代日本思想大系 第18 自由主義』(筑摩書房、1965年)収録、付録を除き『著作集1』、『選集2』、『近代日本思想大系 15 長谷川如是閑集』(筑摩書房、1976年)収録]
- 『現代社会批判』弘文堂書房、1922年1月25日【評論集】[「現代文化の特徴と其の転機」「階級意識と階級闘争」「生活としての労働」を山下実治編『南予夏期大学講演集』(南予文化協会、1924年12月23日)に、「英国式社会観」の「七 英国の学問」を吉田九郎編『高等現代文選集』(光成館書店、1927年)に、第1編第6章「文化否定の生活意識」を除いて『選集3』収録]
- 『道徳の現実性』中外出版、1922年11月20日
- 『眞実はかく伴る』叢文閣、1924年2月5日
- 『犬・猫・人間』<改造社随筆叢書 第1篇>改造社、1924年5月1日 [『選集7』抄録]
- 『近代国家と支那の革命』<無産者大学パンフレット>南宋書院、1928年7月5日
- 『歴史を捻ぢる』鉄塔書院、1930年6月15日
- 『日本ファシズム批判』大畑書店、1932年11月20日(発禁のため改訂:大畑書店、1932年12月12日)[著者自身が伏字をおこした「第1篇 日本に於けるファシズムの発展」を『現代知性全集32』、『選集2』収録]
- 『老子』<漢籍を語る叢書 第6巻>大東出版社、1935年8月20日(改訂版:大東出版社、1936年12月5日)【巻頭言、上編 総説、中編 解説、下編 解釈】
- 『Educational and Cultural Background of the Japanese People』国際文化振興会、1936年[国際文化振興会編『Readings in Japanese Culture ; eight lectures by representative Japanese scholars』(三省堂、1937年)収録。仏語訳『Les Fondements de la culture du peuple japonais』国際文化振興会、1940年]
- 『日本の性格』<岩波新書>岩波書店、1938年12月20日(英訳:『The Japanese character : a cultural profile』Kodansha International、1966年。Reprint版:Greenwood & Yushodo、1988年。中国語訳:羅茂彬訳『日本的性格』(国防研究院・中華学院日本研究所、1967年)[『世界教養全集 第6巻』(平凡社、1962年、1973年)、『選集5』収録。「10 日本民族の優秀性」を除き『近代日本思想大系 15 長谷川如是閑集』(筑摩書房、1976年)収録。「日本文学と日本の性格」を菊池寛編『現代文章軌範』(非凡閣、1939年9月25日)、「日本文明の表現形式」中の1節を「日本の城」と題して北川桃雄・奥平英雄編『日本美術の鑑賞 近代篇』(帝国教育会出版部、1942年)、『国語の図解研究 古文・現代文』(牧書房、

- 1953年)、『図解研究 高校生の国語古文・現代文』(高橋書店、1954年)収録。「はしがき」、「日本的性格」を降旗節雄編『戦時下の抵抗と自立 創造的戦後への胎動』<思想の海へ「解放と変革」31>(社会評論社、1989年)収録。「日本的性格」、「日本文明について」、「日本人の心理的特徴」を『現代日本文学大系 40』収録]
- 『スペンサー』<大教育家文庫 22>岩波書店、1939年6月30日【序、1 スペンサーの時代、2 スペンサーの生涯とその業績、3 スペンサーの教育論、付録 スペンサーの日本観】
- 『戦争と芸術』<教育パンフレット 363>社会教育協会、1940年1月10日
- 『日本人の生活と文化』<国民自覚叢書 第8編>日本文化中央聯盟、1940年4月20日[『失はれた日本—日本的教養の伝統—』収録]
- 『日本人の生活と文化』<教育パンフレット 396>社会教育協会、1940年12月20日
- 『理想と現実』岩波書店、1941年8月25日
- 『続日本的性格』<岩波新書>岩波書店、1942年12月21日[『選集 5』収録、「付録」を除き『近代日本思想大系 15 長谷川如是閑集』(筑摩書房、1976年)収録]
- 『Japanese National Character 日本ノ国民性』<Tourist library 40>国際観光協会、1942年10月30日(中国語訳:『日本的国民性』<日本国態叢書 2>国際観光協会、1943年7月15日)【Introduction, I Factors in the formation of national character, II The constancy of the character of Japanese history, III The pervading characteristic of Japanese history, IV Mythology and national character, V National structure and national consciousness, VI The ethical character of the Japanese, VII Literature, art and national character(1), VIII Literature, art and national character(2), IX Customs and manners and national character】
- 『日本の短詩形文学』新声閣、1943年3月20日
- 『言葉の文化』<国民学術選書 第2>中央公論社、1943年3月25日[『言葉の教育』を井上敏夫編『近代国語教育論大系 別巻 1』(光村図書出版、1987年)収録]
- 『日本映画論』<日本映画選書>大日本映画協会、1943年7月20日(復刻:牧野守監修『日本映画論言説大系 第1期(戦時下の映画統制期)5』ゆまに書房、2003年)
- 『日本教育の伝統』<教育革新叢書 4>玉川学園出版部、1943年12月15日[『前篇 2 日本教育の伝統的特色 7 生活と教育』を『如是閑集 7』収録]
- 『礼の美』一条書房、1944年2月25日(河原書店、1947年10月1日)
- 『我観中国—その政治と哲学—』東方書局、1947年4月5日[『大陸と島国』を『現代随想全集 2』、『現代知性全集 32』収録]
- 『封建文化』<新しき歩みのために 4>岩波書店、1947年7月20日【はしがき、1.封建的生活形態、2.封建文化の性格、3.封建時代と学問、4.封建時代と道徳、5.封建時代と芸術、6.封建時代と生活様式】
- 『「人権」思想の歴史的背景』太平社、1947年10月30日
- 『新聞論』<国民大学文庫 17>政治教育協会、1947年11月25日[後篇「IV新聞」を『選集 4』収録]
- 『封建文化と現代文化』高知県文化団体協議会編・刊、1948年7月20日【封建文化と現代文化、文化再建の理念】
- 『封建文化と近代文化』<アテネ文庫 56>弘文堂、1949年5月15日[復刻版、弘文堂、2010年]【はしがき 1.封建文化の性格、2.封建文化と近代文化の対照、3 近代文化の性格 (1)近代社会、(2)近代政治、(3)近代道徳、(4)近代芸術】[『封建性』と題して市原豊太編『人生に関する五十八章』(河出書房、1950年12月15日)に抄録]
- 『大学及び大学生』明治書院、1949年11月15日

- 『日本人気質』＜教養の書＞御茶の水書房、1950年3月15日【はしがき、日本人気質、1. 日本人気質の成立、2. 日本の政治と日本人気質、3. 日本人気質と社会性質、4. 生活様式から見た日本人気質、5. 日本人気質と日本語、6. 娯楽に表われた日本人気質、付録 日本人の文化的性格】[『日本人気質の成立』は、「日本人気質の由来」と改題『失はれた日本』収録、「日本人の文化的性格」は『日本文化の見方』(社会思想研究会出版部、1951年9月30日)、「生活様式から見た日本人気質」は『評論集』、「はしがき」は『選集7』収録]
- 『ある心の自叙伝』朝日新聞社、1950年6月20日(筑摩書房、1968年。＜講談社学術文庫＞講談社、1984年。＜伝記叢書87＞大空社、1991年。『長谷川如是閑 ある心の自叙伝』＜人間の記録45＞日本図書センター、1997年)[『世界教養全集28』(平凡社、1963年、1974年)、『日本人の自伝4』(平凡社、1982年)収録。「逍遙塾時代」を『現代随想全集2』、『随想全集12』収録、「日本新聞のころ」を『昭和文学全集37』収録]
- 『真実はかく伴る』＜朝日文庫10＞朝日新聞社、1950年7月10日[『選集1』収録。「山へ行け」、「酒樽と人間」、「黒人の幻滅」、「鉄の鋏と黄金の鋏」、「山で死ぬ人々」を『世界教養全集35 日本随筆・随想集』(平凡社、1962年11月20日)収録]
- 『凡愚列伝 この人々を見よ』岡書院、1950年11月15日[『昭和文学全集37』、『選集7』抄録]
- 『日本の国家 その成立・発展の特殊性』＜アテネ文庫 第180＞弘文堂、1951年11月15日[復刻版、弘文堂、2010年]【1. 国家の科学、2. 日本国家の形成、3. 古代日本の「近代性」、4. 日本国家の中世的形態、5. 封建時代における日本の「近代性」、6. 日本のルネッサンス時代、7. 明治以後の日本、あとがき】
- 『失はれた日本—日本的教養の伝統—』慶友社、1952年4月15日[英訳：The Lost Japan and the new Japan 『Sources of the Japanese tradition』 compiled by Ryusaku Tsunoda, Wm. Theodore de Bary and Donald Keene, Columbia University Press, 1958(Records of civilization: sources and studies, 54. Introduction to Oriental civilizations)]
- 『生活・叢知・思索』＜雲井新書 第3＞雲井書店、1953年9月30日[『日本のヒューマニズム』を『昭和文学全集37』、『現代知性全集32』、『選集5』、『現代日本文学大系40』収録]
- 『新聞』朝日新聞社、1954年4月1日[『選集4』収録]
- 『私の常識哲学』[1954年連続講演速記(於NHK放送)]慶友社、1955年5月31日(『私の常識哲学』＜講談社学術文庫＞講談社、1987年7月10日)【[序]、1. 生活の常識、2. 生活の哲学、3. 文化とは何か、4. 言葉の文化について、5. 衣食住の文化、6. 生活の科学と哲学、7. 文化的民主主義、8. 生活と芸術、9. 生活の倫理、10. 娯楽文化、11. 娯楽の健全性、12. 生活の教育、13. 生活の宗教、あとがきに代へて】[『文化とは何か』を秋山ちえ子編『少年少女教養全集1 思想篇』宝文館、1961年7月10日)収録]
- 『日本さまざま』大法輪閣、1962年12月20日[『日本文化の世界性』、「日本文明の総合性」、「文化的デモクラシーの国」を『現代日本文学大系40』収録]
- 『日本文明の性格』＜留学生のための日本研究叢書 第2巻＞日本国際教育協会、1966年7月20日【1. 日本文明の独自性、2. 日本文明の伝統的性格、3. 日本の歴史教育とその伝統的特徴】
- 『如是閑八旬荘対談』総合図書、1967年6月25日
- \* 『長谷川如是閑—この人・この道』NHKサービスセンター、1968年11月[放送録音テープ。加藤秀俊監 長谷川如是閑・小林秀雄』NHK サービスセンター、1991年12月]
- 『日常性の中なる日本』中央大学出版部、1969年4月20日
- 『国家行動論』栗田出版会、1971年10月15日【国家行動論 第1章 序論、第2章 国家行動、第3章 軍事行動、第4章 政治行動、第5章 教化行動、第6章 管理行動、付録 I 戦争の動因と統制、II 政治的支配の歴史から生活時代の歴史へ、III 軍国組織が生活を破壊する人類学的事実、IV 近代の人類移動における国家と社会】

### Ⅲ. 共著(序文等を含む)

〔予が現代新聞記者生活に贈らんとする標語〕『新聞総覧 大正八年版』日本電報通信社、1919年5月30日

ソリダリティの法理に就いて『新社会への諸思想』<新人会講演集 第2回>聚英閣、1921年3月15日〔『現代国家批判』付録「形而上学的国家学説の批判」に収録〕

性欲の創造性と破壊性『創造者の道』神道久三編<オーロラ協会講演第一輯>創生社、1921年6月10日  
西園寺侯出発『阿修羅帖』第5巻、伊東忠太著、国粹出版社、1921年9月10日

苦痛の中に生きんとする芸術『社会思潮十講 建設者同盟講演集』平野力三編、同人社書店、1922年6月10日〔国会図書館所蔵初版本では刊行月日を7月10日に訂正〕

〔序文〕『愚談』水島爾保布著、厚生閣、1923年5月15日〔『如是閑集1』〕

\*はしがき『人類の爲めに』〔ワシリー・エロシェンコ著〕<創作集3>東京刊行社、1924年10月5日〔『如是閑集1』収録〕

婦人問題の進化『南予夏期大学講演集』南予文化協会編・刊、1924年11月25日

序『柯公全集 第一巻』柯公全集刊行会、1925年4月5日

序『ローザ・ルクセンブルグの手紙』井口孝親訳、同人社書店、1925年7月25日

人間行動の社会学『社会問題講座』第9巻～第11巻、大宅壮一編、新潮社、1926年11月15日、12月15日、1927年1月15日〔合冊本『社会問題講座 第4巻 社会学及雑篇』収録〕

永久の統一と永久の分化〔巻頭言〕『社会問題講座 第11巻』大宅壮一編、新潮社、1927年1月15日〔『社会問題講座 付録』(新潮社出版、1927年)収録〕

教育に於ける国家的統一と社会的多様『社会問題講座 第12巻』大宅壮一編、新潮社、1927年3月28日〔合冊本『社会問題講座 第4巻 社会学及雑篇』収録〕

政治行動と政治意識『社会問題講座 第13巻』大宅壮一編、新潮社、1927年6月8日〔合冊本『社会問題講座 第3巻 社会科学篇』収録〕

新聞紙の現代的特点『新聞総覧 昭和二年』日本電報通信社、1927年6月25日〔『如是閑集6』収録〕

民族意識『社会経済体系 第13巻』日本評論社、1927年11月30日

支那の社会と支那の政治『法政大学講演集』法政大学、1928年1月15日

社会科学講座『アルス文化大講座 第12巻』アルス、1928年11月10日〔奥付では11月10日刊、表紙・裏表紙では9月10日刊と記載〕

『カメラ社会相』に序す『カメラ社会相』片岡昇著、文芸市場社、1929年1月1日

昭和三年を顧みて『昭和三年史』三宅雪嶺・安部磯雄監修、年史刊行会、1929年2月11日

現代社会思潮『岩波講座 世界思潮 第11冊』岩波書店、1929年3月10日〔『如是閑集3』収録〕

\*『手を支ふる者』読後感『現代長篇小説全集 第21巻 賀川豊彦・沖野岩三郎篇 月報16』新潮社、1929年6月1日

その頃の思ひ出『全国中等学校野球大会史』朝日新聞社編・刊、1929年7月25日

一貫した大山イズム〔『大山郁夫』立候補に際して〕<パンフレット>、1930年2月



新聞『社会科学大辞典』社会思想社編、改造社、1930年5月15日

ブルジョア・ジャーナリズムー資本主義と『新聞』の変質『総合ジャーナリズム講座』[第1巻、第2巻]内外社、1930年10月1日、11月1日[復刻：日本図書センター、2004年。「ブルジョア・ジャーナリズム論ー資本主義と『新聞』の変質」と改題『現代ジャーナリズムの理論と動向』(内外社、1931年12月15日)収録。「新聞とジャーナリズム」と改題『新聞論』、『現代知性全集32』、『選集4』、『如是閑集6』収録]

宗教意識に於ける『錯誤』と寺院階級の成立『現代宗教批判』<『宗教研究』臨時特輯号>同文館、1930年11月25日

劇の立場と社会の立場『演劇よ何処へ行く』<朝日民衆講座 第21輯>東京朝日新聞発行所、1930年11月30日

イデオロギーとしての道徳『イデオロギー論』理想社出版部、1931年7月10日

学生騒動の意味『現代名士の教育革新論』齊藤和堂編、モナス、1931年7月10日

イデオロギーの発生(芸術)『岩波講座哲学 第7 社会史的思想史』岩波書店、1932年7月25日

新聞文学『岩波講座日本文学 第4巻』岩波書店、1933年4月20日[『選集4』『文化社会学基本文献集 第1期(戦前編) 第9巻』(日本図書センター、2011年)収録]

戦争論『戦争論』理想社出版部、1933年5月25日[普及版：1936年]

堺利彦『堺利彦全集 月報2~4、6』中央公論社、1933年6月15日、7月15日、8月16日、10月18日

お詫び[8月19日付書簡]『日本資本主義発達史講座 月報7』岩波書店、1933年8月31日

万葉の芸術曲線と生活曲線『万葉集講座 第5巻 万葉美論篇』春陽堂、1933年9月15日[『日本の短詩形文学』収録]

チェーホフ『岩波講座世界文学 第5巻 近代作家論(2)』岩波書店、1933年9月20日

夏目漱石論『日本文学講座 第12巻 明治大正篇』改造社、1934年4月8日

村山龍平氏の新聞人的態度[「一世の先駆、村山龍平翁の思出」]『新聞総覧 昭和九年』日本電報通信社、1934年5月30日

思潮『毎日常鑑 昭和十年』大阪毎日新聞社、1934年9月10日

序『自殺の社会学的研究』井口孝親著、清和書店、1934年9月15日[『如是閑集1』収録]

思索と文章生活ー特に文章と思想生活について『日本現代文章講座 第2巻 方法篇』前本一男編、厚生閣、1934年10月13日

偉人の典型とその発生『偉人論及偉人研究』<偉人伝全集 第24巻>改造社、1935年1月1日

[斉藤茂吉宛書簡]『「柿本人麿」批評集』佐藤佐太郎編・刊、1935年5月20日

形と心『插花芸術』<日本趣味芸術叢書 第二>成美堂書店、1935年11月19日

茶礼の成立『茶道全集 巻之二 茶会作法篇』井口海仙等編、創元社、1936年6月25日[『礼の美』収録]

日本文化と自然『美 一九三六年版』松野一夫編、平凡社、1936年12月2日[『日本の性格』<岩波新書>(岩波書店、1938年12月20日)、『日本現代文学全集 第107巻 現代文芸評論集』(講談社、1969年)、『評論集』収録]

本居宣長集解題『本居宣長集』<近世社会経済学説大系 第10巻>誠文堂新光社、1936年12月8日

『明治世相百話』の後に『明治世相百話』山本笑月著、第一書房、1936年4月20日(有峰書店、1971年。  
<中公文庫>中央公論社、1983年。<中公文庫>中央公論新社、2005年)

序 武田君を想ふ『ルビコンを渡る』武田英一著、田熊喜作編、武田洋子、1937年4月8日

始めて聞いた漱石の講演『漱石全集 月報 19』岩波書店、1937年10月[十川信介編『漱石追想』<岩波  
文庫>(岩波書店、2016年)収録]

米穀国営私案[「日本農業綱領」]『昭和農業発達史』富民協会、1937年11月10日

自由離婚論『家族制度全集 第1部 史論篇 第2巻 離婚』河出書房、1937年11月15日

還顧瞻々[「思ひ出の記」]『大夢の目醒』住谷天来[非売品]、1938年7月10日

文化批評『警察幹部浴恩館講話録』内務省警保局編、警察協会、1939年5月22日

日本文化について『夏期日本文化講座講演集 昭和13年』国際学友会編・刊、1939年6月30日

新秩序建設への協同『事変を中心とする支那最近事情』山口高等商業学校東亜経済研究所編、支那問題講  
習会事務所、1939年8月30日

かくして源語は生れた『源氏物語研究 第5号』中央公論社、1939年

The Japanese Woman/La femme japonaise/La mujer japonesa[introduction], *Girls of Japan*[pictures  
by Ihee Kimura]<JPS picture books>Japan Photo Service , c1939

大国民論・全人教育論—についての座談会—『大国民論・全人教育論』<国民学校研究叢書第3巻>小原  
国芳編、玉川学園出版部、1940年8月1日[座談会：杉森孝次郎、小野源藏]

日本の歴史文学の特徴『日本文学入門』近藤忠義編、日本評論社、1940年8月31日[第2刷：1945年11  
月30日、第4刷：1948年6月25日]

\*生活改善に関する座談会『生活改善資料』第1輯、東京市役所、1940年【座談会：三輪寿壮、菊池寛、  
神近市子、金子しげりほか】

話言葉の文化『国民学術協会公開講座 第1輯 現代文化の問題』国民学術協会編、中央公論社、1941年  
6月8日[『言葉の文化』収録]

国語と社会生活『国語生活篇』<国語文化講座第5巻>朝日新聞社編・刊、1941年12月5日

映画文化論『映画教育講座』全日本映画教育研究会編、四海書房、1942年2月25日[「映画文化」と改題  
『日本映画論』収録]

日本工芸の性格『工芸読本』東京府工芸協会編・刊、1942年6月20日

「東京工芸総合展」座談会『工芸読本』東京府工芸協会編・刊、1942年6月20日【座談会：今井兼次、田  
沢嘉一郎、津田信夫、国井喜太郎、山岡富作、森口多里、桑原玄珠、片野久夫、大島隆一、松野享、石  
井勝次】

戦時に於ける新聞紙の文化的性格『新聞総覧 昭和九年』日本電報通信社、1942年12月5日

能楽と日本の生活『能楽全書 第一巻』野上豊一郎編、創元社、1943年3月23日[総合新訂版『能の思想  
と芸術』<能楽全書 第1巻>東京創元社、1979年]

春風を以て人に接し秋霜を以て自から肅しむ一言志後録 佐藤一斉『定本国民座右銘』日本文学報国会編、  
朝日新聞社、1944年5月10日

少にして学べば則ち壯にして為すあり一言志晩録 佐藤一斉『定本国民座右銘』日本文学報国会編、朝日  
新聞社、1944年5月10日

- 人我に背くとも我人に背くこと勿れ一言志後録 佐藤一斉『定本国民座右銘』日本文学報国会編、朝日新聞社、1944年5月10日
- 一燈を提げて暗夜を行く、暗夜を憂ふる勿れ、只一燈を頼め一言志晩録 佐藤一斉『定本国民座右銘』日本文学報国会編、朝日新聞社、1944年5月10日
- 文化総論『文化教育及厚生政策論1』<日本国家科学体系 第11巻>実業之日本社、1945年2月10日
- 思想言論の自由『民主主義十二講』日本放送出版協会、1946年11月20日
- 民主化における日本の性格『読売政治年鑑 昭和22年版』読売新聞社、1946年12月10日
- 東洋文化と西洋文化『東洋文化と西洋文化』日華学芸懇話会編、研究社、1947年1月15日[『現代知性全集32』収録]
- 大山郁夫全集刊行の辞『大山郁夫全集 第1巻 政治の社会的基礎』中央公論社、1947年2月15日
- 学問・言論・宗教・教育の自由『改正憲法十講』<『民衆大学』増刊>大衆法律文化社、1947年4月15日
- 三宅雪嶺先生を語る『三宅雪嶺先生を語る』帝都出版株式会社、1947年4月25日【座談会：丸山幹治、高島米峰、白柳秀湖、辰野隆、野依秀市、柳田泉、木村毅、長谷川峻】
- 日本社会の再建『新日本建設原理』大倉山文化科学研究所編、明世堂書店、1947年6月15日
- 近代思想の展開『現代思想の展望』<現代思想講座1>白鷗社、1948年9月15日
- 日本の国家『国家と階級』<社会学大系第3巻>田辺寿利編、国立書院、1948年10月30日(再版：石泉社、1954年10月25日(復刻：日本図書センター、2007年)。単著として『日本の国家』<アテナ文庫 第180>(弘文堂、1951年11月15日)刊]
- 王堂哲学について『田中王堂選集 第1冊 徹底個人主義』関書院、1948年12月1日
- 新聞道徳論『新聞講座 編集編 第2(東京講座)』日本新聞協会編集部編、日本新聞協会、1949年5月25日[『選集4』収録]
- 日本の文化 文化総論『社会科事典 第八巻』平凡社、1949年7月25日[『社会科事典 第七・八巻 補遺新装版』1955年4月15日]
- 露伴文学と中世主義[講演抜粋(於露伴一周忌記念会)]『露伴全集月報 第5号』<第5回配本付録>岩波書店、1949年10月
- 音声言語による漱石文学『現代日本小説体系 第22巻 夏目漱石集 附録月報第16号』河出書房、1950年4月1日
- 三宅雪嶺の人と哲学『近代日本の教養人 日夏耿之介博士華甲記念文集』辰野隆編、実業之日本社、1950年6月1日[『評論集』、『如是閑集1』収録]
- 「宇宙」と三宅雪嶺『解説』宇宙[青柳猛解説]<改版33版>雪嶺選書刊行会、発売元：芝園書房、1950年10月15日[改版34版：実業之世界社、1956年1月1日]
- 淡として水の如し[「追憶」]『高嶋米峰自叙伝』学風書院、1950年11月15日[『如是閑集1』収録]
- 社会科学の科学性 その哲学からの解放[特別寄稿]『近代社会の構造と危機』<社会科学講座 第5巻>弘文堂編集部編、弘文堂、1951年2月28日
- バートランド・ラッセルのこと『権威と個人』[B.ラッセル著・江上照彦訳]社会思想研究会出版部、1951年4月5日

吉川英治の文学『新平家物語 第一巻附録 新平家の菜』朝日新聞社、1951年6月

歴史的教養の重要性『世界歴史事典 月報 第一号』平凡社、1951年6月

生活の趣味と生活の彼方の趣味『たのしい趣味入門バイブル』<『別冊自由国民』39>時局月報社、1951年9月1日

文化移動と福沢諭吉の貢献『福沢諭吉選集 第2巻 付録3』岩波書店、1951年9月

解題『露国及露人研究』<朝日文庫 25>大庭柯公著、朝日新聞社、1951年12月10日[「序」『柯公全集 第一巻』(柯公全集刊行会、1925年4月5日)と「大庭柯公のこと」(『我等』7-5、1925年5月1日、『柯公追悼文集』柯公全集刊行会、1925年9月20日)を補綴したもの]

封建倫理と近代倫理『社会と人倫』<新倫理講座 第4巻>創文社編集部編、創文社、1952年8月15日

日本人本来の性格『世界と国家』<新倫理講座 第5巻>創文社編集部編、創文社、1952年9月15日

十歳で逍遙塾へー教師の人格に学ぶ『私の少年時代 現代日本の100人が語る』牧書店、1953年3月18日

日本の文化的性格と万葉集『万葉集大成 第1巻 総記篇』平凡社、1953年3月25日[平凡社、1986年]

[写真解説]『現代日本の百人』文芸春秋社、1953年4月25日

如是閑翁との社会対談『五月の旅』嘉治隆一著、慶友社、1953年7月15日【対談：嘉治隆一】

明治の心に学ぶ[「特集 明治・大正を私はこう見る」]『世界史と日本』<現代史講座 第3巻>創文社編集部編、創文社、1953年8月30日

被服と思想・道徳・宗教『被服大事典』被服文化協会編、文化服装学院出版、1953年10月30日

\*歴史的教養の重要性『平凡社出版目録 1953』平凡社、1953年

日本の歴史の性格と万葉集『万葉集大成 第5巻 歴史社会篇』平凡社、1954年12月20日[平凡社、1986年]

宗教を生んだ基底的の生活心理『信仰と人生』<現代宗教講座 第3巻>創文社、1954年12月25日

歴史的教養の重要性『世界歴史事典 月報第一号』平凡社、1954年

Japan's "cultural democracy" : a challenging interpretation of history[tr. by William Candlewood], *Perspective of Japan : an atlantic monthly supplement*, Intercultural Publications Inc. [c1954]

日本的心性について『日本人の道徳的心性』<現代道徳講座 第3巻>古川哲史編、河出書房、1955年3月31日

個性をもつ新聞を『五十人の新聞人』電通、1955年7月1日[「日本新聞と朝日新聞」と改題『選集4』収録]

父のことなど『若き日の肖像 わたしの青少年時代』毎日新聞社、1955年9月15日

跋『志願囚』<河出新書>正木亮著、河出書房、1956年2月25日

内村先生のこと『回想の内村鑑三』鈴木俊郎編、岩波書店、1956年3月26日

序に代えて 牧野老と私『植物学九十年』牧野富太郎著、宝文館、1956年9月20日

鉄腸と私ー記者時代の安藤君ー[「追憶記」]『安藤正純遺稿』安藤正純先生遺徳顕彰会編・刊、1957年10月14日[『如是閑集1』収録]

いんげん豆うりのおじいさん『子どもに聞かせたいとおきの話 第1集』阿部知二・国分一太郎編、

- 英宝社、1957年12月10日
- 日本的思惟の原型[「日本思想の特色」]『東洋の人間像』<東洋思想講座 第3巻>中村元・亀井勝一郎・勝部真長編、至文堂、1958年8月25日
- 倫理学と道徳事実『対等の倫理』<講座現代倫理 第4巻>筑摩書房、1958年4月20日
- 徳富蘇峰『世界と日本の道徳教育』<講座現代倫理 第9巻>筑摩書房、1958年7月25日[『如是閑集1』収録] [復刻『教育基本法問題文献資料集1 第5巻 世界と日本の道徳教育』<日本現代教育基本文献叢書>日本図書センター、2006年]
- 序一狄嶺の語ることば『場の研究』<江渡狄嶺著作集 第1巻>平凡社、1958年11月20日[『江渡狄嶺研究』13、1969年4月30日、『如是閑集1』収録]
- 歴史研究と学問の自由『日本のあけぼの 建国と紀元をめぐる』<カッパ・ブックス>三笠宮崇仁編、光文社、1959年2月5日[1958年12月28日座談会(於東京ステーションホテル):三笠宮崇仁(司会)、上原専禄、美濃部亮吉]
- 最もイギリス人的な『バートランド・ラッセル著作集 第5巻 月報』みすず書房、1959年4月20日
- 思い出のロンドン『世界紀行文学全集 第3巻イギリス編 月報VI』修道社、1959年7月20日
- わが同時代観『近代日本思想史講座 月報1』筑摩書房、1959年7月【対談:丸山真男】[『丸山真男座談3 1958-1959』(岩波書店、1998年)収録]
- 「造化精妙」『上野理一伝』朝日新聞社社史編修室編、朝日新聞社、1959年12月25日[『選集4』、『如是閑集1』収録]
- 明治前の日本と明治後の日本『第一人者の言葉 同時代人と次代人とに語る』嘉治隆一編、亜東倶楽部、1961年2月15日
- 追憶『三淵前長官をしのぶ』財団法人法曹会、1961年7月14日[『如是閑集1』収録]
- 柳田国男君の横顔『定本柳田国男集 月報1』筑摩書房、1962年1月[後藤総一郎編『柳田国男研究資料集成 第5巻』(日本図書センター、1986年)収録]
- 暮しと文明『規範国語読本』新学社、1963年4月1日[覆刻『保田與重郎全集 別巻5』別冊付録、講談社、1989年、新装版『規範国語読本』新学社、2008年]
- [夢想庵に寄せる書 書蹟]『武林夢想庵追悼録』市川広康編<むさうあん物語 別冊>非売品、1962年7月10日[武林無想庵『放浪通信』(記録文化社、1973年6月26日)再録]
- [巻頭頁の序歌3首]『歌集 山月高し』<短歌至上叢書 2>杉浦翠子著、藤浪短歌会、1963年3月20日
- [「永井荷風の死」に対する回答歌]『歌集 山月高し』<短歌至上叢書 2>杉浦翠子著、藤浪短歌会、1963年3月20日
- いまは亡き翠子夫人に答えて[短歌]『歌集 山月高し』<短歌至上叢書 2>杉浦翠子著、藤浪短歌会、1963年3月20日
- 前田君に願ったこと『前田多門 その文・その人』[非売品]、1963年6月4日
- [函の題字]『旅 IX』有紀書房、1964年2月1日
- 『我等』のころ『河上肇著作集 第2巻付録 月報3』筑摩書房、1964年8月
- 序『さんげ 歌集』[改訂版]<あけび叢書第32巻>花田比露思著、短歌研究社、1965年6月15日
- 平凡を生き抜く『私をささえた一言』扇谷正造編、<青春新書>青春出版社、1966年2月1日

序文『蟻の群の一匹』鈴木十郎著、相模書房、1966年7月20日

経済学だけでなく『小泉信三全集 15 月報 2』文芸春秋、1967年5月10日

イギリス的な考え方『世界の名著 38 付録 18』中央公論社、1967年8月【対談：関嘉彦】

【著作からの抜粋】『人生の本 別巻 生きていることば』亀井勝一郎・臼井吉見編、文芸春秋、1967年9月10日

はじめに『大地の塔 第1部第1巻』櫻井増雄著、全線社、1968年8月1日

序『反骨七十七年 内山岩太郎の人生』神奈川新聞社、1968年8月15日

【和辻夏彦によるインタビュー】『愛国心』和辻夏彦編、広池学園事業部 1969年12月15日

和歌とは何か[1968年5月9日(於小田原)、片桐顕智によるインタビュー、著者校閲済]『和歌の本質と表現』  
＜和歌文学講座 第1巻＞桜楓社、1969年12月15日

柳瀬正夢を想ふ[1945年5月25日柳瀬正夢追悼文]『長谷川如是閑選集 補巻 月報』栗田出版会、1970年9月[『おきなのおい出』(栗田出版会、1970年11月11日)、『如是閑集 1』収録]

[1969年9月6日付嘉治隆一宛書簡]『人と心と旅 人物万華鏡後篇』嘉治隆一著、朝日新聞社、1973年10月25日[『如是閑集 8』収録]

【短歌 1 首】『昭和万葉集 卷七』講談社、1979年4月18日

【短歌 2 首】『昭和万葉集 卷四』講談社、1979年8月28日

追懐談[1946年8月3日中江丑吉五回忌記念会—記録]『中江丑吉という人 その生活と思想と学問』阪谷芳直編、大和書房、1979年9月15日

【短歌 2 首】『昭和万葉集 卷十三』講談社、1980年1月28日

池辺三山・土岐善麿宛書簡 2 通[1911年9月、1924年6月26日]『文学者の手紙 1』日本近代文学館編＜日本近代文学館資料叢書 第II期＞博文館新社、2008年3月31日

#### IV. 出版内容見本（パンフレット・リーフレット）

子規の追憶『子規全集』アルス、[1926年]

有力な編纂者[『明治文化全集』に対する感想]『明治文化全集 全24巻』日本評論社、1927年[『社会経済体系』第8巻(日本評論社、1927年6月30日)収録]

\*[推薦文]『普及版漱石全集』岩波書店、1928年

[「世界的栄光に輝くこの賛辞を見よ!」]『仏国決定版 ファブル昆虫記 全十一巻 ファブル科学知識全十三巻』アルス、[1929年]

常識の科学化『ウエルズ生命の科学 全十二巻』平凡社、1930年3月

先づ芸術方法の革命から『総合プロレタリア芸術講座 全十二巻』内外社、1931年

読書子の書架へ『日本文学大全集』改造社、[1931年]

最期の一人までも備へよ『新修シェークスピア全集』中央公論社、1933年

バルザックと時代相『大バルザック全集』河出書房、1934年10月配本開始

フランス的神経『フロオベル全集 全八巻』改造社、1935年

\*[推薦文]『現代法令全集』日本評論社、1935年

[「生田長江全集内容一覧並諸家推奨の辞」]『生田長江全集 全十二巻』大東出版社、1936年

我国固有の哲学体系『日本哲学全書』第一書房、1936年

推薦文『全輯百閒隨筆』版画荘、1936年[『回想 内田百閒』(津軽書房、1975年8月31日)収録]

国民の渴を医す大全集[『短歌文学全集』に寄せられた諸家の推薦]『短歌文学全集 予約募集 全十二巻』第一書房、1936年

芸術的教科書[「大トルストイ全集に寄せられた諸家の感想」]『大トルストイ全集 全二十二巻 予約募集』中央公論社、1936年

『フランス現代小説』に寄す[「『フランス現代小説』に寄せられた諸家の推薦」]『フランス現代小説』第一書房、1936年2月配本開始

ドストイェフスキイの悲劇『ドストイェフスキイ全集』三笠書房、1936年11月配本開始

明治を象徴した人物『二葉亭四迷全集』岩波書店、1937年

太陽の如き光輝ある全集[「『世界文豪読本全集』に寄せられた諸家の推薦」]『世界文豪読本全集』第一書房、1937年6月配本開始

\*[推薦文]『現代教養講座』三笠書房、1939年

[「『世界大思想家選集』に寄せられた諸家の御推薦」]『世界大思想家選集 全十二巻』第一書房、1940年

バルザックと時代相『バルザック全集』河出書房、1941年3月、配本開始

日本人本来の文学『徳田秋声選集 全10巻』乾元社、1952年

[「推薦者の言葉」]『新倫理講座 全5巻』創文社、1952年4月配本開始

明治を象徴した人物『二葉亭四迷全集』岩波書店、1953年

内村先生のこと『内村鑑三著作集 全十七巻』岩波書店、[1953年]

欠くべからざる学問『マス・コミュニケーション講座 全6巻』河出書房、1954年

私の考え『日本哲学思想全書』全 20 巻、平凡社、1955 年 11 月、配本開始  
現代は福沢文学を必要とする『福沢論吉全集 全 21 巻』岩波書店、1958 年  
[「本シリーズの刊行によせて」]『外国人の見た日本 全 5 巻』筑摩書房、1961 年 2 月配本開始  
国民的自覚を与える心の糧[「推薦のことば」]『明治文学全集 全 99 巻 別巻・総索引』筑摩書房、1965  
年 2 月配本開始  
羯南全集の出版をよるこぶ『陸羯南全集 全 8 巻 付巻 1 冊』みすず書房、1968 年  
著者のことば『長谷川如是閑選集 全七巻』栗田出版会、1969 年

## V. 編集・監修書など

『独仏年誌鈔』<我等叢書 第 3 冊>マルクス・エンゲルス著(嘉治隆一訳)、我等社、1927 年【校閲】  
『鼎軒田口卯吉全集』<全 8 巻>鼎軒田口卯吉全集刊行会編・刊、1927-29 年【編集】  
『世界人名辞典』<小辞典全集 第 10 巻>非凡閣、1934 年[復刻版：<世界人名資料事典 第 2 巻>日本  
図書センター、2009 年]【監修】  
『土田杏村全集』<全 15 巻>第一書房、1935-36 年【編纂顧問】  
『世界政治・経済・文化・社会総鑑』日本国際問題調査会編、河出書房、1937 年【編集顧問】  
『榊田民蔵全集』<全 4 巻>改造社、1947-49 年【編集】  
『日本哲学思想全書』<全 25 巻>平凡社、1955-57 年【編集顧問】



## VI. 評論等(新聞・雑誌掲載)<3324 篇>

### 1892(明治 25)年

そぞろあるき[「芳園」]『少年園』88、6月18日《長谷川満治郎》

### 1897(明治 30)年

軍事費は生産的なりや[「寄書」]『法学新報』74、5月20日《くどまん生》

### 1898(明治 31)年

ふたすぢ道『新著月刊』2-3、2月3日《長谷川胡恋》[『現代日本文学全集 41』、『文芸全集 1』、『文壇出世作全集』(中央公論社、1935年)、『昭和文学全集 37』、平野謙編『日本文学全集 第70巻 名作集(二) 大正篇』(新潮社、1964年)、『選集 補巻』、『現代日本文学大系 40』、『近代日本ユウモア叢書 2』、『文芸選集 1』、『ふたすぢ道・馬』<岩波文庫>収録]

法学生と形而上学[「漫録」]『法学新報』86、5月20日《くどまん》

干刀去水漫言[「漫録」]『法学新報』93~96、98、100、12月10日、**1899年**1月10日、2月10日、3月10日、5月10日、7月10日《93号：くどまん、94号以下：敏怒慢郎》

### 1899(明治 32)年

Yet Brutus says[「漫録」]『法学新報』96、3月20日《新安凶尼》

懊惱余録[「漫録」]『法学新報』97、4月20日《干刀去水斉主人》【詩と法と、富者の警察、似而非世界主義、三田的楽天主義】

刑事問題[「擬律」]『法学新報』98、5月20日

境遇による殺人罪[「漫録」]『法学新報』105、106、108、109、112、116、12月20日、**1900年**1月20日、3月20日、4月20日、7月20日、11月20日

### 1900(明治 33)年

州崎哲学[「閑日月」]『日本』12月3日《某》

永代哲学[「閑日月」]『日本』12月24日《某》[『昭和文学全集 37』、『如是閑集 2』収録]

### 1901(明治 34)年

続永代哲学[「雑報」]『日本』1月7日《なにかし》[『昭和文学全集 37』、『如是閑集 2』収録]

兜町哲学[「雑報」]『日本』1月19、20日《なにかし》

犯罪者の信教状態並に其縁由に就きて[「寄書」]『精神界』1-5、5月15日《深川隠士》

\*不動哲学『日本』月日未詳

## 1902(明治 35)年

殺人博士の遺書『東京朝日新聞』2月3日《胡恋》

百鳴り『東京朝日新聞』2月17日《一力生》

誰が罪『東京朝日新聞』3月24日《巽弟》

無政府党员エミール、アンリ『東京朝日新聞』4月29、30日、5月2～4、6日《胡恋》

勝関『東京朝日新聞』5月5日《胡恋》

実践殺人哲学—殺人詩家ラスネールの一生—『日本』8月9～28日《胡》

## 1903(明治 36)年

罪人の研究[「雑録」]『日本』4月26、27、29日、5月1～5、7、9、11、13～15、18～21、23、24、27～29、31日、  
6月1～7、9～12、15～17、19、20、22～30日、7月1～5、7、8、10～12日

政治家の骨格—四博士立会の解剖—[「雑録」]『日本』7月7日《胡蓮》

自殺の話—科学上の観察—[「雑報」]『日本』7月14、16～19、25、26、28～31日、8月1、2、4～6、8、9、11、12  
日《胡蓮》

道徳上より見たる自殺—巽軒博士の所論に就て[「雑録」]『日本』7月21～24日《長谷川胡蓮》

自殺の是非に就きて—坪内博士の所説を評す—『日本』8月18～20日《長谷川胡蓮》

睡眠『日本』9月12、13、15～19、22～24、26、27日《胡》

露国の内幕—虚無党公爵黒鳩公自伝『日本』10月20～25、27～30日、11月1、4～8、10～12、14、15、17  
～22、25～29日《胡蓮》

露国の内幕—虚無党公爵黒鳩公自伝 後編『日本』12月2～6日《胡蓮》

## 1904(明治 37)年

彼観婦人—虚心窟主人に与へて女性を論ず—『日本』1月10、12、13、17日《胡》

一筆啓上『日本』1月29、31日《胡》

行け鉄腸『日本』7月22日《胡》

## 1905(明治 38)年

披沙揀金『日本』3月9日《胡》

披沙揀金『日本』4月9日《胡》

連合艦隊便乗記[雑報]『日本』10月21、22日【21日付に(一)(二)掲載】《胡生》

## 1906(明治 39)年

都下女学校の徳育[雑報]『日本』5月28、29、31日、6月2～4、6～11、13～30日、7月1、3日《胡》

進化と女子教育『日本及日本人』439、7月20日

### 1907(明治40)年

ひとりもの『日本及日本人』450、1月1日《閑叟》[『搦手から』、『文芸全集5』、『強盗共和国』、『近代日本ユウモア叢書2』、『文芸選集2』収録]

希臘時代の売笑婦『日本及日本人』450、451、1月1、15日《長谷川胡蓮》

ロハ台の厭世観『日本及日本人』452、2月1日《如是閑叟》[『文芸全集1』、『昭和文学全集37』、『如是閑集2』収録]

くつしたの穴『日本及日本人』457、458、4月15日、5月1日《如是閑叟》[『搦手から』、『文芸全集1』収録]

出生率減退の楽天観[エドワード・ロス著、胡生抄訳]『日本及日本人』459、5月15日

十傑『日本及日本人』460～462、6月1、15日、7月1日《如是閑叟》[『文芸全集1』収録]

英国の女囚『日本及日本人』464、465、8月1、15日《胡生》

如是閑語『日本及日本人』464～469、8月1、15日、9月1、15日、10月1、15日《叟》[468号掲載を除き『搦手から』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集5』収録、『現代国民文学全集18 国民の言葉』(角川書店、1958年)、『評論集』抄録。『如是閑集2』収録]

あゝ羯南先生[「嗚呼陸羯南君」]『日本及日本人』467、9月15日[「陸羯南全集 第十卷」(みすず書房、1985年)収録]

殿さまお目ざめ『日本及日本人』467、469、472、476、480、9月15日、10月15日、11月15日、1908年1月15日、3月15日《如是閑叟》[『搦手から』、『文芸全集1』収録]

臭ひ『日本及日本人』471、11月3日《如是閑叟》[「にほひ」と改題『搦手から』、『文芸全集1』収録]

性格なき人類即ち女子『日本及日本人』474、12月15日

### 1908(明治41)年

屠蘇に酔つた骸骨『日本及日本人』475、1月1日《如是閑叟》[『文芸全集5』収録]

読「虞美人草」[「日曜付録」]『大阪朝日新聞』2月23日《閑叟》

上げ汐だア『日本及日本人』481、4月1日《如是閑叟》[『文芸全集1』、『選集 補巻』、『文芸選集2』収録]

芋屋の娘『日本及日本人』484、5月15日《如是閑叟》[『文芸全集1』収録]

金沢行『大阪朝日新聞』5月28～31日、6月1～4、6～12日[『文芸全集7』、志賀直哉・佐藤春夫・川端康成監修『現代紀行文学全集 第9巻』(修道社出版、1958年10月20日)、『石川近代文学全集12』(石川近代文学館、1988年)収録]

富山と高岡『大阪朝日新聞』6月29～30日、7月1～4日

広島みやげ『大阪朝日新聞』11月8～12、14～16、22、24～30日[『文芸全集7』収録]

## 1909(明治 42)年

- フェルビゲラチオン『大阪朝日新聞』1月5日[『搦手から』、『文芸全集5』収録]  
足のうら『大阪朝日新聞』1月8、9、11～13日[『搦手から』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集1』収録]  
憲法と暗殺[「紀元節」]『大阪朝日新聞』2月11日  
書けざる記『大阪朝日新聞』3月14日  
?『大阪朝日新聞』3月22～31日、4月1～30日、5月1～7日[『額の男』と題して1909年刊、『選集6』、『文芸選集2』収録]  
新若連中[「日曜付録」]『大阪朝日新聞』6月6日  
紀泉行脚『大阪朝日新聞』7月26～31日、8月1、2、15～21日《如是法師》[「泉州行脚」と改題『文芸全集7』、志賀直哉・佐藤春夫・川端康成監修『現代紀行文學全集 第9巻』(修道社出版、1958年10月20日)収録]  
軍艦と飛行器[無署名社説]『大阪朝日新聞』8月26日

## 1910(明治 43)年

- べんどる君『日本及日本人』524、1月1日《如是閑叟》[『文芸全集1』収録]  
倫敦まで『大阪朝日新聞』3月21日  
倫敦まで『大阪朝日新聞』3月28、29日[『倫敦』収録]  
倫敦まで『大阪朝日新聞』3月30日、4月9日[『倫敦』収録]  
倫敦まで『大阪朝日新聞』4月11日[『倫敦』収録]  
倫敦まで『大阪朝日新聞』4月21日[『倫敦』収録]  
倫敦まで『大阪朝日新聞』4月28、29日、5月1日(『東京朝日新聞』5月11日)[『倫敦』収録]  
倫敦まで『大阪朝日新聞』5月11日(『東京朝日新聞』5月10日)[『倫敦』収録]  
聞いた日英博と見た日英博『大阪朝日新聞』5月12～15日(『東京朝日新聞』5月14～16日)  
英帝遺骸安置[「倫敦特報」]『大阪朝日新聞』5月19日  
皇帝御葬儀[「倫敦特電」]『大阪朝日新聞』5月22日  
英帝崩御の翌朝『大阪朝日新聞』5月30、31日、6月1、3日(『東京朝日新聞』5月31日、6月1～3日)[『倫敦』収録]  
英皇靈柩安置式『大阪朝日新聞』6月6、8、9日(『東京朝日新聞』6月7、9日)  
日英博覧会『大阪朝日新聞』6月7、10～16日(「日英博覧会開場」『東京朝日新聞』6月8、10、12～14、22、23、25日[第3回から「日英博覧会」と改題])[朝日新聞記者編『欧米遊覧記 第二回世界一周』(朝日新聞、1910年10月)付録に収録]  
大葬拝観『大阪朝日新聞』6月14～17日(『東京朝日新聞』6月15、18、19、21日)[『倫敦』収録]  
日英博の英国部『大阪朝日新聞』6月17、18日(『東京朝日新聞』6月26、27日)[「日英博の洋画と彫刻」と題して『絵画叢誌』279、1910年7月1日に『大阪朝日新聞』から転載]  
日本記者請待『大阪朝日新聞』6月29日

日英博だより『大阪朝日新聞』7月3～5日(『東京朝日新聞』6月30日、7月5、6日)[朝日新聞記者編『欧米遊覧記 第二回世界一周』(朝日新聞、1910年10月)付録「日英博覧会」に収録]

英国の工場村『大阪朝日新聞』7月6～9日(『東京朝日新聞』7月7、9、10日)[『倫敦』収録]

日英博短信『大阪朝日新聞』7月11日(『東京朝日新聞』6月28日)

女権拡張示威運動『大阪朝日新聞』7月16～18日(『東京朝日新聞』8月1～3日)[『倫敦』収録]

上院瞥見『大阪朝日新聞』7月19、20日(『東京朝日新聞』7月21、22日)[『倫敦』、『如是閑集2』収録]

日英博たより 大浦総裁歓迎会『東京朝日新聞』7月31日[朝日新聞記者編『欧米遊覧記 第二回世界一周』(朝日新聞、1910年10月)付録「日英博覧会」に収録、同書収録の「大浦総裁着英」は初出未確認]

日英博覧会『大阪朝日新聞』8月16日

生駒にて『大阪朝日新聞』9月28～30日(『東京朝日新聞』9月29、30日、10月1日)[『倫敦』収録]

帰路『大阪朝日新聞』10月29～31日、11月1～3、7～18、19日(『東京朝日新聞』10月30、31日、11月2、5、6、8～10、12、14～21日)[『倫敦』収録]

地中海にて『大阪朝日新聞』10月29～31日(『東京朝日新聞』10月30、31日、11月1日)

スエズにて『大阪朝日新聞』11月1～3、7、8日(『東京朝日新聞』11月2、5、6、8、9日)

紅海にて『大阪朝日新聞』11月9日(『東京朝日新聞』11月10日)

印度洋にて『大阪朝日新聞』11月10日(『東京朝日新聞』11月12日)

コロンボにて『大阪朝日新聞』11月11日(『東京朝日新聞』11月14日)

ベンガル湾にて『大阪朝日新聞』11月12日(『東京朝日新聞』11月15日)

新嘉坡にて『大阪朝日新聞』11月13～15日(『東京朝日新聞』11月16～18日)

香港にて『大阪朝日新聞』11月16、18、19日(『東京朝日新聞』11月19～21日)

## 1911(明治44)年

倫敦! 倫敦? 『大阪朝日新聞』3月2～9、11～31日、4月1、2、4～30日、5月1～20日[『倫敦』収録]

世界の真中チャーリング、クロス『大阪朝日新聞』3月2～6日[『如是閑集2』収録]

議論多きトラファルガー、スクエア『大阪朝日新聞』3月7、8日

咄、ハイド、パーク『大阪朝日新聞』3月9、11～15日

清浄なるケンシントン、ガーデンズ『大阪朝日新聞』3月16、17日

素朴なるケンシントン、パレーズ『大阪朝日新聞』3月18日

不人望のマーブル、アーチ『大阪朝日新聞』3月19日

倫敦ストーン『大阪朝日新聞』3月20日

ヴキクトリア、エンバンクメント『大阪朝日新聞』3月21～23日

ビフテキを喰ふ人種『大阪朝日新聞』3月24日

妖しき塔橋『大阪朝日新聞』3月25日

お気の毒なる宮城『大阪朝日新聞』3月26日[『如是閑集2』収録]

倫敦一の贅沢町『大阪朝日新聞』3月27日

鉄道から見た倫敦『大阪朝日新聞』3月28～31日、4月1、2日[『如是閑集2』収録。林望編『紳士』<日本の名随筆 別巻75>(作品社、1997年)抄録]

英国政治の策源地『大阪朝日新聞』4月4、5日  
古本屋町『大阪朝日新聞』4月6日  
往来から見た倫敦『大阪朝日新聞』4月7～13日[志賀直哉・佐藤春夫・川端康成監修『世界紀行文学全集 第3巻 イギリス篇1』(修道社、1959年)、『如是閑集2』収録]  
聖ポールの大伽藍『大阪朝日新聞』4月14～18日  
倫敦の鐘の声『大阪朝日新聞』4月19、20日  
テーマスより見たる巴力門『大阪朝日新聞』4月21日  
僕の昔馴染の倫敦『大阪朝日新聞』4月22日  
車のいろいろ『大阪朝日新聞』4月23日[『昭和文学全集37』、『如是閑集2』収録]  
実感挑発的倫敦『大阪朝日新聞』4月24～30日、5月1、2日  
不可解の下院『大阪朝日新聞』5月3～8日  
ウエストミンスター寺院『大阪朝日新聞』5月9～15日  
倫敦女房『大阪朝日新聞』5月16～20日[『如是閑集2』収録]  
春外春[「日曜付録」]『大阪朝日新聞』4月9日  
山又山『大阪朝日新聞』7月24～31日、8月1～20、23～26日《如是法師》[『文芸全集7』、『文芸選集4』収録]  
亮輔君と僕[「渡辺亮輔君」]『日本及日本人』564、8月15日[『文芸全集5』収録]

### 1912(明治45・大正元年)

生物学的に観た女[「日曜付録」]『大阪朝日新聞』1月21日  
電車内の世間と電車外の自我『日本及日本人』579～581、583、4月1、15日、5月1日、6月1日[『文芸全集5』収録]  
無我の女?『層雲』2-1、5月1日[『搦手から』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集1』収録]  
他山の石[無署名記事]『大阪朝日新聞』7月13日  
人類の特権としての自殺[「日曜付録」]『大阪朝日新聞』11月10、17日

### 1913(大正2年)

病める革命家の日記から『日本及日本人』597、1月1日[『搦手から』、『文芸全集2』収録]  
呪われたる天才青木繁『日本及日本人』606、5月15日[『文芸全集5』、『如是閑集1』収録]  
皇室教育の新精神—君主の教育に関する私見『日本及日本人』613、9月1日

### 1914(大正3年)

『行かう』(一幕物)『日本及日本人』627、4月1日  
英国の戦争参加説[無署名社説]『大阪朝日新聞』8月5日  
東洋の安全と日本[無署名社説]『大阪朝日新聞』8月12日

- 過てるカイゼル[無署名社説]『大阪朝日新聞』8月21日
- 前世紀の強者と現世紀の強者[無署名社説]『大阪朝日新聞』8月31日
- 勝ち誇つたやうに『日本及日本人』639、9月20日[『文芸選集2』収録]
- 浪漫的反動を予期すべからず[無署名社説]『大阪朝日新聞』10月8、9日
- 独逸の科学的態度[無署名社説]『大阪朝日新聞』10月29日
- 国際的離合集散の動機[無署名社説]『大阪朝日新聞』11月12日
- ロバーツ元帥逝く[無署名社説]『大阪朝日新聞』11月16日
- 兩教授の自己弁護[無署名社説]『大阪朝日新聞』11月22日
- 消化されざる増師問題[無署名社説]『大阪朝日新聞』11月27日
- 現実の存在と非現実の存在[講話(於第三高等学校弁論部第1回名士招待会)]『嶽水會雜誌』59、60、12月1日、1915年5月
- \*1914年8~12月の『大阪朝日新聞』無署名社説については、佐柄木俊郎「如是閑が執筆した十一本の社説」(『論座』2004年3月号)240~247頁、参照。

#### 1915(大正4)年

\*「家庭に対する感想」『団樂』7月

日本アルプスの縦走『大阪朝日新聞』8月1~5、(6)、7、(8)、9、10、(11)、12、(13)、(15~18)、(20~22)、23~28、30、31日、9月(1)、2、(3)、4、(5)、6、7、(8~12、14~16)日(『東京朝日新聞』8月2~6、(9)、10、11、(12)、13、(14~18)、(21~23)、24~29、31日、9月4、(6)、7、(8)、9、(10)、11~12日)【共著、( )は如是閑執筆外】『日本アルプス縦断記』(大鑑閣、1917年)刊]

「大浦、乃木問題に対する代表輿論 (一)内閣の連帯責任たる大浦問題」『実業之世界』12-23、11月15日

「今議会の大会問題たるべき大浦乃木問題に対する代表輿論 (二)乃木伯爵家復興の是非」『実業之世界』12-25、12月15日

#### 1916(大正5)年

愚「百人百字観」『日本及日本人』671、1月1日

自分自身の表現[「現代名家文章大観」]『日本及日本人』689、9月20日[『現代名家文章大観』<資料集成近代日本語 形成と翻訳 第18巻>(大空社、2016年)収録]

夏目漱石氏[無署名社説]『大阪朝日新聞』12月10日

初めて逢つた漱石君『大阪朝日新聞』12月18日[『犬・猫・人間』、『漱石全集月報 8』(岩波書店、1928年)、『随想全集 12』、平岡敏夫編『夏目漱石研究資料集成 第2巻』(日本図書センター、1991年)、『漱石全集 別巻』(岩波書店、1996年)、『定本漱石全集 別巻 漱石言行録』(岩波書店、2018年)、『如是閑集 1』収録。「初めて逢つた漱石」と改題『文芸全集 5』、『文芸選集 5』、『評論集』収録]

#### 1917(大正6)年

登山と人生[「山岳に関する印象と感想」]『ツーリスト』6-3、5月1日

督軍国会衝突経過(北京特電二十日発)『大阪朝日新聞[夕刊]』5月22日《無署名》

自然の自然[私の好きな自然 食物 女]『団欒』3-6、6月1日

\*マラソン登山を恥ぢよ『報知新聞』6月

[「文章一家一言」]『文章倶楽部』2-10、10月1日

夏目君と体のこなし『朝鮮公論』5-12、12月1日

甲板にて『朝鮮公論』5-12、12月1日

## 1918(大正 7)年

英国我[「列強縦横談」]『日本及日本人』721、1月1日[「英国式社会観」と改題『現代社会批判』収録]

春の感想『日本及日本人』728、4月5日

「私」を中心として『大阪朝日新聞[夕刊]』7月1～31日[「私を中心として」と改題『文芸全集 5』収録]

申訳『大阪朝日新聞[夕刊]』7月1～3日

男女関係『大阪朝日新聞[夕刊]』7月4日

伯母さん『大阪朝日新聞[夕刊]』7月5～13日[「叔母さん」と改題『文芸選集 3』、『ふたすじ道・馬』<岩波文庫>収録]

先生『大阪朝日新聞[夕刊]』7月14～19日

鼻『大阪朝日新聞[夕刊]』7月20～22日

モルモット『大阪朝日新聞[夕刊]』7月23、24日

女義太夫の倅『大阪朝日新聞[夕刊]』7月26日

強盗『大阪朝日新聞[夕刊]』7月30日

要するに『大阪朝日新聞[夕刊]』7月31日

## 1919(大正 8)年

『大阪朝日』から『我等』へ『我等』1-1、2月11日[『中央公論』80-11、1965年11月1日に抄録、『昭和文学全集 37』、『選集 1』、『如是閑集 6』、『司馬遼太郎が語る雑誌言論一〇〇年』(中央公論社、1998年)収録]

世界的精神及郷土的精神と国民精神／思想統一の建議案／中橋文相と福沢翁／渡辺千秋氏と田中光顕伯／黎明運動／須磨子の自殺[「傾向及批判」]『我等』1-1、2月11日

奇妙な精神病者の話『我等』1-1、2月11日[『創作集 1』(我等社)、『創作集 3』(叢文閣)、『奇妙な精神病者』、『文芸全集 2』、『如是閑集 6』、『文芸選集 3』収録]

英雄と民衆と真理『我等』1-2、3月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

連盟協議国の連盟破壊『我等』1-2、3月1日

一票だけの権利／芸術から政治へ／労働組合の障碍／女子の労働演説／支那との人道的融合／同情融和大会[「傾向及批判」]『我等』1-2、3月1日[「一票だけの権利」「芸術から政治へ」「労働組合の障碍」「女子の労働演説」は『如是閑集 4』収録]

私の借りた家『我等』1-2、3月1日[『奇妙な精神病者』、『文芸全集 5』収録]



- 野蛮人のイニシエーション『我等』1-3、3月15日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 智的奴隷としての少壮官僚／少壮官僚と市民的良心／出版物検閲官へ／公私生活の合一[「傾向及批判」]『我等』1-3、3月15日[『如是閑集 4』収録]
- 虎使ひ志願『我等』1-3、3月15日[『創作集 1』(我等社)、『創作集 3』(叢文閣)、『現代日本文学全集 41』、『文芸全集 2』、『昭和文学全集 37』、『選集 6』、『文芸選集 1』収録]
- 女の優越性『我等』1-4、4月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『随想全集 12』、『如是閑集 2』収録]
- 国家意識の社会化『我等』1-4、4月1日[『現代国家批判』、『選集 2』、『如是閑集 5』、田中浩編『近代文明批判「国家」の批判から「社会」の批判へ』<思想の海へ「解放と変革」10>(社会評論社、1990年)収録]
- 変態と矛盾とを嫌ふ国民／教授としての「困り者」／私学か官学か／富豪教育の精神／貯金は御奉公[「傾向及批判」]『我等』1-4、4月1日
- 『現実政治家』の叫び声『我等』1-5、4月15日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 性的感情の醇化について『我等』1-5、4月15日[『現代社会批判』、『選集 3』収録]
- 経済学部と商科／経済道徳上の鈍感者／盗賊媒介所／流行の心霊主義[「傾向及批判」]『我等』1-5、4月15日[「流行の心霊主義」は『正教時報』8-7、5月15日に転載]
- 大世界と小世界『我等』1-6、5月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 人道主義の沈黙／報復的マキアベリズム／国語の人為淘汰[「傾向及批判」]『我等』1-6、5月1日
- 種を蒔いた日の聯想『我等』1-6、5月1日[『文芸全集 5』、『如是閑集 1』収録]
- 男女の利害関係『我等』1-7、5月15日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、収録]
- 希臘に返りて 『改造』の復興的意義『我等』1-7、5月15日
- 所謂『思想問題』の滑稽味／公経済の余裕／労働問題解決の鍵[「傾向及批判」]『我等』1-7、5月15日
- 最も弱きものゝ強味『我等』1-8、6月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 社会的ブーメラン／政治的精神療法／官吏の道徳的倒錯[「傾向及批判」]『我等』1-8、6月1日[『如是閑集 4』収録]
- 一人の飴屋『我等』1-8、6月1日[『創作集 1』(我等社)、『創作集 3』(叢文閣)、『文芸全集 2』収録]
- 天才の主観からの『創造』[「社会批評家の現下文壇に対する批判と要求」]『新潮』31-1、7月1日
- 山へ行け『我等』1-9、7月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 近代的運動の道徳性／道徳主義と機械主義の争／考へ得らるゝ殺人罪[「傾向及批判」]『我等』1-9、7月1日
- 亡友への手紙『我等』1-9、7月1日[「或る亡友への手紙」と改題『犬・猫・人間』、『文芸全集 5』収録]
- 編輯室より『我等』1-9、7月1日

死刑＝歴史は繰返す『我等』1-10、8月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、  
『選集 1』収録]

個人的優越の否定『我等』1-10、8月1日[『現代社会批判』、『選集 3』収録]

月給取りの遅鈍／教員の増俸運動／薄給官吏も亦／階級間の協調[『傾向及批判』]『我等』1-10、8月1日

総休刊の責任[「帝都新聞連合休刊問題」]『日本及日本人』763、8月15日

[「現在政党打破及新政党樹立に対する諸名士の回答」]『時潮』2-9、9月1日

黒白の争ひ『我等』1-11、9月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、  
『選集 1』収録]

社会的欠陥[「新聞紙休刊問題」]『我等』1-11、9月1日[『新聞論』収録。「新聞紙休刊問題 社会的欠陥」  
と題して『選集 4』、『如是閑集 6』収録]

戦後の国家目的／『生産減少』の教訓／悟らざる政治家[『傾向及批判』]『我等』1-11、9月1日[『如是閑  
集 4』収録]

マズィニの倫敦生活の一節『日本及日本人』766、9月20日[「マズィニのロンドン生活」と改題『犬・猫・  
人間』、『文芸全集 5』収録]

奴隷優遇『我等』1-12、10月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、  
『選集 1』収録]

西侯と『日本の孤立』／政府の代表と労働者の代表[『傾向及批判』]『我等』1-12、10月1日[『如是閑集 4』  
収録]

『京に行つてみた娘』『我等』1-12、10月1日[『現代三十三人集』(新潮社、1922年2月5日)、  
『創作集 1』(我等社)、  
『創作集 3』(叢文閣)、  
『現代日本文学全集 41』、『文芸全集 2』収録]

国家と成金『我等』1-13、11月1日[「暴利取戻令」と改題『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝  
日新聞社)、  
『選集 1』収録]

階級戦争の倫理『我等』1-13、11月1日[「階級意識と階級闘争」と改題『現代社会批判』、『選集 3』  
収録。  
『如是閑集 3』収録]

政治を悲観する傾向／「浪花節から侠客へ」[『傾向及批判』]『我等』1-13、11月1日[「政治を悲観する傾  
向」は『如是閑集 4』収録]

血のパラドックス『我等』1-14、12月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、  
『評  
論集』、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

民衆化と社会的頹廢 現代文化に対する民衆化の意義『我等』1-14、12月1日[「現代文化に対する民衆化  
の意義」と改題『現代社会批判』、『選集 3』収録。『如是閑集 3』、『社会教育基本文献資料集成 第21卷』  
(大空社、1992年)収録]

国家と富豪との腐れ縁／果して『暴利取戻令』[『傾向及批判』]『我等』1-14、12月1日

## 1920(大正9)年

民衆文化問題の基点『青年雄弁』5-1、1月1日

我が新聞紙の現在と将来 営業新聞と機関新聞の社会的利害[「東西大新聞の批判と解剖」]『雄弁』11-1、1  
月1日[『現代社会批判』、『如是閑集 6』収録]

未来を迎ふる心『我等』2-1、1月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

ヘーゲル派の自由[意志]説と国家 哲学的国家観に対するホブハウス教授の批判を紹介す『我等』2-1、1月1日[『現代国家批判』付録「形而上学的国家学説の批判」に収録]

所謂『人権問題』／賭博と実業／改造と既得権／法文科の合併[「傾向及批判」]『我等』2-1、1月1日[『如是閑集4』収録]

ヘロデのユトピア 一名『強盗共和国』『我等』2-1、1月1日[『創作集1』(我等社)、『創作集3』(叢文閣)、『奇妙な精神病者』、『文芸全集2』、『強盗共和国』、『文芸選集3』収録]

[「普通選挙標語(我社に寄せたる諸名家の論集)」]『国民新聞』1月27日

森戸助教授問題と森戸君の態度[「帝国大学新旧思想衝突批判」]『改造』2-2、2月1日

「労働の芸術化」か「芸術の労働化」か『解放』2-2、2月1日[「『労働の芸術化』に就て」と改題『現代社会批判』、『選集3』収録。『如是閑集3』収録]

埃及王を渡せ『我等』2-2、2月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

絶対国家説に対する社会学的批判 ホブハウス教授の絶対国家説の批判『我等』2-2、2月1日[『現代国家批判』付録「形而上学的国家学説の批判」に収録]

森戸助教授筆禍事件の論理的解剖『我等』2-2、2月1日[『大学及び大学生』、『選集3』、『評論集』、『如是閑集6』収録]

『思想の安全性と危険性』について『我等』2-2、2月1日

思想の安全性と危険性[「傾向及批判」]『我等』2-2、2月1日[『如是閑集4』収録]

農奴解放『我等』2-3、3月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

国家と真理との交戦状態[「思想言論の自由」]『我等』2-3、3月1日[『現代国家批判』、『選集2』、『如是閑集5』収録]

文化貴族と武門貴族と財閥貴族／秘密裁判と社会的公安／性的よりも社会的[「傾向及批判」]『我等』2-3、3月1日[『如是閑集4』収録]

編輯室から『我等』2-3、3月1日

解散は自然の帰結『日本及日本人』778、3月15日

[「政党と民衆」]『解放』2-4、4月1日

低気圧前後『新小説』25-4、4月1日[『犬・猫・人間』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集5』、『選集7』収録]

現下の政局と憲政の自壊作用[「議会展散と総選挙」]『雄弁』11-4、4月1日

埴輪以前『我等』2-4、4月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

我が現代政治に於ける世界的傾向『我等』2-4、4月1日[『現代国家批判』、『選集2』、『如是閑集5』収録]

猛犬ジャツクの話を一京の友への返信として『我等』2-4、4月1日[『犬・猫・人間』、『文芸全集5』収録]

政局と政治の虚偽／言論に対する境界線／兵役より寧ろ商役[「傾向及批判」]『我等』2-4、4月1日[「政局と政治の虚偽」、「言論に対する境界線」は、『如是閑集4』収録]

唯一つ確かなこと[「百年後の日本はどうなるか?」]『日本及日本人』780、4月5日

[「予が候補に立たざる理由」]『新組織』2-5、5月1日

ラツセルの『欲望の解剖』『大観』3-5、5月1日

島崎藤村著新生第二巻『著作評論』1-2、5月1日

生活享樂の分業と階級的反感『雄弁』11-5、5月1日[『現代社会批判』、『選集3』収録]

名の恋人と画の餅『我等』2-5、5月1日[『文芸全集6』収録。「公式」の恋人と画の餅」と改題『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

投機に立脚する政治／ロイド・ジョージ氏の政党[「傾向及批判」]『我等』2-5、5月1日[「投機に立脚する政治」は『如是閑集4』収録]

老人形師と彼れの妻『我等』2-5、6、5月1日、6月1日[『創作集2』(叢文閣)、『現代日本文学全集41』、『文芸全集2』、『著作集8』、『選集補巻』、『文芸選集3』収録]

無線電心機『大正日日新聞[夕刊]』5月7～9日【次回小説予告、同文の掲載】

無線電心機『大正日日新聞[夕刊]』5月10～20、23～31日、6月1～10日[『奇妙な精神病者』、『文芸全集2』、『選集補巻』、『文芸選集3』収録]

現代文化の特徴と其の転機『太陽』26-6、6月1日[『現代社会批判』、『選集3』、『如是閑集3』収録]

機械の人格化—人格の機械化『我等』2-6、6月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『随想全集12』、『選集1』、『如是閑集2』収録]

生活の現実と超国家の破滅『我等』2-6、6月1日[『現代国家批判』、『選集2』、『如是閑集5』収録]

市民と反抗の道德／罷工権剥奪の立法[「傾向及批判」]『我等』2-6、6月1日[『如是閑集4』収録]

国家的万能力の不合理性『解放』2-7、7月1日[「国家的万能力の進化」と改題『現代国家批判』、『選集2』収録。『如是閑集5』収録]

打ちのめされた男『大観』3-7、7月1日[『創作集2』(我等社)、『文芸全集2』収録]

現代文化と其の転向『六合雑誌』474、7月1日

強き者に対する反逆『我等』2-7、7月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

快樂論的労働観を排す『我等』2-7、7月1日[『現代社会批判』、『選集3』、『如是閑集3』収録]

床次内相と社会連帯／運動圧迫から研究圧迫へ[「傾向及批判」]『我等』2-7、7月1日

芸術は破壊する[「日曜付録」]『読売新聞』7月4日

あたま『中央公論』35-8、7月15日[『創作集2』(我等社)、『文芸全集2』収録]

婦人の政治に参与するは寧ろ社会の要求[「よみうり婦人欄」]『読売新聞』7月21～23日

芸術は破壊する『信州』2-5、8月1日

政党主義の樹立と其自壊作用『太陽』26-9、8月1日[「政党政治の完成と自壊作用」と改題『現代国家批判』、『選集2』収録。『如是閑集第5巻』収録]

- 加藤一夫氏著『無明』『著作評論』1-5、8月1日
- 天才原敬氏『日本一』6-8、8月1日[『犬・猫・人間』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集5』収録]
- ゴリラに返れ『我等』2-8、8月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 国家悪と産業悪『我等』2-8、8月1日[『現代国家批判』、『選集2』、『如是閑集5』収録]
- 自由民の虐政／失職者たる勇氣[『傾向及批判』『我等』2-8、8月1日[「自由民の虐政」は『如是閑集4』収録]
- 私の事『時事新報[夕刊]』8月8日
- 婦人参政は社会の要求[談「家庭と婦人」]『日布時事』8月28日
- 国家の進化と愛国的精神『改造』2-9、9月1日[『現代国家批判』、『選集2』、『如是閑集5』収録]
- 欺かれた靈魂と人間『我等』2-9、9月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 富の神化『我等』2-9、9月1日[『現代社会批判』、『選集3』収録]
- 大本教と現代／社会主義同盟の禁止[『傾向及批判』]『我等』2-9、9月1日[「社会主義同盟の禁止」は『如是閑集4』収録]
- 男性美と女性美[「男性美」]『日本及日本人』792、9月20日
- 私は素人でみたい『時事新報[夕刊]』9月30日、11月1～3日[『如是閑集6』収録]
- 反抗と否定『改造』2-10、10月1日[松岡嘉右衛門編『諸雑誌拔萃文学集』第9巻(出版社不明、19??年)、『創作集1』(叢文閣)、『現代日本文学全集41』、『文芸全集2』、『文芸選集2』収録]
- 進化せざる結婚制度『解放』2-10、10月1日[「結婚制度に就て」と改題『現代社会批判』、『選集3』収録。『如是閑集3』、『婚姻2』<家族研究論文資料集成 明治大正昭和前期篇 第18巻>(クレス出版、2001年)収録]
- 子爵夫人と孤児『女性日本人』1-2、10月1日[『創作集1』(我等社)、『創作集3』(叢文閣)、『文芸全集2』収録]
- 闘争本能と国家の進化『中央公論』35-11、10月1日[「闘争本能と国家の発生」と改題『現代国家批判』、『選集2』収録。『如是閑集5』収録]
- 童話に就て『著作評論』1-7、10月1日【合評会：有島武郎、生田長江、大庭柯公、堺利彦、馬場孤蝶】
- 上から下へ『我等』2-10、10月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 『無政府』と『独裁』—政治思想の両極に対する断片的考察『我等』2-10、10月1日[「政治思想としての『無政府』と『独裁』」と改題『現代国家批判』、『選集2』収録]
- 女子の社会化と女子教育／不景気と労働者の団結[『傾向及批判』]『我等』2-10、10月1日[「女子の社会化と女子教育」は『如是閑集4』収録]
- 線及び色の倫理『国粹』1-2、11月1日
- 乞食同士の会話『大観』3-11、11月1日[『創作集1』(叢文閣)、『現代日本文学全集41』、『文芸全集2』、『選集1』収録]
- 生殖生活の解放から女子独裁へ『婦人公論』5-11、11月1日[『現代社会批判』、『選集3』収録]

槍の失敗[「一日一話」]『読売新聞』11月1日

楚王と漁夫『我等』2-11、11月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

實際政治に於ける自由主義と干渉主義『我等』2-11、11月1日[『現代国家批判』、『選集2』、『如是閑集5』収録]

『憂惧』より『安心』へ／協調か不調か[「傾向及批判」]『我等』2-11、11月1日[「『憂惧』より『安心』へ」は『如是閑集4』収録]

科学の範囲及び方法[訳：ラルフ・バートン・ペリー著]『我等』2-11、12、11月1日、12月1日

ラッセルの社会思想と支那『読売新聞』11月10～16日[劉淑琴訳「羅素の社会思想与中国」『東方樵誌』23-13、1926年7月10日。『現代社会批判』、『如是閑集7』収録]

戦争してもモノにならず[「一 日米親善の方法 二 加州排日案が通過成立の場合に我國民の執るべき手段」]『武俠世界』9-15、11月12日

地方の講演に出かけて[「地方講演」について感ずる事』]『中央公論』35-13、12月1日[『如是閑集6』収録]

衣服と肉体『我等』2-12、12月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

性的に観た社会『我等』2-12、12月1日[『現代社会批判』、『選集3』、『如是閑集3』収録]

妥協と圧迫の一年／反動としての国家主義[「傾向及批判」]『我等』2-12、12月1日

或る智識『我等』2-12、12月1日[『文芸全集2』収録]

婦人問題と性『読売新聞』12月21日

\*森戸問題と学生の態度『信州』2-?、月日未詳

## 1921(大正10)年

[「新思想家の見たる東京市の根本改造と其の市長として最適任者」]『改造』3-1、1月1日

芸術の還元性『国粹』2-1、1月1日

婦人の衣裳の進化とその心理『新家庭』6-1、1月1日

或るカフェーの娘『新小説』26-1、1月1日[『創作集1』(叢文閣)、『文芸全集2』、『現代日本小説大系 30 新理想主義 8』(河出書房、1952年。1956年版では第32巻)、『文芸選集3』収録][セルジュ・エリセーエフ(Serge Elisséev)訳：La fille du café, *Le jardin des pivoines par Nagai Kafû ; suivi de cinq récits d'écrivains japonais contemporains*, Sans pareil, 1927]

芸術の社会的使命[「改造の水先案内たるべき文芸の使命」]『大観』4-1、1月1日

企業参加権の法的基礎『太陽』27-1、1月1日[「企業参加権について」と改題『現代社会批判』、『選集3』収録]

象やの糸さん[「創作」]『中央公論』36-1、1月1日[仏訳：Le Cornac, *Japon et Extrême-Orient revue mensuelle*[*Neuf nouvelles japonaises*],1924][松岡嘉右衛門編『諸雑誌抜萃文学集』第20巻(出版社不明、19??年)、『創作集1』(叢文閣)、『現代日本文学全集41』、日本近代文学研究会編『現代日本小説大系 30 新理想主義 8』(河出書房、1952年。1956年版では第32巻)、『昭和文学全集37』、『現代日

- 本文学全集 85 大正小説集』(筑摩書房、1957年)、『日本文学全集 87 名作集 2 大正編』(集英社、1969年、豪華版：1975年)、『選集 補巻』、『現代日本文学大系 40』、『初期プロレタリア文学集 4』<日本プロレタリア文学集 4>(新日本出版社、1985年)、『芸芸選集 1』、『編年体大正文学全集 10』(ゆまに書房、2002年)、『ふたすじ道・馬』<岩波文庫>、池内紀・川本三郎・松田哲夫編『夢見る部屋』<日本文学 100年の名作 第1巻 1914-1923><新潮文庫>(新潮社、2014年)収録]
- 自然は無心に去来[「門松は冥土の旅の一里塚目出度もあり目出度もなしー諸名家の感想」]『日本及日本人』799、1月1日
- 女性美の三要素『婦人画報』180、1月1日
- 社会思想の一考察[演説(於慶応義塾弁論部主催文化講演会)]『雄弁』12-1、1月1日[『現代社会批判』、『如是閑集 3』収録]
- 原始宗教に復帰せよ[「現代文化生活に於て在来の宗教は如何に改造さるべきか」]『六合雑誌』480、1月1日
- 『世界統一』『我等』3-1、1月1日[「世界の統一」と改題『芸芸全集 6』収録。『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 国家の商人化と政治否定『我等』3-1、1月1日[「国家の商人化」と改題『現代国家批判』、『選集 2』収録。『如是閑集 5』、田中浩編『近代文明批判「国家」の批判から「社会」の批判へ』<思想の海へ「解放と変革」10>(社会評論社、1990年)収録]
- 芸術の社会性／生活の現実性と自治団[「傾向及批判」]『我等』3-1、1月1日
- 或る心の自叙伝 胎児時代から赤子時代まで『我等』3-1、2、4、1月1日、2月1日、4月1日
- 政治的より社会的へ[「婦人参政・拒婚同盟」]『改造』3-2、2月1日
- 議会政治の存在理由と崩壊『解放』3-2、2月1日[『現代国家批判』、『選集 2』、『如是閑集 5』収録]
- お猿の番人になるまで『解放』3-2、5、7、2月1日、5月1日、7月1日[『創作集 2』(我等社)、『新興文学全集 第9巻』(平凡社、1930年)、『昭和文学全集 37』、『選集 6』、『芸芸選集 1』、『ふたすじ道・馬』<岩波文庫>収録]
- 政党政治の本質的欠陥[「デモクラシーの本義より見たる政党政治の批判」]『大観』4-2、2月1日[『現代国家批判』、『選集 2』収録]
- 自国本位主義の解剖[「自国本位主義対国際協同主義批判」]『中央公論』36-2、2月1日[『現代国家批判』、『選集 2』収録]
- 結構な事には違ひないが[「拒婚同盟の趣旨並に批判」]『婦人公論』6-2、2月1日
- 力を敵として[「女教員と政治運動ー広島に起りし新婦人協会の一問題」]『女性日本人』2-2、2月1日
- 『たった一人に六百人』『我等』3-2、2月1日[『芸芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 財産に関する一考察『我等』3-2、2月1日[『現代社会批判』、『選集 3』、『如是閑集 3』収録]
- 仏国式ホロ酔ひ機嫌／罵しらるべき私学[「傾向及批判」]『我等』3-2、2月1日[「罵しらるべき私学」は『如是閑集 4』収録]
- 編輯室から『我等』3-2、2月1日
- 制度と事実の方へ[「離婚自由の問題」]『東京日日新聞』2月9日
- 天文学から宇宙哲学へー一戸博士の理想[「故理学博士一戸直蔵氏追悼記念号」]『現代之科学』9-6、3月1日

日[『如是閑集 1』収録]

文化否定の生活意識 文化観念に基く歴史思想の批判『新文学』16-3、3月1日[『現代社会批判』収録]

露助の我慢[創作]『大観』4-4、3月1日

生活としての労働[「労働者道確立の提唱」]『中央公論』36-3、3月1日[『現代社会批判』、『選集 3』、『如是閑集 3』収録]

天才と教育家『朝鮮公論』9-3、3月1日

貴族階級に必然的な無政府の傾向[「ふたりの社会主義華族」]『日本一』7-3、3月1日

舜と龍神『我等』3-3、3月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』、『随想全集 12』収録]

『企業』と『労働』とに関する一考察『我等』3-3、3月1日[「『企業』と『労働』との本質と変態」と改題『現代社会批判』、『選集 3』収録]

軍国的生活の不可能／官僚教育の自殺[「傾向及批判」]『我等』3-3、3月1日

国家主義に内在する軍国的要素『改造』3-4、4月1日

批判的見地より観たる我国民性『解放』3-4、4月1日[『如是閑集 7』収録]

或る謀殺犯人の陳述『新小説』26-4、4月1日[『創作集 2』(叢文閣)、『現代日本文学全集 41』、『著作集 8』、『選集 補巻』、『近代日本ユウモア叢書 2』、『文芸選集 3』収録]

創造としての恋愛[「現代恋愛生活批判」]『新小説』26-4、4月1日

労働本位の生活『新組織』3-4、4月1日

露助の我慢『大観』4-4、4月1日[『創作集 2』(叢文閣)]

幻覚『太陽』27-4、4月1日[『創作集 1』(叢文閣)、『強盗共和国』、『文芸選集 3』収録]

子爵と三人の女[小説]『中央公論』36-4、4月1日[松岡嘉右衛門編『諸雑誌抜萃文学集』第20巻(出版社不明、19??年)、『創作集 2』(叢文閣)収録]

十返舎一九のロジック『我等』3-4、4月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

主権説の成立と其崩壊 デュギイの国家法理に就て『我等』3-4、4月1日[[『現代国家批判』付録に収録]

満鉄事件の必然性／流行性暴力病[「傾向及批判」]『我等』3-4、4月1日[『如是閑集 4』収録]

編輯室より『我等』3-4、4月1日

日本の奴隷的学風に就て『万朝報』4月18日

文明人と野蛮の伝統—婦人の地位に対する『女性日本人』2-5、5月1日

階級的社会と議会政治の局限[「政治道徳・社会道徳の根本的革新の機」]『中央公論』36-5、5月1日

労働の生活と社会的感覚[「責任感犠牲心 社会は旦那の工夫に恥ぢよ」]『日本及日本人』808、5月1日

[「余の弁論練習中最も苦心したる諸点」]『雄弁』12-5、5月1日

『礼儀正しい泥棒』『我等』3-5、5月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]



- 集団意識と協調主義『我等』3-5、5月1日[「現代社会と集団意識」と改題『現代社会批判』、『選集3』収録。『如是閑集3』収録]
- 政党の主権と司法／神棚調査[「傾向及批判」]『我等』3-5、5月1日[『如是閑集4』収録]
- 自分達二人[「鉄箒」]『東京朝日新聞』5月6日
- 性の研究の流行を如何に観ずるか 解放期の前後に起こる現象[「日曜付録」]『読売新聞』5月15日
- 我現代政治の先駆的条件と其将来『解放』3-6、6月1日
- 結婚外の性的離合『大観』4-6、6月1日
- 生活としての遊戯[「競技・勝負事・闘争の心理と其人生的意義」]『中央公論』36-6、6月1日
- 現実的にして戦闘的[「社会動揺と人生観の確立」]『野依雑誌』1-2、6月1日
- 酒樽と人間『我等』3-6、6月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『評論集』、『如是閑集2』収録]
- 現実的傾向と国家の哲学『我等』3-6、6月1日
- 労働争議と官憲の態度／明大事件と学問の制馭[「傾向及批判」]『我等』3-6、6月1日[『如是閑集4』収録]
- 編輯室から『我等』3-6、6月1日
- 官公吏の個人的不正と経済組織の不正[「社会現象批判」]『改造』3-7、7月1日
- 婦人運動の物理的条件『女性同盟』10、7月1日
- めぐりあひ『大観』4-7、7月1日[『創作集1』(叢文閣)、『現代日本文学全集41』、『文芸選集3』収録]
- 婦人運動の根本問題[「わが国に於ける婦人運動の現状及び前途」]『太陽』27-9、7月1日
- 婦人の経済的独立の理論と其実際『婦人界』5-7、7月1日
- 孟子国字解『我等』3-7、7月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 原始的魔術と其現代的延長『我等』3-7、7月1日[中西伊之助編『芸術戦線』(自然社、1923年)収録]
- 『社会化』の暗殺／少年少女の性的反抗[「傾向及批判」]『我等』3-7、7月1日[「『社会化』の暗殺」は『如是閑集4』収録]
- [「文壇諸家回答」]『三田新聞』79、7月11日
- 郊外生活から見た大阪人『中央公論』36-8、7月15日[「大阪人の顔」の一節を追加して「大阪人の顔其他」と改題『犬・猫・人間』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集5』収録。『如是閑集6』収録]
- 帝室劇場建設是非一若し出来るとしたらー『時事新報[夕刊]』7月24、26日
- 理想化と分解[「台日講壇」]『台湾日日新報』7月28、29日
- 二人の軽業師『新小説』26-8、8月1日[『創作集1』(我等社)、『創作集3』(叢文閣)、『現代日本文学全集41』、『選集 補巻』、『文芸選集1』収録。中国語訳「两个杂技演员」(『高瀬船 日汉对照』上海译文出版社、1981年6月)]
- 兄の失恋『女性日本人』2-8、8月1日
- 国家的感情と国際的正義[「国際関係に於ける感情・利害・正義の力」]『中央公論』36-9、8月1日
- 火と鉄『我等』3-8、8月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

理想的統一に対する生活衝動の復活『我等』3-8、8月1日

門『我等』3-8、8月1日[『犬・猫・人間』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集5』、『如是閑集1』収録]

富豪の脱税[「傾向及批判」]『我等』3-8、8月1日

戦争主義と狼猿説[「時評」]『改造』3-10、9月1日

婦人の衣裳の進化とその心理『東西織物界』165、166、9月1日、10月1日

社会現象としての自殺『婦人公論』6-10、9月1日

聖人『我等』3-9、9月1日[『文芸全集6』収録。「宰予の聖人」と改題『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

現代運動に於ける分化的傾向『我等』3-9、9月1日[『如是閑集3』収録]

商行為としての賄賂[「傾向及批判」]『我等』3-9、9月1日[『如是閑集4』収録]

支那の印象記[談]『日華公論』8-10、10月1日

[「私の好きな美人五人」]『日本一』7-1、10月1日

如是閑氏から[書簡抄]『種蒔く人』1-1、10月3日

壇上から観た植民地の文化[「日曜付録」]『読売新聞』10月9日

社会進化より観たる個人的恐怖主義[「富豪安田翁の死」]『解放』3-11、11月1日

経済上の優者に対して[「黄金と人生」]『婦人公論』6-12、11月1日

『小僧の耳』『我等』3-11、11月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

司法権と暴力権／『思想裁判』と『思想警察』[「傾向及批判」]『我等』3-11、11月1日

編輯室から『我等』3-11、11月1日

支那を見て来た男の言葉『我等』3-11、12、4-1、2、4、5、7、10～12、5-1～3、11月1日、12月1日、**1922年**1月1日、2月1日、4月1日、5月1日、7月1日、10月1日、11月1日、12月1日、**1923年**1月1日、2月1日、3月1日[『文芸全集7』収録、『如是閑集7』抄録]

原首相の暗殺に対する諸家の考察 古い政治思想の影響『読売新聞』11月8日

在米南朝日本[「若し日本人が亜米利加を発見してゐたら亜米利加大陸はどう変化してゐるだらうか」]『日本及日本人』822、11月11日[「もし日本人がアメリカを発見してゐたら」と改題『犬・猫・人間』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集5』、『選集7』収録]

近代的精神の崩壊『改造』3-13、12月1日[『如是閑集3』収録]

組織的変革の否定としての暗殺[「原氏兇変の社会的考察」]『改造』3-13、12月1日

暗殺と政治と生活『国粹』2-12、12月1日

乞食さへ大規模な支那の大自然『大観』4-12、12月1日

暗殺の思想的背景『太陽』27-14、12月1日

支那人の顔其他『中央公論』36-13、12月1日[『奇妙な精神病者』、『文芸全集5』収録]

優越と自然『我等』3-12、12月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

生存肯定と哲学否定 その解題『我等』3-12、12月1日

生存肯定と哲学否定『我等』3-12、12月1日[小松謙助編『新日本の建設』(岩波書店、1922年6月10日)収録]

日本人と支那人『台湾日日新報』12月6、7日

凡てに時代を見る 芸術の世界の面白味『時事新報[夕刊]』12月16、18、20日

## 1922(大正11)年

生活意識としての民族的精神の価値『改造』4-1、1月1日

思惟の生活の社会的地位『解放』4-1、1月1日

「予が高橋内閣に為させ度き事」『実業之世界』19-1、1月1日

女性美に於ける官能美と情操美『女性日本人』3-1、1月1日

現代文化の欠陥と現代演劇『新演芸』7-1、1月1日[『演劇論』<近代文学評論大系9>(角川書店、1972年11月20日)収録]

社会的生活に於ける出発と優越[「出発と優越」]『新小説』27-1、1月1日

性の道徳と性的生活の本能的傾向『大観』5-1、1月1日

虎から豹へ『中央公論』37-1、1月1日[松岡嘉右衛門編『諸雑誌拔萃文学集』第14卷(出版社不明、19??年)、『創作集2』(我等社)、『昭和文学全集37』、『選集 補巻』、『文芸選集1』収録]

道徳生活の難境に立てる現代婦人『婦人公論』7-1、1月1日

現代の心霊的傾向について[「現代の宗教的傾向についての批判」]『早稲田文学』194、1月1日

歳の始め『我等』4-1、1月1日[杜斐(魯迅)訳「歳首」『国民新報副刊』30、1926年1月7日(『魯迅訳文集10』<北京>人民文学出版社、1959年)[『眞実はかく伴る』(叢文閣)、『文芸全集6』、『如是閑集2』収録。「始めか終りか」と改題『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

生活と乖離した『歴史』及『歴史』的事実『我等』4-1、1月1日

一九二一年から二二年へ／現時の二傾向[「傾向及批判」]『我等』4-1、1月1日[「一九二一年から二二年へ」は、『如是閑集4』収録]

第四階級の芸術『読売新聞』1月9、12～14日[『新聞集成大正編年史 大正十一年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]

空想政治家としての大隈侯[「時評」]『改造』4-2、2月1日

新しい、善良な風俗へ[「社交ダンス流行の兆を何と観る」]『婦人公論』7-2、2月1日

蜂の子『我等』4-2、2月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

生活の基点としての都会文化と地方文化『我等』4-2、2月1日[『如是閑集6』収録]

反動的安定と宗教的傾向[「傾向及批判」]『我等』4-2、2月1日

主義を取ることの苦心『野依雑誌』2-3<予が奉ずる主義号>、2月5日

現代的運動の特徴 社会運動の根本的理解『中外日報』2月8～11、14日[『道徳の現実性』、『如是閑集3』]

収録]

制度としての教育 特に教育者の生活問題『中外日報』2月28日、3月1～4日[「教育者の生活問題」と改題『道徳の現実性』収録]

その日『解放』4-3、3月1日[『創作集2』(叢文閣)]

日本の学風に現はれた亡国的傾向『大観』5-3、3月1日

ロータトーリアの死『我等』4-3、3月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣/朝日新聞社)、『選集1』収録]

男子専制の社会に於ける男女の地位『我等』4-3～5、3月1日、4月1日、5月1日【第2回掲載の本文タイトルは「男子専制の社会に於ける性的制度」】

ジャーナリズムの社会性/議会に於ける暴力[「傾向及批判」]『我等』4-3、3月1日

喰ひ違ひ(喜劇一幕物)『我等』4-3、3月1日[『日本戯曲全集 第49巻 現代篇 第17輯』(春陽堂、1929年)、『現代日本文学全集41』、『選集6』、『近代日本ユウモア叢書2』、『プロレタリア戯曲集1』<日本プロレタリア文学集35>(新日本出版社、1988年)、『文芸選集4』収録]

サンガア夫人の上陸を禁じて何になる お国名物思想の錯誤『読売新聞』3月3日

正統の道徳と生活の道徳 現代道徳生活の進化『中外日報』3月29～31日、4月1、2、5日[『道徳の現実性』、『如是閑集3』収録]

制度としての国家『解放』4-4、4月1日[『新社会的秩序へ』(同人社書店、1922年6月)収録]

産児制限は無意識行為『女性日本人』3-4、4月1日

神と人と社会『大観』5-4、4月1日[「社会性の発見」と改題『道徳の現実性』、『随想全集2』収録。『如是閑集3』収録]

奴隷であることの喜び『我等』4-4、4月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣/朝日新聞社)、『選集1』収録]

革命的立法[「傾向及批判」]『我等』4-4、4月1日[『如是閑集4』収録]

編輯室から『我等』4-4、4月1日

汐見桜[小説]『日本及日本人』833、4月5日

批評に就いて『時事新報[夕刊]』4月26、27日

支那に於ける反キリスト教運動『読売新聞』4月29、30日

優越者の道徳 其道徳の不道徳性『中外日報』4月30日、5月2～7日[『道徳の現実性』、『如是閑集3』収録]

所謂憲政の本質と我が政局の進化[「時評」]『改造』4-5、5月1日

都会文化とデパートメント・ストア『新小説』27-5、5月1日

エスキモー『我等』4-5、5月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣/朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

玄関『我等』4-5、5月1日[『犬・猫・人間』、『奇妙な精神病者』、『文芸全集5』収録]

支那の反基督教運動/日本の軍国教育と米国[「傾向及批判」]『我等』4-5、5月1日[「日本の軍国教育と米国」は、『評論集』、『如是閑集4』収録]

- 生活肯定と哲学否定『文明協会講演集』5月15日
- 生活に対する支配の道徳『改造』4-6、6月1日
- 現代の女子と性的道徳の進化『新小説』27-6、6月1日
- 政治と芸術との交叉点『新潮』36-6、6月1日
- 亡友四匹『中央公論』37-6、6月1日[『犬・猫・人間』、『文芸全集 5』、『選集 7』、江藤淳編『犬』<日本の名随筆 76>作品社、1989年)収録]
- 魂のさせる業『我等』4-6、6月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣/朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 現代に於ける生活恢復の要求『我等』4-6、6月1日
- 過渡の政治と過渡の人/犯罪の進歩と現社会[「傾向及批判」]『我等』4-6、6月1日[「過渡の政治と過渡の人」は、『如是閑集 4』収録]
- [「お次はどんな内閣を どんな首相を」]『読売新聞』6月9日
- 新聞紙の社会的真価と其性質『時事問題の研究』1-7、6月15日
- 政治現象に普遍の事実[「超然内閣批判」]『改造』4-7、7月1日
- 愚問禿答[「親鸞と現代社会」]『解放』4-7、7月1日
- 伸びんとする婦人の力『婦人倶楽部』3-7、7月1日
- 性の生活における現代人の反省『婦人公論』7-7、7月1日
- 盗跖の言葉『我等』4-7、7月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣/朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 宗教的態度と現代社会『現代社会に於ける宗教的、倫理的及び社会的態度』の一『我等』4-7、7月1日
- 支配道徳と労働道徳/資本と芸術の争[「傾向及批判」]『我等』4-7、7月1日[「支配道徳と労働道徳」は「支配の道徳と労働道徳」と改題『道徳の現実性』収録。『如是閑集 3』収録]
- 編輯室から『我等』4-7、7月1日
- 体験と同情一階級的生活に於ける一『中外日報』7月9、11、12日[『道徳の現実性』、『如是閑集 3』収録]
- 人類闘争の進化と世界平和『中央公論』37-8、7月15日
- 万人風呂『解放』4-8、8月1日[『創作集 1』(叢文閣)収録]
- 演劇の商品化[「観客より劇場に新しい要求」]『新演芸』7-8、8月1日
- 六根清浄『新小説』27-8、8月1日[『如是閑集 1』収録]
- [「寺に関する印象」]『中央仏教』6-8、8月1日
- 不思議『我等』4-8、8月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣/朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 倫理的態度の現代的効果『我等』4-8、8月1日
- 『呆れた教育者』?/綱紀振肅の日英同盟[「傾向及批判」]『我等』4-8、8月1日
- 全てが独逸風[「人」および「芸術家」としての鵬外博士』]『新小説』27-9、8月3日[『近代作家追悼文集成 第7巻 森鵬外』(ゆまに書房、1987年)収録]

文明と野蛮 それが生活に対する関係『中外日報』8月24～26日[『道徳の現実性』、『現代随想全集2』、『如是閑集3』収録]

拝金宗と理想主義『解放』4-9、9月1日

小野訓導とお初地蔵『女性日本人』3-9、9月1日

馬『中央公論』37-10、9月1日[『創作集2』(叢文閣)、『現代日本文学全集41』、『強盗共和国』、『文芸選集1』収録。「人馬一体」と改題『凡愚列伝』、『選集7』、『ふたすじ道・馬』<岩波文庫>収録]

財界の不況と婦人の経済的自覚『良婦之友』1-9、9月1日

現文壇の貴族的傾向[「現文壇の傾向について」]『早稲田文学』202、9月1日

節約『我等』4-9、9月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『長谷川如是閑集 第2巻』収録]

現代運動としての社会的態度『我等』4-9、9月1日[『如是閑集3』収録]

イズムの幻滅時代[「傾向及批判」]『我等』4-9、9月1日

文化思想と文化事業『中外日報』9月3、5、6日[「文化思想と文化事実」と改題『道徳の現実性』収録]

伝統的思惟を産むだ生活組織の崩壊[「最新の科学及び哲学」]『日本及日本人』845、9月20日[復刊『日本及日本人』1582、1986年4月に転載]

[「国民党の解党と革新倶楽部の将来」]『実生活』73、10月1日

女性解放運動の意義と方向『女性同盟』3-10、10月1日

宗教と政治『我等』4-10、10月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

政治的行動と社会的行動—社会的態度の二方面『我等』4-10、10月1日[『如是閑集3』収録]

『社会化』の正体[「傾向及批判」]『我等』4-10、10月1日

現実の道徳と非現実の道徳『中外日報』10月21、22、24日[『道徳の現実性』、『如是閑集3』収録]

問題二つ『時事新報[夕刊]』10月29、31日

思惟の支配に対する反抗『改造』4-11、11月1日

近代の社会進化と性の制度の頽廢[「結婚難と離婚流行 社会的研究」]『女性改造』1-2、11月1日

『死』の現象に現はれた『自然』の精妙な技巧[「死を<sup>念頭に置く</sup>生活」]『中央公論』37-12、11月1日

現代の女性の新しきを追ふ心理『婦人世界』17-11、11月1日

人間の値段付け『我等』4-11、11月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

生存の道徳—根抵の事実—『我等』4-11、11月1日

ロイド・ジョージの失職[「傾向及批判」]『我等』4-11、11月1日

標準大■■■■■新■■■■■先鞭『早稲田大学新聞』1、11月5日

新聞を嫌う人は一種のばけ物だ 現代の社会と新聞の意義[談]『東京日日新聞』11月7日

生活改善と女性運動『婦人新報』301、11月10日

- 女性の社会的地位と女性の運動『女性』2-6、12月1日
- 婦人の将来を決定する職業婦人[「来るべき次時代の婦人」]『女性改造』1-3、12月1日
- 文明国の飢饉は階級的[文責在記者]『婦女界』26-6、12月1日
- 聖人の妻『我等』4-12、12月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 生存の道徳—其現代的意義—『我等』4-12、12月1日
- 最近の反動的傾向の性質／衝動的個人行動の社会性と反社会性[「傾向及批判」]『我等』4-12、12月1日
- 編輯室から『我等』4-12、12月1日

### 1923(大正 12)年

- 社会的道徳への進化と日本[「改造日本の提唱」]『改造』5-1、1月1日
- 社会革命と芸術家『解放』5-1、1月1日
- 装飾としての女性・人間としての女性『女性日本人』4-1、1月1日
- 社会及道徳の社会性と反社会性『中外日報』1月1日
- 経済組織の進化と家族制度『婦人公論』8-1、1月1日
- 一の字の不思議『我等』5-1、1月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 道徳の支配と支配の道徳『我等』5-1、1月1日
- 生活の立場を離れた社会運動[「傾向及批判」]『我等』5-1、1月1日
- 純日本式『東京日日新聞』1月8、9日[『犬・猫・人間』、『文芸全集 5』、『如是閑集 1』収録]
- 民衆政治を超越して[「真に民衆政治たらしむるには」]『改造』5-2、2月1日[『如是閑集 5』収録]
- 享楽生活の階級的構成とその崩壊『解放』5-2、2月1日
- 娯楽の民衆化と貴族化『新演芸』8-2、2月1日
- 好きな女性はない[「文芸作品中に現はれた私の最も好きな女性」]『女性改造』2-2、2月1日
- 支配意識の進化としての普選[「普選実行の暁に於ける我政界の新局面の予想」]『中央公論』38-2、2月1日
- 新婦人協会の解散に際して婦人の団体運動を論ず/枢密院上奏問題[「時評」]『婦人公論』8-2、2月1日
- 観念遊戯と生活力[「運命観」]『婦人之友』17-2、2月1日
- 泥棒は正直『我等』5-2、2月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 階級的生活意識と階級文化『我等』5-2、2月1日
- 社会思想の内乱に就て／日本の家屋と秘密結社[「傾向及批判」]『我等』5-2、2月1日
- 知的生活の階級的構成に就て『改造』5-3、3月1日
- 街頭で見た事二つ『解放』5-3、3月1日【小説 2 篇：酔漢と大道商人、とき坊しまちゃん】

夢を見てゐる女性『女性改造』2-3、3月1日

頽廢階級の幻想の世界[「現代逃避思想の批判」]『太陽』29-3、3月1日

警察的感覚の社会的性質と其錯覚[「警視庁論」]『中央公論』38-3、3月1日

日本の婦人運動の変遷とその意義[「我国婦人運動の現在並に将来」]『早稲田文学』208、3月1日

踊り児の独語『我等』5-3、3月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

生活の進化と意識の進化『我等』5-3、3月1日

民族的感情の濫用／ヨツフェ招ねかる[「傾向及批判」]『我等』5-3、3月1日[『如是閑集4』収録]

編輯室から『我等』5-3、3月1日

知的生活の隷属と反抗[「知識階級の研究」]『解放』5-4、4月1日

現代の女性を襲ふ生活変化『女性』3-4、4月1日

現代女性生活の進化『女性日本人』4-4、4月1日

踏んだり蹴たり『中央公論』38-4、4月1日[『創作集2』(叢文閣)、『奇妙な精神病者』収録]

婦人に起つた最近の事実に基いた感想／劇場の国家管理に就て[「時評」]『婦人公論』8-4、4月1日

アリストートルの妄語『我等』5-4、4月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

歴史的変化の近代的特徴一並に革命の動力としての少数者に就て『我等』5-4、4月1日

支那人の現代的空想／暴行の流行と日本の教育[「傾向及批判」]『我等』5-4、4月1日

秋刀魚先生『我等』5-4、4月1日[『創作集3』(叢文閣)、『著作集8』、『選集6』、『近代日本ユウモア叢書2』、『文芸選集2』収録]

享樂の自由『週刊朝日』3-17、4月10日

婦人の生活と婦人運動『文化運動』135、4月10日

個人的管理より自治的管理へ[「演劇民衆化問題」]『演芸画報』10-5、5月1日

世界的物騒の第一原因[「物騒な世の中に就いての批判」]『新小説』28-5、5月1日

要するに生活を離れた幻想的意識[「思想の陰悪化、行動の凶暴化」]『中央公論』38-5、5月1日

陰悪な時代に処する婦人の覚悟[「公論」]『婦人公論』8-5、5月1日

近代的愛国主義に就いて[「世界主義と国家主義と新愛国心と」]『早稲田文学』210、5月1日

善良な悪魔の涙『我等』5-5、5月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

民主的軍国主義の自己破壊／原始宗教の濫造[「傾向及批判」]『我等』5-5、5月1日

編輯室から『我等』5-5、5月1日《無署名》

所有・智識及び労働—社会に対する個人の寄与としての—『我等』5-5～7、5月1日、6月1日、7月1日[第2回表題は「社会に対する個人の寄与としての智識」、第3回表題は「社会に対する個人の寄与としての労働」]



- 重吉の宿『我等』5-5～7、5月1日、6月1日、7月1日[『著作集8』、『選集6』、『近代日本ユウモア叢書2』収録]
- 無意味で有意味の商工党[「商工党・農民党・労働党」]『改造』5-6、6月1日
- 文化運動と無産者運動『解放』5-6、6月1日
- 女子の建設的生活と性の道徳『女性改造』2-6、6月1日
- 近代の恋愛観に就いて[「恋愛観と人性及び芸術」]『新小説』28-6、6月1日
- 近代的生活事実と性的道徳の進化[「頻々たる性的事件と性道徳の新目標」]『中央公論』38-6、6月1日
- 職業婦人同盟に関する考察/労農露国承認問題[「時評」]『婦人公論』8-6、6月1日
- 生活感情に反する暴力とそれに対する覚悟『婦人之友』17-6、6月1日
- 猪の聖者『我等』5-6、6月1日(魯迅訳「聖野猪」『旭光旬刊』4、1925年6月1日、『魯迅訳文集10』(人民文学出版社<北京>、1959年)収録)[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣/朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 露国の妥協的提案[「我等」]『我等』5-6、6月1日《無署名》
- 近代国家と土匪/大学生の軍事研究[「傾向及批判」]『我等』5-6、6月1日[『如是閑集4』収録。「大学生の軍事研究」は『評論集』収録]
- 編輯室から『我等』5-6、6月1日
- 国家の組織制度を批判すべき大学を軍隊や警察と一緒に扱われては困る[「月曜付録」]『読売新聞』6月11日
- 近代国家の国民皆兵主義の成立と破壊[「軍事予備教育批判」]『改造』5-7、7月1日
- 思想戦か争奪戦か[「思想戦の早稲田学園」]『解放』5-7、7月1日
- 論語の編輯会議[「ある日の空想」]『解放』5-7、7月1日
- 時代を画する思想[「現代名士一家一言録」]『現代』4-7、7月1日
- 脚本検閲諮問会の問題[「劇場時評 脚本検閲諮問会の設立」]『新演芸』8-7、7月1日
- 社会組織に於ける指導意識の進化『中央公論』38-8、7月1日[満月会編『第一人者の評論と随筆』<満月集 第1>(教文社、1924年)収録]
- 社会的不良性の結果『婦人公論』8-7、7月1日
- 最も惨めなもの[「一事一言現代名士社会時評」]『雄弁』14-7、7月1日
- 魂の逃げ場『我等』5-7、7月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(叢文閣/朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 支那の政治的亡国状態[「我等」]『我等』5-7、7月1日《無署名》
- 近代国家の警察政治[「傾向及批判」]『我等』5-7、7月1日
- 編輯室から『我等』5-7、7月1日
- ブル意識が有島氏を斯の最期に導いた[談]『読売新聞』7月9日
- 有島氏の死は理智的に行詰つた人間の運命であらう『読売新聞』7月10日[『新聞集成大正編年史 大正十二年度版 中』(明治大正昭和新聞研究会、1985年)収録]

理智と本能の問題 有島武郎氏事件一考察『時事新報[夕刊]』7月10、11日

芸術的錯覚と其社会的意義『改造』5-8、8月1日

『永遠の叛逆者』有島君[「有島武郎氏の問題」]『改造』5-8、8月1日[『有島武郎全集 別巻』(筑摩書房、1988年)、『如是閑集1』収録]

学問の自由の社会的根柢『解放』5-8、8月1日

職業婦人と女性犯罪[「誌上に於ける夏季大学講座」]『女性日本人』4-8、8月1日

支那の将来に対する思想的根柢と産業的根柢『太陽』29-10、8月1日

暴力の流行と社会病理[「暴行・脅迫・強請等に対する当局の取締の緩急を難ず」]『中央公論』38-9、8月1日

【「研究室臨検事件に就ての感想」]『日本教育』2-8、8月1日

蹂躪されない婦人の力『婦人倶楽部』4-8、8月1日

享樂的職業婦人を排す『婦人之友』17-8、8月1日[『有島武郎全集 別巻』(筑摩書房、1988年)収録]

形式文明に対する同化と分化『文化生活』1-4[原本表記は第3巻8月号]、8月1日

逆賊の作った法律『我等』5-8、8月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『如是閑集2』収録]

所有の道徳から生産の道徳へ『我等』5-8、8月1日

有島武郎君の死—自己肯定による否定[「傾向及批判」]『我等』5-8、8月1日[『如是閑集1』収録]

何とも申せません[「有島氏の死に就て」]『婦人新報』310、8月10日

都会文化の模倣と農村自身の生活[「農村青年に与えふ」]『改造』5-9、9月1日

社会的感覺機関としての新聞紙『解放』5-9、9月1日[『如是閑集6』収録]

享樂階級的意識の崩壊『女性改造』2-9、9月1日

政治階級の遊戯としての貴族院改造／時代錯誤の神祇／婦人運動頓挫の意義[「時論」]『中央公論』38-10、9月1日[「婦人運動頓挫の意義」は「日本の婦人運動」と題して、高須芳次郎編『名文鑑賞誌本 大正時代』(厚生閣、1937年)収録]

日本新聞と『陸さん』の印象[「陸羯南七十七周忌に会して」]『日本及日本人』869、9月1日[『如是閑集1』収録]

靈魂の獄舎『我等』5-9、9月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集1』収録]

大学と維持員制度／宗教的アナーキズム[「傾向及批判」]『我等』5-9、9月1日[「宗教的アナーキズム」は、『中外日報』1923年12月20日に抄録。『如是閑集4』収録]

古典的貴族主義と近代的貴族主義の崩壊『我等』5-9、9月1日

地震で蘇つた山本内閣[時評]『改造』5-10、10月1日

批判的態度 制度としての宗教に対する『宗教と思想』1-1、10月1日

生存の道徳と道徳の錯誤『女性』4-4、10月1日

災害の齎らす社会的影響『太陽』29-12、10月1日[琴乗洞編『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』<閑

- 東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3> (緑蔭書房、1996年)収録]
- いかさま都市の滅亡と新帝都[「帝都復興論」]『中央公論』38-11、10月1日[『如是閑集 6』、『帝都壊滅 関東大震災』<史話日本の歴史 30>(作品社、1991年)収録]
- 自然の暴威と文明の試練『婦人公論』8-10、10月1日
- 十歳前後の印象[「巨人新人赤裸々の自叙伝」]『雄弁』14-10、10月1日
- 流言蜚語はどうして起るか『婦人之友』17-10<震災記念>、10月7日[琴乗洞編『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』<関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3> (緑蔭書房、1996年)収録]
- 国民的教養の欠陥暴露『報知新聞』10月10~12日[『教育学术界』48-2、1923年11月1日に転載。琴乗洞編『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』<関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3> (緑蔭書房、1996年)抄録]
- 軍法会議そのものに対する根本的疑問『読売新聞』10月11日
- 靈魂の獄舎『我等』5-10、11月1日[『我等』5-9、10月1日の再録]
- 官僚政府の普選提唱[「我等」]『我等』5-10、11月1日《無署名》
- 古典的貴族主義と近代的貴族主義の崩壊『我等』5-10、11月1日[『我等』5-9、9月1日の再録]
- 民族感情の心理とその社会的意義『我等』5-10、11月1日
- 流言と暴行の社会的性質／大学と維持負制度／宗教的アナキズム[「傾向及批判」]『我等』5-10、11月1日[「大学と維持負制度」「宗教的アナキズム」は『我等』5-9、9月1日の再録、「流言と暴行の社会的性質」は『如是閑集 4』、琴乗洞編『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』<関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3> (緑蔭書房、1996年)収録]
- 重吉の宿『我等』5-10、11月1日[『我等』5-9、9月1日の再録]
- 編輯室から『我等』5-10、11月1日《無署名》
- 先覚者の妄想(AとBとの対話)『実業之世界』20-10、11月15日
- 天降らんとする普選[時評]『改造』5-12、12月1日
- 戦争と天災及び戦争文明と天災文明[「戦禍の試練に遭うた欧州と天災の試練に遭うた日本」]『中央公論』38-13、12月1日

## 1924(大正13)年

- 戯曲 ヴェランダ (ふたつの宗像の喜劇)『改造』6-1、1月1日[『奇妙な精神病者』収録]
- 宗教及道徳の社会性と反社会性『宗教と思想』2-1、1月1日
- 序破急『女性改造』3-1、1月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(叢文閣／朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 男女関係の新標の一女性改造談話会一『女性改造』3-1、1月1日【座談会：千葉亀雄、久米正雄、鷹野つぎ、平塚らいてふ、佐藤春夫】
- ピョートルの猫と私の猫『中央公論』39-1、1月1日[『犬・猫・人間』、『文芸全集 5』、『現代随筆全集 12』収録]
- 軍国主義の崩壊と軍事能力の分解『日本及日本人』39、1月1日

運命開拓と科学的方法『婦人之友』18-1、1月1日

社会生活の基調[「復興期の文芸及思想」]『早稲田文学』215、1月1日

神が人間を作る時の会議『我等』6-1、1月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

中心を失へる日本[「我等」]『我等』6-1、1月1日《無署名》

所謂民族的教養の崩壊『我等』6-1、1月1日

政党政治の新紀元へ／英国の政局との対照[「傾向及批判」]『我等』6-1、1月1日[『如是閑集 4』収録]

或る富豪の教訓『我等』6-1、1月1日[『現代日本文学全集 41』収録]

所謂「生活主義」の教化に就て『大阪毎日新聞』1月6、8～10日

貴族政治の復活と政治の将来／政友分裂と政党の中世紀の終末[「時評」]『改造』6-2、2月1日

組織に隷属する生活『宗教と思想』2-2、2月1日

[「鮮人虐殺問題批判」]『植民』3-2、2月1日

女性と其個人主義[「学芸」]『秋田魁新報』2月24、26～28日

商人政治への過程[時評]『改造』6-3、3月1日

劇と民衆との隔離及それからの解放『新演芸』9-3、3月1日

政教社後援会趣旨[发起人署名]『日本及日本人』43、3月1日

鯨の歯『我等』6-2、3月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

政治階級の遊戯と人民の生活[「我等」]『我等』6-2、3月1日《無署名》

階級運動としての教化『我等』6-2、3月1日

長老政治と政治の機構[「傾向及批判」]『我等』6-2、3月1日

編輯室から『我等』6-2、3月1日

病人たる権利[「学芸 最近の感想」]『東京朝日新聞』3月4日

倫理及び法理の基底としての生活『改造』6-4、4月1日

婦人が政治に参加する意義『女性改造』3-4、4月1日

喜劇 大臣候補(一幕物)『中央公論』39-4、4月1日[『日本戯曲全集 第49巻 現代篇 第17輯』(春陽堂、1929年)、『強盗共和国』、『文芸選集 4』収録]

家族制度の末期に於る婦人の職業『婦人之友』18-4、4月1日

大虎の謎『我等』6-3、4月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

芸術的左傾から労働的右傾へ[「傾向及批判」]『我等』6-3、4月1日

二つの生活体系の対立『我等』6-3～5、4月1日、5月1日、6月1日【(1) 生産の体系と消費の体系、(2) 消費体系の生活心理、(3) 生産体系の生活心理】

くらげと穴熊『週刊朝日』5-15、4月5日[『現代日本文学全集 41』収録]

- 経済現象に於ける権力関係『大原社会問題研究所雑誌』2-1、4月10日
- 宗教的アナキズム『国民新聞[夕刊]』4月15日
- 政治の近代的進化と日本の現状[「現政府の御味方党と所謂護憲三派対比観」]『中央公論』39-5、5月1日
- カント以前とカント以後『我等』6-4、5月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 編輯室から『我等』6-4、5月1日
- 病人たる権利[「最近の感想」]『東京朝日新聞』5月4日
- 門『住宅研究』4-5、6月1日
- 競技の社会性と賭博の反社会性[「勝負事の興味」]『中央公論』39-6、6月1日
- 労働婦人の虚栄時代『婦人公論』9-6、6月1日[満月会編『婦人問題の諸相』<満月集 第2>(帝国講学会 1925年11月12日)収録]
- モルモン宗徒に学べ『我等』6-5、6月1日[「モルモン宗徒は笑ふ」と改題『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、収録。『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 憲政の専制的性質[「傾向及批判」]『我等』6-5、6月1日
- 思想上より観た社会組織『台湾日日新報[夕刊]』6月10日
- 消費体系の国家意識とその崩壊『中央公論』39-7、6月15日
- 排日の收穫『早稲田大学新聞』37、6月18日
- 此頃の山登り[「学芸」]『東京朝日新聞』6月29日
- 経済心の倫理的性質『改造』6-7、7月1日
- 寧ろ朝夕刊全部を休む申合をせよ[「日曜夕刊廃止に対する賛否」]『新聞及新聞記者』5-13、7月1日[復刻版『新聞及新聞記者』第8巻(金沢文圃閣、2022年)収録]
- 世紀末的現象と女性の新生命『女性』6-1、7月1日
- 生活肯定と哲学否定『雄弁界』2-7、7月1日
- 蟻の国家主義『我等』6-6、7月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『随想全集 12』収録]
- 少数支配の進化『我等』6-6、8~10、7月1日、9月1日、10月1日、11月1日
- 経済心の倫理『朝鮮及満洲』200、7月13日
- 無意義な弱味と強味[「現内閣の強点弱点」]『日本及日本人』52、7月15日
- 余技界のギルドに対する叛逆者[「余技と趣味」]『改造』6-8、8月1日[『評論集』、『如是閑集 1』収録]
- 貞操問題即生活問題[「近時日本婦人の貞操観念動揺の事実を何と見るか」]『婦人公論』9-9、8月1日
- 物が神を創造する『我等』6-7、8月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 支配に関する原始的感情—政治と宗教との交錯『我等』6-7、8月1日
- 学生の反動傾向[「傾向及批判」]『我等』6-7、8月1日

愚にもつかぬ問答『我等』6-7、8月1日

\*社会思想の静的観と動的観『南予之文化』9、9月1日

近世的恋愛悲劇の動因[「研究」]『変態心理』14-3、9月1日

一文無しのロヂツク『我等』6-8、9月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

教育に対する軍国的侵略[「傾向及批判」]『我等』6-8、9月1日[全国学生軍事教育反対同盟編『軍事教育反対論集』(希望閣、1925年5月20日)、『評論集』、『長谷川如是閑集4』収録]

訪問記事「名士と書齋 青色と黄色の二つ日覆で…書齋の調和をとる道楽の多い長谷川如是閑氏」中の談  
『東京日日新聞』9月29日

对人的忠誠と社会的忠誠[「忠義孝道の新しき観念」]『女性改造』3-10、10月1日

迷信『随筆』2-9、10月1日

雑誌そのものゝ使命と特質[「雑誌経営者の理想と抱負」]『随筆』2-9、10月1日

節約の不道德と生産の不合理[「消極的節約宣伝より積極的生産奨励へ」]『中央公論』39-11、10月1日

女の蘇る時代『我等』6-9、10月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、  
『選集1』収録]

東京市と郵船会社[「傾向及批判」]『我等』6-9、10月1日

参政権を獲べき婦人『婦人新報』322、10月10日

軍事教育の社会的考察『早稲田大学新聞』45、10月10日

対支国策討議『改造』6-11、11月1日【10月11日座談会：永井柳太郎、堀江掃一、吉野作造、米田実、  
福田徳三、小村俊三郎、山本実彦】

本能的家族感情の内部闘争[「近頃頻出する骨肉間の殺傷事件について」]『婦人公論』9-12、11月1日

婦人は本来生産労働者である『婦人之友』18-11、11月1日

貝殻の虐政『我等』6-10、11月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、  
『選集1』収録]

国家对警察ギルド[「傾向及批判」]『我等』6-10、11月1日

編輯室から『我等』6-10、11月1日

アンチ・ミリタリストの孫『改造』6-12、12月1日[『現代日本文学全集41』、『文芸全集5』、『如是閑集  
1』収録]

警察権の濫用と間諜制度[「警視庁本来の職責とスパイ問題」]『中央公論』39-13、12月1日

社会生活としての学問的態度[講演]『一橋新聞』10、12月1日

本能的家族感情の内部闘争[「近頃頻出する骨肉間の殺傷事件について」]『婦人公論』9-12、11月1日

バラドックス『我等』6-11、12月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、  
『選集1』、『如是閑集2』収録]

政治的機構の本質とその限界『我等』6-11、12月1日

反動と暴力と『研究』の一年[「傾向及批判」]『我等』6-11、12月1日

1925(大正 14)年

- 二元社会に於ける文明の成立と崩壊『改造』7-1、1月1日[『如是閑集 3』収録]
- 寄稿家筆影[自画像]『改造』7-1、1月1日
- 人間的行動としての芸術『女性』7-1、1月1日
- インテリゲンチヤ[小説]『中央公論』40-1、1月1日
- 家庭の本質とその分解作用『婦人公論』10-1、1月1日
- 「国家と市町村と婦人参政と」『婦人新報』324、1月1日
- 「わが身边に見出しつゝある幸福」『婦人之友』19-1、1月1日
- 闘争から光へ(マオリ族の創世記)『我等』7-1、1月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 歴史は流動する[「我等」]『我等』7-1、1月1日《無署名》
- 権力関係の進化『我等』7-1、1月1日
- 意識の危険性—社会運動に於ける[「傾向及批判」]『我等』7-1、1月1日
- エチル・ガソリン 戯曲(一幕)『我等』7-1、1月1日[『現代日本文学全集 41』、『選集 補巻』、『文芸選集 4』収録]
- [「編輯室から」]『我等』7-1、1月1日
- 権力の外に在る世界 砂山をめぐる子供の共同の享楽『東京日日新聞』1月 3~6日[『現代日本文学全集 41』、『文芸全集 5』、『随想全集 12』、『評論集』、『如是閑集 1』収録]
- 女性主義運動の思想的欠陥『大阪毎日新聞』1月 6~10日
- 立憲政治に於ける二つの盲腸[「時評」]『改造』7-2、2月1日
- 社会科学的研究に対する非科学的圧迫[「学生の社会科学的研究団解散問題」]『中央公論』40-2、2月1日[『如是閑集 6』収録]
- 寺院の社会事業に就て『中外日報』2月 5~8、10、11日
- 権力の外にある世界 砂山をめぐる子供の共同の享楽[「公開欄」]『ユタ日報』2月 14、16~18、20、21日
- 子規と治安維持法[「卓によりて」]『東京日日新聞[夕刊]』2月 21日[「子規の追憶」と改題、「子規に対する諸家の感想」(『子規全集 全五十巻 予約募集 内容見本』アルス、1926年)抄録。『如是閑集 6』収録]
- 流行の強味と其危険性『婦人世界』20-3、3月1日
- 偽せ首と革囊『我等』7-3、3月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 互助作用の支配と軍国組織の崩壊『我等』7-3、3月1日
- 編輯室から『我等』7-3、3月1日
- 寺院の社会事業に就て『宗教と思想』3-4、4月1日
- 隷属的女性文化より創造的女性文化へ『婦人公論』10-4、4月1日
- 豚と豚『我等』7-4、4月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

私有財産制と貴族・市民及び労働階級『我等』7-4、4月1日

政治現象を基礎づける変態的感觉『改造』7-5、5月1日

日本の貴族政治没落の過程[「研究会解散論」]『中央公論』40-5、5月1日

羨むべき『ケレケレ』『我等』7-5、5月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

『行動』の社会性と『経済行為』の反社会性『我等』7-5、5月1日

軍閥政党化の過程[「傾向及批判」]『我等』7-5、5月1日[『如是閑集 4』収録]

大庭柯公のこと『我等』7-5、5月1日[『柯公追悼文集』(柯公全集刊行会編・刊、1925年9月20日。復刻：大空社、1995年10月)、『文芸全集 5』、『如是閑集 1』収録]

人間意識に目覚めること[「一日一人」]『東京日日新聞』5月1日

実証的法理学のために 牧野博士の『法律における意識的と無意識的』を読む[「ブックレビュー」]『東京日日新聞』5月18日

人間の審判 日本の競技者の不心得[「一日一文」]『大阪朝日新聞』5月23日[赤松静太編『一日一文』(朝日新聞社、1926年)収録]

無産政党の機能と其限界[「無産政党の研究」]『改造』7-6、6月1日

社会組織と恋愛の本能[「恋愛問題七講」]『婦人之友』19-6、6月1日

犯罪と女『我等』7-6、6月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]

労資の対立と民族的対立—特に支那の現情について『我等』7-6、6月1日

政党の現象と性慾の現象[「傾向及批判」]『我等』7-6、6月1日

政治国家と学生運動—上海罷業に就いて—[談]『帝国大学新聞』122、6月15日

[「海、船に対する諸家の感想」]『海の旅』4、7月1日

社会の進化と学生生活の現在及び将来[「現大学生の諸問題」]『改造』7-7、7月1日

寺院及び国家の社会性と反社会性『中央公論』40-8、7月1日

健全な生活と健全な性的文学[「文学少女と不良少女との交渉問題」]『婦人公論』10-7、7月1日

嘘のやうなアメリカの話『我等』7-7、7月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『如是閑集 2』収録]

人間的服従関係を否定する迷信 (?)『反抗』の種々相とその社会的機能の前論『我等』7-7、7月1日

アメリカ・フィルム文化とアメリカ文化[「傾向及批判」]『我等』7-7、7月1日

国家道徳と社会道徳[講演要旨]『函館新聞』7月2～6日

社会運動と芸術運動『女性』8-2、8月1日

孟子の不勞所得『我等』7-8、8月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]

反抗の種々相とその社会的機能『我等』7-8、8月1日

アカデミック・インタレストと生活利害[「傾向及批判」]『我等』7-8、8月1日



- 正確な生存[「学芸」]『秋田魁新報』8月27、28日
- 芸術的創造と芸術的行動『改造』7-9、9月1日
- 歴史の転換期に於ける組織の進化[「各方面に行詰れる我国の現状転回策」]『中央公論』40-10、9月1日
- 猿語の狭ひ『我等』7-9、9月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 自由労働者の発生とその宿命『我等』7-9、9月1日
- 憲政内閣と労働組合法案[「傾向及批判」]『我等』7-9、9月1日[『如是閑集4』収録]
- 芸術の享楽と享楽の芸術『女性』8-4、10月1日
- ミリタリズムと芸術的感覚『中央公論』40-11、10月1日
- 『新経済政策』『我等』7-10、10月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 行動の体系としての国家 其の前論—国家概念の構成に伴ふ因襲的態度『我等』7-10、10月1日
- 国家形態と無産者運動の左右系[「傾向及批判」]『我等』7-10、10月1日[『如是閑集4』収録]
- 『三分劇』三つ『我等』7-10、10月1日【I明暗、IIフランス髻、III馬鹿殿評定】[「フランス髻」、「馬鹿殿評定」は『奇妙な精神病者』、『文芸選集4』収録]
- 社会的意識状態としての新聞紙『日本及日本人』[現代新聞雑誌批判号]83、10月5日[『如是閑集6』収録]
- 国家的統一と社会的統一との対蹠的關係『改造』7-11、11月1日
- 労働組合法と圧迫的法律『太陽』31-13、11月1日
- 過渡期における一時的現象[「姦通・離婚・家出・捨子増加の現象と母性愛」]『婦人公論』10-11、11月1日
- 自主的生活と婦人の節操『婦人之友』19-11、11月1日
- 軍事教育の見本『我等』7-11、11月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『如是閑集2』収録]
- 行動の体系としての国家(続) 行動の体系について『我等』7-11、12、11月1日、12月1日
- 文化的頹廢の二面[「傾向及批判」]『我等』7-11、11月1日
- 編輯室から『我等』7-11、11月1日
- 婦人の放縦は男への挑戦[談]『都新聞』11月10、11日
- 軍事行動による社会統制とその崩壊『改造』7-12、12月1日
- 社会的協同の統一と教育の統一『教育論叢』14-6、12月1日
- 黒い骨と白い骨『我等』7-12、12月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 反動心理の回顧[「傾向及批判」]『我等』7-12、12月1日[『如是閑集4』収録]
- 帝国主義の頹廢期と學術の擁護『朝鮮及満洲』217、12月5日
- 観念の遊戯より行動の原理へ 今年の思想傾向[「学芸一年 回顧と要望」]『東京朝日新聞』12月29～31日

## 1926(大正 15・昭和元年)

戯曲 両極の一致(一幕) ある平和主義者と軍国主義者のファース[「創作」]『改造』8-1、1月1日[『奇妙な精神病者』、『文芸選集 4』、『戦争と平和』戯曲全集 第2巻](日本図書センター、1998年)収録]

芸術の道徳性と不道徳性『女性』9-1、1月1日

\*『祖国』へ『祖国』2、1月1日

アンチ・ヒロイズム断片 私の有史以前の記録の数節[「想華」]『中央公論』41-1、1月1日[『現代日本文学全集 41』、『文芸全集 5』、『現代随想全集 2』、『随想全集 12』、『評論集』、『如是閑集 1』収録]

真中を悪む本能『文芸春秋』4-1、1月1日

神々の作った真理『我等』8-1、1月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

軍国組織が生活を破壊する人類学的事実—“The Children of the Sun”の著者 W. J. Perry の学説—『我等』8-1、1月1日

政治行動と現代的運動[「傾向及批判」]『我等』8-1、1月1日

明治より大正の女性[談]『都新聞』1月1、2日

性の悲劇の現代的意味『東京日日新聞』1月4～9日[『大阪毎日新聞』1月16～19、27、28日]

政党を離合せしめる目下の動因[「時評」]『改造』8-2、2月1日

軍事教育は国家的矛盾[「時評」]『改造』8-2、2月1日

芸術に於ける社会性と個性『中央公論』41-2、3、2月1日、3月1日[2月号から pp.22-24 を「芸術に於ける美的感覚」と題して『変態心理』17-3、3月1日の「最近の学説」欄に抄録]

征服から愛へ 男女関係の進化『婦人公論』11-2、2月1日

翻訳の日本『我等』8-2、2月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『如是閑集 2』収録]

党首と党費—無産政党へ感染の眞なきか[「傾向及批判」]『我等』8-2、2月1日

国家行動の四形態—『行動の体系としての国家』の続論『我等』8-2、2月1日

無産政党と知識階級[「時評」]『改造』8-3、3月1日

闘争の進化と闘士の性格『解放』5-3、3月1日[『社会主義随論集 第一』<解放群書 第6編>(解放社、1926年)収録]

国家行動の四形態(続)—軍事行動の性質『我等』8-3、3月1日

喜劇 根管充填(二幕)『中央公論』41-4、4月1日[『日本戯曲全集 第49巻 現代篇 第17輯』(春陽堂、1929年)、『強盗共和国』、『文芸選集 4』収録]

社会的機能としての宗教[「最近の学説」]『変態心理』17-4、4月1日[初出未詳]

人間と大根『我等』8-4、4月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『随想全集 12』、『如是閑集 2』収録]

国家行動の四形態(続)—政治行動の性質『我等』8-4、4月1日

労働運動に於ける象徴主義と現実主義[「傾向及批判」]『我等』8-4、4月1日

軍国社会から機能社会へ『大阪朝日新聞』4月7、8、10～13日

- 微生物の形而上学『改造』8-5、5月1日
- 群現象と社会結合『社会学雑誌』25、5月1日
- チヨン鬚と豚[「保存したき日本の生活 取り入れたき外国の生活」]『婦人之友』20-5、5月1日
- 左傾の責任『文芸春秋』4-5、5月1日
- 大きな鼠『我等』8-5、5月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 国家的教化と神話の創造—国家行動の四形態の第三—教化行動の性質『我等』8-5、5月1日
- 支那の軍閥と現代国家[「傾向及批判」]『我等』8-5、5月1日[『如是閑集 4』収録]
- 三つの退屈(一幕)『虚無思想』1-3、6月1日
- 流行の健康性と不健康性『婦人公論』11-6、6月1日
- 支那の車夫『我等』8-6、6月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』収録。「中国人の車夫」と改題『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『評論集』、『如是閑集 2』収録]
- 詩人は叛く(リズムを起すもの)[「学芸」]『秋田魁新報』6月2日
- 支那の国家秩序と社会秩序『改造』8-8、7月1日
- 支那人の家『我等』8-7、7月1日[『文芸全集 6』、『歴史を捻ぢる』収録。「中国人の家」と改題『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『中国』80、1970年7月1日収録]
- 産業の封建化と総罷業[「傾向及批判」]『我等』8-7、7月1日
- 編輯室から『我等』8-7、7月1日
- 満州に現はれてゐる日本『読売新聞』7月18日
- 高級の墮落—今の芸術的傾向『東京朝日新聞』7月27~30日
- 満州旅行漫談『[明治大学]駿台新報』131、7月30日
- 福沢諭吉と西周『新旧時代』2-4・5、8月1日
- 政治的反動と芸術の逆転『中央公論』41-8、8月1日
- 『白人の世界』を読む『日本及日本人』104、8月1日
- 教化闘争の一現象『反響』1-5、8月1日
- 山で死ぬ人々『我等』8-8、8月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『現代随想全集 2』、『随想全集 12』収録]
- 国家行動としての管理—国家行動の四形態の第四—管理行動の進化『我等』8-8、8月1日
- 教化によるか裁判によるか[「傾向及批判」]『我等』8-8、8月1日[『如是閑集 4』収録]
- 北京再遊問答『我等』8-8、9、11、12、8月1日、9月1日、11月1日、12月1日[『現代日本文学全集 41』、『文芸全集 7』収録]
- 知的感覺的貴族の否定[文責在記者]『演劇新潮』1-6、9月1日
- 迷信文明の変態的延長としての資本主義文明『改造』8-10、9月1日[田中浩編『近代文明批判「国家」の批判から「社会」の批判へ』<思想の海へ 10>(社会評論社、1990年)収録]

街頭の宝『随筆』1-4、9月1日

国民的教養の錯誤[「長野事件の真相と批判」]『地方』34-9、9月1日

イギリスの裁判『法律春秋』1-1、9月1日

軍神イコング『我等』8-9、9月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)収録、『選集 1』]

管理国家への進化—国家行動の四形態の第四—管理行動の続き『我等』8-9、9月1日

無産者教育の圧迫[「傾向及批判」]『我等』8-9、9月1日

臭艸紙『日本及日本人』107、9月15日

聯想による破壊『演劇研究』2-9、10月1日

近代国家と学問的犯罪[「学生事件批判」]『改造』8-11、10月1日

自由主義と暴力主義[「時評」]『改造』8-11、10月1日

軍国主義崩壊の過程『学生運動』1、10月1日

蒙古から帰つて[「想華」]『中央公論』41-10、10月1日[『文芸全集 7』収録]

女性の社会学『婦人公論』11-10~12、10月1日、11月1日、12月1日

軍人の進化『文芸春秋』4-10、10月1日[評論・随筆家協会編『現代随筆大観』(新潮社、1927年)、『如是閑集 1』収録]

プラトン式嘘つき『我等』8-10、10月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]

現代国家と社会科学の圧迫—所有に基く国家主権の終期的発動『我等』8-10、10月1日

[広告「アルス文化大講座につきて」中の推薦文]『東京日日新聞』10月9日

名犬たること不幸『解放』5-11、11月1日[『社会主義随論集 続(解放研究資料論文随筆集 1926年 後半期版)』<宣伝用書 第2編>(解放社、1927年)、『文芸全集 5』収録]

\*二三の断想『世界』1-1、11月1日

普選後に於ける政治闘争の性質の変化[「解散を予想さるる今議会と各政党の立場」]『中央公論』41-11、11月1日

ある日の日記『婦人之友』20-11、11月1日

ツワシトリの子供達『我等』8-11、11月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

非国家行動の社会的性質『我等』8-11、12、11月1日、12月1日【(一)生産行動、芸術行動、学術行動及び宗教行動と国家行動との対立、(二)国家及寺院と宗教的行動】

社会集団と社会意識 行動の社会学の見地から[「社会問題講座」]『文芸講座』14、11月25日(復刻：大空社、1992年刊)

明治維新と国学問題—革命的社會意識の反映としての文化的諸問題[「明治文学のおもひ出」]『改造』8-13、12月1日[『如是閑集 6』収録]

無産階級の結合及び分裂と社会科学[「労農党の分裂と無産階級政治運動の将来」]『中央公論』41-12、12月1日

奴隷の世界『我等』8-12、12月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、  
『選集1』、『如是閑集2』収録]

反動から回顧への一年[「傾向及批判」]『我等』8-12、12月1日

## 1927(昭和2)年

人口問題と現代国家の矛盾—人口問題を解決せんとして却つて人口問題を製造す—『エコノミスト』5-1、  
1月1日[『失業問題叢書 第三巻 人口問題集』(失業問題叢書刊行会、1928年)収録]

現代教育の矛盾性と新教育の発生過程『改造』9-1、1月1日

『此の人を見よ』—凡人列伝—『中央公論』42-1、1月1日【(一)髪結ひのおとら、(二)食客越智、(三)鳩  
婆さん、(四)伝五爺や、(五)詩人道平、(六)小田青年、(七)田宮主事】[『凡愚列伝』収録、「髪結ひのお  
とら」は『おんなの傾分』<文春文庫 アンソロジー人間の情景2>(文芸春秋、1992年)収録]

専制的独裁と科学的独裁『日本及日本人』115、1月1日

美術と大衆との関係『美術新論』2-1、1月1日

家庭教育の会—第三回—『婦人之友』21-1、1月1日【11月12日座談会(於自由学園): 安部磯雄、吉岡  
弥生、塚本はま子、帆足理一郎、小原国芳、三島章道、田中芳子、福島貞子、田中王堂、羽仁吉一、羽  
仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 上』(婦人之友社、2003年)収録]

或る日の聯想『文芸春秋』5-1、1月1日[『文芸全集5』、『如是閑集1』収録]

『我輩平民』『我等』9-1、1月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、  
『選集1』、『如是閑集2』収録]

芸術の解放と芸術からの解放—『高級』芸術の多数者排斥と多数者の『高級』芸術排斥『我等』9-1、1  
月1日

大正時代を特徴づけた社会的転機『東京朝日新聞』1月4~8日[『新聞集成昭和編年史 昭和二年度 1』(明  
治大正昭和新聞研究会、1984年)、『如是閑集6』収録]

資本主義国家の晩鐘 南方政府のイギリス征伐『帝国大学新聞』195、1月31日

大正時代の国家的傾向とその心理的特徴『太陽』33-2、2月1日

呪はれた白人『我等』9-2、2月1日[『歴史を捻ぢる』、「黒人の幻滅」と改題『文芸全集6』、『真実はかく  
伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録。『如是閑集2』収録]

近代国家と支那の革命『我等』9-2、2月1日

社会から酒が無くなる時[「随筆」]『サンデー毎日』6-9、10、2月20、27日

ある気違ひ婆さんの死『我等』9-3、3月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日  
新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

学術の機能と学術機関の独立性—大学の独立性の獲得と喪失—『我等』9-3、3月1日[一部を削除し「大学  
の独立性とその喪失」と改題『大学及び大学生』、『選集3』収録]

凡愚列伝『改造』9-4、4月1日【目が開いた日には大変な男、雲を廻す男、凡骨の男、二人の凡人、酸  
素で死ぬ女、善良なト者】[「凡骨の男」を「凡骨」と、「二人の凡人」を「二人の「ところ天」と改題して、  
すべて『凡愚列伝』収録]

社会科学の現実性『太陽』33-4、4月1日

統制の科学としての政治—階級的支配としての政治崩壊—[「公論」]『朝鮮地方行政』6-4、4月1日

職業婦人とモダン・ガール[「新婦人問題十講」]『婦人之友』21-4、4月1日

『ベンゴールのロヒラス』『我等』9-4、4月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]

人類移動(Migration)に於ける国家性と社会性—国家的侵略の近代的特点と人類移動『我等』9-4、4月1日

私と芝居 人々と書物[「グラフ読書室」]『アサヒグラフ』8-20、5月11日

凡愚列伝『改造』9-6、6月1日【真鍮の管に通ほす男、猿と寝た男、脅びやかされた男】[「真鍮の管に通ほす男」、「猿と寝た男」は『凡愚列伝』収録]

「嫌ひな女とは？」と尋ねられて』『婦人之友』21-6、6月1日

精神力と叡智の結びつき[「ミセス羽仁をおくる言葉」]『婦人之友』21-6、6月1日

堺利彦・長谷川如是閑座談会『文芸春秋』5-6、6月1日【5月8日座談会：堺利彦、藤森成吉、芥川龍之介、久米正雄、菊池寛】[『芥川龍之介全集 第12巻』(岩波書店、1978年)、『芥川龍之介全集 第16巻』(1997年)収録]

鉄の銚と黄金の銚『我等』9-5、6月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

支配の歴史から生活自体の歴史へ—革命史の反社会的性質『我等』9-5、6月1日

レーニン劇とムツソリニ劇[「傾向及批判」]『我等』9-5、6月1日

所感二つ三つ[「スポーツ縦談」]『アサヒ・スポーツ』5-13、6月15日

聖人と女『週刊朝日』11-27、6月15日

行動の体系としての社会『社会学雑誌』39、41、7月1日、9月1日[「社会の本質—行動の体系としての社会—」と改題『大思想エンサイクロペディア 第13巻 社会学』(春秋社、1928年5月20日)収録]

羽仁もと子論—著作集刊行について諸家の寄せられた奨励の言葉『婦人之友』21-7、7月1日[「羽仁もと子著作集 内容見本」](婦人之友社、1927年)再録]

アルゲマインギユルチヒ『文芸春秋』5-7、7月1日[『文芸全集 5』、『如是閑集 1』収録]

『我等』の第百号と時代の流れ『我等』9-6、7月1日《無署名》[『如是閑集 6』収録]

とにかく儲けませう『我等』9-6、7月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]

政治的統制の成立条件『我等』9-6、7月1日

軍国的反動の空想[「傾向及批判」]『我等』9-6、7月1日[『如是閑集 4』収録]

芥川龍之介氏の自殺について『東京朝日新聞』7月26日[『芥川龍之介全集 別巻』(岩波書店、1955年)、中村真一郎編『芥川龍之介案内』(岩波書店、1955年)、関口安義編『芥川龍之介研究資料集成 第3巻』(日本図書センター、1993年)収録]

凡愚列伝『改造』9-8、8月1日【『クジ六』の軍功、哲学的保険勧誘人、七度び生れてアイスクリームを売る】[『凡愚列伝』収録]

『黄金の板』モルモンの童話『経済往来』2-8、8月1日

- 学校騒動の必然性[「『学生と学制』の問題」]『中央公論』42-8、8月1日
- 男女関係の根本から考へて[「男女交際について」]『婦人之友』21-8、8月1日
- 貴族一軍人一資本家の歴史『我等』9-7、8月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 社会的統制と政治闘争『我等』9-7、8月1日
- 政党政治の野蛮性[「傾向及批判」]『我等』9-7、8月1日[『如是閑集4』収録]
- 社会的効果の皆無[談、「検閲制度問題」]『東京日日新聞』8月3日[『新聞集成昭和編年史 昭和二年度版 III』明治大正昭和新聞研究会、1988年)収録]
- 末期的検閲制度 プロ芸術の圧迫『文芸時報』43、44、8月25日、9月8日
- 生命、疾病及び医術『改造』9-9、9月1日
- 電報文学『改造』9-9、9月1日
- 人間から神を作る法『我等』9-8、9月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 階級的自己否定／過渡期の女[「傾向及批判」]『我等』9-8、9月1日
- 凡愚列伝『改造』9-10、10月1日【『のつぼ』、『重役よ!』、赤も白もない親爺、二つの典型】[『凡愚列伝』収録]
- 右と左『中央公論』42-10、10月1日
- 判決の是非[談]『東京朝日新聞[夕刊]』10月15日[『新聞集成昭和編年史 昭和二年度版IV』(明治大正昭和新聞研究会、1988年)収録]
- 現代劇の感覚『演劇研究』3-11、11月1日
- 政治行動と政治意識『工場世界』8-21～24、11月1、15日、12月1、15日
- 日本の近代政治に於ける「官僚」『太陽』33-13、11月1日[『如是閑集5』収録]
- 情実の人間性と反社会性[「情実」]『中央公論』42-11、11月1日
- 『惜しいことには』『我等』9-9、11月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 勝利と敗北の性質[「傾向及批判」]『我等』9-9、11月1日[『如是閑集4』収録]
- 人口問題の自然科学的意義と社会科学的意義『我等』9-9、10、11月1日、12月1日
- 芸術を持つ社会層の問題[「文明史的過程に於ける現文壇の批判とその進展性に就て」]『読売新聞』11月19、20、22日
- 凡愚列伝『改造』9-12、12月1日【ある男爵家の系図、穴、姓名の祟り】[「穴」を「障子の穴」と改題して、すべて『凡愚列伝』収録]
- 外来思想の取締『我等』9-10、12月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 楊宇霆の失言／停滞の一年[「傾向及批判」]『我等』9-10、12月1日[「楊宇霆の失言」は『如是閑集4』収録]

## 1928(昭和3)年

- 経験のない私[「名家のお正月」]『週刊朝日』13-1、1月1日
- 翻訳時代の再来、転換期の歴史[「反覆」]『太陽』34-1、1月1日
- 政党化の領域、当面の諸問題[社会時評]『太陽』34-1、1月1日
- 知識階級の過剰と質の変化[「大学卒業生の就職難と知識階級の没落」]『中央公論』43-1、1月1日
- [「東京市政に関する批判と意見」]『都市問題』6-1、1月1日
- 受療権を個人経済に左右さすな[「第三者の観たる現在の医業」]『日本医事新報』282、1月1日
- スポーツマンとステーツマン『文芸春秋』6-1、1月1日
- ある結婚心理の解剖『雄弁』19-1、1月1日
- 理論とその把持者『我等』10-1、1月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 支那の革命と政治の必然性『我等』10-1、1月1日
- 市民政治末期の現象／果して『喜悲劇』か[「傾向及批判」]『我等』10-1、1月1日
- 貧乏の起源『改造』10-1、2、1月1日、2月1日
- 街頭で考へる[「世相評話」]『東京朝日新聞』1月1、3～8、10、11日[『現代日本文学全集41』、『文芸全集5』、『如是閑集2』、1月1日付のみ『新聞集成昭和編年史 昭和三年度版I』(明治大正昭和新聞研究会、1988年)収録]
- 『野蛮人』を呆れさす『大阪朝日新聞』1月17日[大阪朝日新聞社整理部編『新聞記者打明け話』(世界社、1928年)収録]
- 『文字は無くなるのでせうか』[「グラフ読書室」]『アサヒグラフ』10-5、1月25日
- 犯罪と社会組織[「現代と犯罪」]『中央公論』43-2、2月1日
- 無力な秩序・有力な無秩序『法律春秋』3-2、2月1日
- 馬『我等』10-2、2月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 社会過程に於ける『自然的』と『意識的』—その序論—行動形態・自然・意識『我等』10-2、2月1日
- 普選の過渡的効果／遊戯的暴力＝東大の七生会[「傾向及批判」]『我等』10-2、2月1日
- 学徒の自由『早稲田大学新聞』152、2月2日
- 無産階級政治史の展開『エコノミスト』6-4、2月15日
- [「今度の普選に安心して出せる人」]『週刊朝日』13-9、2月19日
- 楽団の『ひとりもの』石川義一君『週刊朝日』13-10、2月26日
- 久米君の一面[談]『改造社文学月報』15、3月1日
- 『共産』の事実と観念『経済往来』3-3、3月1日
- 日本の政治過程と普選の使命[「普通選挙が齎す『重大な意義』とは何ぞや」]『中央公論』43-3、3月1日
- 無力な秩序・有力な無秩序[「想苑」]『日本教育』7-3、3月1日



- 中産階級の女性『婦人之友』22-3、3月1日
- 何が日本の女を憂鬱にしたか『文化生活』6-3、3月1日
- 喜劇 強盗(一幕)『文芸春秋』6-3、3月1日
- 組織の力『我等』10-3、3月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 五條河原―此笑劇を以て『傾向及批判』に代へる『我等』10-3、3月1日[『奇妙な精神病者』収録]
- 編輯室から『我等』10-3、3月1日
- 逝ける片上伸氏[「三月文芸」]『読売新聞』3月6日
- 昔の新聞記者『羅府新報』3月8、9日
- 政治的概念としての大衆[「大衆観」]『中央公論』43-4、4月1日[『中央公論』75-12、1960年11月1日再録。『如是閑集 5』収録]
- 国家の政治と都市の統制『都市問題』6-4、4月1日
- 政治闘争に於ける錯覚『我等』10-3、4、3月1日、4月1日
- 『ラス』と紙片『我等』10-4、4月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- キヤスチンク・ヴオートの意義と無意義[「傾向及批判」]『我等』10-4、4月1日
- 編輯室から『我等』10-4、4月1日
- 「近頃私が愛読して居るもの」『読売新聞』4月2日
- 凡愚列伝『改造』10-5、5月1日【神に欺された男】『凡愚列伝』収録]
- 冷静に而してファシズムを警戒せよ[「共産党事件と労農党解散問題」]『改造』10-5、5月1日
- 赤坊の様な気持になること[「現代生活の疲れを癒する良法」]『実業之世界』25-5、5月1日
- フランスの泥、日本の泥『我等』10-5、5月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 軍国史的錯誤と出兵癖 済南事件の責任[「我等」]『我等』10-5、5月1日《無署名》
- 革命意識と近代国家の態度『我等』10-5、5月1日
- 新聞紙の社会的動機とその没却『社会学雑誌』49、5月7日[『新聞論』後篇「IV新聞」に「新聞」の社会的動機」と題して収録]
- 支那大陸に対する我が軍事行動[「最近支那政局と支那事情」]『改造』10-6、6月1日
- 「イエス研究討議に対する諸先輩の回答集」『開拓者』23-6、6月1日
- 日本の現政治過程に於ける無意義と有意義 最近の政局に対する社会史的考察『中央公論』43-6、6月1日
- 『唯心史観』『我等』10-6、7月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 現代政治過程に於ける封建的勢力―現日本の反動政策の危険性『我等』10-6、7月1日
- 専制的人事行政の意味／南京政府と支那統一[「傾向及批判」]『我等』10-6、7月1日[「南京政府と支那統

- 一)は『如是閑集 4』収録]
- デュボン博士の妻－凡愚列伝のうち『改造』10-8、8月1日[「デュボン博士とその妻」と改題『凡愚列伝』収録]
- 国民的性格の構成と日本の国民性『教育研究』331、8月1日
- 罪人は誰れ? 『我等』10-7、8月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 芸術的意識の反社会性『我等』10-7、8月1日
- 帝国主義と民政党の分裂[「傾向及批判」]『我等』10-7、8月1日[『如是閑集 4』収録]
- 大学＝国家の機関? 社会の機関? 『宗教裁判』と『思想警察』『改造』10-9、9月1日[「大学の起源－国家の機関か社会の機関か」と改題『大学及び大学生』、『選集 3』収録]
- 韓非子の殃[「ユーモア小品」]『雄弁』19-9、9月1日
- 『不戦條約』劇(一幕)『我等』10-8、9月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 日本の自治体の変態的性質[「傾向及批判」]『我等』10-8、9月1日[『如是閑集 4』収録]
- 社会意識の表現形態としての輿論・芸術及び新聞『我等』10-8、9、11、9月1日、10月1日、12月1日  
【「一 社会意識とその表現形式、二 輿論」まで。「三 芸術」は「社会意識の表現形態としての芸術」『我等』11-2、3、1929年2月1日、3月1日、「四 新聞」は「社会意識の表現形態としての新聞」『我等』11-4～6、1929年4月1日、5月1日、6月1日】[『新聞論』後篇 1「I 社会意識と其の表現形態」、「II 輿論」に収録。「二 輿論」を『新聞』収録]
- 政治国家と賄賂『中央公論』43-10、10月1日
- 宗教と寺院及び政治と政党『文芸春秋』6-10、10月1日
- 三千年前の俚語『我等』10-9、10月1日[『歴史を捻ぢる』収録。「三千年前の民謡」と改題『文芸全集 6』収録。『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 滑稽な中等教育の要旨[「傾向及批判」]『我等』10-9、10月1日[『評論集』、『如是閑集 4』収録]
- 日本はどうなる座談会『平凡』1-1、11月1日[座談会：馬場恒吾、高島素之、高橋亀吉、室伏高信、新居格、下中弥三郎、志垣寛]
- 船のやうな国『我等』10-10、11月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『長谷川如是閑集 第2巻』収録]
- 哈爾濱直行『我等』10-10、11、11-1、11月1日、12月1日、1929年1月1日[『現代日本文学全集 41』、『文芸全集 7』、志賀直哉・佐藤春夫・川端康成監修『世界紀行文学全集 第11巻 中国篇 1』(修道社、1959年)収録]
- 無知識階級－凡愚列伝のうち『改造』10-12、12月1日[『凡愚列伝』収録]
- 満州にて『我等』10-11、12月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録。「石炭のごとく」と改題『中国』75、1970年2月1日再録]
- 編輯室から『我等』10-11、12月1日

1929(昭和4)年

- 闘争組織の社会形態と戦争[「戦争」]『改造』11-1、1月1日
- 奇異なる葬儀『改造』11-1、1月1日[『強盗共和国』収録]
- 同善堂の孤児院[「談話室」]『東亜』2-1、1月1日
- 近代政治の性質と自治体の墮落『都市問題』8-1、1月1日[『如是閑集5』収録]
- 戦争絶滅受合法案『我等』11-1、1月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』、『日本平和論大系 5』(日本図書センター、1993年)収録]
- 資本主義社会に於ける新聞紙の変質—新聞紙の商品化とその奪回『我等』11-1、1月1日[『選集4』収録]
- 斯くの如く支那を觀る『大阪毎日新聞』1月1、6~9、13~16、18、19日[1日付のみ『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版I』(新聞資料出版、1989年)収録]
- 社会問題としての性の娯楽『東京朝日新聞』1月7~17日[7日付のみ『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版I』(新聞資料出版、1989年)収録]
- 凄じいその膨張ぶり『大阪朝日新聞』[創刊50周年記念号]1月26日
- 満州における人口政策の失敗 満州の支那人々口増加『エコノミスト』7-3、2月1日[「満州に於ける日本の人口政策(一九二九年上半期)」と改題『日本ファシズム批判』収録]
- 近代国家の見直し[「現代日本の再認識」]『中央公論』44-2、2月1日[田中浩編『近代文明批判「国家」の批判から「社会」の批判へ』<思想の海へ10>(社会評論社、1990年)収録]
- [「東京市議会選挙に関する意見」]『都市問題』8-2、2月1日
- トルコを笑ふ者『我等』11-2、2月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 反動期の諸相—『某重大事件』も其一例[「傾向及批判」]『我等』11-2、2月1日
- 社会意識の表現形態としての芸術『我等』11-2、3、2月1日、3月1日[『新聞論』後篇1「III芸術」に収録]
- 現代婦人の社会的地位と政治[朝日民衆講座講演筆記]『東京朝日新聞』2月16~27日[『婦人公民権の話』<朝日民衆講座 第11輯>(朝日新聞社、1929年3月13日)収録]
- 現代の新聞と新聞記者[「新聞論」]『改造』11-3、3月1日[『評論集』、『如是閑集6』収録]
- 強盗は説教する『中央公論』44-3、3月1日
- 暗殺『我等』11-3、3月1日[『歴史を捻ぢる』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 政党の破滅[「傾向及批判」]『我等』11-3、3月1日
- 歴史と思想『新愛知』3月4日
- 明治時代の詩—日夏氏の「明治大正詩史」上巻を読む[「読書ページ」]『東京朝日新聞』3月8日
- ファシズム的傾向への懸念[談]『東京朝日新聞[夕刊]』3月23日
- 資本主義的に人を造る罪 非常手段の外解決はない[「空前の就職難時代を如何に解決すべきか」談]『東京朝日新聞』3月24日
- 有識婦人の社会主義—ショウの新論策—[「ブックレビュー」]『東京日日新聞』3月25日

日本に於ける暗殺の特徴並に世界的恐怖主義への同化[「山本宣治氏兇死事件」]『改造』11-4、4月1日  
新聞漫談[談]『内観』109、4月1日  
畜妾制度の廢滅—中世紀の遺習『婦人公論』14-4、4月1日  
遊び働くために争ふ[「新卒業生におくる二十一講」]『婦人之友』23-4、4月1日  
『珈琲は薄く、紅茶は濃く』『我等』11-4、4月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』  
(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]  
社会意識の表現形態としての新聞『我等』11-4~6、4月1日、5月1日、6月1日[『新聞論』後篇1「IV  
新聞」(B)~(E)に収録]  
末梢神經的文化[「現代文化解剖」]『読売新聞』4月17~19日[(上)を『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版  
II』(新聞資料出版、1989年)収録]  
現代的独裁と田中式独裁[「政局は何処へ?」]『改造』11-5、5月1日  
感想[「改造社創立滿十周年記念会」]『改造』11-5、5月1日  
ジャーナリズム断片[「大観小観」]『東方公論』4-5、5月1日  
裸にされたアメリカ主義『我等』11-5、5月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『如是閑集 2』収録]  
反動時代と日本の政党[「傾向及批判」]『我等』11-5、5月1日  
日本職業婦人の過渡的性質『大阪朝日新聞』5月3日[「職業婦人について」と題して『母と子』10-8、1929  
年8月1日に転載][『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版II』(新聞資料出版、1989年)収録]  
結合及分離の意識としての新聞『京都帝国大学新聞』101、5月6日  
『国宝』堺利彦君『祖国』2-6、6月1日[『堺利彦を語る』(秀文閣書房、1930年)収録]  
ネロを支持する者『我等』11-6、6月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新  
聞社)、『選集 1』収録]  
英国労働党の背面行進[「傾向及批判」]『我等』11-6、6月1日  
\*婦人と同情『問題』5367、6月1日  
内田魯庵氏の事『読売新聞』6月29日  
\*社会運動と精神運動『精神運動』6-7月頃  
寺院に棄てられた男・寺院に救はれた男—凡愚列伝のうち—『改造』11-7、7月1日【寺院に棄てられた  
男、寺院に救はれた男】[「寺院に救はれた男」は『凡愚列伝』、『選集 7』収録]  
文字ナンセンス『経済往来』4-7、7月1日  
支那大陸に於ける『外国』の運命『思想』86、7月1日  
フィルム・ライブラリーの計画[「誰れにも話さなかつた話」]『文芸春秋』7-7、7月1日  
エッセイストとしての田口鼎軒『我等』11-7、7月1日[補筆して『鼎軒田口卯吉全集 第8巻 隨筆及感想』  
(鼎軒田口卯吉全集刊行会、1929年)「解説」として収録。『如是閑集 1』収録]  
にんにくの『イデオロギー』『我等』11-7、7月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』  
(朝日新聞社)、『選集 1』収録]  
日本の政治過程に於ける主動的勢力—田中内閣崩壊の動因『我等』11-7、7月1日[「日本の政治過程に於

- ける主動的勢力(一九二九年下半年期)」と改題『日本ファシズム批判』、『選集 2』収録]
- 編輯室から『我等』11-7、7月1日
- 自由主義に徹底せよ[「民政党内閣への希望」]『我観』69、8月1日
- ジャズの思弁によるジャズ批判『中央公論』44-8、8月1日
- 魯庵君とその時代『古本屋』<内田魯庵氏追悼号>臨時増刊、8月29日[『近代作家追悼文集成 14』(ゆまに書房 1987年4月25日)収録]
- 東支鉄道回収問題の必然性『改造』11-9、9月1日
- 映画とスポーツの征服『婦人之友』23-9、9月1日
- 汝等の行くべき国『我等』11-8、9月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 軍事行動の研究『我等』11-8~11、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日
- 寺院は何故に滅びないか『中外日報』9月22、25~28日
- カフェに就て[巻頭]『サラリーマン』2-10、10月1日
- 団栗のわれひとり大ならんとするを憎む[巻頭グラビア]『中央公論』44-10、10月1日
- ある日の新聞『我等』11-9、10月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- すべての政党の分解期[「傾向及批判」]『我等』11-9、10月1日[『如是閑集 4』収録]
- 宗門を横行する反動的暴力 この事件も一つの現はれ[談]『東京朝日新聞』10月15日
- 宗教意識の社会的特質[「学芸家庭」]『九州日報』10月24、25日
- 寺院と社会との交渉及び没交渉『僧界雑俎』1-10、11月1日[中外日報東京支局編『マルキシズムと宗教』(大鳳閣書房、1930年5月5日)、島藺進・高橋原・星野靖二編『宗教学の諸分野の形成 第8巻』(クレス出版、2007年)収録]
- 『風俗警察』と『思想警察』性的要求と社会的要求とに対する警察力の干渉『中央公論』44-11、11月1日
- 白蟻の家[「何を節約されましたか」談]『東京日日新聞』11月1日
- 近代国家の退化と教化総動員『文芸春秋』7-11、11月1日
- 減棒に対する司法官の反抗と裁判所構成法私案『法律春秋』4-11、11月1日
- 『合理化』『我等』11-10、11月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 国際的専門家会議の意義／スポーツによる曝露[「傾向及批判」]『我等』11-10、11月1日[「スポーツによる曝露」は『如是閑集 4』収録]
- 解散の暁には無産党は何処へ行く[「日曜付録」]『読売新聞』11月10日
- 宗門を横行する反動的暴力[談]『羅府新報』11月13日
- 犯罪学的観察[「共産党事件批判」]『改造』11-12、12月1日
- 満州に於ける日本人と支那人『教育問題研究』41、12月1日

近代国家の官吏は奴隷ではない[「官吏と団結」]『中央公論』44-12、12月1日  
『減俸』の道德に対する社会的反感[「社会を觀る眼」]『婦人之友』23-12、12月1日  
殺老俗の復活『我等』11-11、12月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]  
政党政治家の生活根柢—洗職の必然性[「傾向及批判」]『我等』11-11、12月1日[『如是閑集 4』収録]  
生活者の勝利『アルス月報』12月5日  
問題は組織の缺陷付きものゝ疑獄 當然すぎる賄賂の公行[談、「醜怪！既成政党の姿 大衆の正しき「疑獄批判」に聞け」]『南洋日日新聞』12月13日  
資本主義の嘔吐 柳瀬正夢氏編著『ゲオルゲ・グロツス』『帝国大学新聞』320、12月16日

## 1930(昭和 5)年

現代生活と教育『教育研究』352、1月1日  
月賦哲学『婦人之友』24-1、1月1日  
国家形態に於ける戦争の必然とそれの回避[「『軍縮』の研究」]『文芸春秋』8-1、1月1日  
近代政治の機構と政治家の地位—『政治的腐敗』に関する一考察—『理想』14、1月1日  
ロンドン会議の場所錯誤『我等』12-1、1月1日[『歴史を捻ぢる』、『文芸全集 6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]  
私有財産制と軍事行動『我等』12-1、1月1日  
腐敗・腐敗・腐敗『福岡日日新聞』1月1、3、4日  
1930年の文芸、思想、政治は如何なるコースをとるか 合評会『読売新聞』1月1、4、5、7～11、14、15、17、18、21～23日[座談会：馬場恒吾、中村武羅夫、新居格、大宅壮一、川端康成、久米正雄]  
\*宗教の本質か変質か『精神運動』2-1、1月  
[「総選挙を前にして大衆に訴ふ」]『改造』12-2、2月1日  
ダグラス・フアンを解剖する—大衆はかくの如くに動く—『中央公論』45-2、2月1日  
『マルキシズムと宗教』座談会『法界雑俎』2-2、2月1日【法界雑俎社主催座談会：宇野円空、江口渙、高津正道、村松正俊、大宅壮一、服部之総、三枝博音、真溪蒼空朗、坂戸哲舟、岡田祐守、千葉鼓堂】  
[中外日報東京支局編『マルキシズムと宗教』(大鳳閣書房、1930年5月5日)、島菌進・高橋原・星野靖二編『宗教学の諸分野の形成 第8巻』(クレス出版、2007年収録)  
既成政党は何故墮落するか[文責記者]『文化時報』2月15、16、18～21日  
自然主義者としての本居宣長『改造』12-3、3月1日  
現代世相を主題として[第3回客問開放の会]『婦人之友』24-3、3月1日【座談会：権田保之助、石川義一、村松正俊、大内兵衛】  
『我等』から『現代批判』へ『我等』12-2、3月1日[『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]  
近代国家に於ける『平和主義』と軍事行動との一身体『我等』12-2、3月1日

総選挙に於ける無産政党的得票[「傾向及批判」]『我等』12-2、3月1日[『如是閑集4』収録]

編輯室から『我等』12-2、3月1日

わが学界の欠陥に対して一岩波の『生物学』を評す一[「BOOK REVIEW」]『東京日日新聞』3月10日

歴史の現段階に於ける宗教の地位『中外日報』3月23、25～28日[中外日報東京支局編『マルキシズムと宗教』(大鳳閣書房、1930年5月5日)、島藺進・高橋原・星野靖二編『宗教学の諸分野の形成 第8巻』(クレス出版、2007年収録)]

\*アメリカ主義の逆転『大東文化』7-3、3月

失業者発生の補助機関としての教育制度[「失業と就職問題批判」]『経済往来』5-4、4月1日

与里君[「誌上ポートレー—塊樹社同人の巻—」]『美術新論』5-4、4月1日

失業地獄から生れた傾向 不思議でない理由[記事「そも何を語るか 劇場の狂景気」中の談]『東京朝日新聞』4月12日

家族制度末期の受難 わが資本主義との関連『大阪毎日新聞』4月18～20日[家族制度末期の受難 鐘紡爭議を眺めて『東京日日新聞』4月22～24日]

ジャーナリズムと作家の態度『文芸時報』132、134、138、4月17日、5月8日、6月19日

『批判』『批判』1-1、5月1日[目次では「改題の辞」]

資本主義寺院とソウエート・ロシア『批判』1-1、5月1日[「遅蒔きの宗教心」と改題『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録。『文芸全集6』、『如是閑集2』収録]

階級的対立と政党の分野一『政治戦線の統一に対する批判』『批判』1-1、5月1日

失業・合理化・無産党合同問題『批判』1-1、5月1日【座談会：櫛田民蔵、福岡誠一、森戸辰男、津曲蔵之丞、荘原達、松本重治、R・K生(嘉治隆一)記】

極左と反動[「文芸思想界当面の問題」]『読売新聞』5月13～15日

野球熱に対する社会的考察『早稲田大学新聞』32、5月17日

政治と芸術[24日講演(於北大中央講堂)]『北海タイムス』5月26、27日

民族主義と資本主義の諸段階『批判』1-2、6月1日[「民族主義と資本主義の諸段階(一九三〇年上半年)」と改題『日本ファシズム批判』収録。『如是閑集5』収録]

蝗軍蜂起『批判』1-2、6月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

ブルジョア教化機関の行詰とインテリゲンチアの地位『批判』1-2、6月1日【座談会：櫛田民蔵、新居格、石浜知行、向坂逸郎、荘原聯、S・M(松本重治)、R・K(嘉治隆一)筆記】

世相批判座談会『文芸春秋』8-6、6月1日【座談会：横田秀雄、草間八十雄、上司小剣、金子準二、浜尾四郎、平塚明子、近藤経一、菊池寛】

政治と芸術との交渉[講演要旨、文責在記者]『北海道帝国大学新聞』59、6月2日

『スポーツ教化』と其の職業化[「選手の品位とスポーツの職業化問題」]『帝国大学新聞』345、6月23日  
教育の『観念』と教育の『現実』との背馳『帝国教育』575、7月1日

支那革命の進化とその変態『日支』3-7、8、7月1日、8月1日

歴史と暴力『批判』1-3、7月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑

集 2』収録]

帝国主義と植民政策『批判』1-3、7月1日【座談会：矢内原忠雄、松本重治、大内兵衛、嘉治隆一、福岡誠一、F・N筆記】

甲冑御披露 喜劇(一幕)『批判』1-3、7月1日[『文芸選集 4』収録]

階級的隷属としての官吏と近代国家の官吏『法律時報』2-7、7月1日

インテリゲンチアの一考察『理想』17、7月1日

階級的教化と社会的教化『小学校』49-5<夏季臨時増刊『現代教育と階級問題』>、7月23日[東亜学芸協会編『現代の社会思潮と教育』(厚生閣書店、1933年3月20日)収録]

子供は家庭から社会へ[「一九五〇年の日本の子供」]『いとし児』2-8、8月1日

現代意識と教育『教育研究』361、8月1日[教育年報刊行会編『教育年報 昭和六年度』(第一出版協会、1931年)収録]

『白く塗られた墓』『批判』1-4、8月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]

支那社会運動の現状『批判』1-4、8月1日[座談会：王子言(鈴江言一)、荘原達、福岡誠一、嘉治隆一、田中九一、S・K筆記]

喜劇 国賊を中心として(一幕三場)『批判』1-4、8月1日[『文芸選集 4』収録]

芸術に於ける暴露の必然性[「日曜評論」]『読売新聞』8月24日

アンチ・フェミニスト  
非女性主義者としてのバーナード・ショウ『改造』12-9、9月1日

『人物』座談会『改造』12-9、9月1日【座談会：永井柳太郎、菊池寛、本多熊太郎、向坂逸郎、前田河広一郎、馬場恒吾、杉村楚人冠、山本実彦】

近代国家の本質と第二世界戦争の歴史的條件『経済往来』5-9、9月1日

警察の性質と密告利用の可否『中央公論』45-9、9月1日

人間の道徳『批判』1-5、9月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]

農村の窮状を聴く『批判』1-5、9月1日【座談会：杉山元次郎、川瀬新蔵、須永好、荘原達、森戸辰雄、来間恭、河西太郎、福岡誠一、H・T(友岡久雄)、N・G(松方三郎)、F・N、S・M(松本重治)、R・K(嘉治隆一)筆記】

喜劇 太閤の犢鼻褌(一幕)『批判』1-5、9月1日[『文芸選集 4』収録]

北海道の湖三つ[口絵解説]『婦人之友』23-9、9月1日

文芸不振の社会的動因『読売新聞』9月21、23日

群的被害者としてのスポーツ大衆[「スポーツ・マニア時代—その社会的・歴史的批判」]『経済往来』5-10、10月1日[『如是閑集 1』収録]

資本主義的都市形態の解消『都市問題』11-4、10月1日

政治家登録法案『批判』1-6、10月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]

所謂『学生思想問題』の歴史的考察—近代国家としての日本の教育観念の変遷『批判』1-6、10月1日

合評 ソヴェエツト映画『トゥルクシブ』『批判』1-6、10月1日【座談会：碎(富田戒治郎)、信(松方三郎)、



重(松本重治)、隆(嘉治隆一)、達(莊原達)、誠(福岡誠一)、閑(長谷川萬次郎)

足で書いた人物評論[「読書ページ」]『東京朝日新聞』10月17日

近代社会に於ける『郷土』概念の可能と不可能『郷土』1、11月1日

対立的社会感覚の表現としてのジャーナリズム『中央公論』45-11、11月1日[『如是閑集6』収録]

『人身の自由』の喪失と回復『法律時報』2-11、11月1日

思想悪化とテロリズムの日本的特徴—暗殺・裁判・国家教育—『週刊朝日』18-23、11月23日

文芸家の闘争の態度と其脱線『東京朝日新聞』11月29日、12月1、2日

傍若無黒人『批判』1-7、12月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

学問の自由と学問からの自由—学問の階級性の過去と現在『批判』1-7、12月1日

学生思想問題と“大学の根本精神”[「日曜論壇」]『読売新聞』12月14日

『学校騒動』と『背後の勢力』と『帝国大学新聞』364、12月15日

### 1931(昭和6)年

はつきり云つてゐるのはロシアだけ? [「世直し一案」]『アサヒグラフ』16-1、1月1日

時代は英雄を克服す[「一九三一年世界歴史の展望」]『経済往来』6-1、1月1日

不景気時代と社会的墮落『信濃毎日新聞』1月1日

労資は唱ふ不景気時代『批判』2-1、1月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『評論集』、『如是閑集2』収録]

資本主義的都市は崩壊する『福岡日日新聞』1月1、4、7日[『北海タイムス』1月18、20、27日]

新年雑誌のピラミッドから[「文芸時評」]『読売新聞』1月1、4、6~11日[『詩と詩論 別冊 年刊小説』(厚生閣書店、1932年)抄録]

資本主義的都会形態の矛盾『新愛知』1月3、4日

不景気の影響と社会的墮落 階級運動の一考察『神戸新聞』1月4~6日

不景気時代と社会的墮落『山陽新報』1月4、5日、

党首論『改造』13-2、2月1日

『バケツから母牛へ』の叫び『批判』2-2、2月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

プロレタリア演劇『批判』2-2、2月1日【座談会：佐々木孝丸、村山知義、土方与志、富田豊、莊原達、後藤信夫(松方三郎)、S・S(佐々木修一郎)、T・S(莊原達)筆記】

併行線問題と日本の満洲政策『批判』2-2、2月1日[「日本の満洲政策と併行線問題(一九三一年上半期)」と改題『日本ファシズム批判』収録]

編輯室から『批判』2-2、2月1日

少数天才の芸芸化は不可[談]『東京朝日新聞』2月5日

暴力では内閣を倒せぬ制度を確立 自然に浄化が出来る『報知新聞』2月9日

回復させる道『新愛知』2月15、16日

議会の暴行『週刊朝日』19-10、2月22日

乱闘議会問答『改造』13-3、3月1日

女性インテリゲンチヤと性的職業『新女苑』7-3、3月1日

『枢』『密』『院』『批判』2-3、3月1日[『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『評論集』、『如是閑集2』収録]

ファシズムの社会的条件と日本の特殊事情—日本にファシズムの可能性はあるか『批判』2-3、3月1日[「イタリーのファシズム」と改題『日本ファシズム批判』、『選集2』収録。『如是閑集5』、田中浩編『近代文明批判「国家」の批判から「社会」の批判へ』<思想の海へ10>(社会評論社、1990年)収録]

女性とスポーツ『婦人之友』25-3、3月1日

学園に於ける思想及び行動の自由『法律春秋』6-3、3月1日

暴力と内閣制[「議会の紛擾をどう見る!!」]『民政』5-3、3月1日

漫画的諸現象[「社会時評」]『読売新聞』3月8日

議会主義かファシズムか『新愛知』3月28～30日

人間意識を超越した『大学』の歩み『大阪毎日新聞』3月27日、4月1～3、6、7、9、11日

議会主義の破綻と『合法的』ファシズム[「議会制度とファシズム批判(一九三一年上半期)」]『経済往来』6-4、4月1日[『日本ファシズム批判』、『選集2』収録]

ロシア問題座談会『祖国』4-4、4月1日[座談会：大竹博吉、室伏高信、北吟吉、秋田雨雀、長野朗、平田晋策]

適切な事業[「訪露特派使節当選発表」]『中央公論』46-4、4月1日

ミリタリストの使途『批判』2-4、4月1日[『文芸全集6』収録。「ミリタリストの使ひ途」と改題『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

我が国に於けるファシズムの可能と不可能—ファシズムの社会的条件と日本の特殊事情の続篇—『批判』2-4、4月1日[「日本の特殊事情(一九三一年上半期)」と改題『日本ファシズム批判』、『選集2』収録。『如是閑集5』、田中浩編『近代文明批判「国家」の批判から「社会」の批判へ』<思想の海へ10>(社会評論社、1990年)収録]

座談会 プロレタリア映画の問題『批判』2-4、4月1日【座談会：山内光、阪本勝、佐々木修一郎、佐久間二郎、福岡誠一、後藤信夫】

[「男の虚栄・女の虚栄」]『婦人サロン』3-4、4月1日

プロレタリア政治学の諸問題 佐々氏の「政治の貧困」[「読書ページ」]『東京朝日新聞』4月10日

議会主義かファシズムか『福岡日日新聞』4月17、19日

わが政党の現状 階級的基礎とその勢力『北海タイムス[夕刊]』4月18日[「新聞集成昭和編年史 昭和六年度版」(財政経済学会、1977年)収録]

唯物史観赤穂義士『中央公論』46-5、5月1日

棄てられたボロ椅子『批判』2-5、5月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

- 『行政整理』の意味と無意味[「批判」]『批判』2-5、5月1日《無署名》
- 最近のフランスと無産階級運動『批判』2-5、5月1日【座談会：平貞蔵、莊原達、福岡誠一、佐々木修一郎、後藤信夫(松方三郎)、US筆記】
- 政党に於ける非階級性—特に無産政党の場合『批判』2-5、5月1日
- 官立大学を廃止し得るか 突如として現はれた行政整理案『読売新聞』5月1日
- ペンネーム本名の由来『読売新聞』5月6日[「ペンネームの由来」と題して『新聞集成昭和編年史 昭和六年度版』(1977年、財政経済学会)収録]
- 無方針の減俸案[「官吏減俸問題」]『読売新聞』5月20、21日
- スポーツの濫用『[明治大学]駿台新報』286、5月23日
- 文芸時評 ナンセンスと猟奇と『露出症』とルンペンと暴露とウルトラ主義と『中央公論』46-6、6月1日
- 行政整理に対する一考察『東方公論』6-6、6月1日
- 国家政策の根本的錯誤[「朝鮮に与ふ」]『東洋』34-6、6月1日[「朝鮮民族の自覚を促す」<朝鮮義勇パンフレット 第2号>(朝鮮義勇団、1935年4月25日)収録]
- 荒ぶる神『批判』2-6、6月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 反宗教運動の階級的意義『批判』2-6、6月1日
- 1921(大正十年)—1931(昭和六年)日本の動き『婦人之友』25-6、6月1日
- 果して当局に学生思想指導の対策ありや『読売新聞』6月29、30日
- 教育の生活化『教育研究』374、7月1日
- 学生騒動の意味『教育学术界』63-4、7月1日
- 芸術の大衆性と大衆の芸術性 芸術目的論と社会目的論『新潮』28-7、7月1日
- 現代新聞総評—日本の新聞紙の商品的超越性—[「現代新聞論」]『中央公論』46-7、7月1日[『如是閑集 6』収録]
- 十年後の日本を語る『文芸春秋』9-7、7月1日【座談会：青木保、阿部賢一、浅野一男、新井堯爾、内田信也、福永恭助、米田実、久米正雄、直木三十五、菊池寛】
- 敵は本能寺に—原始共産社会の二論文『帝国大学新聞』393、7月6日
- もしアメリカが「故人」だったら『批判』2-7、7月15日[『文芸全集 6』、『如是閑集 2』収録。「大変な弔辞」と改題『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 民族的対立と満鮮事件『批判』2-7、7月15日[「満鮮事件」と民族的対立(一九三一年上半期)と改題『日本ファシズム批判』収録。『如是閑集 5』収録]
- 観念形態『都新聞』7月16~22日
- 課税当然[談]『東京朝日新聞』7月30日
- 芸術は空想だ『中央公論』46-8、8月1日
- 最高学府統一の企画—政府の思想調査会批判—『東方公論』6-8、8月1日

反宗教運動と新宗教運動[6月18日早稲田大学経済学会主催講演会(於早稲田大学大隈小講堂)]『講演』154、8月10日

裁判の階級性と共産党事件の公開[「共産党公開裁判是非」]『中央公論』46-9、9月1日

宗教及び『反宗教』『批判』2-8、9月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

ブルジョア国家に於ける『学制改革』の不可能性『批判』2-8、9月1日

美しい馬鹿『満州日報[夕刊]』9月1日(手塚雄訳『英語研究』24-11、1932年2月1日)[『如是閑集1』収録]

所謂芸術を語らず『読売新聞』9月8~10、12日

痛烈な打撃か・痛烈な大譲歩か[「日支・果して戦ふか」]『サラリーマン』4-8、9月10日

ブルジョア国家に於ける軍部の地位[「文明批評」]『時事新報[夕刊]』9月9~12、14~17日[『如是閑集5』収録]

拷問『満州日報[夕刊]』9月17日

日支関係の「悪化」と帝国主義戦争の停頓『改造』13-10、10月1日[「中国資本主義と日本資本主義(一九三一年下半期)―日支関係の『悪化』と帝国主義戦争の歪曲―」と改題『日本ファシズム批判』収録]

スポーツ大衆の階級的構成へ[「スポーツ狂時代の展望」]『中央公論』46-10、10月1日

日本の二枚舌『批判』2-9、10月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

日本ブルジョアジーの大陸政策と島国政策―満洲事変の側面的解釈『批判』2-9、10月1日[「大陸政策と島国政策(一九三一年上半期)」と改題『日本ファシズム批判』収録]

[「展覧会感想」]『美術新論』6-10、10月1日

満蒙座談会『東洋経済新報』1470、10月10日【10月2日座談会(於経済倶楽部)：猪谷善一、蟬山政道、那須皓、畔田明、青木節三、佐藤貞次郎、志立鉄次郎、三浦鍊太郎、石橋湛山】

プロレタリア文芸の硬化『新潮』28-11、11月1日

『村正』資本主義と『丸腰』資本主義『批判』2-10、11月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

科学の反動性について『批判』2-10、11月1日

満洲事変と次の世界大戦『文芸春秋』9-11、11月1日【座談会：大倉喜七郎、斎藤良衛、白鳥敏夫、米田実、満川亀太郎、直木三十五、佐々木茂索】

恩給制度の社会的動因と保険制度への推移『法律時報』3-11、11月1日

芸術品の感覚性と社会性 特に日本画について『美術新論』6-12、12月1日

算盤・鉄砲組合『批判』2-11、12月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

国家行動に於ける錯覚―『満洲』事変に於けるその表現―『批判』2-11、12月1日[『日本ファシズム批判』収録]

ブルジョア政治の非科学的態度を排す『統一せる国論』何れにありや[「国難打開の途と国民善処の目標」]『神戸新聞』12月5、6日

入場料をとれば課税するは当然[「スポーツ課税 是か、非か 各方面の意見を聴く」]『読売新聞』12月27日

## 1932(昭和7)年

協力内閣の立消から復活へ『経済往来』7-1、1月1日[「協力内閣の立消から復活へ(一九三二年上半期)」と改題『日本ファシズム批判』、『選集2』収録]

日本ファシズムの特徴に就て[談、「ファシズム特輯」]『サラリーマン』5-1、1月1日

社会主義的立場から日本ブルジョアジーの無定見暴露[「二大國難に直面して挙国一致植民放送大会」]『植民』11-1、1月1日

最近の思想観 ブルジョア政治の末期的現象『高岡新聞』1月1日

流行としての映画とスポーツ[「現代日本の再検討」]『中央公論』47-1、1月1日

犯罪と芸術との交錯『犯罪科学』3-1、1月1日

犯罪に於ける『男女同権』女性は果して非犯罪的生物であるか?『犯罪公論』2-1、1月1日

ツアールは蘇へり給へり『批判』3-1、1月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

世界経済の動向と金輸出禁止『批判』3-1、1月1日【座談会：大内兵衛、後藤信夫(松方三郎)、福岡誠一、四方田敏郎(瀧口義敏)、荘原達、松本重治】

実践的ファシシヨの盲目的人口論『批判』3-1、1月1日[「実践的ファシシヨの盲目的人口論(一九三二年下半期)」と改題『日本ファシズム批判』収録]

最近の思想観 ブルジョアの政治現象の検討『福岡日日新聞』1月1、4、6日

茶道の階級性と生花の大衆性『瓶史』1月1日

時評評論『読売新聞』1月1、3～7日

最近の思想観『北陸毎日新聞』1月3日

最近の思想観 ブルジョア政治の末期的症状『河北新報』1月7～10日

ブルジョア政党と反政党主義の対立『報知新聞』1月7、8、10日

外からは「反宗教」内からは「無宗教」『中外日報』1月9、10、12～14日

「世界政治経済年鑑」を読む[「ブック・レビュー」]『大阪朝日新聞』1月10日

ファシズムの思想解剖『北海タイムス』1月12～15日

映画芸術の大衆性と階級的歪曲『思想』117、2月1日

歴史の順序『批判』3-2、2月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

『左傾』する理由と『右傾』する理由—文部省調査会の学生と『思想左傾原因』は即ち学者の『思想右傾原因』『批判』3-2、2月1日[『如是閑集6』収録]

論壇時評『東京朝日新聞』2月1～3日【(1)許された評論 山川氏の所論を読む、(2)猿まはしのムチ 河合氏の『社会主義』、(3)大アジア主義】

封建的行動への逆転[「井上氏の遭難を社会人の観察に聞く」談]『読売新聞』2月10日

ブルジョア国家に於ける「議会主義」及び「独裁主義」『改造』14-3、3月1日[『日本ファシズム批判』、『選

- 集 2』、『如是閑集 5』収録]
- 芸術の反動性に就て『新潮』29-3、3月1日
- 戦争・平和・楽土『批判』3-3、3月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 芸術に於けるファツショ『批判』3-3、4、3月1日、4月1日[「日本に於ける芸術的ファシズム(一九三二年上半期)」と改題『日本ファシズム批判』、『選集 2』収録]
- 時事三題『婦人之友』26-3、3月1日【1.時局と新聞紙、2.ファツショ、3.反動文芸家】
- いかにこの世相を見る『東京日日新聞』3月6日[記者インタビュー]
- ファシズム批判座談会『東洋経済新報』1492、3月26日【3月15日座談会(於経済倶楽部)：室伏高信、松岡駒吉、杉森孝次郎、中島久万吉、下中弥三郎、北吟吉、赤松克麿、中野正剛、三浦鍬太郎、石橋湛山】
- \*テロ化絶滅は自然の手に[「団男不慮批評」]『事業之日本』11-4、4月1日
- 中産階級運動を語る『祖国』5-4、4月1日
- 合法無産政党の清算期『中央公論』47-4、4月1日[「社会ファシズムへの発展(一九三二年上半期)」と改題『日本ファシズム批判』収録]
- 150『批判』3-4、4月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- 美術雑談会『美術新論』7-4、4月1日【座談会：岡見富雄、武者小路実篤、藤井浩祐、阿部七五三吉、齊藤与里、平塚雷鳥、岩佐新、太田耕治、小早川篤四郎】
- 来信[西川一草亭宛]『瓶史』陽春号、4月1日
- 婦人の生活と婦人運動『文化運動』135、4月10日
- 遠征『批判』3-5、5月1日[『文芸全集 6』、『如是閑集 2』収録。「我征徂西」と改題『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』収録]
- テロリズム問答『批判』3-5、5月1日[3月6日付『東京日日』より転載]
- 国家の成立と国家哲学の崩壊—特に満洲国の成立について『批判』3-5、5月1日[田中浩編『近代文明批判「国家」の批判から「社会」の批判へ』<思想の海へ 10>(社会評論社、1990年)収録]
- 情死裁判[「婦人評論」]『読売新聞』5月13日
- 社会現象としての暗殺行為『読売新聞』5月17日
- 齊藤内閣の政治的性質『新愛知』5月28、29日
- 根本を考へよ『週刊朝日』21-25、5月29日
- 百年前のアンチ・ファシスト『批判』3-6、6月1日[『文芸全集 6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集 1』、『如是閑集 2』収録]
- 齊藤内閣への必然的條件—並にアンチ・ファシズムの合唱『批判』3-6、6月1日[「アンチ・ファシズムの合唱(一九三二年下半期)」と改題『日本ファシズム批判』収録]
- 齊藤内閣の政治的性質『工場世界』13-7、6月10日
- 現代に処する倫理及び倫理学[「文芸」]『大阪朝日新聞』6月11、13、14日
- 原因に近代性の経済事情[談「心中時代」をかう観る]『読売新聞』6月22日

- 我国の新聞はジャーナリズムを失った[「今日のジャーナリズム」]『一橋新聞』156、6月29日
- 私の書齋と読書法『帝国大学新聞』439、6月29日[『文芸全集5』、『評論集』、『如是閑集1』収録]
- 資本主義・帝国主義・日本主義[「日本主義再批判」]『経済往来』7-7、7月1日[「資本主義・帝国主義・日本主義(一九三二年上半期)」と改題『日本ファシズム批判』、『選集2』、『如是閑集5』収録、『経済往来』41-9、1989年9月再録]
- 斉藤内閣の政治的性質『東邦時論』9-7、7月1日
- 漫画の芸術上の地位『美術新論』7-7、7月1日
- 『大和魂』『批判』3-7、7月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 戦争の動因と統制—明治時代と昭和時代『批判』3-7、7月1日
- 『みどりごの心』の私の読み方[「『みどりごの心』とミセス羽仁」]『婦人之友』26-7、7月1日
- 茶の湯座談会『瓶史』緑蔭号、7月1日[4月24日座談会(於赤坂山王星ヶ岡茶寮):板垣鷹穂、西川一草亭、堀口捨巳、外務素心庵、茅野■々、谷川徹三、津田青楓、野上豊一郎、後藤朝太郎]
- 所謂「国難」と芸術的良心『読売新聞』7月1~3日
- 日本主義『北国新聞』7月3日
- ファシズムと新聞紙の態度[「ブルジョア新聞の行詰りと批判的新闻の要求」]『サラリーマン』5-7、7月15日
- 医療問題座談会『医業と社会』2-29~31、7月20、27日、8月3日[7月12日座談会(於東京医師会館):奥むめお、山村正雄、佐藤秀三、記本参次郎、日野信次、原泰一、中沢辨次郎、古瀬安俊、佐藤正、三輪寿壮、塩沢香]
- 原因に近代性の経済事情[談、「心中時代」をかう観る]『布哇報知』7月27日
- 大衆文芸・大衆雑誌等に於ける歪められた「大衆」『新潮』29-8、8月1日
- 征夫『批判』3-8、8月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 斜めに時局を観る『批判』3-8、8月1日
- ある哲学者の死『文芸春秋』10-8、8月1日[『文芸全集5』、『如是閑集1』収録]
- 人丸神社[巻頭言]『若草』8-8、8月1日
- 火事の場合にポンプの水が出ない ファシズムに対する臆病の態度をわらふ『週刊時局新聞』1、8月15日
- 一九三二年に何故鬻物小説が読まれるか『読売新聞』8月23、24日
- 政党遊戯『批判』3-9、9月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- 日本思想の实在主義的傾向『批判』3-9、9月1日[『如是閑集7』収録]
- 『性』の人=女[「女性軽蔑論」]『婦人サロン』4-9、9月1日
- 愛犬トチの死を語る[「新秋随筆」]『読売新聞』9月2、3、7、10、11、13日[『文芸全集5』、『随想全集12』、『如是閑集1』収録]
- オヴァ・ゼヒルを怒る『週刊朝日』22-13、9月18日

戦争の階級性と民族的昂揚『改造』14-10、10月1日

資本主義社会に於ける大都市の特質『都市問題』15-4、10月1日

ナチス勝つ『批判』3-10、10月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

資本主義末期の教育『批判』3-10、10月1日

非常時と女性の覚悟『婦人公論』17-10、10月1日

大都市計画批判『都新聞』10月1~5日

国家教育に於ける矛盾—資本主義末期の必然—[談]『教育時論』1704、10月15日

短歌定型の争ひに関して その潜在的意識目的[「時評」]『帝国大学新聞』450、10月24日

支那国家の統一と分割[「支那分割」]『改造』14-11、11月1日

日本の社会形態と短歌—短歌形式の固定化について—『短歌研究』1-2、11月1日[修正・加筆(論旨の変更を含む)して「短歌の詩形の固定について」と改題]『日本の短詩形文学』収録]

新聞時評『中央公論』47-12、11月1日

時代は逝く『批判』3-11、11月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

孤立国家主義の退却『批判』3-11、12、11月1日、12月1日

井口孝親君逝く『批判』3-11、11月1日《無署名》

唯物論研究会の創立について『唯物論研究』1、11月1日[『文化社会学基本文献集 第1期(戦前編) 第3巻』(日本図書センター、2011年)収録]

狩野博士に訊く『唯物論研究』1、11月1日【座談会：狩野亨吉、桑木巖翼、岡邦雄、戸坂潤、三枝博音、斉藤响、内田昇三、本多謙三】

現代と唯物論『九州日報』11月8日

現代と唯物論[「晩秋往来」]『北国新聞』11月9日

冬枯れの消息『批判』3-12、12月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

現代政治に於る国際主義と国家主義『北陸毎日新聞』12月1、2日

彼女の態度やよし[「結婚解消問題裁かるゝ男性」]『サンデー毎日』11-57、12月11日

日本思想に対する一考察『名古屋新聞』12月14~16日

美術の衰退[12月3日(於丸の内時事講堂)]『講演』23、12月15日

### 1933(昭和8)年

万葉集に於ける自然主義—革命期における政治形態との関係『改造』15-1、1月1日[1957年12月に補筆して『現代日本文学全集94』(筑摩書房、1958年)収録]

国際結婚の問題[「社会時評」]『山陽新報』1月1日

短歌定型の争ひに関して—その潜在的意識目的—『詩歌』14-1、1月1日

大陸政策を動機とする政局の展望[「国難日本の新動向」]『中央公論』48-1、1月1日

お初穂は拒まれた『批判』4-1、1月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収



録]

- 維新前後の思想傾向『批判』4-1、1月1日
- 家庭と学校との嘘[「女教員の女給問題 批判」]『婦人公論』18-1、1月1日
- 「世界からなくしたいもの」『婦人之友』27-1、1月1日
- 社会問題[「1933年の問題」]『婦人之友』27-1、1月1日
- 『く』の字の芸術『瓶史』新春特別号、1月1日[『文芸全集5』、『礼の美』収録]
- 明治維新以来の文武闘争『歴史公論』2-1、1月1日[『文武抗争史』(雄山閣、1933年6月10日)収録]
- 日本の政治はどこへ行く[「一九三三年の展望」]『若草』9-1、1月1日
- 邦人の国際結婚と二つの条約『満州日報』1月2日
- 教育の没落か資本主義の没落か[「社会の非常時現象」]『北国新聞』1月3日
- 教育の没落か資本主義の没落か[「非常時日本の解剖」]『神戸又新日報』1月5、6日
- 国際結婚問題[「社会時評」]『信濃毎日新聞』1月6日
- 逝ける堺利彦側面観『読売新聞』1月24日[『新聞集成昭和編年史 昭和八年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1979年)収録]
- 誰がならうと同じ事だ[談「市政暗黒時代 次の市長は？市民の希望を聴く」]『東京日日新聞』1月19日
- 資本主義末期の教育『季刊教育評論』1、1月31日
- 日本の『急激な進歩』『批判』4-2、2月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- ファシズム人口論批判『批判』4-2、2月1日
- 堺利彦『批判』4-2、2月1日[『文芸全集5』、『評論集』、『如是閑集1』収録]
- 非常時の日本の現象を見て 教育の没落か、資本主義の没落か『工場世界』14-3、2月10日
- 歪曲されるユーモア芸術を以て[「訊くべきこと、言ふべき事」、川端康成の「弾圧下にあるプロレタリア文学に活路ありや」に対する回答]『読売新聞』2月7、8日
- 大衆に訴へる作品[「懸賞小説に寄せて」]『東京朝日新聞』2月16日
- 読者層・社会性 大衆教化と指導精神『報知新聞[夕刊]』2月19日
- 連盟の平和強制に対する日本の反応[「連盟脱退の可否」]『改造』15-3、3月1日
- トロヤノフスキー大使夫妻を送る『新ロシア』2-3、3月1日
- 御用詩人柿本人麿『短歌研究』2-3、3月1日[『短歌研究』48-3、1991年3月再録]
- 『世界大野蛮論』『批判』4-3、3月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 明治初期の国際連盟論『批判』4-3、3月1日
- 裁判の独立『名古屋新聞』3月5日
- 政党無色を誇る候補はイカモノ[「市会を如何にして肅正するか？諸家の意見は？」]『読売新聞』3月15日
- 大国民的襟度は女性から『家庭』3-4、4月1日

フアシズムの使徒—凡愚列伝『改造』15-4、4月1日

時局と新聞紙『東邦時論』10-4、4月1日

美術家は職業人か[「諸家問答」]『美術新論』8-4、4月1日【齊藤与里のインタビュー】

法律は繰返す『批判』4-4、4月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

吉野博士と私『批判』4-4、4月1日[『文芸全集5』、赤松克麿編『故吉野博士を語る』(中央公論社、1934年)、『如是閑集1』収録]

「純粹芸術」の否定[「問題と批判 A文学原理に於ける内面的なるものと外面的なるものとの対立ならびに連鎖に関する問題」]『文学』1-1、4月1日

形と心[1933年1月9日去風洞新年会講演筆記(於京都美術倶楽部)]『瓶史』陽春特別号、4月1日

家族・民族及び人類を語る『婦人之友』27-4、4月1日[座談会：石原謙、牧野英一、永井潔、西村真次、羽仁吉一、羽仁もと子]

客觀的事実と歴史・新聞・芸術—最近の情勢について『批判』4-4、5、4月1日、5月1日[『選集4』収録]

自由主義は何処へ行つた『都新聞』4月9～11日

現代芸術を見る[「学苑」]『九州日報』4月6、7日

現代芸術を觀る『北陸毎日新聞』4月12、19日

現代芸術觀『北国新聞』4月25～27日

『河向ふの青春』『東京朝日新聞[夕刊]』4月27日

技術を捨て大局に立て—現代評論壇に与ふ—[「現代に与ふる書」]『読売新聞』4月27日

觀念的捧術の達人(凡愚列伝)『改造』15-5、5月1日[『凡愚列伝』収録]

吉野博士の思ひ出[「吉野作造博士を偲ぶ」]『書物展望』3-5、5月1日[『如是閑集1』収録]

文学者生活の社会的意義『新潮』30-5、5月1日

吉野作造博士と彼れの時代[「吉野博士を偲ぶ」]『中央公論』48-5、5月1日[『近代日本思想大系 17 吉野作造集』(筑摩書房、1976年)、『如是閑集1』収録]

非常時後継内閣座談会『中央公論』48-5、5月1日【4月10日座談会(於丸ノ内会館)：佐々弘雄、風見章、野村秀雄、山口義一、麻生久、桜井兵五郎、清沢冽、柴田善三郎、嶋中雄作】

鈴鈴零信『批判』4-5、5月1日[『文芸全集6』、『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

映画『河向ふの青春』『批判』4-5、5月1日

強力的文化統制について『都新聞』5月19～22日

「書「自己より社会へ」」『読売新聞』1933年5月21日

現段階に於ける「学問の独立」[「大学自治の検討」]『帝国大学新聞』481、5月22日

瀧川教授問題『私は斯く見る』『九州日報』5月28日

教育学術両機関の分離を[「現代大学の解剖と批判」]『読売新聞』5月28日

殴り殺された流行作家(凡愚列伝)『改造』15-6、6月1日[『凡愚列伝』収録]

- 衣笠氏を中心とする映画座談会『光画』2-6、6月1日[座談会：衣笠貞之助、長谷川如是閑、板垣應穂、山田肇、遠藤宏、山内光、原弘、伊奈信男、木村伊兵衛、野島康三]
- 多面的興味深し[「堺利彦全集に寄す】『中央公論』48-6、6月1日[『堺利彦全集』[内容見本]、『堺利彦全集 月報1』(中央公論社、1933年5月15日)収録]
- 『大陸』から『大島』へ『中央公論』48-6、6月1日[『文芸全集5』、『如是閑集2』収録]
- 学問の自由と政治の自由 瀧川教授問題をかくみる『朝鮮公論』21-6、6月1日
- 二千年前のファツショ革命『批判』4-6、6月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]
- 学問の伝統的意義と近代国家の教育—文部省対京大事件の根柢『批判』4-6、6月1日
- 沈黙を守る私学教授の学的良心を疑ふ[「京大瀧川教授問題批判】『三田新聞』301、6月2日
- 『大学自治』の正体[「時評】『東洋経済新報』1552、6月3日
- 右翼社会主義者とは違ふ[「転向をどう見る?】『週刊時局新聞』22、6月20日
- 日米親善問題座談会『東洋経済新報』1555、6月24日【6月15日座談会：蠟山政道、杉森孝次郎、田川大吉郎、田中都吉、鶴見祐輔、上田貞次郎、芦田均、茂木惣兵衛、清沢湧、石橋湛山】
- 迷信の繁盛は末期的の現象『東京日日新聞』6月30日
- 彼等は余りにも教育家である(凡愚列伝)『改造』15-7、7月1日【A 校長とゲートル、B 学生監のバリカン、C 大学教授の洋行土産、D 老校長の『赤化』、E 校長の『?』】[学生監のバリカン、老校長の『赤化』は「バリカン学生監」、「老校長の「左遷」と改題『凡愚列伝』収録]
- 『学問の不自由』と『大学の非自治』[「瀧川教授事件の根本問題】『経済往来』8-7、7月1日
- 写真芸術における現実性について『光画』2-7、7月1日[大島洋選『再録写真論 1921-1965』<東京都写真美術館叢書>(淡交社、1999年)収録]
- ナチスの昂奮[談]『政治経済時論』8-7、7月1日
- 犬を預けられた話[「憤慨した話】『話』1-4、7月1日
- 『転向』『批判』4-7、7月1日[「転向」と改題『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]
- トキー芸術の将来を語る『批判』4-7、7月1日【座談会：袋一平、内田巖、山内光(岡田桑三)、谷川徹三、本田喜代治、伊奈信男、嘉治隆一、田口りゅう三郎、速記：S・M(松本重治)、K・Y、T・S(荏原達)】
- 文字以外の表現手段へ『文学』1-4、7月1日
- 『大学の自治』を語る座談会『文芸春秋』11-7、7月1日【座談会：佐々弘雄、茂木惣兵衛、大森義太郎、向坂逸郎、石浜知行、三枝博音、菅忠雄】
- 初期的及び末期的『封建形態』—明治時代と昭和時代『批判』4-7、8、7月1日、8月1日
- 自分の縄で自分を縛る者[「内外時事】『京都帝国大学新聞』185、7月5日[学芸自由同盟編『京大問題批判』(政経書院、1933年)、『如是閑集6』収録]
- 心情の吐露 同情に堪へぬ[談]『東京朝日新聞』7月7日
- 『身上を良く示す』[談、「老博士の離脱を聴く】『読売新聞』7月7日

思想傾向と国民教育『朝鮮及満洲』320、7月8日

政局は展開すべきか、せざるべきか[「時評」]『東洋経済新報』1557、7月8日

道徳の社会性と教育『教育研究』405、7月15日

教育に於けるスポーツの逆用[「教育評論」]『教育』1-5、8月1日

政治講座『教育・国語教育』8月1日

与謝野氏夫妻をかく見る[「現代歌人批評」]『短歌研究』2-8、8月1日

民友肅心『批判』4-8、8月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』収録]

「明治維新と文学」の座談会『歴史科学』2-6、8月1日【座談会：大宅壮一、相川春喜、服部之総、川口浩、貴司山治、早川二郎、田村栄太郎、鈴木安蔵、八田元夫、久保栄、桜井武雄、徳永直、藤森成吉、中村徳二郎】

自由主義及び自由主義教育[談]『教育時論』1733、8月5日

『己れの欲する所之を己れに施せ』[「時評」]『東洋経済新報』1563、8月19日

現代ジャーナリズム論『関西学院新聞』91、8月20日

〔記・紀・万葉に於けるわが愛誦歌〕『文学』1-6、9月1日

自由主義検討座談会『文芸春秋』11-9、9月1日【座談会(於大阪会館レインボウ・グリル)：芦田均、麻生久、佐々弘雄、石浜知行、倉田百三、三木清、清沢洌】[『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

象の神経衰弱『批判』4-9、9月1日[『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

チェーホフに於ける「ロシア的」諸問題『批判』4-9、9月1日

知識階級の世界に於ける位置 インテリゲンチアと知識階級の区別『読売新聞』9月14、15日

〔五・一五事件 忌憚なき批判 陸軍側求刑に対する…三様の思想的立場〕『大陸日報』9月16日

産業国家と軍事組織[「時評」]『東洋経済新報』1569、9月30日

映画芸術の当面の問題『中央公論』48-10、10月1日

国民的渦動の心理内容の表現[「与謝野晶子全集推薦の辞」]『文芸』1-1、10月1日

軍閥思想の展開[「五・一五事件厳正批判」]『文芸春秋』11-10、10月1日

茶道の起つた一つの動機[隨筆]『瓶史』秋の号、10月1日

もう一遍読んで見よ 私の映画論[「大波小波」]『都新聞』10月7日

総ての熱を排斥す 文壇二人暗諷に一寸『読売新聞』10月10日

文相提案の法、経、文科廃止問題批判[「日曜論壇」]『読売新聞』10月29日

『民亦劣』『批判』4-10、11月1日[「民亦劣ス」と改題『文芸全集6』、『眞実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『如是閑集2』収録]

芸術におけるチェーホフ的態度『批判』4-10、5-2、11月1日、1934年2月1日【第2回掲載のタイトルは「チェホフの芸術におけるユーモアと悲哀」】

時局の表面的現象と歴史的動向『若草』9-11、11月1日

- ハムレット・アーヴィング・蒲田『築地小劇場』[新演劇人協会創立準備「織匠」公演特輯号]、11月4日
- 十一月の論壇『東京朝日新聞』11月6～9日【(1)集団意識の強化 矢内原教授の所論を読む、(2)自由主義の煩悶 向坂氏の論文その他、(3)一九三六年 諸方面からの検討を望む、(4)『現代新聞論』伊藤正徳氏心情を語る】
- 『国策』と『国防』との相関性[「時評」]『東洋経済新報』1575、11月11日
- 如是閑氏釈放『感想なし』昨夜自宅で語る[談]『東京朝日新聞[夕刊]』11月23日
- [記事「「疲れた」と一言—長谷川如是閑氏昨夜一応釈放さる」中の談]『読売新聞』11月23日
- 日本におけるネオ重農主義『エコノミスト』11-23、12月1日
- 汽車の全等級を廃止せよ『相談』1-2、12月1日
- 万葉の女性[「紅茶の後(名家雑話)』『婦人倶楽部』14-12、12月1日
- 疑ひ全く晴れて如是閑氏静かに語る 自己批判を忘れた現代人に—“赤”より道德教育の欠陥[談]『東京日日新聞』12月15日

### 1934(昭和9)年

- 維新史の観念的背景[「明治維新の再吟味」]『改造』16-1、1月1日
- 輿論の社会性と反社会性『中央公論』49-1、1月1日
- 文芸家の生活態度の弛緩と肅正『文芸』2-1、1月1日
- 無邪気なジャック[「わがマスコット」]『読売新聞』1月5日
- 婦人職業の飽和点[「一九三四年の展望」]『読売新聞』1月8日[『南洋日日新聞』3月24日に転載]
- 政党政治は復活するか『改造』16-2、2月1日【1月8日座談会(於帝国ホテル): 島田俊雄、富田幸次郎、松岡洋右、中野正剛、佐々弘雄、大森義太郎、山本実彦】
- ひとり[短歌]『文化集団』2-2、2月1日
- 『吾は点に與みせん』『批判』5-2、2月11日[『真実はかく伴る』(朝日新聞社)、『選集1』、『評論集』、『選集1』、『如是閑集 第2巻』収録]
- 『批判』の終刊について[社告]『批判』5-2、2月11日[『昭和文学全集 37』、『選集1』、『如是閑集 6』収録]
- 教育制度の歴史的欠陥[「社会時評」]『東洋経済新報』1585、2月2日
- 教育界寒心[「日曜論壇 社会時評」]『読売新聞』2月4日
- トーカーに於ける音の『修整』に就て『東京日日新聞』2月12日
- 社会通念に従った判決[談]『東京日日新聞』2月18日
- 「笑」の社会的性質とユーモア芸術『改造』16-4、3月1日[『如是閑集 6』収録]
- 思想傾向と教育家の任務『公民教育』4-3、3月1日
- 山の遭難に就いて一つの提案[「今冬の遭難事件をドウ見るか?」]『登山とスキー』5-3、3月1日
- 政党の統一と政党の機能的欠陥[「社会時評」]『東洋経済新報』1590、3月10日

日本文芸歩道考[「日曜評壇」]『読売新聞』3月18日  
 俳諧とわが国民的性格『俳句研究』1-2、4月1日[『日本の短詩形文学』収録]  
 世界的国策審議会[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月5日  
 スポーツの浄化と職業野球団[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月12日[「スポーツの浄化」と改題『理想と現実』収録]  
 政治家者のギルド=政党[「社会時評」]『東洋経済新報』1595、4月14日  
 教育統制の機関[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月19日  
 芸術の統制と風俗の統制[「月曜評論」]『読売新聞[夕刊]』4月23日  
 外交のテクニツクと結婚のテクニツク[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月26日  
 [杉山平助「如是閑氏の心境打診」のインタビュー]『読売新聞』4月27、30日、5月1日  
 国民的性格としての日本精神—特に政治形態との関連—『思想』144、5月1日[『如是閑集7』収録]  
 万葉歌人の群像を描く『短歌研究』3-5、5月1日[『日本の短詩形文学』収録]  
 日本精神と神経質[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月3日  
 自然美と風俗醜[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月10日  
 思想の国際性と国民性『読売新聞』5月11、12日  
 スポーツ気質の二つの型[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月17日  
 『政局安定』の国際的動因[「社会時評」]『東洋経済新報』1600、5月19日  
 中間階級と教育制度『ダイヤモンド』22-16、5月21日  
 蠶もわが身の末[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月24日  
 元帥の純粹武人型[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月31日[「純粹武人型」と改題『理想と現実』収録]  
 児童教育と社会形態の特質『児童』1-1、6月1日  
 思想傾向と国民教育『地理と歴史』6-7、6月1日  
 教育映画としての『にんじん』『婦人之友』28-6、6月1日  
 何がブラジルを誤らしめたか[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月7日[『如是閑集4』収録]  
 政局の変化[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月14日  
 鉄外交からコンクリ外交へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月21日  
 英文日本百科全書の提唱[「社会時評」]『東洋経済新報』1606、6月23日  
 「天然」を愛する道へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月28日  
 都市生活と自然環境『都市問題』19-1、7月1日[『如是閑集6』収録]  
 東郷元帥と私『文芸春秋』12-7、7月1日[聞人会編『世界を描く—随筆五十人集』(立命館出版部、1935年)収録]  
 弓道と茶道『瓶史』夏の号、7月1日[『礼の美』収録]  
 『噂』を研究的に観る『婦人之友』28-7、7月1日【座談会：大内兵衛、大森洪太、小野秀雄、上司小剣、

羽仁吉一、羽仁もと子】

老壯の分野[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月5日

思想傾向と国民教育『文化時報』7月8、10、11日

官僚の進化[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月12日

“岡田内閣”座談会 其の成立の意味と国民の要望を語る『東洋経済新報』1609、7月14日【7月6日座談会：杉森孝次郎、戸坂潤、大口喜六、高橋亀吉、山崎靖純、田昌、三浦鉄太郎、清沢冽、三宅晴暉、山田秀雄】

漱石の「虞美人草」はイブセンの「ヘッダ・ガブラー」から[「書齋から発掘する」]『読売新聞[夕刊]』7月19日

日本式とヘボン式[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月19日[『理想と現実』収録]

東郷元帥と私『中央大学学報』7-2、7月20日

『官紀』と『民紀』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月26日[『理想と現実』収録]

草創時代[中等野球大会廿年]『東京朝日新聞』7月27、28日[訂正『東京朝日新聞』8月7日]

噂の心理と倫理『改造』16-9、8月1日[『歴史通』33、2014年11月に抜粋して転載]

学校当局と維持者の関係[「私学経営問題シンポジウム」]『教育』2-8、8月1日

前内閣の変型で変り栄えがしない 軍部内閣でもなくむしろ官僚内閣[「新内閣の批判を一般社会に聞く」]『朝鮮公論』22-8、8月1日

表現形式『文芸』2-8、8月1日

シャツ・マニア[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月2日[『如是閑集4』収録]

『国境』の進化[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月9日[『南洋日日新聞』9月4日に転載]

『名古屋城異変』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月16日[『理想と現実』収録]

『国策』の概念[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月23日[『南洋日日新聞』9月29日に転載]

生命の評価[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月30日

政党の後退と官僚の前進[「時評」]『エコノミスト』12-17、9月1日

教育と産業社会『産業と教育』1-4、9月1日

玄人と素人『短歌研究』3-9、9月1日[『日本の短詩形文学』収録]

交通機関の罷業[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月6日(『東京公論』6-10、10月1日に転載)[『如是閑集4』収録]

貞操『読売新聞』9月10～13日(『大陸日報』9月27～29日、10月1日)【(1)(2)時代と貞操の観念、(3)近代女性と自由の選択、(4)気で勝ち生活力で負ける】

水道から「米道」へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月13日

映画の国際的統制[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月20日[『理想と現実』収録]

青龍展所感『名古屋新聞』9月25、26日

アメリカ式理想主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月27日

\*[未詳]『沿線』2、9月

空気・水・米－米問題解決の基点－[「随感随想」]『経済往来』9-10、10月1日

スタイルは踊る『行動』2-10、10月1日[文芸家協会編『文芸年鑑 一九三五年版』(改造社、1935年10月20日)、『現代随筆全集12』、『如是閑集1』収録]

最近に於ける宗教的昂奮の意義『思想』149、10月1日

芸術における『声価』の問題『短歌研究』3-10、10月1日

自殺と道徳的性格－数字に現はれた我国の自殺の特異性－『中央公論』49-11、10月1日

スポーツと私『文芸春秋』12-10、10月1日[『現代随筆全集12』、『文芸春秋』にみるスポーツ昭和史 第1巻』(文芸春秋編・刊、1988年)収録]

日本式高原のいろいろ『山』1-10、10月1日

\*犬の愛し方『犬』1-1、10月3日

天災防止の頭脳と度胸[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月4日

旧劇よ現代に生きよ－歌舞伎座を観て－[「十月劇壇」]『読売新聞』10月7、9日

時代と貞操の觀念『廓清』24-10、10月10日

頭脳の失態[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月11日

議会の再認識[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月18日[『如是閑集4』収録]

山もし靈あらば[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月25日[『日本アルプス』と改題『理想と現実』収録]

宗教芸術のメモから『改造』16-12、11月1日

『秋剣』を想ふ『川柳人』265、11月1日

読書趣味座談会『文芸春秋』12-11、11月1日【座談会：井上哲次郎、折口信夫、桑木巖翼、辰野隆、田中館愛橘、本多静六、斉藤竜太郎】[渋谷清編『涼風夜話』(青年書房、1937年)収録]

『大学街』の浄化[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月1日(『東京公論』6-12、12月1日に転載)[『理想と現実』収録]

北陸の女性『北国新聞』11月6、7、9日

党首難[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月8日

スポーツ精神と教育精神[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月15日[『理想と現実』収録]

農村教育の再組織[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月22日[「農村教育の再認識」と改題『理想と現実』収録]

現代女性の行く路 中川教授の「女子の生活難」[「論壇をピックアップする」]『読売新聞』11月25日

『隠居』と『敬老』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月29日[『理想と現実』収録]

映画になった「居酒屋」(ゾラ)『季刊文芸評論』1-4、12月1日[「映画になったゾラの「居酒屋」」と改題『日本映画論』収録]

榎田民蔵君の殉職『経済往来』9-12、12月1日[『如是閑集1』収録]

「大学をどうする」座談会『月刊維新』1-2、12月1日【座談会：鹿子木員信、中谷武世、若宮卯之助、蓑田胸喜、下中弥三郎】



榎田君と新聞記者[「榎田民蔵氏を憶ふ」]『中央公論』49-12、12月1日[『如是閑集1』収録]

モチーフに就いて『美術』9-12、12月1日

国内及び国際[「一九三四年より一九三五年へ」]『婦人之友』28-12、12月1日

議会の機能[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月6日[『如是閑集4』収録]

女性の『異国趣味』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月13日[『理想と現実』収録]

「政権」よりは「政見」[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月20日

私生児に対する偏見[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月27日[『理想と現実』収録]

\*趣味の社会的性質『趣向』1-1、月日未詳

### 1935(昭和10)年

文化形態と教育の思想・制度『教育』3-1、1月1日

『政治の浄化』と社会的規律[「一頁時評」]『経済往来』10-1、1月1日

紙屑の道徳[「新春随筆」]『公民教育』5-1、1月1日

都会主義と地方主義—各特殊の色彩を誇れ—『山陽新報』1月1日

芸術的創作に於ける『意識』の問題『セルパン』47、1月1日

文化史的鑑賞[「万葉集の総合研究」]『短歌研究』4-1、1月1日[『万葉集の総合研究 第1輯』(改造社 1935年3月20日)、「三山歌の文化史的鑑賞」と改題『日本の短詩形文学』収録]

[「新春運命双六 八白」]『中央公論』50-1、1月1日

文学に於ける結社の問題『俳句研究』2-1、1月1日

邪教征伐その他[「社会時評」]『文芸春秋』13-1、1月1日

学風養成に務め学的態度を刷新せよ[「大学教育の前途」]『三田新聞』326、1月1日

合評 1935年の政治・思想の主流的動向『読売新聞[夕刊]』1月1、3、5日【座談会：杉森孝次郎、室伏高信、三木清、青野季吉】[『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

都会主義と地方主義『国際経済週報』16-1、1月3日

都市主義と地方主義[「文化批判」]『九州日報』1月5日

国の若返り[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月10日[『理想と現実』収録]

切り抜けられた危機[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月17日

日本的性格の試練[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月31日

宗教の社会的性質と『宗教復興』『経済往来』10-2、2月1日

都会的又は農村的的文化形態と教育[「青年問題検討」]『行動』3-2、2月1日

ギリシャ風の学者[「土田杏村全集に対する諸家の感想」]『セルパン』48、2月1日[『土田杏村全集 全15巻[内容見本]』(第一書房、1935年)、『土田杏村とその時代』12・13、1970年4月10日再録]

「白奴隷」の国[「社会時評」]『文芸春秋』13-2、2月1日

世は倒さま[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月7日

金箔教育の酬い[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月14日[「教育の重点」と改題『理想と現実』収録]

日本文学の国際的理解『読売新聞』2月19～21、22日

外国語偏重(?)[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月21日[『理想と現実』収録]

日支親善問題座談会『東洋経済新報』1641、2月23日【2月7日座談会(於東洋経済新報社楼上):杉森孝次郎、阪西利八郎、芳沢謙吉、高木陸郎、長野朗、中山優、木村増太郎、芦田均、石橋湛山】

スポーツの芸術化[「春興漫録」]『週刊朝日』27-10、2月24日

New Sketches Men and Life[書評]『東京朝日新聞』2月25日

国辱の名所[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月28日[「不名誉の名所」と改題『理想と現実』収録]

危機・不安の克服過程[「危機・不安の検討」]『経済往来』10-3、3月1日[『経済往来』48-4、1996年4月1日再録]

「次の政局を支配するもの」を語る夕べ『経済往来』10-3、3月1日【1月28日座談会(於星ヶ岡茶寮):床次竹二郎、杉森孝次郎、馬場恒吾、室伏高信】

職業野球団は最高度に発達せしめたい『経済知識』13-3、3月1日

思想[「巻頭の言葉」]『月刊文章講座』1-1、3月1日

年中行事『学校騒動』[「学生・学校・教員」]『中央公論』50-3、3月1日

百万円と『五十万元』[「社会時評」]『文芸春秋』13-3、3月1日

日本的性格の特徴『東洋経済新報』1642～1644、3月2、9、16日

学問と人格[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月7日[『如是閑集4』収録]

歴史は繰り返す[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月14日[『如是閑集4』収録]

国民性の表現[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月21日

政治と恋愛[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月28日

The national character of the Japanese『Contemporary Japan』3-4、3月

洋画に於ける日本的といふ事[「洋画に於ける「日本」的傾向の検討」]『アトリエ』12-4、4月1日

逍遥先生のある一面『改造』17-4、4月1日[『如是閑集1』収録]

「今日及び明日」を語る夕べ『経済往来』10-4、4月1日【3月2日座談会(於偕楽園):清沢冽、武者小路実篤、戸坂潤、室伏高信】

儒教に於ける『礼』の意義と其『変質』『思想』155、4月1日[『我觀中国』収録]

大学の発生とその「修正」『セルパン』50、4月1日

日本文学に於ける短歌の地位 社会史的視角からの一考察『短歌研究』4-4、4月1日[『日本の短詩形文学』収録]

日支関係と『現実』の支配[「『日本は敵か友か』の総批判」]『中央公論』50-4、4月1日

蕁麻疹と月琴[「坪内逍遥博士を偲ぶ 逸話の坪内博士」]『中央公論』50-4、4月1日

ものさしを語る『婦人之友』29-4、4月1日【座談会:遠藤新、竹内茂代、福島貞子、藤田阿津、嶺山銀

- 子、羽仁吉一、羽仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 上』(婦人之友社、2003年)収録]
- ハチ公を中心として[『社会時評』『文芸春秋』13-4、4月1日]
- 満州国を語る座談会『文芸春秋』13-4、4月1日【座談会：川越丈雄、大橋忠一、根本博、星野直樹、大城戸三治、岩畔豪雄、東福清次郎、宮脇襄二、松田冷輔、蠟山政道、室伏高信、菊池寛】
- [『日本女性の長所 短所 刻下の女性に望む所(婦人参政権是非)』『歴史公論』4-4、4月1日]
- 以秋霜自肅[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』4月11日]
- 日本文化と風流『日本趣味』1-2、4月15日]
- 国際平和の袋道[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』4月18日]
- [『National Front to meet the Crisis』『Nippon』3、4月20日]
- 如是閑の翻訳問答『読売新聞』4月27日]
- 自由主義以後『読売新聞』4月30日、5月1~3日]
- 追憶『芸術殿』5-5、5月1日]
- 歴史的の自由主義と道徳的範疇としての『自由』[『顛落自由主義の検討』『中央公論』50-5、5月1日]
- スポーツと結核[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』5月2日[山田雲峰『日本民族基本強健法』(強健社1935年)収録]
- 独裁自由主義[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』5月9日[『如是閑集4』収録]
- 『聖林』の責任[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』5月16日]
- 都会の地方色『季刊日本橋』1-1、5月20日]
- 朗らかな争ひ[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』5月23日]
- 文相成功の理由[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』5月30日]
- 日本的性格の再検討『改造』17-6、6月1日[『日本国民性の特徴』と題して高須芳次郎編『名文鑑賞読本 昭和時代』(厚生閣、1937年)抄録。初出に加筆して『日本的性格』と改題『日本的性格』収録。『如是閑集7』収録]
- 資本主義文明とその中心の移動『経済往来』10-6、6月1日]
- 文章表現の純粹性と大衆性『月刊文章講座』1-4、6月1日]
- 私と犬『真理』1-6、6月1日]
- [『暴力団検挙の感想』『中央公論』50-6、6月1日]
- 我国の自治体政治の不良性に就て『都市問題』20-6、6月1日]
- 結婚及結婚生活を語る『婦人之友』29-6、6月1日【座談会：井上秀子、中川善之助、平塚明子、高良富子、野上彌生子、山本有三、杉森孝次郎、為藤五郎、林蘆、羽仁吉一、羽仁もと子】[『野上彌生子全集別巻 一』(岩波書店、1982年)抄録]
- 現代日本の欠乏[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』6月6日[『評論集』、『如是閑集4』収録]
- 野崎左文翁[『一日一題』『読売新聞[夕刊]』6月13日[『明治初年の新聞記者』と改題『理想と現実』収録。『長谷川如是閑集 第6巻』収録]

世界の気圧[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月20日

女性と犯罪[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月27日[『理想と現実』収録]

機械的音楽論など[「緑陰日記」]『読売新聞』6月30日

帝院改組問題批判座談会『アトリエ』12-7、7月1日【座談会：中川紀元、中山巍、正宗得三郎、荒城季夫、藤本韶三】[『帝展改組/新体制と美術』<美術批評家著作選集 第11巻>(ゆまに書房、2011年)収録]

九官鳥『短歌研究』4-7、7月1日

老子・孔子・支那民族『中央公論』50-7、7月1日[「孔子と老子」と改題『我観中国』収録。原題で『評論集』、『如是閑集7』収録]

美術家の商品経済からの解放[「帝院改組批判」]『美術』10-7、7月1日

『礼』と『寂び』『瓶史』7月1日[『礼の美』収録]

ラヂオ文化の諸問題『帝国大学新聞』584、7月1日

林恩忘却の酬い[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月4日[「林恩忘却」と改題『理想と現実』収録]

市島春城・幸田露伴両翁を中心とする座談会『日本趣味』1-3、7月10日【座談会：市島春城、幸田露伴、津田青楓、西村文則、本山荻船、竹内緑堂】[蝸牛会編『露伴全集 別冊』(岩波書店、1958年)、『露伴全集 第41巻』(岩波書店、1980年)収録]

頭脳と歴史[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月11日

望ましい発明[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月18日

沢庵の斤量[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月25日[『如是閑集4』収録]

弓[「どういう点に心惹かれるか」]『婦人之友』29-8、8月1日

原形芸術と複製芸術『文芸』3-8、8月1日[『日本映画論』、『如是閑集6』収録、『日本映画論』から『日本戦前映画論集 映画理論の再発見』(ゆまに書房、2018年)収録][英語訳 *Original art & reproduced art, From Japan's modernity : a reader*; Center for East Asian Studies, University of Chicago, c2002]

夏の公園[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月1日

選挙と信仰[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月8日

汽車不通[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月15日

国立フィルム図書館[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月22日[『理想と現実』収録]

海を嫌ふ海国民[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月29日[「海国民の趣味」と改題『理想と現実』収録]

日本の思想と文化『講演』300、8月30日

夏を忘れる『経済往来』10-9、9月1日[『経済往来』48-10、1996年10月1日再録]

ラヂオと統制時代[「ラヂオの反動化を難ず」]『中央公論』50-9、9月1日[『如是閑集6』収録]

私が百万円貰ったなら『婦人之友』29-9、9月1日

新京[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月5日

土匪[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月12日[『如是閑集4』収録]

日本人の文化能力『読売新聞』9月18～20日

- 伊エは戦ふか? [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 9月19日
- ケーブルカーイズム『帝国大学新聞』 591、9月23日 [「ケーブルカー」と改題『理想と現実』収録。原題で『長谷川如是閑集 第6巻』収録]
- 裁判と教育 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 9月26日 [「裁判」と改題『理想と現実』収録]
- The Japanese and foreign culture 『Contemporary Japan』 4-2、9月
- 今日の話『改造』 17-10、10月1日【座談会：宮沢俊義、山川均、阿倍真之助、菊池寛、山本実彦、真鍋嘉一郎、鈴木文史郎】
- 原始的宗教心への還元『宗教公論』 4-9、10月1日
- 思想篇 [「特別付録 日本文化五十年史」] 『中央公論』 50-10、10月1日
- 日本文化を再評価する談話会『日本評論』 10-10、10月1日【座談会：安倍能成、今井登志喜、宮沢俊義、室伏高信、和辻哲郎】
- 『討議』の教育 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月3日 [『理想と現実』収録]
- 『日本』時代の千葉君『東京日日新聞』 10月9～11日
- 鼻を吸る音 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月10日 [『如是閑集4』収録]
- 慰安放送の指導性と大衆性『放送』 5-10、10月15日 [『遊戯・娯楽』 <近代庶民生活誌8> (三一書房、1988年)収録]
- 時代の表現 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月17日 [「明治の絵画」と改題『理想と現実』収録]
- 死刑が無罪に [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月24日 [『理想と現実』収録]
- 座談会 自由主義を語る『東洋経済新報』 1678、10月26日【10月10、11日座談会(於東洋経済新報社)：戸坂潤、加田哲二、大島豊、室伏高信、赤松克麿、蠟山政道、杉森孝次郎、石井満、清沢洵、今中次麿、石橋湛山】 [『自由主義とは何か』(東洋経済新報社、1936年5月26日)収録]
- 天災の責任 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月31日 [『理想と現実』収録]
- ロシア文学第一印象 [「初秋随想」] 『月刊ロシア』 1-5、11月1日
- 漱石と江戸っ子文学『思想』 162、11月1日 [『如是閑集6』、平岡敏夫編『夏目漱石研究資料集成 第7巻』(日本図書センター、1991年)、『夏目漱石 百年後に逢いましょう』 <『文藝』別冊>(河出書房新社、2016年)収録]
- 文化感覚の基礎的問題『セルパン』 57、11月1日
- 満州寸感 [「短歌」] 『短歌研究』 4-11、11月1日
- 選挙粛正と級長選挙 [「社会時評」] 『文芸春秋』 13-11、11月1日 [「選挙粛正と社会的訓練」と題して『第二次選挙粛正の諸批判』(選挙粛正中央連盟編・刊、1936年6月10日)抄録]
- 三宅雪嶺博士と「明治・大正・昭和」を語る『日本評論』 10-11、11月1日【10月3日座談会(於三宅邸)：三宅雪嶺、緒方竹虎、古島一雄、杉森孝次郎、馬場恒吾、室伏高信】
- 教育刷新の動因 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 11月7日 (『修身教育』 12月1日に転載)
- 書物七癖『書窓』 2-2、11月10日 [『如是閑集1』収録]
- 攘夷と倒幕 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 11月14日
- \*ドストエフスキーの持味『アラベスク』 1-5、11月20日

真珠を豚と化す[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月21日[「木乃伊取り」と改題『理想と現実』収録]  
背橋の陣[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月28日  
ジャーナリズムの本質と変質[「社論」]『日本評論』10-12、12月1日  
宗教的情操の意義と国民教育『仏教』1-8、12月1日[『修身教育と宗教教育』<文献資料集成日本道徳教育論争史 第2期第9巻>(日本図書センター、2013年)収録]  
犯罪ギャングへの傾向[社会時評]『文芸春秋』13-12、12月1日  
文学の孤立[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月5日[『理想と現実』収録]  
宗教の変質[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月12日[『理想と現実』収録]  
美術家と特権[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月19日  
日本文化の特徴[11月6日講演速記(於中華基督教青年会)]『日華学報』53、12月20日  
国民性と犯罪[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月26日[『理想と現実』収録]

## 1936(昭和11)年

哈爾濱の幻想[「創作」]『改造』18-1、1月1日  
博士問題座談会「博士」号をめぐる諸問題と学界の裏面について『科学知識』16-1、1月1日[座談会：大森義太郎、杉山平助、高垣寅太郎、辰野隆、脇谷洋次郎、三宅驥一、林皐]  
農村文化と都会文化[「今日の農村」]『セルパン』59、1月1日  
本居宣長の政治学『中央公論』51-1、1月1日  
[文壇百人一首]『東京日日新聞』1月1日  
座談会 日本の現在と将来『日本評論』11-1、1月1日【1935年12月2日座談会(於星ヶ岡)：芦田均、近衛文麿、藤原銀次郎、杉森孝次郎、山川均、土方成美、馬場恒吾、室伏高信】  
手品『文芸懇話会』1-1、1月1日  
良国民となるために 大国民となるために『婦人之友』30-1、1月1日【1935年11月28日座談会(於自由学園)：清沢淵、永井柳太郎、宮沢俊義、三木清、三宅雪嶺、杉森孝次郎、吉岡弥生、蠟山政道、羽仁吉一、羽仁もと子】[『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]  
山の「性格」とその倫理『山』3-1、1月1日[『富士とその周辺』<日本山岳風土記 第3巻>(宝文館、1960年)、『富士とその周辺』<山の風土とその紀行>(宝文館出版、1968年)収録]  
新春論壇『読売新聞』1月1、4、5、7、8日  
新しき教養—近代女性は中途半端ではないか—『大阪毎日新聞』1月3日  
政局を語る『名古屋新聞』1月5～18日【座談会(於帝国ホテル)：俵孫一、島田俊雄、清瀬一郎、亀井貫一郎、柴田善三郎、馬場恒吾、岩淵辰雄、小山松寿、小林橋川、大宮伍三郎】  
夢をもため政治家[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月9日  
日本国民の国際的自覚『福岡日日新聞』1月9、10日  
相撲と拳闘[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月16日[『理想と現実』丸山林平編『隨筆読本』(三笠書房、1936年5月17日)収録]

- 英国の皇室[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月23日
- 大衆感覚の芸術家『帝国大学新聞』609、1月27日
- 書齋趣味[「随筆」]『アサヒグラフ』26-5、1月29日
- 暗殺と史観[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月30日
- 文化的表現から見た日本の性格『改造』18-2、2月1日
- 史的研究[「万葉集の総合研究」]『短歌研究』5-2、2月1日
- 『弱体』とその『補強』[「弱体内閣に進言す」]『中央公論』51-2、2月1日
- 線の感情『南画鑑賞』5-2、2月1日
- 書齋ノンセンス『日本評論』11-2、2月1日
- 文学に於ける社会性『文学』4-2、2月1日
- 芸術に対する映画の叛逆『文芸春秋』14-2、2月1日
- 政治的関心の指導[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月13日[『理想と現実』収録]
- 学校騒動の下落[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月20日
- 教へに伴った”制裁”が国家的意思をより反映させた 既成政党反省の資料[「選挙は何を教へたか その社会的意義は? 各方面の意見に聴く」]『読売新聞』2月24日[「選挙は何を教へたか」と題して『新聞集成 昭和編年史 昭和十一年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1988年)収録]
- 政党の『人格』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月27日
- [「無産党進出をどう見るか?」]『社会運動通信』1877、2月29日
- 山を語る[「随筆」]『真理』2-3、3月1日
- 新聞紙に於ける社会的感覚の欠乏『中央公論』51-3、3月1日[『如是閑集6』収録]
- 変態政治の常態化[「軍部か官僚か政党か」]『日本評論』11-3、3月1日
- 聯想の文学としての連歌と俳句『俳句研究』3-3、3月1日[『日本の短詩形文学』収録]
- You must know me as I know you『Nippon』6、3月5日
- 日本人的責任感[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月12日
- “骨董の誇り”[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月19日
- 直覚的感性[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月26日
- 合法性の原理、3月[初出未詳、『理想と現実』収録]
- 広田内閣の発生理由と存在理由『中央公論』51-4、4月1日
- 政治に於ける合法性の把握『日本評論』11-4、4月1日
- 日本の自然趣味『瓶史』7-2、4月1日
- 文化と暴力『文芸懇話会』1-4、4月1日【2月25日座談会：杉森孝次郎、清沢冽、芦田均、馬場恒吾、近松秋江】
- 片輪の文明[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月2日(『大陸日報』1936年5月20日に転載)

議会議論「一日一題」『読売新聞[夕刊]』4月9日[『如是閑集 4』収録]

帝展所感『塔影』12-4、4月10日

慈善事業の失態「一日一題」『読売新聞[夕刊]』4月16日[「慈善事業の動念」と改題『理想と現実』収録]

同伴自殺「一日一題」『読売新聞[夕刊]』4月23日[『理想と現実』収録]

一元即多元「一日一題」『読売新聞[夕刊]』4月30日[『評論集』、『如是閑集 4』収録]

美術アカデミーの本質 帝国美術院の問題『読売新聞』4月30日、5月1、2日

文学者生活に於ける矛盾の必然『セルパン』63、5月1日

短歌の本質としての平俗性『短歌研究』5-5、5月1日[『日本の短詩形文学』収録]

茶趣味と茶道『理想』64、5月1日

国民意志と議会「一日一題」『読売新聞[夕刊]』5月14日[『如是閑集 4』収録]

日本人と国字「一日一題」『読売新聞[夕刊]』5月21日[『大陸日報』6月8日に転載]

内面の芸術「一日一題」『読売新聞[夕刊]』5月28日[『理想と現実』収録]

我が哲学を語る『理想』65、6月1日

Kyūdo, tir à l'arc japonais 『Nippon』7、6月4日

文化交通の自由「一日一題」『読売新聞[夕刊]』6月4日[『理想と現実』収録]

新しき「教養」近代女性の欠陥は何処に? 『大陸日報』6月6、9～11日

『肅』の字、6月[初出未詳、『理想と現実』収録]

天文学の教訓「一日一題」『読売新聞[夕刊]』6月18日[「天文学と文明」と改題『理想と現実』収録]

士道と平民道「一日一題」『読売新聞[夕刊]』6月25日[「士・農・工・商道」と改題『理想と現実』収録]

Modernism in Japan 『Contemporary Japan』5-1、6月

現代を指導する性格『改造』18-7、7月1日

国字の国際性『セルパン』65、7月1日

常識的に考へて[「議会政治は復活するか」]『日本評論』11-7、7月1日[『如是閑集 5』収録]

世相を語る『婦人之友』30-7、7月1日【座談会：小汀利得、奥むめお、小林一三、中川善之助、深尾須磨子、室伏高信、羽仁吉一、羽仁もと子】

表現形式の芸術性『文芸』4-7、7月1日

文芸院の存在理由[「日本文芸院論」]『文芸懇話会』1-7、7月1日

政治的中枢神経「一日一題」『読売新聞[夕刊]』7月3日[『如是閑集 4』収録]

蚊「一日一題」『読売新聞[夕刊]』7月10日[『理想と現実』収録]

有閑教育「一日一題」『読売新聞[夕刊]』7月17日[『理想と現実』収録]

投機心理「一日一題」『読売新聞[夕刊]』7月24日[『理想と現実』収録]

女性でさへ「一日一題」『読売新聞[夕刊]』7月31日

犬と遊ぶ[短歌、「夏と人」]『改造』18-8、8月1日



- 道徳的教化の理想と態度『中央公論』5-18、8月1日
- 山を楽しむ心『南画鑑賞』5-8、8月1日
- 日本の文化感覚の特徴『日本評論』11-8、8月1日
- 体力と心力[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月7日[『理想と現実』収録]
- 国の化粧[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月14日
- 山への憧憬『兵庫教育』562、8月15日
- 性格的欠点[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月21日
- 山への憧憬『山口県教育』434、8月28日
- スペインの宿命[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月28日[『理想と現実』収録]
- 生粋の江戸ツ子が語る『江戸から東京へ』座談会『現代』17-9、9月1日【座談会：蓼胡蝶、大橋満、前田曙山、原胤昭、荒井陸男、悟堂軒圓玉、鯨崎英明、後藤末雄】
- 弓を語る『真理』2-9、9月1日
- 日本詩(短歌俳句)の特殊な存在理由『セルパン』67、9月1日
- 鋸屑集 福泉正義氏が木片集の歌に和へて[短歌]『短歌研究』5-9、9月1日
- ラジオ文化の根本問題『中央公論』51-9、9月1日[『中央公論』104-4、1989年4月1日再録。鶴見俊輔編『現代日本思想大系 第12巻 ジャーナリズムの思想』(筑摩書房、1965年)、『選集4』、『評論集』、『如是閑集6』収録]
- 文章漫談『日本評論』11-9、9月1日
- 狩野博士に物を訊く会『日本評論』11-9、9月1日【座談会：狩野亨吉、石原純、桑木巖翼、和辻哲郎、辰野隆、黒正巖、谷川徹三】
- 実感の文学としての俳句『俳句研究』3-9、9月1日[『日本の短詩形文学』収録]
- 美術界鳥瞰『美術』11-9、9月1日
- 民族的反感[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月4日[『理想と現実』収録]
- 迷信の克服[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月11日[『理想と現実』収録]
- 『三人行へば』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月18日
- 同感する著述態度 一氏義良著「東洋美術史」[「書架の前」]『読売新聞』9月23日
- 産制と断種と道徳不道徳[「性と優生」]『科学知識』16-10、10月1日
- 日本に於ける教権と人文主義[「特輯ヒューマニズム」]『思想』173、10月1日[「日本におけるルネサンス」と改題『日本的性格』収録]
- スポーツ論 ギリシャ的とローマ的『セルパン』68、10月1日
- 雄略帝の御製歌 その芸術的創造性『短歌研究』5-10、10月1日[「雄略帝の御製」と改題『日本の短詩形文学』収録]
- 秋の人[「燈下隨筆」]『文芸春秋』14-10、10月1日[大草実編『読書隨筆』(矢の倉書店、1938年3月7日)収録]
- 人道と自然道[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月2日

外人の眼を通して見た日本人の多元性—両極端の性向『読売新聞』10月7～10日【(1)外人の眼を通して見た日本人の多元性—両極端の性向、(2)宗教・文学・政治の上に観る日本人の多元性—開闢以来の二重生活、(3)歴史の全局の上に現はれたる日本人の多元性—イデオロギー以前の態度、(4)時代的に発展性のある日本人の多元性—社会的要求に適應するもの】

求心力[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月9日[『如是閑集4』収録]

自治の伝統[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月16日[『理想と現実』収録]

『家』の悲劇[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月23日[『理想と現実』収録]

アマチュア精神[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月30日[『理想と現実』収録]

擬似宗教流行の責任『改造』18-11、11月1日

文化映画と娯楽映画『教育』4-11、11月1日

都制案に於ける二三の問題『都市問題』23-5、11月1日

ヒューマンイズムの歴史的反復[「ヒューマンイズムの問題」]『日本評論』11-11、11月1日

家庭及び家族を語る『婦人之友』30-11、11月1日【10月2日座談会(於南沢自由学園ホール):桑木巖翼、戸田貞三、高良富子、蛭山政道、原田実、藤森成吉、羽仁吉一、羽仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 下』(婦人之友社、2003年)収録]

ル氏再選の動因[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月6日

『家』から『社会』へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月13日

学生とジャーナリズム『三田新聞』362、11月20日

アメリカニズムの跋扈 興味本位・末梢的記事の氾濫[「現代ジャーナリズム批判 新聞」]『帝国大学新聞』649、11月26日[『如是閑集6』収録]

ある気持ち[「学芸」]『大阪朝日新聞』12月1日

邪教を發き正しき宗教を語る座談会『科学画報』25-12、12月1日[江部鴨村、石原純、金子準二、小熊虎之助、宇野圓空]

短歌鑑賞の規準 但し私自身の場合『短歌研究』5-12、12月1日[『日本の短詩形文学』収録]

国家的対立[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月4日[『如是閑集4』収録]

ナチスの芸術批評統制『東京朝日新聞』12月5～7日【(1)芸術の古代化へ、(2)芸術に於る自由、(3)ドイツ的芸術】[『批評と批評家』<美術批評家著作選集 第19巻>(ゆまに書房、2016年)収録]

誤れる”一豊の妻” 区議としても無価値[談「愛妻身代り事件の波紋」]『読売新聞[夕刊]』12月12日[『新聞集成昭和史の証言 第十巻 昭和十一年』(本邦書籍、1984年)収録、ただし11月3日付と誤記]

私生児の保護[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月13日[『理想と現実』収録]

議会の再認識[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月25日[『評論集』、『如是閑集4』収録]

白人精神の批判、12月[初出未詳、『理想と現実』収録]

## 1937(昭和12)年

支那のある小景[「廳は語る」]『改造』19-1、1月1日[『如是閑集1』収録]

現代社会相を語る『河北新報』1月1、3～6、8～10、12～16日(8日以後は夕刊掲載。『福岡日日新聞』1月5～7日、『北海タイムス』1月14～16、19、20、22、23、26～30日、2月2日)【1936年12月2日座談会(於日比谷山水楼):高島米峰、青野季吉、岡邦雄、神近市子、佐藤俊子、片岡鉄平】

幼い心の自叙伝『中央公論』52-1、1月1日[『如是閑集8』収録]

心[短歌6首]『中央公論』52-1、1月1日

近代的性格の破綻と回復『日本評論』12-1、1月1日

地味な幸福[口絵、「幸い来る」]『婦人之友』31-1、1月1日

牛『文芸春秋』15-1、1月1日

日本趣味の行方『瓶史』26、1月1日[『礼の美』収録]

時代と文芸思想の行くべき道『読売新聞』1月1、3、5～10、12、13、15、17、19～21、23、24日【座談会:三木清、石浜知行、尾崎士郎、広津和郎、北吟吉、芹沢光治良、武田麟太郎、片岡鉄平、勝本清一郎、中河与一、林房雄】[『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

独裁型と民主型『京都市出新聞[夕刊]』1月4、5、8日(4日付のみ朝刊。『九州日報』1月6日)

明日の日本を語る『読売新聞』1月7、8、13～15日[『南洋日日新聞』2月1～5日に転載]

国策機関と議会[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月15日[『如是閑集4』収録]

国民性と文化『放送』7-1、1月15日

現実政治の秩序[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月29日[『南洋日日新聞』2月26日に転載。『如是閑集4』収録]

「リットル・クリテイツクス」[「題は語る」]『改造』19-2、2月1日[『評論集』、『如是閑集1』収録]

如是閑氏が語る“礼の話”[談]『東京朝日新聞』2月1日

逝ける碧梧桐『読売新聞』2月3日

読書界革正に期待す『日本読書新聞』予告号、2月5日[『日本読書新聞』1、3月1日にも掲載]

政治家の喪失[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月5日[『如是閑集4』収録]

「感激を語る」『東京朝日新聞[夕刊]』2月12日

時宜を得た企て[「文化勲章」]『東京日日新聞』2月12日

時局批判座談会 政変の意義と時局認識『東洋経済新報』1746、2月13日【2月4日座談会(於東洋経済新報社楼上):山道襄一、太田正孝、河野密、田川大吉郎、赤松克麿、清沢冽、加田哲二、高橋亀吉、山崎靖純、石橋湛山、三宅晴暉、蛭山政道】

時代と裁判[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月13日[『南洋日日新聞』3月4日に転載。『理想と現実』収録]

文化勲章の意義 国民性に順応するもの『読売新聞』2月13日

日本の党首[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月19日[『南洋日日新聞』4月1日に転載。『理想と現実』収録]

映画の社会性及び機械性『帝国大学新聞』661、2月23日[『如是閑集6』収録]

機関の永続性[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月26日[『南洋日日新聞』4月7日に転載]

政治機構の進化と軍部[「革新軍部論」]『改造』19-3、3月1日

自分を発見した話[「謎は語る」]『改造』19-3、3月1日

科学と文化 いはゆる「科学偏重」について『セルパン』74、3月1日

政治の世界的混沌『日本評論』12-3、3月1日

山の碧梧桐[「河東碧梧桐氏の追憶」]『俳句研究』4-3、3月1日

座談会『節操』を語る『婦人之友』31-3、3月1日【1月28日座談会：石橋湛山、久布白落美、杉山平助、竹内茂代、安部磯雄、山本一清、山川菊江、羽仁吉一、羽仁もと子】

笑話か悲劇か[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月5日

【「市議選挙一言」]『東京朝日新聞[夕刊]』3月9日

礼の話[2月1日放送(於東京中央放送局)]『講演』355、3月10日[『礼の美』収録]

医療制度の誤謬[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月12日[『関西医界時報』330、1937年3月22日に転載。『理想と現実』収録]

五箇条の御誓文 わが国民的特性との関連[「五箇条御誓文の精神を想ふ」]『東洋経済新報』1750、3月13日

Mädchenerziehung in Japan『Nippon』10、3月15日

読書文化の為に『日本読書新聞』3、3月18日

Characteristics of education in Japan『Contemporary Japan』5-4、3月

日本語は何処へ行く[「謎は語る」]『改造』19-4、4月1日

民族と伝統の態度—特に日本の態度に就て—『思想』179、4月1日[「日本民族と伝統的態度」と改題『日本の性格』収録]

座右の書『自由』1-4、4月1日

短歌に於ける『自然』特に万葉集に於ける自然描写『短歌研究』6-4、4月1日[「万葉集に於ける自然描写」と改題『日本の短詩形文学』収録]

都市の政治機構からの解放『都市問題』24-4、4月1日

映画の国際政策—特に日本映画の場合—『日本映画』2-4、4月1日[『日本映画論』収録]

純日本文学の発生に就て[「問題と批判」]『文学』5-4、4月1日

詩的感性と詩の将来『文芸懇話会』2-4、4月1日

芸術漫談『文芸春秋』15-4、4月1日

兩成敗[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月2日[『如是閑集4』収録]

子供のため[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月9日

反対党と「諍臣」[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月16日[『如是閑集4』収録]

『屋下屋を架す」] [「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月23日[『南洋日日新聞』5月14日に転載。『如是閑集4』収録]

万才問答[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月30日

- 『煩悶時代』[「鼯は語る」]『改造』19-5、5月1日
- 日本文化の本質とその伝統[講演]『国民思想』3-5、7、5月1日、7月1日
- 文化と迷信／子供の将来／喧嘩両成敗[「社会時評」]『蚕糸界報』543、5月1日
- 大学及び大学生『セルバン』76、5月1日[『大学及び大学生』、『選集3』収録]
- シナリオ文学の制約『日本映画』2-5、5月1日[『日本映画論』収録]
- 家畜を通じて見た“人類文化史”の資料 加茂儀一氏の「家畜文化史」に敬意[「読書評論」]『日本読書新聞』7、5月1日
- 万葉集漫想『文芸』5-5、5月1日
- 仕事場[「書齋と書齋人」]『ホーム・ライフ』3-5、5月1日
- 暗々裡に動向指示“国民感情”は誤らず『政治の回復』強く要求[「新政局に直面して」]『東京朝日新聞』5月5日[「政党政治機構の支持を国民は表示[「総選挙結果を斯く見る」]』『大阪朝日新聞』5月4日]
- 『神がかり』[「一日一題」]『読売新聞』5月7日
- 英国民と政治『早稲田大学新聞』71、5月12日
- 神経のいろ 〱 [「一日一題」]『読売新聞』5月14日
- 宗教的情操の意義と国民教育『教育女性』13-5、5月15日
- 日本の芸術の行方『読売新聞』5月15、16、18日
- Life and Art『Nippon』11、5月17日
- 日本の政党[「一日一題」]『読売新聞』5月21日[『大陸日報』6月11日に転載。『如是閑集4』収録]
- 飛行家に学ぶ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月30日[『理想と現実』収録]
- [「前衛絵画批判 批評家の立場から」]『アトリエ』14-6、6月1日
- 日本哲学の形態的特徴『改造』19-6、6月1日
- 嘘をつく動物[「鼯は語る」]『改造』19-6、6月1日
- 投票問答／「神かゝらず」が正しい／企業庁と国策機関／産制の道徳的性質[「社会時評」]『蚕糸界報』544、6月1日
- 或る日の談話会『日本評論』12-6、6月1日【5月30日座談会：深井英五、有沢広巳、高垣寅次郎、馬場恒吾】
- 日本文学の形態的特徴『文芸復興』1、6月1日
- 日本紳士道『ホーム・ライフ』3-6、6月1日
- 近衛内閣への餞け[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月4日[『如是閑集4』収録]
- 僕の健康法『近きより』1-3、6月5日
- 洋式官僚主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月11日[「日本の官僚主義」]『大陸日報』7月24日。『如是閑集4』収録]
- 近衛内閣の成立を語る 成立の経過・意義及び其の前途『東洋経済新報』1764、6月12日【6月4日座談会(於東洋経済新報社楼上)：馬場恒吾、亀井貫一郎、清沢冽、蠟山政道、西野喜与作、安田与四郎、小島精一、山田秀雄】

近衛内閣の客観性『読売新聞』6月12、14日【(上)公武合体の背景、(下)政治的企画の欠乏】

芸術院とは「一日一題」『読売新聞[夕刊]』6月18日[『理想と現実』収録]

“仕事をさせるな 養老院で沢山” 如是閑氏は斯く見る[記事「帝国芸術院誕生す」中の談]『東京朝日新聞[夕刊]』6月24日

近衛内閣出現の動因と其任務『改造』19-7、7月1日

嘘の道徳性[「廳は語る」]『改造』19-7、7月1日[『如是閑集1』収録]

政治と科学を語る『科学知識』17-7、7月1日[5月31日座談会：蠟山政道、中野正剛、片山哲、石原純、齊藤隆夫、宮島幹之助、三宅驥一]

建築における日本的性格『建築と社会』20-7、7月1日

文教に於ける自由とその制約『自由』1-7、7月1日

動物の生活を語る『動物文学』317月1日【座談会：蘆谷蘆村、金井紫雲、清水良雄、竹野家立、本多顕彰、山内保次、平岩米吉】

明治型と昭和型『日本評論』12-7、7月1日

感覚による大衆演芸の教化的意義『放送』7-7、7月1日

近衛内閣は何を為すべきか『芸芸春秋』15-7、7月1日【座談会：小川郷太郎、下村海南、高垣寅次郎、津村秀松、三輪寿壮、阿部真之助】

芸術国策の基調[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月2日[『理想と現実』収録]

上院と下院[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月9日

夏山の想出『帝国大学新聞』682、7月12日

支那の政治的伝統[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月16日[『南洋日日新聞』8月27日に転載]

帝国芸術院論—アカデミーの本質から見る—『改造』19-8、8月1日[『帝展改組/新体制と美術』<美術批評家著作選集 第11巻>(ゆまに書房、2011年)収録]

文化の自由性と文化統制の原理『セルパン』79、8月1日[『如是閑集7』収録]

動物と人生を語る『動物文学』32、1937年8月1日【座談会：蘆谷蘆村、金井紫雲、清水良雄、竹野家立、本多顕彰、山内保次、平岩米吉】

日本映画に於ける女優の芸術『日本映画』2-8、8月1日[「映画と女優」と改題『日本映画論』収録]

試練期のロシアを語る『日本評論』12-8、8月1日【座談会：秦彦三郎、甲谷悦雄、島田正晴、直井武夫、室伏高信、岡邦雄、富士辰馬】

映画を見る女性への言葉『婦人公論』22-8、8月1日[「映画を見る女性へ」と改題『日本映画論』収録]

夏夜・世相を語る『婦人之友』31-8、8月1日【座談会：阿部真之助、正宗白鳥、石原純、三宅雪嶺、山楯儀重、林籙、牧野良三、羽仁吉一、羽仁もと子】

[「幸田露伴翁を囲んで」]『文学』5-8、8月1日

たゝみ[「日本的なるもの」]『婦人之友』31-9、9月1日

宣伝下手[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月17日(「宣伝下手な日本」『大陸日報』10月9日)[『理想と現実』収録]

- 少数と多数[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月24日
- 支那的国家形態の特異性『改造』19-10、10月1日[「シナ的国家形態の特異性」と改題『我観中国』収録。  
『如是閑集7』収録]
- 熊沢蕃山の武士道[「颯は語る」]『改造』19-10、10月1日
- 老子の政治学の動機『思想』185、10月1日[「老子の政治学」と改題『我観中国』収録]
- 日本画は何処へ行く『瓶史』29、10月1日[「礼の美」収録]
- 日本人と支那人[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月1日[『理想と現実』収録]
- 打ち勝ち難き心[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月9日[『理想と現実』収録]
- 支那流と日本流[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月22日[『理想と現実』収録]
- 社会批評家長谷川如是閑氏と語る[インタビュー]『医海時報』2252、10月23日
- 日本文化と支那文化の特徴『早稲田大学新聞』86、10月27日
- 『日本開化の性質』[「颯は語る」]『改造』19-12、11月1日
- 政治学の二大典型－西洋政治学と東洋政治学の原始的典型－『日本評論』12-12、11月1日[『我観中国』、  
『如是閑集7』収録]
- 戦争絵画とテクニク[「戦争と美術」]『美術』12-11、11月1日
- 南京[口絵：問題の都市]『婦人之友』31-11、11月1日
- 時局を語る『婦人之友』31-11、11月1日【座談会：麻生久、阿部真之助、大口喜六、加茂正雄、那須皓、  
本位田祥男、山本忠興、吉岡弥生、羽仁吉一、羽仁もと子】
- 排宣伝主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月5日[「宣伝主義」と改題『理想と現実』収録]
- 座談会 事変の前途を語る『改造』19-13、11月18日【10月25日座談会(於東京会館)：吉沢謙吉、松本  
忠雄、大西齋、石浜知行、馬場恒吾、加藤敬三郎、木村増太郎、山本実彦】
- 日本を知らせる 国家主義時代の矛盾『帝国大学新聞』695、11月22日[『如是閑集6』収録]
- Japanese and Chinese Civilization[Special Contribution]『Oriental Economist』4-11、11月27日
- 文化尊重、11月[初出未詳、『理想と現実』収録]
- 実のない話[「颯は語る」]『改造』19-14、12月1日
- 文化の永続性 断片的に語る『セルパン』83、12月1日
- 文化の国民的・世界的性質『中央公論』52-13、12月1日
- 独創 Originality を思索する座談会『科学ペン』2-12、12月1日【座談会：石原純、岡邦雄、丘英通、小  
野俊一、加藤与五郎、桑木巖翼、村山知義、渡辺軍治、林麟】
- 日本と支那との文明『東洋経済新報』1792、12月11日[Japanese and Chinese Civilization(『Oriental  
Economist』4-11、11月)の訳載]
- 政治の不自然[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月17日[「支那の政治」と改題『理想と現実』収録]
- Economic and Cultural Nationalism[Special Contribution]『Oriental Economist』4-12、12月20日
- 戦争と平和『大北日報』12月27～30日

## 1938(昭和13)年

- 日本文明の特質－支那文明との対照的考察－[国際文化振興会第2回総会に提出した英文の翻訳]『教育研究』476、1月1日
- 戦争と平和への道『蚕糸界報』551、1月1日
- イギリスの性格の歴史的条件『思想』188、1月1日
- 日本の文明と政治『自由』2-1、1月1日[『日本読書新聞』32、1月15日に転載]
- 葉書に書く[短歌]『短歌研究』7-1、1月1日
- 「日本人」論『東京朝日新聞』1月1、3、4日【(1)最上級の国民的表現、(2)国民的性格表現の洗練性、(3)文化水準の伝統的均等性】
- 日本人の心理的特徴『日本評論』13-1、1月1日[『日本の性格』収録]
- 時代に与ふる言葉『読売新聞』1月1日
- 隠居と停年[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月7日[『理想と現実』収録]
- 歴史を反省する[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月14日
- 戦争と平和『九州日報』1月14、15日
- 一九三八年の日本 教育篇『北海タイムス』1月15、16日
- 社会との関連 密接化が最も緊要[「昭和一三年の日本 教育」]『新愛知』1月16、17日
- 政治と摩擦[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月18日
- The Urban Civilization of Japan[Special Contribution]『Oriental Economist』5-1、1月20日
- 日本の民族舞踊的文学『改造』20-2、2月1日
- 提案に対する私見[「教育シムポジウム」]『教育』6-2、2月1日
- 日本文明の表現形式『新日本』1-2、2月1日[『日本の性格』収録]
- 文明の典型と文化の形態 殊にアメリカ文化の典型について『セルパン』85、2月1日
- 白紙に映つた心像－幼い心の自叙伝の一節－『中央公論』53-2、2月1日[『如是閑集8』収録]
- 俳句の発生とその文学的宿命『俳句研究』5-2、2月1日[『日本の短詩形文学』収録]
- 支那民族性の成立『文芸春秋』16-2、2月1日[「中国民族性の二面」と改題『我観中国』収録]
- 支那の民衆のためにわれら何をなすべきか『婦人之友』32-2、2月1日【1937年12月30日座談会(於南沢)：久布白落美、河野密、山泉丹、東畑精一、安部磯雄、松岡正男、羽仁吉一、羽仁もと子】
- 憲法発布五十年[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月11日[『理想と現実』、作品社編集部編『読本 憲法の100年 2 憲法を受難』(作品社、1989年)収録]
- Jennings 訳の『論語』『学燈』42-2、2月20日[『RÔMAJI』33-3、1938年3月1日に転載]
- Bushido and Japan's Capitalism[Special Contribution]『Oriental Economist』5-2、2月25日
- 『法』と『道』、2月[初出未詳、『理想と現実』収録]
- アカデミズムに就て『科学ペン』3-3、3月1日[『如是閑集6』収録]
- 歌人の歌と素人の歌[「新万葉集巻一を読む」]『短歌研究』7-3、3月1日[「『新万葉集』について」と改題]



『日本の短詩形文学』収録]

『憲法発布』の頃—幼い心の自叙伝の一節—『中央公論』53-3、3月1日[作品社編集部編『読本 憲法の100年 1 憲法の誕生』(作品社、1989年)、『如是閑集 8』収録]

日本人の思考の態度に於ける具体性『理想』82、3月1日

支那語・漢学・英語[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月4日[「支那語に漢学」と改題『南洋日日新聞』3月28日に転載。『理想と現実』収録]

日本文化と支那文化『朝鮮及満洲』364、3月5日

二つの立場[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月11日[『如是閑集 4』収録]

“文化外交官”[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月18日[『理想と現実』収録]

[「こんなオリンピックが見たい」]『東京朝日新聞』3月24日

支那といふ国?[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月25日[『理想と現実』収録]

長期戦下の我国際情勢—国使節報告中心の座談会『東洋経済新報』1805、3月26日【3月11日座談会：芦田均、笠間梶雄、鈴木文治、杉森孝次郎、蜂谷輝雄、神原周平、根津知好、山田秀雄、三宅晴暉】

Japanese characteristics and the ceremony of tea[Leading Articles]『Oriental Economist』5-3、3月30日

素人はかく云ふ『茶道月報』327、3月

日本美術のある特徴『アトリエ』15-5、4月1日

日本文明の典型 特に日本の感覚の特徴について『改造』20-4、4月1日[『失はれた日本—日本的教養の伝統—』収録]

[「僕の少年時代の剛健旅行」]『旅』15-4、4月1日

政教社回顧座談会『日本及日本人』359、4月1日【3月14日座談会：棚橋一郎、古島一雄、国分高胤、岡崎壮太郎、阪井弁、永原鉦作、三井甲之助、丸山幹治、三苫亥吉、井上雅二、横矢重道、三田村玄龍、寒川陽光、大野兵三郎、入江種矩、雑賀博愛、柴田泰助】

本居学の学問的態度『日本評論』13-5、4月1日[『如是閑集 7』収録]

女性の生命を培ふもの[「建業三十五周年を祝して」]『婦人之友』32-4、4月1日

日本文学の輸出[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月1日

日本芸術の孤立『読売新聞[夕刊]』4月7~9日

言語の教育『東京日日新聞[夕刊]』4月7~10日(『教育国語教育』6月1日に転載)[「言葉の教育」と改題『言葉の文化』収録]

さくら[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月8日(『大陸日報』5月2日に転載)[『理想と現実』、『随想全集 12』収録]

断種法[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月17日(『大陸日報』5月5日に転載)[『理想と現実』収録]

Industrial art of Japan [Leading Articles]『Oriental Economist』5-4、4月30日

内容ある覚悟[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月30日[『理想と現実』収録]

大陸と島国 日本と支那『セルバン』88、5月1日[「大陸と島国(其二)」と改題『我観中国』収録]

短歌の典型と生活の典型『短歌研究』7-5、5月1日[『日本の短詩形文学』収録]

都市形態の表現形式『都市問題』26-5、5月1日

映画法と映画の芸術性『日本映画』3-5、5月1日[『日本映画論』収録、『日本映画論』から『日本戦前映画論集—映画理論の再発見—』(ゆまに書房、2018年)収録]

日本文学の国際性[「日本文学の国際性」]『文芸』6-5、5月1日

「新しき日本文化に望む」閑談会『文芸春秋』16-7、5月1日【座談会：五十嵐力、石原純、辰野隆、谷川徹三、和辻哲郎】

[「1.御趣味の方面 2.この頃のお仕事 3.お読みもの」]『中外日報』5月3日

嘉納先生[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月6日[『柔道』9-6、1938年6月15日に転載、『理想と現実』収録]

ジャックを喪ふ[「歌と句のある随筆」]『読売新聞[夕刊]』5月13日

積極的節約へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月13日[『理想と現実』収録]

東洋文明と日本文明[講演要旨]『京都帝国大学新聞』279、5月20日

自然と社会[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月29日[『理想と現実』収録]

Bureaucracy in Japan [Leading Articles] 『Oriental Economist』5-5、5月30日

言語の教育『教育国語教育』6月1日

\*桜と菊[「談話室」]『修身教育』6月1日

日本人の知性と感性『知性』1-2、6月1日[『続日本の性格』収録]

伝統文化と現代文化[「我国当面文化の総合的研究」]『中央公論』53-6、6月1日[『日本の性格』、村松剛・佐伯彰一・大久保典夫編『昭和批評大系 第2巻(昭和10年代)』(番町書房、1968年)、『日本現代文学全集 第107巻 現代文芸評論集』(講談社、1969年)収録]

老子教の支那の根柢[「東洋の思想体系」]『日本評論』13-7、6月1日

[「感心した旅行公德 齟齬した旅行不徳」]『旅』15-6、6月1日

時代と教育[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月5日[『評論集』、『如是閑集4』収録]

断種と産児制限 人間的方法と動物的方法『新愛知』6月5日

お茶の水の感傷[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月10日

日本に於ける官僚政治『東洋経済新報』1817、6月11日[Bureaucracy in Japan (『Oriental Economist』5-5、5月30日)の訳載]

治水と支那の政治[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月17日[『理想と現実』収録]

British and Japanese Civilizations [Leading Articles] 『Oriental Economist』5-6、6月20日

貯蔵本能[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月24日[『理想と現実』収録]

The living art of Japan 『Japan To-day』4、7月1日[邦訳「日本の生活美」とともに『Japan To-day』研究 戦時期『文芸春秋』の海外発信』<日文研叢書48>(人間文化研究機構国際日本文化研究センター、2011年)収録]

強力内閣論『改造』20-7、7月1日

教養の本質『科学主義工業』2-7、7月1日

紙芝居『新風土』1-2、7月1日

科学的論理と日本人『セルバン』90、7月1日

日本文明の伝統的特徴『中央公論』53-7、7月1日[『日本的性格』、文芸家協会編『文芸年鑑 一九三九年版』(第一書房、1939年)収録]

大陸と日本『日本評論』13-8、7月1日[「大陸と島国(其一)」と改題『我観中国』収録]

黄河文化を語る『日本評論』13-8、7月1日【座談会：加藤繁、和田清、新居格、田辺尚雄、佐藤弘、多田文男】

思ひ出の冷や汗[「思ひ出の記」]『婦人公論』23-7、7月1日

座談会戦時食糧を語る『米穀日本』4-7、7月1日【座談会：押川美香、小桜史郎、佐藤寛次、下村宏、杉本好一、竹内茂代、東畑精一、中島義治、新居格、羽仁恵子、東浦庄治、藤岡啓、水野武夫、山崎勉治】

職能教育の反省[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月2日[「現代教育の反省」と改題『理想と現実』収録]

趣味の師友『瓶史』32、7月5日

矛盾の犠牲者利休『瓶史』32、7月5日

言語の教育『放送調査資料』3、7月5日

科学的敬虔[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月10日[『理想と現実』収録]

二つの見方[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月15日[『理想と現実』収録]

人工温度[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月22日[『理想と現実』収録]

日本の夏『Nippon 日本版』1-1、7月25日

Aristocracy in Japan[Leading Articles]『Oriental Economist』5-7、7月25日

The Living Art of Japan『新世界朝日新聞』7月25日

日本文化の成立と特徴『日本映画』3-8、8月1日[『日本映画論』収録]

『不知老之将至』『日本評論』13-9、8月1日

希望として[「俳句三代集への期待」]『俳句研究』5-8、8月1日

現下教育問題の核心を衝く座談会『文芸春秋』16-13、8月1日【座談会：内ヶ崎作三郎、木村正義、膳桂之助、木内きょう、倉橋惣蔵、城戸幡太郎、小西重直、三輪田元道】

新一汁一菜を中心に国民生活更新を語る『婦人之友』32-8、8月1日【7月9日昼の部。座談会：麻生正蔵、今井登志喜、大江スミ、嘉悦孝、木内四郎、小西重直、島本融、寺尾新、東畑精一、東畑みね子、西川義方、服部亀三郎、松波仁一郎、松岡正男、松岡久子、蠟山政道、蠟山銀子、渡辺千冬、羽仁吉一、羽仁もと子】

自治と公選[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月5日[『理想と現実』収録]

大衆に味はせる勝れた芸術の選択[「趣味 戦時下娯楽の道しるべ」]『東京朝日新聞[夕刊]』8月7日

偉大なる廃品[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月12日[『理想と現実』収録]

性格と組織[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月19日[『理想と現実』収録]

**Heads , hands and machinery [Leading Articles] 『Oriental Economist』 5-8、8月25日**  
 文部大臣賞[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 8月26日[「アカデミズム」と改題 『理想と現実』 収録]  
 我が国文化普及の特異性 『神戸経済倶楽部講演』 5、8月31日  
 生活反省の機会 『文芸春秋』 16-15、9月1日  
 日本文学のある特徴に就て 『理想』 88、9月1日[『失はれた日本—日本的教養の伝統—』 収録]  
 文学のためにも 従軍文士の任務 『読売新聞[夕刊]』 9月7日  
 日本人は日本流[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 9月23日[『理想と現実』 収録]  
**The origin of political parties in Japan[Leading Articles] 『Oriental Economist』 5-9、9月28日**  
 \*娯楽と芸術 『映画朝日』 15-9、9月<大阪公立大学杉本図書館所蔵>  
 日本的進歩主義及保守主義 『改造』 20-10、10月1日[『如是閑集 7』 収録]  
 観光地の肅正を望む[「旅行公德」] 『旅』 15-10、10月1日  
 日本に於ける古典の復興 『文学』 6-10、10月1日  
 長期戦と思想問題 『文芸春秋』 16-17、10月1日【座談会：市原分、岩村通世、小野清一郎、土方成美、松坂広政、松本学、森山武一郎、吉田茂、小林杜人、港七郎】  
 いかに革新すべきか 『日本評論』 13-11、10月1日【座談会：植村甲午郎、小金義照、三木清、山崎靖純、赤松克麿、室伏高信】[『三木清研究資料集成』 第3巻(クレス出版、2018年)収録]  
 国民的溶鉱炉[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月7日[『理想と現実』 収録]  
 娯楽の肅正[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月14日[『理想と現実』 収録]  
**Beautifying War 『Nippon』 16、10月20日**  
 小事が大事[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月21日(『修身教育』 12月1日に転載)[『理想と現実』 収録]  
**Japan and totalitarianism [Leading Articles] 『Oriental Economist』 5-10、10月28日**  
 緊張の持続[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 10月30日  
 知的教養について 『科学ペン』 3-11、11月1日【座談会：石原純、和辻哲郎、太田正雄、谷川徹三、竹内芳衛】  
 平安朝文学の背景 土佐日記を通して見た 『新日本』 1-11、11月1日  
 文化と富 特に日本文化の場合 『セルパン』 94、11月1日  
 短歌の文学化とその限界[「現代短歌の諸問題」] 『短歌研究』 7-11、11月1日[『日本の短詩形文学』 収録]  
 観念の宗教と生活の宗教—特に日本の宗教家の伝統的態度について 『日本評論』 13-12、11月1日  
 『型を破る』 『婦人之友』 32-12、11月1日【10月5日座談会：三宅雪嶺、三宅火圃、芦田均、尾佐竹猛、大口喜六、杉森孝次郎、羽仁吉一、羽仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 下』 (婦人之友社、2003年)収録]  
 明治節所感[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 11月4日[『理想と現実』 収録]  
 輿論の超現実性[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 11月11日[『理想と現実』 収録]

- 国民服? [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 11月18日
- 心の節約 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 11月25日
- 日本の学問と芸術 『龍門雑誌』 602、603、11月25日、12月25日
- Characteristics of the Japanese national unity [Leading Articles] 『Oriental Economist』 5-11、11月30日
- 加藤朝鳥君の印象 [「思ひ出の人」] 『真理』 4-12、12月1日
- 俳後の心を読む [「戦争俳句に就いて」] 『俳句研究』 5-12、12月1日 [「支那事変の俳句について」と改題『日本の短詩形文学』収録]
- 崇物心理と科学 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 12月2日 [『理想と現実』収録]
- コンドル機の教訓 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 12月9日 [『理想と現実』収録]
- 現在知識階級と国民的教養 [予科講演会摘録] 『一橋新聞』 279、12月10日
- 長所が短所 [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 12月16日
- 東洋文明へ [「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 12月23日 [『理想と現実』収録]
- 日本の性格の涵養 [「日本主義の再認識」] 『東洋経済新報』 1848、12月24日 <1939年新年号>
- Intellectual class of Japan [Leading Articles] 『Oriental Economist』 5-12、12月27日
- 古典と現代に意義を持つ羯南文録を読む [「学芸特集 炉辺読書案内」] 『読売新聞[夕刊]』 12月27日 [『大日』191、1939年1月1日に転載]
- 戦争の美化 『Nippon 日本版』 1-2、12月28日

### 1939(昭和14)年

- 時局收拾と国民再編成『改造』21-1、1月1日【1938年12月29日座談会(於東京会館): 有馬頼寧、馬場恒吾、高橋亀吉、津久井龍雄、宮沢俊義、尾崎秀実、山本実彦】
- 科学的心意と人間的性格 『科学ペン』 4-1、1月1日
- ことばについての雑感『思想』200、1月1日 [「『ことば』と『意味』」と改題『言葉の文化』収録]
- 人と人との結合 日支文化協定の精神 『旬刊時事特輯』 9、1月1日
- 青年教育に於ける性格と職能 『青年と教育』 4-1、1月1日 [『日本教育の伝統』収録]
- 戦争と芸術 『高岡新聞』 1月1日
- 『古典と現代』座談会『短歌研究』8-1、1月1日【座談会: 土岐善麿、釈迺空】 [『折口信夫対話1 古典と現代』<角川選書67>(角川書店、1975年)、『折口信夫対談』<折口信夫全集 別巻3>(中央公論新社、1999年)収録]
- 日本芸術の国民的基調 『東京朝日新聞』 1月1、2、4日
- 歴史映画の日本の感覚 『日本映画』 4-1、1月1日 [「歴史映画の日本の特徴」と改題『日本映画論』収録]
- 支那の知識階級—その歴史的考察— 『日本評論』 14-1、1月1日
- 日支欵談の夕『婦人之友』33-1、1月1日【1938年12月6日座談会: 王養怡、江人駿、宗介、何庭流、陳達民、劉稻孫、蘇民生、高福怡、張勳銘、安部磯雄、石原純、岡田武松、小西重直、小林澄兄、財部

彪、杉森孝次郎、林毅陸、原田竜一、三田村篤志郎、三宅雪嶺、吉岡弥生、羽仁吉一、羽仁もと子】  
 万葉集と古代の国民的教養『文学』7-1、1月1日[『日本の短詩形文学』収録]  
 文学芸術に於ける知性と感性『文芸』7-1、1月1日  
 東洋民族と日本文明『文芸春秋』17-1、1月1日[『東亜協同体思想研究』(日本青年外交協会編・刊、1939年3月12日)、『続日本的性格』収録。中国語訳(洪炎秋訳)「東洋民族與日本文明」『北京近代科学図書館叢刊』21、1939年]  
 文化的協力精神『北国新聞』1月1日  
 対支文化協力は精神を基調に！『北陸日日新聞』1月2日  
 文化的協力の精神『新愛知』1月10、11日[『北海タイムス[夕刊]』1月12、13日]  
 島国から大陸へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月13日[『理想と現実』収録]  
 具体的な政治[「興亜議会に臨む」]『大阪毎日新聞』1月19日  
 物理と心理[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月20日[『理想と現実』収録]  
 我が国民性を語る座談会『国際観光』7-1、1月25日[座談会：近藤壽治、多田督知、谷川徹三、久松潜一、山田吉彦、和辻哲郎ほか]  
 戦争と民族的感情『セルパン』97、2月1日  
 事変歌集を瞥見して『短歌研究』8-2、2月1日[「『支那事変歌集』を瞥見して」と改題『日本の短詩形文学』収録]  
 書窓閑話『日本評論』14-2、2月1日  
 民族と文学—特に日本文学に就て—『理想』93、2月1日  
 大学の自由[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月3日[「大学の自治」と改題『理想と現実』収録]  
 政党の更生策を練る『東洋経済新報』1852、2月4日【11月25日座談会：川崎克、桜井兵五郎、作田高太郎、浜田国松、牧野良三、河野密、田川大吉郎、山崎達之助、石橋湛山、馬場恒吾】  
 日本の文化的使命『ラヂオ講演講座』62、2月5日  
 国際的文化交通と写真『[季刊]写真文化』<国際報道写真協会>2、2月10日[『カメラ時代』124、1966年12月、『如是閑集6』収録][初出掲載誌は日本カメラ博物館JCHライブラリー所蔵]  
 民族の抗争と協和[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月10日[『理想と現実』収録]  
 時局下慰安放送の根本問題『放送』9-2、2月15日  
 『学外』と『学内』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月18日[『理想と現実』、『評論集』、『如是閑集4』収録]  
 後天的性格[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月24日[『理想と現実』収録]  
 日本的性格の形態的表現—特に政治と芸術—toに就て『知性』2-3、3月1日  
 日本芸術の国民的基調『東方公論』14-3、3月1日  
 日本人の知性[「新知性の創造」]『日本評論』14-3、3月1日  
 時の問題に関連して『婦人之友』33-3、3月1日  
 大先輩記者座談会『サンデー毎日』18-12、3月10日【座談会：大谷誠夫、神近市子、倉辻白蛇、丸山幹

治、福良竹亭、上司小剣、阿部真之助】

Civilization and Communication —Especially in Japan's Case— 『Nippon』 17、3月18日

日本画の過去と将来『塔影』 15-3、3月20日

貴重な平凡[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 3月31日

文化外交を語る座談会『科学ペン』 4-4、4月1日【座談会：堀口九万一、笠間梶雄、三谷隆信、三宅駿一、三島章道、竹内芳樹】

二十世紀の科学[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 4月7日[『理想と現実』収録]

巻頭言『江戸読本』 2-5、4月10日

弱味が強味[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 4月14日[『理想と現実』収録]

欧大陸と支那大陸[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 4月21日[『理想と現実』収録]

富の倫理[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 4月28日[『理想と現実』収録]

[「放送会館の印象」] 『放送』 9-5、5月15日

森・金子とスペンサー『外交』 398、5月17日[竹内夏積編『民族外交の顔』(岡倉書房、1940年)収録]

声の道徳[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 5月5日[『理想と現実』収録]

今度のエヤーゲール『アサヒグラフ』 32-19、5月10日

科学的規律[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 5月12日[『理想と現実』収録]

言語の魅力[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 5月19日[『理想と現実』収録]

統制時代と創造心[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 5月26日[『理想と現実』収録]

河竹繁俊・柳田泉著『坪内逍遙』[「読書」] 『東京朝日新聞』 5月29日

天狗芸術[「読書随筆」] 『読売新聞[夕刊]』 5月30日

人々の志をよるこびて[「口絵」] 『婦人之友』 33-6、6月1日

一元的教育[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 6月2日[『理想と現実』収録]

『学生お断り』[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 6月9日[『大陸日報』 6月30日に転載。『理想と現実』収録]

輸出映画の差別観[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 6月16日[『理想と現実』収録]

形の規制[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 6月23日[『大陸日報』 7月14日、『南洋日日新聞』 9月5日に転載]

雅号の由来『東京朝日新聞[夕刊]』 6月23日

新秩序と旧秩序[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 6月30日[『理想と現実』収録]

日本女性の性格『新女苑』 3-7、7月1日

学問に於ける民族性—並びに日本の学問の特性に就て— 『日本評論』 14-7、7月1日

芸術の日本的特徴—日本映画に現はれた国民的性格— 『文芸春秋』 17-13、7月1日

海外隣保の教育[「一日一題」] 『読売新聞[夕刊]』 7月7日[『理想と現実』収録]

漢語漢字の教育[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月14日[『理想と現実』収録]

商人と人間[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月21日[『理想と現実』収録]

古物美について『瓶史』36、7月30日[『礼の美』収録]

\*科学的規律『警防公論』7月

国際映画コンクールと日本映画『日本映画』4-8、8月1日[『日本映画論』収録]

夏の日本『日本評論』14-8、8月1日

七人への期待[「北京留学生教育報告展覧会を觀て」]『婦人之友』33-8、8月1日

夏の女性[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月4日[『理想と現実』収録]

都会の聖域[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月11日[『理想と現実』収録]

政治的力量[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月18日[『理想と現実』収録]

政治の性格[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月1日

弛緩の危険[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月8日[『如是閑集4』収録]

漢語漢字の教育『南洋日日新聞』9月11日

願望的思考[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月15日[『南洋日日新聞』10月6日に転載]

試験の問題[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月22日[『理想と現実』収録]

第二次大戦と欧州文明『改造』21-11、9月28日

優生道徳[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月29日[『理想と現実』収録]

忠実な祖述者ヒットラー[「時評」]『東洋經濟新報』1888、9月30日

緑地文化の日本の特徴『公園緑地』3-10、10月1日

文化の創造・混淆及び模範『思想』209、10月1日

映画政策の基礎的問題『日本映画』4-10、10月1日[『日本映画論』収録]

本居宣長の文学論『日本評論』14-10、10月1日

世界新情勢の中に立つ『婦人之友』33-10、10月1日【9月13日座談会：芦田均、石渡壮太郎、大蔵公望、清沢淵、鈴木梅太郎、杉森孝次郎、三田村篤志郎、三宅雪嶺、三宅驥一、山本忠興、羽仁吉一、羽仁もと子】

日支文化関係の更新に就て『国際文化』6、10月4日

新組織の犠牲者[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月6日

平凡な感想[「欧州大戦に直面して」]『中央公論』54-11、10月10日

魂と機械[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月13日[『理想と現実』収録]

宣伝の妙[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月20日[『理想と現実』収録]

文展の冷却[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月27日

古典文化の現代的生命—特に日本の場合の特殊性『公論』2-9、11月1日

生活文化と美術文化『美術』14-11、11月1日



- 優生道德『優生学』16-11、11月1日
- 力の不足か創意の不足か[「時評」]『東洋経済新報』1894、11月4日
- 師範教育[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月10日[『理想と現実』収録]
- 素人揃ひ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月17日[『如是閑集4』収録]
- Language of delicacy『Nippon』20、11月20日
- 日本の司法制度、11月[初出未詳、『理想と現実』収録]
- 東洋的性格の多元性『知性』2-12、12月1日[『我觀中国』収録]
- 武士道と婦道『新女苑』3-12、12月1日
- 模倣文明の媒介としての映画『文化日本』3-12、12月1日[『日本映画論』収録]
- 日本語の取り戻し[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月1日[『理想と現実』収録]
- 『独善』の矯正[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月8日[『如是閑集4』収録]
- 大国民と小国主義[「時評」]『東洋経済新報』1900、12月9日
- 第二次大戦と共に推移する世界の文化『改造』21-14、12月15日【座談会：野上豊一郎、谷川徹三】
- 明るい闇取引[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月15日
- 広告の道徳性『三田広告研究』27、12月20日
- 芸術の日本的特質『教育研究』507、12月21日
- 選手制度[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月22日[『理想と現実』収録]
- 贈答『心』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月29日[『理想と現実』収録]
- 歳末所感『東京朝日新聞』12月31日

## 1940(昭和15)年

- 洋画に於ける日本的感性『アトリエ』17-1、1月1日
- 国際日本の淵源[「新春随想」]『エコノミスト』18-1、1月1日
- 日本文化の検討『改造』22-1、1月1日【座談会：和辻哲郎、大西克礼、柳田国男、今井登志喜】[『柳田国男対談集』(筑摩書房、1964年)収録、『柳田国男対談集』を底本として『和辻哲郎座談』<中公文庫>(中央公論新社、2020年)収録]
- 日本文明の背景『新愛知』1月1、4日(『福岡日日新聞』1月1日、『北海タイムス』1月1日、『河北新報』1月14日)
- 自由学園[グラビア]『新女苑』4-1、1月1日
- 日本歴史の持続的性格—皇紀二千六百年に因みて—『中央公論』55-1、1月1日[宇田尚編『思想建設・興亜の理念』(広文堂、1940年7月4日)、『如是閑集7』収録。加筆して『続日本性格』収録]
- 文化映画の概念と技術『日本映画』5-1、1月1日[『日本映画論』収録]
- 国民的性格の概念『日本評論』15-1、1月1日
- 明治時代を語る[「講筵十二月月」]『婦人之友』34-1、1月1日

病について『医事衛生』10-1、2、1月3、17日

歴史を生かす道[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月5日[『理想と現実』収録]

青年に望む 基準を持って 日本的感性の涵養『帝国大学新聞』793、1月8日【インタビュー】

部分「人」[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月12日

人間と機構[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月19日

日本人の芸術的関心の素質『読売新聞』1月21、23、24日

新形式の創造[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月26日

政変の意義と経済政策を語る『東洋経済新報』1905、1月27日【座談会：堀切善兵衛、大口喜六、小江利得、高橋亀吉、桜井兵五郎、作田高太郎、清瀬一郎、三輪寿壮、石橋湛山】

経済心と道徳心[「時評」]『東洋経済新報』1906、2月3日

服装文化の日本的特徴『被服』11-2、2月15日

英式と米式[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月16日

考査法の問題[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月23日[『理想と現実』収録]

Plurality of Oriental character『Contemporary Japan』9-2、2月

日本文化の性格に就て『形成』4、3月1日

日本語の洗練性に就いて—標準語と地方語との関係—『月刊民芸』2-3、3月1日[谷川健一編『叢書わが沖繩 第2巻』(木耳社、1970年)、『沖繩文学全集 第14巻 証言・記録1』(国書刊行会、2010年)収録]

[「『日英独仏国解辞典』評]『書齋』4-3、3月1日

日本女性の伝統的性能—武士道との関係—『新女苑』4-3、3月1日

芸術的感性の持続—日本芸術の特徴『知性』3-3、3月1日

犬に馴らされる『動物文学』63、3月1日[『動物文学』49-2、1983年7月再録]

道路芸術の日本的形式『道路』2-3、3月1日

現代日本の女性美『婦人朝日』17-3、3月1日

私の節米観『糧友』15-3、3月1日

「当座式」科学[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月8日

労働者の有関教育[「時評」]『東洋経済新報』1911、3月9日

日・支の或る違ひ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月15日[『理想と現実』収録]

優生法是非[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月29日[『理想と現実』収録]

無学者文学『改造』22-6、4月1日

文化形態の民族性と世界性『日本評論』15-4、4月1日

現代女性の道徳 特に日本の女性の場合『婦人公論』25-4、4月1日

『躰』教育[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月5日[『理想と現実』収録]

戦争と文明『外交』438、439、4月8、15日

- 文明能力の試練[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月12日
- 物価と国民性[「時評」]『東洋経済新報』1916、4月13日
- 『精動』の積極面[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月19日
- 徹底的是正[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月26日
- 民謡教育『改造』22-8、5月1日
- 日本人の技術的性能『科学主義工業』4-5、5月1日[『続日本の性格』収録]
- 芸術教育の基本問題『日本映画』5-5、5月1日[『日本映画論』収録]
- 「この頃の問題」を語る『婦人之友』34-5、5月1日【4月10日座談会：大口喜六、大蔵公望、桑木或雄、小西重信、清沢洌、津久井龍雄、杉森孝次郎、湯沢三千男、羽仁吉一、羽仁もと子】
- 芸術の保護統制『東京朝日新聞』5月12～14日【(1)アカデミーの必然性に就て、(2)職業的墮落より阻止す、(3)国民的鑑賞力が基調】
- 南洋と日本[「時評」]『東洋経済新報』1921、5月18日
- 日支の文化的交流『昭徳』5-4、5月20日[財団法人司法保護協会「昭徳」編集部編『日本文化の性格』(文録社、1941年7月15日)、復刻版『日本文化の性格』<叢書日本人論 23>(大空社、1997年)収録]
- 出版界批判 世界有数の読書国民『読売新聞[夕刊]』5月24日
- Foreign culture and the Japanese 『Nippon』22、5月25日
- 明朗と厳肅[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月31日[『理想と現実』収録]
- 映画の「型」をつくれ 長谷川如是閑氏を訪ねて[「フォトインタビュー」]『映画之友』18-6、1940年6月1日
- 型の芸術(蚊の睫)『改造』22-10、6月1日
- 戦争は文明を破壊するか『東方公論』15-6、6月1日
- 都市文化の過去と現在—特に我国の特徴について—『都市問題』30-6、6月1日
- 日本芸術の伝統的特徴『日本評論』15-6、6月1日[『失はれた日本—日本の教養の伝統—』収録]
- 民族とスポーツ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月7日[『理想と現実』収録]
- 固有の感覚『文芸世紀』2-7、6月12日
- イタリヤ文明[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月14日
- 産業人と教育[「時評」]『東洋経済新報』1926、6月22日
- 誤った伝統[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月28日[『理想と現実』収録]
- 軍事能力と経済能力、6月[初出未詳、『理想と現実』収録]
- イタリアから『暖流』へ(蚊の睫)『改造』22-12、7月1日[一部を「『暖流』と女優」と題して『日本映画論』収録]
- 座談会 緑蔭清談『科学ペン』5-7、7月1日【座談会：石原純、式場隆三郎、辻二郎、山谷太郎】
- 日支文化交流の基点『大陸』3-7、7月1日[「中日文化交流の基点」と改題『我観中国』収録]
- 日本人の生活に於ける美術『道路』2-7、9、7月1日、9月1日

『民族の祭典』所感『日本映画』5-7、7月1日[「民族の祭典所感」と改題『日本映画論』収録]

ナチスの興奮[談]『話』8-7、7月1日

物か心か[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月5日[「文明の奢侈」と改題『理想と現実』収録]

生活の規格[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月12日[『南洋日日新聞』8月19日に転載]

組織の国民的特性[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月26日[『如是閑集4』収録]

森鷗外の感想『改造』22-14、8月1日

奢侈と文明『日本評論』15-8、8月1日

贅沢禁止と生活文化『婦人之友』34-8、8月1日【座談会：佐野利器、高橋三吉、高橋亀吉、谷川徹三、谷井吉郎、富塚清、和田三造、羽仁吉一、羽仁もと子】

風土の自主性[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月9日

国語の海外進出[「時評」]『東洋経済新報』1933、8月10日

国民芸術の意義と日本芸術の特性『放送』10-8、8月15日

新秩序の一条件[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月16日

科学と感性[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月23日[『理想と現実』収録]

The characteristics of present Japanese culture『Nippon』23、8月25日

『日本政治』学[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月30日[「『日本政治』」と改題『理想と現実』収録]

婦人と虚栄『愛育』6-9、9月1日

日本文学の鑑賞『学苑』7-9、9月1日

故きを温ねて（蚊の睫）『改造』22-16、9月1日

本格的洋画への精進『新制作派』5、9月1日

創造的都市形態[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月6日[『理想と現実』収録]

日支文化提携の基礎的条件—日支文化協力と支那的性格『現地報告』36、9月10日

公益と私益[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月13日

日本研究熱[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月20日[『理想と現実』収録]

来るべき文明の性格—特に都市文明の清算について—『日本評論』15-10、10月1日[『如是閑集6』収録]

生活新体制を語る『婦人之友』34-10、10月1日【座談会：阿部真之助、大口喜六、細木盛枝、田沢義鋪、東畑精一、羽仁吉一、羽仁もと子】

日本的感覚の表現（蚊の睫）『改造』22-20、11月1日

風俗文化に就て—特にその日本的特性『科学ペン』5-11、11月1日

『文字の文学』と『言語の文学』『図書』58、11月5日[「『文字の文学』と『言葉の文学』」と改題『言葉の文化』収録]

隠居論今昔（蚊の睫）『改造』22-22、12月1日

文化更新時代と女性文化『新女苑』4-12、12月1日

文学の歌と生活の歌—歌の日本的特徴—『短歌研究』9-12、12月1日[「歌の日本的特徴」と改題『日本の短詩形文学』収録]

学生の本分 まづ学問・良識を備えよ『東京日日新聞』12月19日

女性生活の新体制と伝統的性格『新興婦人』7-1、12月20日

## 1941(昭和16)年

都市の性格に於ける世界的と日本的『建築と社会』24-1、1月1日

国民性と国際性『産業組合』423、1月1日

国民生活の抛りどころ『新愛知』1月1、2、4~7、9~11日(新生活の抛り処座談会『福岡日日新聞』1月8~12、14日)【12月10日座談会(於日比谷山水楼):喜多壮一郎、岸田国土、新居格、辻一郎、岩淵辰雄】

歌を詠む心と態度『短歌研究』10-1、1月1日[『日本の短詩形文学』収録]

旧慣の形と心[「点滴」]『中央公論』56-1、1月1日

日本芸術の象徴性—『かた』の形と心—『日本映画』6-1、1月1日[『日本映画論』、『如是閑集7』収録]

民族と文化—特にその日本の性格—『日本評論』16-1、1月1日

俳諧の文学的性格『俳句研究』8-1、1月1日[『日本の短詩形文学』収録]

座談会 家族精神を語る『婦人之友』35-1、1月1日【座談会:安倍能成、今井登志喜、大口喜六、佐野利器、中川善之助、湯沢三千男、羽仁吉一、羽仁もと子】

日本の古典『文芸』9-1、1月1日【対談:折口信夫】[『折口信夫対話1 古典と現代』<角川選書67>(角川書店、1975年)、『折口信夫対談』<折口信夫全集 別巻3>(中央公論新社、1999年)収録]

日本の家『文芸春秋』19-1、1月1日

新文化への発足 文明の更新と国民性『神戸新聞』1月2日[『北日本新聞』1月2日]

新体制運動と国語の統一『読売新聞[夕刊]』1月14~19、21、24~26、28、30日、2月1日【座談会:石黒修、加田哲二、岸田国土、倉野憲司、小川和夫、保科孝一、三木清】[『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版、2018年)収録]

道徳・情操・科学『東京日日新聞』1月18~20日

美術家の芸術的態度とその新体制『アトリエ』18-2、2月1日

国土計画と都市文化『都市問題』32-2、2月1日

日本的教養—その特徴としての直観性—『日本評論』16-2、2月1日[「日本的教養の直観性」と改題『続日本的性格』収録]

農村と労務者の文化『月刊民芸』3-3、3月1日[座談会:大原総一郎、暉峻義、坂倉準三、柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司、芹沢銈啓、外村吉之介、柳悦孝、浅野長量、式場隆三郎、田中俊雄]

日本文化の特質『新若人』1-7、3月1日

造型美の日本の性格 審美性と倫理性との合致『造形芸術』3-3、3月7日[『戦争美術の証言 上』<美術批評家著作選集 第20巻>(ゆまに書房、2017年)収録]

東洋に於ける民族と思想『中央公論』56-3、3月1日【対談:橘樸】

座椅子に倚りて(一人座談)－日本の生活文化と芸術－『日本評論』16-3、3月1日  
 帝国芸術院へ 古典美術常設館の開設を[「注文帖」]『読売新聞[夕刊]』3月25日  
 生活の倫理性－日本の倫理性の基調『改造』23-7、4月1日[『続日本的性格』収録]  
 詠む心と読む心 二三の歌集について『短歌研究』10-4、4月1日[「二三の歌集について」と改題『日本の短詩形文学』収録]  
 国語国字の諸問題『中央公論』56-4、4月1日【座談会：島崎藤村、金田一京助、谷川徹三】[『藤村全集別巻上』(筑摩書房、1974年)収録]  
 国語の文化的性格－特に漢語との交渉に現はれた特徴－『文学』9-4、4月1日[『言葉の文化』収録]  
 座談会 時代は教育する『婦人友』35-4、4月1日【座談会：岸田国土、郷古潔、小西重直、富塚清、宮本武之輔、羽仁吉一、羽仁もと子】  
 日華文化交流の将来を語る 長谷川如是閑・谷川徹三両氏と中国新聞記者団の対談『観光』1-1、4月20日【3月10日座談会(於丸の内ホテル)：谷川徹三、趙慕儒、雀耀廣、劉石克、王敬如、湯瀬、劉慕清、王羽中、顔焯提、何鏞、草野心平、譚覺眞、木村隆規、富山清憲、横田巖】  
 日本倫理学の性格－特に儒教倫理学の日本化に就て『改造』23-9、5月1日[『続日本的性格』収録]  
 生活文化と科学『科学主義工業』5-5、5月1日  
 歴史映画の芸術的性格『日本映画』6-5、5月1日[『日本映画論』収録]  
 文化映画の文化性『文化映画』1-5、5月1日[『日本映画論』収録]  
 芸術今昔『文芸』9-5、5月1日  
 芸術の日本的性格[第4回大毎文化講座講演要旨、文責在記者]『大阪毎日新聞』5月6～8日(日本の芸術『東京日日新聞』5月6～8日)[大阪毎日新聞社編『文化講座』(大阪毎日新聞社・東京日日新聞社、1942年12月30日)収録]  
 婦人の危険期『愛育』7-6、6月1日  
 生活文化に於ける古典 日本の生活文化の特徴『イタリヤ』1-3、6月1日  
 地方文化一夕話『月刊民芸』3-5、6月1日[5月19日座談会(於日本民芸館)：岸田国土、柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司、芹沢銈啓、浅沼喜実、外村吉之介、村岡景夫、田中茂、式場隆三郎]  
 古典文明と近代文明－特に日本の場合に就て－『現代』22-6、6月1日  
 東亜の精神文化と日本『国際文化』14、6月7日[「東亜の精神文化」と改題『我観中国』収録]  
 読書の態度『読売新聞』6月7、8、10日[『日本古書通信』143、7月5日に転載]  
 [題字]『詩と美術』3-4、6月10日  
 反省『早稲田大学新聞』218、6月25日  
 日本人の住ひと住み方『アトリエ』18-7、7月1日[『続日本的性格』収録]  
 外交文書の辞令『外交』490、7月1日  
 [「ハガキ通信」]『少年保護』6-7、7月1日  
 国語の性格[「曳光弾」]『東京朝日新聞』7月1日  
 文化語と生活語－特に日本語の特徴について－『日本語』1-4、7月1日[『言葉の文化』収録]

- 国語文化のために『婦人画報』449、7月1日
- 芸術性と科学性—日本文化に於ける—『文化日本』5-7、7月1日[『続日本的性格』収録]
- 鼎談会 科学と文化『科学主義工業』5-8、8月1日【鼎談：谷川徹三、辻二郎】
- 涼風対話[口絵]『婦人公論』26-8、8月1日
- 鳥籠[口絵]『婦人之友』35-8、8月1日
- 言語の芸術[講演要旨(於国語協会総会)、文責在記者]『国語運動』5-8、8月15日
- 『歌集開墾』読後感『橄欖』20-9、9月1日
- 家族制度と女性の立場『新女苑』5-9、9月1日【座談会：穂積重遠、今日出海、橋浦泰雄、長谷川時雨】
- 和服の持つ約束とその着方[「現代女性の服装調査の批判—日本衣服の基準と方向—」]『婦人画報』451、9月1日[『婦人雑誌』がつくる大正・昭和の女性像 第11巻 美容・服飾・流行2』（ゆまに書房、2015年）収録]
- 私の幼い頃の先生[「わが師わが友」]『婦人公論』26-9、9月1日[『わが師わが友』（筑摩書房、1942年）収録]
- 現代人の教養『日本教育』1-6、9月5日【座談会：前田隆一、釘本久春、吉田延義、中村一良、阿部仁三】
- \*生活の二面『青年講座』＜社会教育協会＞175、9月
- 東亜の文化を語る『科学ペン』6-10、10月1日【座談会：杉森孝次郎、太田正雄、後藤末雄】
- 犬と人間の言葉[「動物に就いての思索」]『動物文学』82、10月1日[『動物文学』50-1、1984年3月再録]
- 秋日抄『東京朝日新聞』10月8日
- 観光の日本的性格『観光』1-7、10月20日
- 国土の自然と文化『国立公園』13-5、10月30日[『国立公園』481、1990年3月再録]
- 美術の国民性『国民美術』1-1、10月1日
- 文化更新の時代—特に日本の場合『知性』4-11、11月1日
- 文化に於ける科学と直観—並に科学文化の国民性に就て—『日本評論』16-11、11月1日
- 言葉と教養と修養『婦人之友』35-11、11月1日
- 「歩け、歩け」[「好日随想」]『読売新聞』11月5日[読売新聞文化部編『好日随想』（光風館、1942年）収録]
- 日本語の論理性と情操性『日本語』1-8、12月1日[『言葉の文化』収録]
- 日本の美と日本人の心『婦人画報』454、12月1日
- 新聞紙の文化的使命『東京朝日新聞』12月2～4日【(1)明治初期の頃、(2)通俗文化を目標、(3)時局と性格発揚】[『如是閑集6』収録]
- 国民文化と民謡『科学文化』1-1、12月5日
- 新しき東洋文化の創造『大陸』4-12、12月7日【鼎談：和田清、小泉丹】
- \*再自嘲用米峰韻『吾徒』45、12月

## 1942(昭和17)

- 日本と東亜文化『伊勢新聞』1月1日
- 日本民族と海『海』12-1、1月1日
- 読書『改造』24-1、1月1日【座談会：出隆、羽仁五郎、柳田国男】
- 書齋精神『書齋』6-1、1月1日
- 工芸に於ける制作精神—その日本の特徴—『造形教育』8-1、1月1日
- 国語の多様性について『短歌研究』11-1、1月1日[「国語の多様性と歌謡」と改題『日本の短詩形文学』収録]
- 海と日本—日本文明の淵源について—『日本評論』17-1、1月1日
- 女性美の象徴[口絵欄]『婦人公論』27-1、1月1日
- 女性美の刷新[「新女性精神の建設」]『婦人日本』8-1、1月1日
- 写真の文化的機能 付・所謂宣伝写真に就て『報道写真』2-1、1月1日
- 日本と東亜文化『京都日出新聞』1月3、4日
- 日本の工芸の性格『画論』5、1月10日
- 緊張する心 大詔拝し知識人の弱さ一擲『読売新聞』1月10日
- 試練に耐へる力[「青年講座」]『合同新聞[夕刊]』1月29日
- 日本文化の基礎的条件『読書人』2-2、2月1日
- 映画の日本的芸術性『日本映画』7-2、2月1日[『日本映画論』収録]
- 座右の書『言志四録』[「読書随想」]『婦人之友』36-2、2月1日
- 南進と文化性 大東亜文明圏の樹立『東京日日新聞』2月11～13日
- 南進と日本文明『受験界』23-3、3月1日
- 丸山幹治著硯滴・余録[「読書」]『東京日日新聞』3月1日[『如是閑集1』収録]
- 文部省の漢字制限は大賛成 だが実用と教養は別[「読書余談」]『日本読書新聞』190、3月9日[「漢字の実用と教養は別」と題して、木下公一郎編『漢字整理の問題』(日の出書院、1943年2月25日)収録]
- [「皇紀二千六百一年芸能祭コンクール文化映画の作品について」]『文化日本』6-4、4月1日
- 日本民族の優秀性『日本評論』17-4、4月1日[『続日本的性格』収録]
- 長谷川如是閑氏を囲んで共栄圏の文化対策を聴く[4月18日(於丸の内会館)]『国策研究会週報』4-17、4月25日
- 演劇と民族的伝統並びに演劇の日本的性格『演劇』2、5月1日
- 共栄圏の文化問題 如是閑氏と一問一答『国策研究会週報』4-18、5月2日【4月18日座談会(於丸の内会館)：下村海南ほか】
- 国民的教養としての俳諧『俳句研究』9-5、5月2日
- 宣伝の日本的性格『宣伝』8725、5月15日
- 南方文化に関する考察『国際文化』19、5月21日



- 国民文化の発展性—日本文化から大日本文化へ—『科学文化』2-6、6月1日
- 学生と読書『学生』<研究社刊>26-3、6月1日
- 世界の日本と少国民文化『少国民文化』1-1、6月1日
- 大東亜戦争と日本少国民『少国民文化』1-1、6月1日【座談会：吉川英治、阿部仁三、川島四郎、日暮豊年、一二三利高、前田隆一、菅井準一、小野俊一、上村哲哉、波多野完治、百田宗治】
- 日本の感覚の育成『新女苑』6-6、6月1日[『教育修身公民研究』145[臨時増刊号<日本の錬成教育方法研究>]、11月28日に転載]
- 短歌と語感の習性『短歌研究』11-6、7、6月1日、7月1日[『日本の短詩形文学』収録]
- ことばの躰と性格の躰『婦人公論』27-6、6月1日
- 古典の民族性と日本古典『文学』10-6、6月1日
- 聖戦と天心 第六回大詔奉載日を迎えて『都新聞』6月8日
- 揺ぎなき歴史的精神 明治・昭和の国民的性格[「明治の指導精神」]『日本読書新聞』203、6月8日
- 東洋的性格と西洋的性格『新文化』12-7、7月1日
- 文化的性格の更新—東洋的性格の新発見『日本評論』17-7、7月1日
- 新文化の創造『日本評論』17-7、7月1日【討議：和辻哲郎、肥後和男、三枝博音、佐藤信衛、室伏高信】
- 国民的性格と文化『文化日本』6-7、7月1日
- 本居宣長『文芸』10-7、7月1日[対談：村岡典嗣]
- 南方文化工作の理念と軍の態度『中外日報』7月26、27、29～31日、8月1、2、4～9、11、12日【座談会：堀田吉明、広石権三、高橋順次郎、宇野円空、赤神良讓、本荘可宗、大森亮順、谷口虎山、朝倉■瑞】
- 文化性と生存性 民族文明の逆説的性格『中央公論』57-8、8月1日
- 国家と学問『改造』24-8、8月1日【座談会：和辻哲郎、高田保馬、牧野英一、小泉丹】
- 文化映画に於ける科学性と芸術性『日本映画』7-8、8月1日[『日本映画論』収録]
- 日本の美に就て『日本美術』1-4、8月1日
- 今も残る漱石の批評 遠い昔の排泄物“額の男”[「処女出版の思ひ出」]『日本読書新聞』211、8月3日[平岡敏夫編『夏目漱石研究資料集成 第10巻』(日本図書センター、1991年)収録]
- 大東亜共栄圏の樹立と国民教育『少年保護』7-9、9月1日[『日本教育の伝統』収録]
- 美術館賞の倫理『生活美術』2-9、9月1日
- 日本語理解の困難性[巻頭言]『日本語』2-9、9月1日
- 職場々々が教育の場 科学的に組織立てよ[「学制改革とその課題」]『都新聞』9月5日
- 言葉の心『国語文化』2-11、10月1日
- ある母親『新女苑』6-10、10月1日
- 職能教育と国民的教養『青少年指導』8-9、10月1日
- 言語教養の意義と方法『日本語』2-10、10月1日[『言葉の文化』収録]
- 座談会 大東亜と人材『婦人之友』36-10、10月1日【8月17日座談会(於婦人之友社明日館)：石原励、

田沢義鋪、蟬山政道、郷古潔、仁科芳雄、羽仁吉一、羽仁もと子】

写真の記録性と報道性『写真文化』25-5、11月1日

私の青年の頃『知性』5-11、11月1日

世阿弥の芸術論に於ける『物まね』『文学』10-11、11月1日

新理念の確立と言論『東洋経済新報』2047、11月14日【座談会：杉森孝次郎、谷川徹三、大熊信行、竹本孫一、金子弘、石橋湛山】

全東亜の結合へ 理念確立の力強い第一歩[「大東亜文学者会議第一日の印象から」]『朝日新聞』11月5日  
教育の今昔『図書』82、11月5日

日本の感覚の育成『教育修身公民研究』145[臨時増刊号<日本の錬成教育方法研究>]、11月28日[『新女苑』6-6、6月1日から転載]

大東亜戦争と女性『愛育』8-12、12月1日

民族的生活の精神性—日本民族の場合—『日本評論』17-12、12月1日

総合賞候補作品の審査について[「文化映画賞の成果と批判」]『文化日本』6-12、12月1日[「『空の神兵』その他」と改題『日本映画論』収録]

座談会 必勝の道『婦人之友』36-12、12月1日【座談会於(婦人之友本社明日館)：天羽英二、石渡荘太郎、杉森孝次郎、東浦庄治、松本重治、羽仁もと子】

日本文明の伝統的特徴『朝鮮及満洲』397、12月5日

大東亜戦一周年記念座談会 日本の自覚・自信・決意を語る『東洋経済新報』2050、12月5日【11月18日座談会(於東洋経済新報本社)：大熊信行、野村重臣、秋山謙蔵、小林元、岩井主蔵、石橋湛山、宮川】

歳晚随想『朝日新聞』12月30、31日【(上)日本歴史の躍進、(下)全国民的の精進】

正しい国語の普及 映画も標準語で[「勝ち抜くため・官民間答」]『東京日日新聞』12月31日

## 1943(昭和18)年

国民音楽の問題—日本文化の性格から見て『音楽公論』3-1、1月1日

大東亜戦争と国民生活—その理念と実践—『科学文化』3-1、1月1日

[「日本映画賞審査会記」中の談]『日本映画』8-1、1月1日[「『父ありき』と『母子草』」と題して『日本映画論』収録]

国語の将来のための反省[「国語の将来と反省」]『日本語』3-1、1月1日

日本美の確認[「文化」]『東京新聞』1月2、4、5日【生活の美としての二つの意味、服装を特徴づける倫理的な性格、倫理性は芸術の全分野を貫く】[「礼の美」(一条書房、1944年)、「美の倫理性」と改題『礼の美』(河原書店、1947年)収録]

生産と創造と教育『日本教育』2-10、1月5日【座談会：伊藤鈴嗣、山本峰雄、塩野直道、曾根松太郎、藤谷重雄】

大東亜の文化を語る『東大陸』21-1、1月8日【12月5日座談会(於三宅雪邸)：三宅雪嶺、白柳秀湖】

私の保存法『婦人之友』37-2、2月1日

- 劇映画と日本の生活『日本映画』8-2、2月1日[『日本映画論』収録]
- 歴史の性格『日本評論』18-2、2月1日【対談：今井登志喜】
- 古ローマの断片—ローマ会遊の想ひ出『イタリア』3-3、3月1日
- 主観性と客観性[「アルス写真文化賞受賞に際して土門拳氏におくる言葉」]『写真文化』26-3、3月1日[『土門拳写真集 風貌』(K.K.アルス、1953年)収録]
- 国語の反省『日本語』3-3、3月1日【座談会：佐藤春夫、湯沢幸吉郎、西尾実、福田恒存】
- 古典と日本人 撃ちて止まむ “血の継承”『朝日新聞』3月6日
- 大東亜文化圏の史的意義[「特別寄稿」]『太平洋』6-3、3月7日
- 教育に於ける典型的性格と創造的個性『教育』11-4、4月10日
- 雪嶺哲学と膨大なる総合哲学『朝日新聞』4月30日
- 文化感覚の検討『現代』24-5、5月1日【座談会：尾崎士郎、田中忠雄、浅野晃、豊川昇、高橋建二、前田隆一】
- 古典的性格と日本民族『短歌研究』12-5、5月1日
- 日本の生活に於ける性能と精神との合一並びにその育成に就いて『日本教育』3-2、5月5日[「性能と精神との合一並びにその育成」と改題『日本教育の伝統』収録]
- 雪嶺哲学と一雄弁なる総合哲学—[「文化勲章拝授の三宅雪嶺先生を語る」]『実業之世界』40-5、5月10日
- 生活の節度『毎日新聞』5月28、29日【海外発展の為の日本の性格、日本人の性格に固有な規格美】[『礼の美』収録]
- 文学と国民的教養『文学』11-6、6月1日
- 日本人の生活—都会文化と地方文化の関係について—『少国民文化』2-6、6月1日
- 文化をもつ心『新風土』6-6、6月1日
- 造型美術の精神性『生活美術』3-6、6月5日
- 適性活用の教育[「学徒の動員計画について」]『朝日新聞』6月27日
- 語感の変遷と持続『日本語』3-8、8月1日
- 言葉の節約『日本評論』18-8、8月1日
- 写真の基礎問題『報道写真』3-8、8月1日
- 体験から[「夏に鍛ふ」]『帝国大学新聞』953、8月2日
- 日本の生活の精神『日本大学文学部研究年報』9、8月10日[『礼の美』(一条書房、1944年)、「生活の精神」と改題『礼の美』(河原書店、1947年)収録]
- 劇芸術の本質と映画批評『日本映画』8-10、10月1日
- 日本的人生観[「決戦即応の国民座右銘」]『朝日新聞』10月1日
- 行脚文学—宗祇と芭蕉—[「芭蕉二百五十年忌特輯」]『俳句研究』10-11、11月2日[久富哲雄監『芭蕉研究論稿集成 第2巻 芭蕉特輯雑誌集』(クレス出版、1999年)収録]
- 大東亜文化の昂揚『毎日新聞』11月12、13日

芸術の型と「生き方」の型『日本映画』8-12、12月1日

西鶴文学と時代の教養『西鶴研究』4、12月25日[『西鶴研究資料集成 昭和18年～20年 補遺 執筆者別索引』(クレス出版、2011年)収録]

### 1944(昭和19)年

大東亜文化の昂揚『マニラ新聞』1月4、5日【上：割拠性を打破、下：総合に拠る再建】

大東亜文化の基礎『東京新聞』1月8～11日

大東亜と日本語『日本評論』19-2、2月1日【座談会：泉井久之助、時枝誠記、神保光太郎、中島健蔵】

マーシャルの勇士に捧ぐ 大いなる教訓『朝日新聞』2月26日

「同心・協力」の心理と倫理—その日本的特徴—『新風土』7-3、3月1日

疎開と「家」の性格『毎日新聞』3月28、29、31日

戦時的生活の倫理—生存の理法としての—『科学主義工業』8-4、4月1日

写真の日本的性格『日本写真』4-4、5月1日【鼎談：斎藤瀏、谷川徹三】

青屋翁の書『日本及日本人』431、5月8日[『如是閑集1』収録]

文化をもつ心『新風土』6-6、6月1日

文化史から見た万葉調復活—近代的教養と古典復興—『短歌研究』13-6、6月1日

時局と日本文学の性格『文学報国』27、6月1日

言語の教養【巻頭言】『日本語』4-7、7月1日

上下相互の信頼 歴史に見る国民の発展的力量[「文化政策を強化せよ】『毎日新聞』7月23日

\*茶道に於ける幽玄『茶道雑誌』8-6、7月

機械時代と日本的性格—日本人は「非科学的民族」にあらざ『我観』1-3、9月5日

少年学徒と時代の試練『中学生』28-7、11月1日

民族文学としての俳句『俳句研究』1-1、11月1日

大東亜文化昂揚の根本義『文学報国』39、11月1日

大野画伯追悼座談会『日本及日本人』437、11月8日【座談会：丸山幹治、都築真琴、村岡応東、山中古洞、正宗得三郎、増山隆方、寒川鼠骨、三田村鳶魚、溝部みゆき】

座談会『国民運動の指針』を語る『東洋経済新報』2148、11月11日【座談会(於東洋経済新報社楼上)：蠟山政道、杉森孝次郎、松岡駒吉、赤松克麿、清沢冽、石橋湛山】

生活異変瑣話『日本及日本人』438、12月8日

\*茶道と日本の生活『日本の茶道』10-?、?、月日未詳[2回連載]

### 1945(昭和20)年

歌に興る心『短歌研究』2-1、1月1日

- 戦争と国民的道義心『同盟世界週報』26-1、1月1日
- 戦争に勝つ科学技術『図解科学』4-3、3月1日【対談：八木秀次】
- 伝承の生活(続日本の生活)『現代』26-4、4月1日【鼎談：中井良太郎、倉田一郎】
- 疎開の科学と道徳『東京新聞』5月18、19日
- 戦争と民族的道徳性『月刊毎日』2-7、6月20日[石川巧編『幻の戦時下文学『月刊毎日』傑作選』(青土社、2019年)収録]
- [記事「壕舎生活 わが建設記」中の談]『読売報知』7月16日
- 自炊もまた楽し[「私と壕舎生活」]『朝日新聞』7月31日
- わが国民生活の弱点を知れ 再建新日本の門出に贈る『読売報知』8月28日
- 異なる認識判断の正しい表現[「新聞及新聞人の新発足」談]『日本新聞報』274、9月4日
- 「自由」の意味『新女苑』9-9、11月1日
- 対立意識の実現 ジャーナリズムの自由について『日本読書新聞』330、11月20日
- 日本民族の不合理性『新生』1-2、12月1日
- 敗けに乗じる『文芸春秋』23-6、12月1日[『文芸春秋』50-2、1972年2月1日再録、『「文芸春秋」にみる昭和史第1巻』(文芸春秋編・刊、1988年)、『如是閑集1』収録]
- 個人の幸福について 近代的幸福観『雄鶏通信』1-2、12月1日[『生活・叢智・思索』収録]

## 1946(昭和21)年

- 日本文化の後退と回復『月刊読売』4-1、1月1日
- 文化交通の自由『現代』27-1、1月1日[『如是閑集7』収録]
- 再建日本の教育『太平』2-1、1月1日
- 短歌の心理と表現『短歌研究』3-1、1月1日
- 日本の改造と民族的文化性『潮流』1-1、1月1日[『失はれた日本—日本的教養の伝統—』、白井吉見編『日本文化の反省』<現代教養全集 第15巻>(筑摩書房、1959年11月20日)、『如是閑集7』収録]
- 思想『法律新報』725、1月1日
- “自由”を語る『婦人之友』40-1、1月1日【12月2日座談会(於南沢)：安部能成、天野貞祐、関口泰、羽仁吉一、羽仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 下』(婦人之友社、2003年)収録]
- 新春対談『読売報知』1月3、4、6～9日【対談：馬場恒吾】
- 民主主義の歴史的発展『週刊朝日』48-1・2、1月6日
- 民主日本の文化的建設『新時代』13-1、1月25日
- 新日本の文化的建設への示唆『新生』2-2、2月1日
- 封建制度と封建精神—近代日本に映したその余燼『評論』1-1、2月1日
- 民主主義の歴史 特に文化的生活の民主々義について『文芸春秋』24-2「別冊1」、2月1日

人民戦線を論ず『改造』27-3、3月1日【対談：山川均】[『山川均全集 第20巻』(勁草書房、2001年)収録]

日本人の平和性と楽天性『世界文化』1-2、3月1日[『失はれた日本—日本的教養の伝統—』収録]

発言の自由『りべらる』1-2、3月1日[『如是閑集1』収録]

雪嶺翁のひとと哲学『真善美』1-3、3月8日[『三宅雪嶺・武田麟太郎・織田作之助・幸田露伴・横光利一』<近代作家追悼文集成 31>(ゆまに書房、1997年)収録]

文化座談会『朝日新聞』3月24~28日【座談会：松村広蔵、林籙、牧野英一、武者行路実篤、中島健蔵】[『教育改造』2、1946年7月1日に転載]

教育再建の指標『東京新聞』3月25~31日【座談会：野上豊一郎、小宮豊隆、城戸幡太郎】

戦争と文学者の責任『人間』1-4、4月1日

新聞論『改造』27-4、5、4月1日、5月1日【前篇：日本の専制と日本の新聞紙、後篇：日本の新聞に於ける文化性の不足】[『日本の新聞』と改題『新聞論』、『現代知性全集 32』、『選集 4』収録]

政治熱意のパロメータ[談]『読売新聞』4月8日

私はいかに見る 予想外な婦人の進出『[大阪]朝日新聞』4月14日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十一年版 II 衆議院総選挙』(新聞資料出版、1998年)収録]

大同団結せよ[「民主政治への提言」]『[大阪]毎日新聞』4月14日

民主文化と民主的生活—その基礎的条件—『青年文化』1-1、5月1日

日本女性と世界観『女性線』1-4、6月1日

無題座談会—長谷川如是閑氏を囲んで—『新樹』1-2、6月1日【座談会：新居格、石浜知行、林要、武野藤介、坂井孝、鈴木俊男、富山文雄】

平和をつくる『婦人之友』40-6、6月1日【座談会：今井登志喜、嘉治隆一、高木八尺、前田多門、山本忠興、羽仁吉一、羽仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 下』(婦人之友社、2003年)収録]

思想と言論の自由『放送』6-5、6月1日[日本放送協会編『民主主義十二講』(日本放送出版協会、1946年)収録]

欠食時代と教育『読売新聞』6月10日

少年時代は歴史好き “学校よりも図書館で” [「私は何を讀んだか」]『日本読書新聞』349、6月12日

現代知識階級論『朝日評論』1-5、7月1日[『生活・叡智・思索』、『近代日本思想大系 15』収録]

民主主義文化序説『創造』16-7、7月1日

「大の虫」と「小の虫」『読売新聞』7月7日

政治経済と文化 意志力道徳力を基底に高度文化性を育成せよ[6月12日講演要旨]『神戸経済大学新聞』1、7月10日

変革時代における科学と道徳教育『読売新聞』7月19日

大衆娯楽のあり方『読売新聞』7月21日

「安全国家」「平和国家」「世界国家」『読売新聞』7月27日

美術の民衆化『読売新聞』8月5日

- 変革時代における科学と道徳『布哇タイムス[Hawaii Times]』8月6、7日
- 工芸に於ける封建的性格『美術及工芸』1-1、8月15日
- 日本の家のあり方一家長隷属から社会的互助関係へ『朝日新聞』8月26日
- 児童文化『児童文化』1-1、9月1日
- 象徴の諸相『政界ジープ』1-2、9月1日
- 東西文化との交流と日華提携の基本的条件『潮流』1-9、9月1日【座談会：平野義太郎、鹿地亘、阿部義宗、小宮義孝、大来佐武郎、脇村義太郎、苗劍秋、徐逸樵】
- 国語と生活文化を語る『女性線』1-5、9月1日【座談会：山本有三、土岐善麿】
- 【議事進行について】『【第90回帝国議会議事録】帝国憲法改正案特別委員会議事速記録』6、9月6日
- 【憲法前文等について質問】『【第90回帝国議会議事録】帝国憲法改正案特別委員会』9、9月10日
- 【「国鉄に望む(葉書回答)」】『交通』4-10、10月1日
- 日本美術を語る『世界文化』1-9、10月1日【座談会：ウォナー、武者小路実篤、会津八一、岸田日出刀、田中豊蔵、村田良策】
- わたくしの学生時代 明治中期[「青年の変遷」]『光』2-10、10月1日
- 『家』を語る『婦人之友』40-10、10月1日【座談会：我妻栄、天野貞祐、斉藤勇、中川善之助、羽仁吉一、羽仁もと子】
- 「文明開化」時代と「民主化」時代の道徳『法律新報』732、10月1日
- 京都と鎌倉『京都日日新聞』10月7、9日
- 新憲法発布に当りて 言論出版の自由と思想良心の自由『日本読書新聞』367、10月30日
- 「力の関係」から「協同の組織」へ[「特集 ゼネスト総合批判 労働運動の現実と進路」]『改造』27-11、11月1日【『新聞論』、『選集4』収録】
- 文化国家の指標『西日本新聞』11月1～3日【座談会：横田喜三郎、今中次麿、羽仁五郎】
- 新憲法について『婦人之友』40-11、11月1日
- 丸腰の日本[「月曜時評」]『読売新聞』11月11日【『社会の動き』1946年12月15日に転載】
- \*家庭のデモクラシー座談会『サンデー毎日』25-?、【座談会：中野好夫ほか】

## 1947(昭和22)年

- グッド・オールド・デイズ[「遥かな頃遠き頃」]『アサヒグラフ』47-1、1月5日
- 新憲法の精神に就て[「教養」]『蚕糸界報』650、1月1日
- 農村演劇の流行とその在り方『農政評論』1-1、1月1日【座談会：八田元夫、村山知義、野村光一、松本和男、青柳一、塩谷成策】
- 制度・生活・思想『世界』14、2月1日
- 日本家族制度批判『婦人の世紀』1、2月20日
- 新聞および新聞人『早稲田大学新聞』22、2月21日

性の倫理と科学『性文化』1、2月26日

思想と言論の自由『警鼓』25-1、2、3、4月1日、7月1日、8月1日

非武装国家と世界的生活協同体『世界文化』2-1、4月1日

新憲法と文化『東京タイムズ』4月30日

新憲法と文化『九州タイムズ』5月1、2日

新憲法下の日本人『月刊読売』5-5、5月1日

新憲法と文化『西日本新聞』5月2日

新憲法と文化『新潟日報』5月7日

宗教人のざんげ[「時評」]『読売新聞』5月13日

国会図書館の構想『日本読書新聞』392、5月14日

随筆 文化国家とは?『経済』1-5、6月1日

新憲法と文化『月刊東奥』9-4、6月1日

新憲法と文化『護光』6月25日

新憲法と文化『月刊岡山』3-7、7月1日

世界の歴史と自分の歴史[「西洋文化と私の歩んだ道」]『玄想』1-6、7、9月1日、10月1日【第2回掲載の副題は「思想言論機関の近代的変革」】

教育の自主性『教育通信』9、10月1日

大山郁夫の帰国に際して『東京新聞』10月20、21日

言語の文化性『童話界』2-6・7、10月27日

ファッション式人口論[「時評」]『読売新聞』10月27日

三淵忠彦君 ヒューマンティイーの番人[「この人この魅力」]『キング』23-10、11月1日

中日関係の再出発[「日曜評壇」]『西日本新聞』11月16日

辰野隆対談 忘れ得ぬことども『週刊朝日』51-21、11月23日【対談：辰野隆】[辰野隆『忘れ得ぬことども—辰野隆対談集』(朝日新聞社、1948年9月25日)収録]

現代社会と宗教『大和』1-5、11月30日【対談：森戸辰男】

世界平和への一つの道『婦人之友』41-12、12月1日【11月9日座談会(於婦人之友社)：嘉治隆一、高木八尺、羽仁吉一、羽仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 下』(婦人之友社、2003年)収録]

[短歌一首]『ハワイスター』40、12月4日

\*世相と文化、掲載紙未詳、12月13日

「国家人」から「社会人」へ[「時評」]『読売新聞』12月29日

\*Must Seek Way in Japan for Population Problem『Nippon Times』月日未詳



1948(昭和23)年

- 民[「一字言」]『朝日評論』3-1、1月1日
- 平和革命への機能—文化におけるユーモアの価値—『京都日日新聞』1月1日
- [「好きな言葉 嫌いな言葉」]『新風』3-1、1月1日
- 猛省せよ文化界『東京タイムズ』1月1日
- 民主日本の完成へ・同胞に訴う『西日本新聞』1月1日【対談：大山郁夫】[「日本民主化への道」と題して  
『北海道新聞』1月1日、「大衆に訴える」と題して『中部日本新聞』1月6、7日に掲載]
- めぐりあひ『ロマンス』3-1、1月1日
- 講和後の文化交流[「文化随筆」]『夕刊北海タイムス』1月29日
- 文化の現実性[「文化環境の問題」]『新文化』2-8、2月1日
- 汎社会的文化への道『光』4-2、2月1日
- 女性を描くことども 源氏物語と細雪『婦人朝日』3-2、2月1日【対談：谷崎潤一郎】
- 郷土と文化『新風土』復刊2、2月1日
- 封建時代と文学『文学』16-2、2月20日
- [短歌一首]『ハワイスター』50、2月26日
- [短歌一首]『ハワイスター』51、3月4日
- 文字づかいよりことばづかい[「文化随筆」]『夕刊北海タイムス』3月5、6日
- [短歌一首]『ハワイスター』52、3月11日
- 芸術と教養—撞着から一致へ—『キネマ旬報』30、3月15日
- 歴史的認識の対立『国民の歴史』2-4、4月1日
- 哲学的デカダンス『青年』4、4月1日[『青年夏季大学1949年版』<『青年』特別増刊>(青年社 1949年7月10日)収録]
- 職能社会の文化と道徳『地上』2-4、4月1日
- ある心の自叙伝『朝日評論』3-4~12、4-1~9、1948.4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、1949年1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日【1序説 封建町人と近代市民、2私の生れた頃、3私のこどもの頃、4小学校時代、5逍遥塾時代、6逍遥塾時代(つづき)、7中学時代、8中学時代(つづき)、9中学時代(つづき)、10法学院時代(その1)、11法学院時代(その2)、12筆で立つまで(その1)、13筆で立つまで(その2)、14「日本」時代前夜、15「日本」時代前記(その2)、16「日本」時代前記(その3)、17「日本」時代(その1)、18「日本」時代(その2)】[「日本」時代]は、白井吉見編『わが生涯』<現代教養全集 第8巻>(筑摩書房、1959年4月20日)収録]
- [「新教師道」]『全人教育』18-4、4月28日
- こどもの国をつくれ[「時評」]『読売新聞』5月9日
- [「私は東宝問題をどう思うか(ハガキ回答)」]『キネマ旬報』34、5月15日
- 無然たる世相の弁『週刊朝日』52-20、5月16日【鼎談：三淵忠彦、佐々木惣一】[三淵忠彦著『世間と人間』(朝日新聞社、1950年)収録]

国家理念の世界史的変革『中央公論』63-6、6月1日

大学教育を語る『婦人之友』42-6、6月1日【座談会：加納久朗、森戸辰男、山崎匡輔、羽仁吉一、羽仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 下』(婦人之友社、2003年)収録]

封建時代の女性『婦人公論』32-6、6月1日(『社会の動き』1948年8月1日に転載)[『失はれた日本—日本の教養の伝統—』収録]

知識人とその運動[「知識人戦線」]『個性』1-7、7月1日

緑蔭鼎談『光』4-7・8、8月1日【鼎談：志賀直哉、天野貞祐】

権力国家より管理国家へ[「日曜評壇」]『西日本新聞』8月1日

政治と生活[「時評」]『読売新聞』8月2日

[「越前のうた」五首]『週刊朝日』53-8、8月22日

蛮風野俗[「随想」]『東洋経済新報』2338、9月4日

歴史を知らぬ日本人『東京新聞』9月12~14日【(上)生命過程の認識、(中)与えられた文明、(下)生活事実の発展】

東京法学院の思い出『中央大学新聞』272、274、9月15日、10月15日

昔の新聞と今の新聞『日本大学新聞』439、9月25日

新聞今昔縦横談『時事新報』9月28~30日、10月1日(『大阪時事新報』9月28~30日、10月1~3日)  
【座談会：古島一雄、川辺真蔵、板倉卓三】

新聞人よ謙虚なれ『東京タイムズ』10月1日

社会の表現へ[「新聞界に望む」]『南日本新聞』10月1日

新聞の自由と独立『西日本新聞』10月2日【対談：高橋正雄】

新聞週間に寄す『北海道新聞』10月2日

新聞週間に寄せて 大衆は正しいものを望む『京都新聞』10月3日(『京都日日新聞』10月3日)

社会人としての立場“新聞と社会”[「文化」]『上毛新聞』10月5日

今後の教育をどう運営するか『読売新聞』10月17、24日【座談会：森戸辰男、宇佐美毅、山崎匡輔、重野幸、坂西志保、宮原誠一、辻田力、木内キカワ】

極東裁判の判決と日本人[「時評」]『読売新聞』11月8日

\*東洋古典の現代的意義『新東方』1-7、11月

女性と幸福『婦人世界』2-12、12月1日

日本を語る『婦人之友』42-11・12、12月1日【座談会：安倍能成、折口信夫、高橋誠一郎、羽仁吉一、羽仁もと子】[『折口信夫対談』<折口信夫全集 別巻3>(中央公論新社、1999年)収録]

竹田米吉著建築今昔[「四百字書評」]『週刊朝日』53-24、12月12日

## 1949(昭和24)年

[インタビュー記事「この気概に聴け—三新聞人・毒舌で説く新聞道」中の談]『新聞協会報』486、1月1日

- 日本民主革命の再検討『中央公論』64-1、1月1日【座談会：大山郁夫、野坂参三】
- 之が遊学[「トピックス」]『東海公論』113、1月1日
- 長谷川如是閑氏より[「おとずれ」]『婦人之友』43-1、1月1日
- 世相をきる『西日本新聞』1月1日【対談：辰野隆】
- 躍進一途・輝く七十年の巨歩 記念日を迎える「朝日新聞」に寄す『[大阪]朝日新聞』1月21日
- 朝日新聞と村山竜平翁[「本紙創刊七十周年に寄せて」]『朝日新聞』1月21日[「両頭政治の勝利」と改題『村山竜平伝』(朝日新聞社、1953年)収録]
- 若き世代への言葉一殊に思想する態度について『思索』19、2月1日[『生活・叢智・思索』収録]
- 「現実政治」の科学化[「科学」]『読売新聞』2月5日[「現実政治の分析 一、現実政治の科学化」と改題、読売新聞社科学部編『戦争と世界平和 人文科学ノート』(国民教育社、1950年)収録]
- 女性風俗の喪失[「時評」]『読売新聞』2月28日
- 南無山房冗語『KIN=YO』3、3月26日
- 歴史過程に於ける思想と暴力『改造』30-4、4月1日
- 民族主義の成立とその崩壊『知性』2-4、4月1日
- \*封建教育と近代教育『PTA』[?コロナード社刊]7、8、4月1日、5月1日
- 松方三郎著“アルプスと人”読後感『山』148、4月1日
- 自律的精神を家庭から学べ[「青年指導の問題」]『時事新報』4月10日
- [「新しい国語教育に何を望むか」]『文学探究』2-4、4月
- 私の受けてきた教育—小学校から中学校—『教育』3-4、5月1日[『教育ダイジェスト』1-4、1949年7月5日に要約を転載]
- [「非日活動委員会に関する諸家の意見」]『世界評論』4-5、5月1日
- 対談 長谷川如是閑・柳田国男『夕刊新東海』5月28、29日【対談：柳田国男】
- 自分の生き方は自分で知れ『天馬』1-5、6月1日
- 民主主義と風俗『浜のまもり』1-2、6月15日
- [「創刊に寄す」]『図書新聞』1、6月25日(『図書新聞』1787、1985年10月26日に転載)
- 新聞倫理上の問題[談]『朝日新聞』6月26日
- 現代政治の科学的検討『先見経済』85、6月28日
- [「『歌話』を読んで」]『一燈』5、7月1日
- 「有病」長生法『美しい暮しの手帖』4、5、7月1日、10月1日[高見順編『眠られぬ夜のために』(四季社、1950年)、<河出新書>(河出書房、1955年)収録]
- 記者の証言拒否事件に関連して『週刊東洋経済新報』2380、7月9日
- 明治・大正・昭和の学生層[「文化」]『東京新聞』7月17～20日【①欧化と書生気質、②年齢の社会秩序、③自己完成への途、④発展と壊滅の岐路】[『大学及び大学生』、『選集3』収録]
- 政治運動の犯罪化 社会病理学的現象[「科学」]『読売新聞』7月24日[「現実政治の分析 二、政治運動の犯

罪化」と改題、読売新聞社科学部編『戦争と世界平和』（国民教育社、1950年）収録]

[インタビュー記事「新聞民主化への道 対立者をもつことの本領と意義—長谷川如是閑氏にきく」中の談]『新聞協会報』549、8月13日

日本の生きる道『西日本新聞』8月15日

河上肇と榎田民蔵を語る『朝日評論』4-9、9月1日【座談会：大内兵衛、小島祐馬、嘉治隆一】[榎田民蔵著『社会主義は闇に面するか光に面するか』（朝日新聞社、1951年）、「河上肇と榎田民蔵」と題して『榎田民蔵全集』第4巻（社会主義協会出版局、1979年）収録]

国の秩序は生活の秩序から『厚生時報』4-9、9月1日

ジャーナリズム論『女性線』4-9、9月1日[「日本のジャーナリズム」と改題『生活・叡智・思索』収録。『如是閑集6』収録]

[記事「学員訪問記」中の談]『中央大学新聞』292、9月30日

理想の新聞『東京タイムズ』10月1日[『日本海新聞』10月1日、『新愛媛新聞』10月1日]

理想の新聞とは？『長崎民友炭鉱版』10月1日

群集心理と新聞倫理『毎日新聞』10月1日

日本人の文化的性格『読売評論』1-1、10月1日[『日本人気質』付録、『日本文化の見方』＜現代教養文庫9＞（社会思想研究会出版部、1951年9月30日）収録]

私のイギリス観『あるびよん』2、10月5日[『現代随想全集2』、『如是閑集7』収録]

新聞の機能と使命[11月25日講演]『新聞協会報』580、12月1日

燈火に語る『婦人之友』43-12、12月1日【座談会：折口信夫、羽仁吉一、羽仁もと子】[「日本文化の流れ」と改題『折口信夫対話2 日本の詩歌』＜角川選書68＞（角川書店、1975年）収録。『折口信夫対話』＜折口信夫全集 別巻3＞（中央公論新社、1999年）収録]

教育と「しつけ」—その中世のおよび近代の特徴『社会と学校』3-12、12月1日

新聞事業の倫理『新聞協会報』583、12月12日

## 1950(昭和25)年

二十世紀の世界と日本『世界週報』31-1、1月1日【座談会：服部之総、林要、木村健康、小谷正雄、村田編輯主幹】

二十世紀思想の性格と展開『世界評論』5-1、1月1日【座談会：羽仁五郎、宮本顕治、高島善哉、久野収、鶴見俊輔】[『久野収対話集・戦後の渦の中で3』（人文書院、1972年）、鶴見俊輔『戦争とは何だろうか』＜鶴見俊輔座談7＞（晶文社、1996年）収録]

講和問題の背後『中央公論』65-1、1月1日【ディスカッション：佐藤尚武、鈴木茂三郎、蟬山政道】

ラッセル的悲観とラッセル的理想主義『毎日新聞』1月21日

学問の自由と大学の将来 私大中心に転ぜよ『読売新聞』1月24日

二十世紀の反省[「新春随想」]『日本大学新聞』461、1月25日

日本の運命『世界』50、51、2月1日、3月1日【座談会：中島久万吉(第1回のみ)、大内兵衛、荒畑寒村、安倍能成、丸山真男、長与善郎、鶴見祐介】[吉野源三郎編『日本の運命』＜復初文庫6『世界』座談

会集 1>(評論社、1969年)収録)

新聞紙法は“不必要悪”[「言論制限の傾向を排す」]『朝日新聞』2月5日

出版界の良心と総合雑誌『出版ニュース』117、2月11日

長谷川如是閑氏に訊く 日本は文化国家たり得るか『東洋経済新報』2409、2410、2月11、18日【対談：  
三宅晴輝】

現在の新聞ジャーナリズム “群衆”意識の表現『日本読書新聞』530、2月22日

主権国家と生活協同体『朝日評論』5-4、5、4月1日、5月1日

社会教育の現実と理想『社会教育』5-4、4月1日

台所から見た関東と関西『洛味』3、4月5日

デモクラシーと日本文化の将来『伊勢新聞』4月16日

新聞は対立意識の表明—通俗化した日本の新聞—『中央大学新聞』300、4月20日

参議院をどう思う『読売新聞』5月1日【座談会：蠟山政道、宮沢俊儀、鈴木安蔵】

日本的インテリゲンチア[「日曜評論」]『読売新聞』5月14日

大学を衝く『読売新聞』5月26日【座談会：蠟山政道、土方成美、城戸幡太郎】

日本最初の書評雑誌—「出版月評」のこゝろ—『朝日評論』5-6、6月1日

「犬の家」の主人と家族『少年少女』3-6、6月1日[日本文芸家協会編『少年文学代表選集Ⅱ』(光文社、1951年)、『犬』(中央公論社、1954年12月25日)、『犬』(中央公論新社、2004年)、『犬』<中公文庫>(中央公論新社、2009年)、出久根達郎・日本ペンクラブ 編『犬のはなし 古犬どら犬悪たれ犬』<角川文庫 日本作品>(株式会社 KADOKAWA、2013年)収録]

無防備国家の存立[談]『中央大学新聞』306、6月16日

指導する国・される国[「共産党問題について」]『朝日新聞』6月18日[『新聞月鑑』2-18、7月に転載]

自由の中の不自由 観念と現実『図書新聞』50、6月21日

実証的に考えたい[「シンポジウム 理想的な教師」]『社会と学校』4-7、7月1日

『観念の自由』から『現実の自由』へ『中央評論』7、7月1日[『日常性の中なる日本』収録]

わたしの青年時代と今の青年『婦人公論』34-7、7月1日[『生活・叢智・思索』収録]

人間三淵忠彦『週刊朝日』55-33、7月30日

日本再建の基本的態度—伝統的個性の自覚に立った世界人へ『改造』31-8、8月1日[『選集2』収録]

ある心の自叙伝『書物』4、8月1日

\*生活秩序を建直すには『青年議会』2、8月1日

満洲思い出の記『東京だより』13、8月1日

三淵さんの霊にささげる『法曹』21、8月1日

終戦5年—座談会—新しい生活を語る『読売新聞』8月15日【座談会：中谷宇吉郎、坂西志保、金森徳次郎、大仏二郎、今和二郎】

新生活運動の起点と焦点[「日曜評論」]『読売新聞』8月27日

日本旅館是非『温泉』18-9、9月1日

【私の信条】『世界』57、9月1日【『私の信条』(岩波書店、1951年)、『選集7』収録、「わたしの信条」と題して『中学校道徳の指導資料 第3集 第1学年』(文部省、1966年)収録]

日本人の読書癖『読書春秋』1-6、9月1日

私の見て来た『教育三十年』『婦人之友』44-9、9月1日

伊勢参りの聯想『文芸春秋』28-12、9月1日

自由について—学問の自主性と学問の自由『読売評論』2-9、9月1日【『生活・叡智・思索』収録]

現代の憂鬱 原子力兵器と犯罪の現象【随想】『朝日新聞』9月6日

【私の健康法】『朝日新聞』9月6日【高見順編『眠られぬ夜のために』(四季社、1950年12月15日)、(<河出新書>河出書房、1955年)収録]

現代ジャーナリズム論『出版ニュース』140、10月1日

政治と新聞『朝日評論』5-10、10月1日【対談：古島一雄】

大学・教授・学生『読売新聞』10月9日

学問・教育・政治と追放問題—近代的公理と歴史的必然—『中央公論』65-11、11月1日

日本人の読書・書評・翻訳の態度について【「本紙復刊五周年記念号に寄せて」】『日本読書新聞』566、11月1日

文化移入の外人—私の胸をうった二、三—『東京大学学生新聞』62、11月2日

社会・人間を結ぶ バートランド・ラッセル【「ノーベル賞の二人」】『読売新聞』11月13日

私の読書法【「自分のこと・人のこと」】『あるびよん』4、12月1日

【「1951年を私はこう見る 各界の名士にきく」】『週刊朝日』55-58-56-1【合併号】、12月31日・1951年1月7日

## 1951(昭和26)年

新春対談『伊勢新聞』1月1日【対談：徳川夢声】

二〇世紀半ばに立つ新聞『新聞協会報』690、1月1日

日本断じて亡びずの根拠 年頭小言【「文化」】『東京新聞』1月1日

放談 卯年『日本海新聞』1月1日【対談：徳川夢声】

新聞を叱る『日本評論』26-1、1月1日【鼎談：美土路昌一、阿部真之助】

道徳教育と修身科『中部日本新聞』1月7日

日本の進路 その進路を守らせる信念【「日曜評論」】『読売新聞』1月7日【『新聞月鑑』3-25、1951年2月に転載】

文化国民たるの条件『信濃毎日新聞』1月10日

\*長谷川如是閑先生との問答覚え書『自由学園』学園新聞』3、1月15日【インタビュー】

ドイツ学からイギリス学へ—学問内容の自主性のために—『中央評論』11、1月20日【『日常性の中なる

- 日本』、『選集 3』収録]
- 裁判官を裁く[「自分のこと・人のこと」]『あるびよん』5、2月1日
- 新しい人間像『更生保護』2、2月1日
- 修身科問題をめぐって『ニューエイジ』3-2、2月1日【対談：天野貞祐】[『「修身科」復活と「国民実践要領」論争』<文献資料集成 日本道徳教育論争史 第3期戦後道徳教育の停滞と再生 第11巻>(日本図書センター、2015年)収録]
- 文化栄養失調[「月曜評論」]『岐阜タイムス』2月5日
- 文化でも栄養失調[「日本と『一等国』」]『日本海新聞』2月7日
- “失調文化”を回復せよ 日本は一等国となるか『徳島新聞』2月11日
- 文化栄養失調の回復[「伊勢評壇」]『伊勢新聞』2月12日
- 独自の性格[「日本の希望」に寄せて]『アサヒカメラ』36-3、3月1日
- 失はれた衣裳[「特輯 古典美ときもの」]『淡交』5-3、3月1日
- 変革期における日本の政党—啓蒙時代の政党の機能を顧みる—『毎日情報』6-3、3月1日
- 精神文明の将来—新しい日本の方向—『読売評論』3-3、3月1日【対談：高柳賢三】
- 昭和の『迷夢』『日本週報』171、3月1日
- \*戦争の原因とならぬ講和—その歴史に終止符を打て、掲載紙未詳、3月1日
- [「海外へ紹介したい本」]『図書新聞』85、3月5日
- 新平家物語を中心に『週刊朝日』56-12、3月15日【対談：吉川英治】[「希望の文学」と改題『吉川英治対話集』(講談社、1967年)、「新・平家物語を語り合う」と改題『随筆新平家』(六興出版、1971年12月10日)収録]
- 孤軍奮闘告知板[談]『アサヒグラフ』55-13、3月28日
- 『蟬』教育『時局』20-3、4月1日
- 私の犬の家族『婦人之友』45-4、4月1日
- 早稲田の伝統『早稲田学報』6-3、4月1日
- 講和条約 動物的处理を脱却 戦争への誘因切捨『徳島新聞』4月7日
- 日英の親と子『時事新報』4月11日
- これからの観光写真『アサヒカメラ』36-5、5月1日[座談会：木村伊兵衛、名取洋之助、塚本閑治、入沢文明]
- 世界史の動向と新国家形態—主権国家から職能国家へ『改造』32-6、5月1日
- 個性的創造のために—私の読書法—『読書人』2、5月1日
- クツみがき『週刊朝日』56-20、5月6日[『こころの問題(美しい話)』(朝日新聞社、1951年)、『選集 7』、『如是閑集 1』収録]
- 言葉と現実の距り 「人権宣言」も言葉の火花に終らぬ[書評：ユネスコ編『人間の権利』]『日本読書新聞』593、5月16日
- ユネスコ当面の使命と日本[「日曜評論」]『読売新聞』5月27日

パートランド・ラッセルのこと[「自分のこと・人のこと」]『あるびよん』7、6月1日  
朝鮮民族の宿命[「伊勢評壇」]『伊勢新聞』6月18日  
\*新聞的個性の喪失『国学院大学新聞』172、6月20日  
講和近きを喜ぶ『西日本新聞』7月22日  
今日の世界に処す 大きな理想を素直に持つ道『読売新聞』7月23日  
ある記録文学のヒロイン[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月23日(『夕刊読売』7月23日)  
平凡な万人の考え「国家」と「人間」の喰違い『東洋経済新報』2484、8月4日  
講和後の心理的变化『北海道新聞』8月5日  
自己反省の強化 追放解除に際して[「日曜評論」]『読売新聞』8月12日  
終戦記念日と個人『東京タイムズ』8月14日  
講和と八月十五日『東京新聞』8月13～15日[『新聞月鑑』3-32、1951年9月に転載]  
社会的に生きる個人の反省—終戦記念日を迎えて—[「論壇」]『伊勢新聞』8月15日  
社会的に生きる個人『日本海新聞』8月15日  
イギリス式「日本のこころ」[「自分のこと・人のこと」]『あるびよん』8、9月1日  
独立日本の再建過程『西日本新聞』9月4日  
今の日本人に読ませたい『人間の権利』『図書』24、9月5日  
人間的愛国心[「時評」]『東洋経済新報』2492、9月22日  
写真批評のゆくえ『アサヒカメラ』36-10、11、10月1日、11月1日[座談会：伊奈信男、浦松佐美太郎、  
佐藤敬、木村伊兵衛、三木淳]  
日本人の進むべき道『改造』32-11、10月1日【座談会：金子武蔵、務台理作、和辻哲郎】  
あまり文句は言へない[「講和に対する批判・意見・希望」]『世界』70、10月1日  
[「私の愛読書 私の推薦書」]『読書春秋』2-10、10月1日  
平和は手元に—自主的精神の確立—長谷川如是閑氏にきく[「希望を求めて」]『労働文化』2-10、10月1日  
権力による安易な道 “公安保障法”について『日本読書新聞』615、10月17日  
都市中心主義を排せ 隣人の協力で日本の活路[「新生日本の道」]『信濃毎日新聞』10月22日[インタビュー]  
[「青少年の不良化問題 文化人にきく」]『刑政』62-10、11月20日  
不治病全癒者告知板[談]『アサヒグラフ』55-48、11月21日  
中国古代の国家思想に就いて『斯文』4、11月25日  
凡人主義と英雄主義『東京新聞[夕刊]』12月1～3日  
私の空想的構想[「時評」]『東洋経済新報』2502、12月1日  
宗教的行動及び心意『宗教研究』128、12月20日



1952(昭和27)年

イギリス式遵法性『あるびよん』10、1月1日

国家と道徳『改造』33-1、1月1日【鼎談：天野貞祐、野上彌生子】[『野上彌生子全集 別巻一』(岩波書店、1982年)収録]

根本の問題だけを[「講和後の日本に民主主義を確立するために」]『世界』73、1月1日

独立日本の方向『西日本新聞』1月1日【座談会：蠟山政道、芦田均、松本重治】

日本のヒューマニズム『文芸』9-1、1月1日[『生活・叢知・思索』収録]

丸善と私の六十年『学鏡』49-1、1月5日

文明の規律に就て『東京タイムズ』1月7日

日本の前途を楽観する『布哇タイムズ[Hawaii Times]』4、8日

[「スターリン賞で衝突」談]『東京タイムズ』1月9日

袂を分ったのではない[談]『毎日新聞』1月9日

文化的自覚の欠如『北国新聞』1月11日

大山君に対する私の意味『毎日新聞』1月11日

年頭所感 争いながらも敬愛を忘れるな『中央大学新聞』333、1月20日

スポーツと私『随筆』3、3月1日

鎌倉日より『新女苑』16-3~9、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日【(1)女の世界と女のない世界、(2)身についた歴史、(3)生活の現実がつくる詩、(4)長寿の道徳、(5)スポーツにおける美と善、(6)日本人の二重生活、(7)虚にある真実】

国家の大学から市民の大学へ[「時評」]『東洋経済新報』2515、3月15日

日本民主化の課題[「日曜評論」]『読売新聞』3月16日

ひとびとの時間即ち生命の使い方『婦人之友』46-4、4月1日[座談会：羽仁もと子、杉田つる]

文化的自主性 独立日本の課題『毎日新聞』4月21日

独立日本の国家的性格『読売新聞』4月28日

新聞記者時代『新聞協会報』834~837、5月29日、6月2、5、9日

女性の倫理性—服装から見た—[巻頭言]『装苑』7-6、6月1日

久米君と私『文芸春秋』30-8、6月1日

マス・コミュニケーションと現代社会—ラジオ、テレビの世界的機能—[特集 マス・コミュニケーションの研究]『放送文化』7-6、6月1日[『選集4』収録]

変革期と老人の生き方『[大阪]毎日新聞』6月20日

伝統と教育—教育者としての自覚[「日教組と今日の教育」]『改造』33-9、7月1日

「土蔵学校」の万年学生[「読書と人生」]『中央公論』67-8、7月1日

イギリス人のものの考え方『あるびよん』13、7月1日【鼎談：福原麟太郎、中野好夫】

日本人の文化的性能—行動能力と思索能力『改造』33-10、7月15日

茶の興る時[インタビュー「朝の訪問」]『淡交』6・8、8月1日  
公明選挙と政治的自主性[「日曜評論」]『読売新聞』8月31日  
二面性の彼[「山本実彦を悼む」]『改造』33・12、9月1日[木村毅編『明治文学全集 92 明治人物論集』(筑摩書房、1970年)収録]  
遵法精神『東京だより』38、9月1日  
おめでたいがなお惜まれる田中館先生『ローマ字世界』42・9、9月1日  
オールドリベラリストはこう思う[「オールド・リベラリストに対決するジュニア・リベラリスト」]『改造』33・13、9月15日  
教育とは何か—その社会的意義について—[「独立日本教育の進路」]『教育技術』7・7、9月20日  
投票する多数人の気持『北海道新聞』9月30日  
\*生活を明るくするには『そいゆ(生活の絵本)』9月  
日本の詩歌を語る『俳句』1・5、10月1日【対談：折口信夫】[『折口信夫対談』<折口信夫全集 別巻3>(中央公論新社、1999年)収録]  
創造の人生に就て 川上嘉市著[『創造の人生』の書評]『全国出版新聞』65、10月10日  
問答無用『週刊朝日』57・42、10月19日【対談：徳川夢声】[『夢声対談集 問答有用Ⅲ』(朝日新聞社、1953年)収録]  
国家的自主性と世界国家『改造』33・16、11月1日  
再生への道『信州自治』5・11、11月1日  
写真のリアリズムについて『アサヒカメラ』37・12、12月1日[座談会：伊奈信男、渡辺義雄、浦松佐美太郎、土門拳][『アサヒカメラ』63・5、1978年5月再録]  
文明の受けとり方『文化交流』1・1、12月1日

## 1953(昭和28)年

[記事「私が大臣なら」中の談]『朝日新聞』1月1日  
日本文化の再発見『改造』34・1、1月1日【座談会：西岡虎之助、河竹繁俊、谷川徹三】  
座談会 洋画を中心として『学燈』50・1、1月1日【座談会：嘉治隆一、水島三一郎、岡田武松、浦松佐美太郎、柳田国男】  
明治を思う『世界』85、1月1日[『評論集』収録]  
日本再建の出発点—青年に訴う—『西日本新聞』1月1日  
国家自立の根拠[「真の自立のために」]『婦人公論』37・1、1月1日  
日本人本来の文学『文章倶楽部』5・1・2、1月1日[初出は『徳田秋声選集 全10巻』出版内容見本(乾元社、1952年)]  
日本をよい国に『読売新聞』1月1、3日【鼎談：吉田茂、馬場恒吾】  
世界水準へは可能 一足飛びの空想は危険[「日本は一等国足り得るか」]『下野新聞』2月11日  
日本の伝統と復興『東京新聞』1月1~3日(1日付は未見)

- 日本人のよさー行動的發展性ー『毎日新聞』1月4日
- 新聞人録音盤 長谷川如是閑氏の巻『電通月報』8-3、2月25日【インタビュー】
- “鍛えられる鉄であれ”[「受験生に望む」]『中央大学新聞』356、2月28日
- 自由の思想と現実『群像』8-4、4月1日
- 小より大への精神[「建業五十年に寄す」]『婦人之友』47-4、4月1日
- 古典の意味と目的『文庫』19、4月10日
- 世界一の結核国『毎日新聞』5月28日
- 大正の青春『改造』34-8、7月1日【座談会：唐木順三、小宮豊隆、荒畑寒村、小牧近江、山川菊枝】
- 現代経済学の根本的欠陥ー経済学の目的と態度ー『経済往来』5-7、7月1日
- 教育と国家社会および個人[1953年5月13日学制八十年記念講演(於神田共立講堂)]『文部時報』911、7月10日
- 我が楽観主義の由来 半生の記『読売新聞』7月10日
- 比島の寛容に感謝す モンテンルパ戦犯を迎えて[「随想」]『西日本新聞[夕刊]』7月21日
- 文化交流の基礎 日本人の長所について[「日曜評論」]『読売新聞』8月2日
- 「歴史」の動機と歴史教育『歴史教育』1-1、9月1日
- 読書は生活の糧 読書週間を迎えて[「文化」]『読売新聞』10月29日
- 視覚とことば『放送文化』8-11、11月1日
- 积込空を偲ぶ辞『三田文学』43-9、11月1日[石内徹編『折口信夫研究資料集成 大正7年～昭和40年 第2巻 昭和21年～昭和28年』(大空社、1994年)、『伊東静雄・堀辰雄・折口信夫』<近代作家追悼文集 成 35>(ゆまに書房、1997年)収録]
- “新聞は真の学問を教う”[講演摘録]『中央大学新聞』371、11月10日
- 死に克った私の青春『東洋経済新報別冊』16、12月20日
- 新しい年の教壇『読売新聞』12月27～29日【座談会：小汀利得、高須莊太郎、国分一太郎、島田孝一】  
[『大阪読売新聞』12月29日]

## 1954(昭和29)年

- 日本の将来を決する一九五四年『婦人公論』38・39-1、1月1日【座談会：蟬山政道、中山伊知郎】
- 言語道断心行不滅[「巻頭随想」]『保健同人』9-1、1月1日
- 新しい愛国心ー自覚に立った強い意志ー『読売新聞』1月1日(愛国心について 正しい自覚に立った強い意志)『大阪読売新聞』1月1日)
- 日本人の国民性ー多角的、具体的、生活的ー『東洋経済新報』2607～2609、1月2、16、23日(最終回の表題を採録した。第1回の表題は「日本の国民性」)[『昭和文学全集 37』収録]
- 自主独立への道『熊本日日新聞』1月4日
- 政治道德の基礎条件『政治公論』5、1月5日

おのれに帰った日本人 ただ国民的性能の自覚が足りない『毎日新聞』1月5日

若き世代と語る『アサヒグラフ』58-1、1月6日

年頭所感 日本の大学の今昔『中央大学新聞』375、1月20日

新聞および新聞人『朝日新聞』1月25～31日、2月1～24日【社会意識と新聞、新聞の社会性、新聞の個性、新聞と世論、新聞意識の倫理性、新聞の英知と倫理、新聞意識の構成過程、新聞的感覚と情操、新聞の生理と病理、ジャーナリズムの社会的意義、新聞の政治性、新聞の文化性と芸術性、報道の迅速と確実、解説の客観性と主観性、表現の自由と制約、新聞の経営と組織、マス・コミュニケーションと新聞】[『新聞』(朝日新聞社、1954年4月1日)収録]

推薦の言葉[植原道子「母は泣かず」の推薦文]『新女苑』18-2、2月1日

\*鎌倉問答『これから 四十からの医学と人生』2-2～4、2月5日、3月5日、4月5日【大渡順二によるインタビュー】[『大渡順二文集 II わたしの砂文字』(保健同人社、1981年8月1日)収録]

人物列車[「グラビア」]『週刊読売』13-8、2月14日

鎌倉対談 よき職能人たれ『婦人之友』48-3、3月1日【対談：丸山真男】[『丸山真男座談 2 1950-1958年』(岩波書店、1998年)収録]

職能意識に徹せよ[「腐敗政治を收拾するには」]『西日本新聞』3月2日

Japanese traits[「Views and Topics」]『Oriental Economist』522、4月1日

[「執筆者通信」]『日本読書新聞』742、4月19日

\*男と女のエチケット『これから 四十からの医学と人生』2-5、5月5日【大渡順二によるインタビュー】

[記事「若い者も彼方へ行くべし」台湾旅行から帰った長谷川如是閑氏中の談]『東京新聞[夕刊]』5月9日

大原社研と高野先生 『大原社会問題研究所三十年史』を読む人の為に『日本読書新聞』749、6月7日

現代の政治を語る『新聞論調』24、1954年6月[6月27日NHK政治座談会：有沢広己、亀井勝一郎、宮沢俊義]

二週間の訪台記－蔣總統とはじめて会って『改造』35-7、7月1日

座談会 時代と新聞－大阪朝日筆禍事件回顧－[「日本における自由のための闘い」]『世界』103、7月1日  
【座談会：丸山幹治、杉村武、吉野源三郎】[吉野源三郎編『日本における自由のための闘い』<復初文庫 7『世界』座談会集 2>(評論社、1969年)収録]

このごろ読んだ本 高信・与一・愧平[「読書」]『読売新聞』7月18日[一部修正・省略して、「愧平の本」と題して、湯山愧平編『一壺春詩片 坤之巻』(一壺春、1971年)収録]

胸せまる思い[「“暗黒日記”を読んで」]『東洋経済新報』2936、7月31日

常識なき政治家たち－生活の正常性を取戻せ－『文芸春秋』32-11、8月1日

明るい生活『丸』7-8、8月1日

語る如是閑翁 朝日時代の思い出『図書新聞』259、260、8月14、21日【松島栄一によるインタビュー】

日本新聞の特殊性『西日本新聞』10月4日

日本文化のよさはどこにあるか『教育技術』9-10、11月1日【座談会：有賀喜左衛門、古川哲史】

今日の言論機関を叱る『東洋経済新報』2651、11月13日【対談：三浦鍬太郎】

時代の倫理観の推移『東京新聞』11月27～29日

\*浸り切る忘我の境・弓のお蔭で大過ない生活、掲載紙未詳、11月30日

大衆娯楽とは何か『放送文化』9-12、12月1日

A new cultural era for Japan in the womb of time 『Japan Quarterly』1-1(Oct.-Dec.)、12月

### 1955(昭和30)年

迎春放談[「東京版」]『朝日新聞』1月1日【対談：安井都知事】

全世界に元旦を『産業経済新聞』1月1日

下中弥三郎氏－出版事業の天才である[「現代の出版人」]『出版ニュース』293、1月1日[『現代の出版人五十人集』(出版ニュース社、1956年)収録]

希望もてる日本人の性格[「新春の言葉」]『新女苑』19-1、1月1日

新聞的性格の退化－現代日本の新聞紙に対する考察－『新聞研究』42、1月1日[『選集4』収録]

宗教と常識－何が最高の教養であるか－『大法輪』22-1、1月1日

人間らしい自由と独立を獲得するために『西日本新聞』1月1日

歴史の進化と日本人の自主性『白門』7-1、1月1日

歴史の再建と日本人『都新聞』1月1日

Japan's "Cultural democracy" : A challenging interpretation of history 『The Atlantic』195-1、1月

自分の心の記録[「私の処女出版」]『東京新聞』3月3日

思い出に残る人々－長谷川如是閑氏を迎えて－『婦人之友』49-4、4月1日【座談会：羽仁吉一、羽仁もと子】[『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 下』(婦人之友社、2003年)収録]

憲法記念日に思う『北日本新聞』5月3日

我が人生観『実業之世界』52-6、5月15日

日本建築の倫理性－八旬荘独談『洛味』49、5月20日

種痘のない天然痘国『社会改良』1-1、7月5日

自覚不足の日本人－戦後十年に思う－[「中日評論」]『中部日本新聞』7月25日

教養と伝統『新論』1-2、8月1日

伝統と教養『瑞垣』24、8月1日

正しい生活に誘う天使の手招き－羽仁もと子著作集「友への手紙」を読む－『婦人之友』49-8、8月1日

戦後十年に思う－自覚不足の日本人 相反する両極端の性格『西日本新聞』8月14日

丸山幹治君のこと[芝増上寺における葬儀での弔辞]『毎日新聞』8月23日[『如是閑集1』収録]

人間愛と動物愛[「動物たちに幸福を! 犬」]『婦人之友』49-9、9月1日

新聞の日本的性格『神奈川新聞』9月15日

雑誌の発達と性格『東京新聞』11月1、2日

大学のあり方と私立大学『中央大学新聞』422、11月5日【鼎談：四方田義茂、桑木務】

\*安藤鉄腸君のこと『朝日社報』449、11月25日

大山郁夫君を悼む『朝日新聞』12月1日

新聞を読んで「資料電波に乗った新聞批判の声」10月2日 NHK 第一放送『新聞研究』53、12月1日

独特の学問を持つ「大山郁夫追悼談」『毎日新聞[夕刊]』11月30日

半世紀の老友として「羽仁吉一記念」『婦人之友』49-12、12月1日

感服した生活態度—朝日新聞の頃—「平和にささげた生涯大山郁夫氏の偉業をしのぶ」『早稲田大学新聞』231、12月6日

### 1956(昭和31)年

都会生活の規律作れ「名誉都民の年賀状」『朝日新聞』1月1日

\*如是我言—先づ考えるより先づ行ふ『孝道新聞』104、105、1月1日、2月1日

現代の女性の生きる道『女性教養』204、1月1日

現代の幸福『新女苑』20-1、1月1日

祝辞「於創立70周年記念祭」『中央大学学報』19-1、1月1日

日本の宗教界に一言『中外日報』1月1、5日

日本社会党へ 政治教養向上の策を “対立” の伝統に自覚与えよ「「二大政党への公開状」」『日本経済新聞』1月1日

新しい飛躍への道『北国新聞』1月1日【座談会：長与善郎、金森徳次郎】

新しい飛躍へのコース『愛媛新聞[夕刊]』1月5、6日【鼎談：長与善郎、金森徳次郎】

自分の帯は自分で締めよ『日本週報』350、1月5日

現代新聞批判『週刊朝日』61-2、1月8日

迎合せず厳格に「今後の放送に望む」『放送文化』11-3、3月1日

大学の伝統と日本の大学『私学振興』5-2、3月15日

『近代文明史上における大隈重信』『大隈研究』7、3月25日【対談：渡辺幾次郎】

世界国家への必然性—現代世界史の動向—『政治公論』17、6月1日

八十翁の世界漫遊—チグハグなアメリカ文明を発見—『日本経済新聞』7月25日

アメリカから見た日本民族の将来『日本週報』376、8月15日

私だけの欧米観『婦人之友』50-9、9月1日

外遊者の見落とすもの「週間論壇」『産業時事』9月10日

\*『朝の訪問』再録『NHK新聞』10月7日【対談：松本重治】

文化交通からみた世界史の動向『外交季刊』1-1、10月15日

\*平和的共存・国家と個人『政治公論』19、11月1日

女を避けて八十歳『文芸春秋』34-11、11月1日【対談：植田謙吉】

座談会 アメリカを観る『心』9-12、12月1日【座談会：高木八尺、松本重治、嘉治真三、安部能成、嘉治隆一】

新春対談『東洋経済新報』2758、12月22日【対談：大原万平】

## 1957(昭和32)年

人間愛と動物愛—愛犬の心理—『愛犬の友』6-1、1月1日

日本の私学の将来『私学振興』6-1、1月1日

わが心の友を語る 友だちは手足同様『大世界』12-1、1月1日

歴史の進路を本道に『山陽新聞』1月1日

年頭所感 現代史のわい曲とその回復『新潟日報』1月3日

若き学徒に思う 世代の秩序を守れ『中央大学新聞』456、1月5日

利害を超えた公の憤り—『血ぬられた日曜日』を読んで—『時事通信 時事解説版』3362、1月17日

\*東欧の動乱に思う『時事出版通信』38、2月1日

世界的共同社会への動向—国家の個人化—『政治公論』2月号、2月1日

文化交流と日本人『国際文化』33、2月20日

思想の進化と退化『思想』393、3月1日

茂田井君[「茂田井武画伯追悼記」]『大衆文芸』17-3、3月1日

大事と些事『婦人之友』51-5、5月1日

イズム教と日本『文芸春秋』35-5、5月1日[『選集7』収録]

美術と社会習俗—フランス文明のうらおもて—『西東』5、5月20日

精神力と叡智の結びつき[「ミセス羽仁をおくる言葉」]『婦人之友』51-6、6月1日

問答無用[徳川夢声連載対談]『週刊朝日』62-30、7月21日【対談：徳川夢声】[『問答無用 第11巻[徳川夢声対談集]』(私家版、1960年)収録]

職人かたぎ『文芸春秋』35-8、8月1日[白井吉見編『日本人』<現代教養全集 第7巻>(筑摩書房、1959年3月20日)、『日本さまざま』、井上靖・白井吉見編『くらしの伝統』<10冊の本 第10巻>(主婦の友社、1969年)、『選集7』収録]

小田原のみかん畑『社会改良』3-1、8月10日

「職人かたぎ」補遺『文芸春秋』35-9、9月1日[『日本さまざま』、井上靖・白井吉見編『くらしの伝統』<10冊の本 第10巻>(主婦の友社、1969年)、『選集7』収録]

借りものの流行語“イデオロギー”[「墨痕」]『中央大学新聞』475、9月15日

模倣と独創—特に日本人の場合—『政治公論』10月号、10月1日

長谷川如是閑先生講演“道徳は行動なり”『[自由学園]学園新聞』74、10月25日[インタビュー]

「日本らしさ」とは何か『随筆サンケイ』4-11、11月1日

百歳の計『東京だより』100、11月1日【座談会：芦田均、松永安左衛門、木村義雄、石山賢吉】

蘇峰翁を悼む『朝日新聞』11月3日

蘇峰翁の死を惜しむ『神奈川新聞』11月3日

蘇峰翁を悼む[「学芸」]『毎日新聞』11月3日

明治人の回顧と展望[「特別寄稿」]『社会思想研究』9-10、11月15日

教育の概念と現実『全人』31-11、11月25日

日常生活の倫理『婦人之友』51-12、12月1日

### 1958(昭和33)年

人の道と犬の道『愛犬の友』7-1、1月1日

世界史の趨向と現代日本—白鳥一郎氏との対談—『政治公論』31、1月1日【対談：白鳥一郎】

私の長寿の「こよみ」『大法輪』25-1、1月1日

長寿ということ『東京だより』102、1月1日[『選集7』収録]

宇宙世紀第二年—科学を正しく駆使せよ—『北海タイムズ』1月1日

【記事「わたくしの道徳論」中の談】『読売新聞[夕刊]』2月21日

如是閑翁炉辺雑話『政治公論』32、4月1日【聞き手：田辺寿利、安山実、福鎌忠恕、慶光院美沙子】[『政治公論』43、1961年10月1日再録]

ジャーナリストとしてのミセス羽仁[「ミセス羽仁の一周忌に思う」]『婦人之友』52-5、5月1日

日本の新聞の一世紀『週刊朝日』63-21、5月14日

地味な校風を育てる 建学の精神に生きた林総長『中央大学新聞』498、5月15日

派手な身なりは商売女、真のフランス婦人は堅実です[「パリ女をまねるなら」談]『静岡新聞[夕刊]』5月25日

現代ジャーナリズム『中央大学新聞』500、6月5日

\*小田原八旬荘の記『婦人小田原』5、7月4日

明るい社会とは『社会改良』4-1、7月15日

文化的デモクラシーと京都『洛味』75、7月25日

明治維新と伝統芸術[「明治のあい言葉」]『淡交』12-10、9月1日

孔教私観[孔子祭記念講演]『斯文』22、9月30日

社会的退化現象『社会改良』4-2、10月25日

明治以後の日本文明『東京新聞[夕刊]』11月3、4日

東と西の対話『政治公論』34、12月1日【対談：シドニー・フック】[『政治公論』43、1961年10月1日再録、シドニー・フック著(福鎌達夫訳)『民主主義の哲学 政治権力と個人の自由 第1部』(関書院、1961年)、福鎌達夫編『如是閑八旬荘対談』(総合図書、1967年)収録]

十年ぶりに見た映画『朝日新聞』12月4日



私の読書歴『中央評論』60、12月[15日][『日常性の中なる日本』収録]

### 1959(昭和34)年

私の座禅生活『大法輪』26-1、1月1日

「綱引き」の勝敗の年 デモクラシー時代の日本人『週刊読書人』256、1月1日

法律と道徳[「綜法ずいひつ」]『綜合法学』2-1、1月1日

常識談義『婦人之友』53-3、3月1日【対談：吉田健一】

明治以後の日本文明『あるびょん』44、3月1日

大学の伝統と日本の大学『中央評論』61、3月12日[『日常性の中なる日本』、『選集3』収録]

明治・大正・昭和三代の性格—神話時代からの歴史的持続とその中断『中央公論』74-5、4月1日[『選集5』収録]

伝統と文化について『政治公論』35、4月1日【聞き手：福鎌達夫】[福鎌達夫編『如是閑八旬荘対談』(総合図書、1967年)収録]

大学の体育部について—体、智、徳、美の修練を『中央大学新聞』525、4月25日

日本文化の世界性『世連研究』1-1、春[『日本さまざま』収録]

民主化日本の新しい事相—御結婚式に参列して—『婦人之友』53-5、5月1日

同級生交歓[グラビア解説]『文芸春秋』37-5、5月1日

中央大学と故林総長[「追想」]『法学新報』66-5、5月15日

日本人と宗教『大法輪』26-6、6月1日[『日本さまざま』収録]

\*Growth of newspaper in Japan is reviewed『Nippon Times』6月

日本文化と宗教[在家仏教協会小田原分会講演会速記]『在家仏教』64、7月1日

生活に即した仏教—日本文化と宗教—『在家仏教』65、8月1日[対談(於在家仏教協会小田原分会)：増谷文雄]

芦田均君を憶う『東京だより』121、8月1日

批判の本質『政治公論』36、9月1日【対談：三枝博音】[『政治公論』43、1961年10月1日再録、福鎌達夫編『如是閑八旬荘対談』(総合図書、1967年)収録]

「モダンズムの功罪 アンケート」『無限』2、9月1日

八旬荘の記『大法輪』26-10、10月1日

犬にも長幼の序[「人間面接」]『朝日ジャーナル』1-32、10月18日【インタビュー】

\*病院のお役所風『ことばづかいと態度』<市川市病院協会会報>10月[市川市病院協会編『ことばづかいと態度 病院サービス改善のために』(医学書院、1961年)収録]

独創的な日本文化—今は第二の模倣時代『読売新聞』11月1日【対談：中山伊知郎】

【訪問インタビュー記事】本紙三万号で新聞三代を語る長谷川如是閑氏—“立場”を持つ新聞を 変遷三代をみつめた信念[中の談]『毎日新聞[夕刊]』11月8日

[記事「長谷川如是閑氏の近ごろ」中の談]『朝日新聞』12月5日

## 1960(昭和35)年

\*宗教の日本的特徴『孝道教団新聞』1月1日、2月1日、3月1日

新しきものへの飛躍[「1月のことば」]『子どものしあわせ』46、1月1日

「型」の創造と模倣[「百家争鳴」]『木工界』61、1月1日

われらが将来は洋々 あやまちを繰返さねば[「この日本に生きている さてこれから 長谷川如是閑氏の意見」]『日本経済新聞』1月19日

失われる国家の絶対主権 歴史動向は全世界的共同社会へ『神戸新聞』1月22日

消える国家の絶対主権 時流は世界協同社会へ『山陽新聞』1月25日

国家の絶対主権は失われた 全世界協同生活へ合流する歴史の動向[「学芸」]『新潟日報』1月27日

国家の絶対主権は失われた—歴史的動向は全世界的協同社会へ—『愛媛新聞[夕刊]』1月28日

放送ジャーナリズム論『放送文化』15-3、3月1日[『選集4』収録]

日本の古代歌謡の現代性について『無限』4、5月1日[『日本さまざま』収録]

言葉と文明について『政治公論』38、5月1日【福田恒存との対談】(『政治公論』43、1961年10月1日再録)[福鎌達夫編『如是閑八句荘対談』(総合図書、1967年)収録]

京の蛙・大阪の蛙『洛味』94、5月5日

伊豆あちこち『伊豆』13、6月1日

日本文明の総合性—国際的接触の結晶—『綜合文化』6-6、6月1日[『日本さまざま』収録]

アイクを迎えるに当たって『京都新聞』6月15日

民主化への自覚をもて アイクを迎えるにあたって[「文化」]『信濃毎日新聞』6月15日

アイクを迎えるにあたって 民主化への自覚を 国民の多数は歓迎する『西日本新聞』6月15日

民主化への自覚をもて—アイクを迎えるに当たって[「山陽時評」]『山陽新聞』6月16日

現代日本の自己喪失・アイクの訪日を中止させたもの『東京新聞[夕刊]』6月19日

世界連邦への必然性 現代史の動向は世界統合をめざしている『世界連邦新聞』95、7月1日

現代詩と日本の伝統『政治公論』39、7月1日【座談会：西脇順三郎、村野四郎、安山実】

マス・コミュニケーションにおける日本的倫理性『道徳と教育』3-7、10月1日[「マス・コミの日本的倫理性」と改題『日本さまざま』、『選集4』収録]

日本人の潔癖? [「随筆」]『朝日新聞[夕刊]』10月9日

## 1961(昭和36)年

人間的教育を[「一九六一年の教育に期待する」]『小一教育技術』14-14、1月1日

おめでたい国民[「生活随想」]『婦人之友』55-1、1月1日

日本さまざま『大法輪』27-1～12、28-1～12、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、**1962年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日【(1)文化的デモクラシーの国、(2)行動の科学性、(3)履物から見た日本、(4)「手の文明」の国、(5)形と色の道徳、(6)文学と芸術の大衆性、(7)生活文化の独自性、(8)生活自体にある芸術性、(9)全国民的の短詩形文学、(10)家とそこでの生活、(11)哲学も実用品—武道哲学、(12)日本だけにある文化形態、(13)言葉の独自性—「ミカド」「旦那」「お上さん」など、(14)障子の棧—建具の心理、(15)無言の家庭教育—「躰」、(16)小じんまり文明、(17)日本語の社会性—丁寧語、(18)「形の文化」の独自性、(19)末梢重視の日本文化、(20)日本人の「綺麗ずき」、(21)陽明哲学と日本人、(22)作法と不作法、(23)形象文化の実用性、(24)日本文明の基本的性格】『『日本さまざま』(大法輪閣、1962年12月20日)収録]

【インタビュー記事「健在なり 衰えぬ批評家精神」中の談】『西日本新聞』1月24日

詩人の国日本『洛味』103、2月5日

大学の国際性と自治性[「如是翁閑話】『中央評論』73、3月15日[『『日常性の中なる日本』収録]

実学[「如是翁閑話】『中央評論』74、5月15日[『『日常性の中なる日本』収録]

日常生活[「如是翁閑話】『中央評論』75、6月15日[『『日常性の中なる日本』収録]

甘くも辛くもない話『あまカラ』119、7月5日

偶感十首[短歌]『短歌研究』18-9、9月1日

「魔刀令」から「魔銃令」に[「如是翁閑話】『中央評論』76、9月5日[『『日常性の中なる日本』収録]

明治・大正・昭和三代の政治『中央公論』76-10、10月1日【対談：松本三之介】

【訪問記事「長谷川如是閑翁を訪ねる」中の談】『日本古書通信』26-10、10月15日

学生諸君への手紙 民主主義と平和のために『中央大学新聞』595、10月26日

具象文明の国[「如是翁閑話】『中央評論』77、11月10日[『『日常性の中なる日本』収録]

## 1962(昭和 37)年

日本歴史の性格 古代からの行動の科学性と近代性『朝日新聞』1月1日[『日本さまざま』収録]

伝統につながる日本の将来—日本の美点がうしなわれてはいないか—『経済往来』14-1、1月1日[対談：関嘉彦]

日本の近代化と西欧化について『政治公論』44、1月1日【対談：J. D. ゴーヒン】[福鎌達夫編『如是閑八旬荘対談』(総合図書、1967年)収録]

日本史と世界史との関連について『歴史教育』10-1、1月1日

その右にいつる[「如是翁閑話】『中央評論』78、1月15日[『『日常性の中なる日本』収録]

日本独自の「形の文明」[「百家争鳴】『室内』86、2月1日

地方紙の存在理由とその持続性『神奈川新聞』2月1日

歴史の逆転[「如是翁閑話】『中央評論』79、3月15日[『『日常性の中なる日本』収録]

日本文明十話『毎日新聞』6月18、19、21、22、24～29日【(一)生活文化の独自性、(二)日常生活にある芸術性、(三)『家』と青少年のあり方 その一、(四)『家』と青少年のあり方 その二、(五)最高芸術の大衆性、(六)多様性と両極性、(七)哲学のない文明国、(八) オンアボキヤ、(九)自然美と人工美、(十) 伝

統の持続】[『十人百話』(毎日新聞社、1963年1月25日)収録、「オンアボキヤー」は、『全貌』11-12、1970年12月1日に転載]

The Nature of Japanese History 『Japan Quarterly』9-2、Apr.-June[『日本さまざま』収録]

\*村山・上野社長『朝日人 朝日社報』7月

「超心理」から「超物理」へ[「如是翁閑話」]『中央評論』80、9月5日[『日常性の中なる日本』収録]

[グラビア「私と中央公論」]『中央公論』77-11、10月1日

ジャーナリズムの伝統と現代[「今月の言葉」]『中央公論』77-11、10月1日

『国家行動論』随聞記『政治公論』46、47、51、53、54、10月1日、**1963年**3月1日、**1965年**2月1日、**1966年**3月1日、**1967年**3月1日【聞き手：福鎌達夫】[「国家・人格・法をめぐる対話」と題して『如是閑八旬荘対談』(総合図書、1967年)収録]

### 1963(昭和38)年

「家」とそこでの生活の形[「百家争鳴」]『室内』97、1月1日

「国づくり」と「人づくり」『大法輪』30-1、1月1日【座談会：鈴木大拙、松永安左衛門、司会：古田紹欽】  
[『鈴木大拙坐談集 第1巻 人間の智慧』(読売新聞社、1971年)収録]

私の履歴書『日本経済新聞』1月1、3～31日[『選集7』、『私の履歴書第18集』(日本経済新聞社、1963年)、『私の履歴書 文化人2』(日本経済新聞社編・刊、1983年)、『私の履歴書 反骨の言論人』<日経ビジネス人文庫>(日本経済新聞出版社、2007年)収録]

八十八翁の夢『婦人之友』57-1、1月1日

日本文化の再認識『毎日新聞』1月1日[対談：E.O.ライシャワー]

「誇り」を持とうー正しい自覚に立ったー『郵政』15-1、1月1日

「前衛芸術」と日本[「如是翁閑話」]『中央評論』81、1月[20日][『日常性の中なる日本』収録]

多病長生法『大法輪』30-2～4、2月1日、3月1日、4月1日

試験と人生『中央大学新聞』636、2月26日

思想よりは行動[「如是翁閑話」]『中央評論』82、3月1日[『日常性の中なる日本』収録]

私の七十余年の短歌歴『洛味』128、3月5日[『選集7』収録]

[インタビュー記事「春日閑談」中の談]『中部日本新聞[夕刊]』3月22、26～29日

読む百科大辞典 完成を喜ぶ[「玉川百科大辞典完結」]『全人教育』37-5、5月1日

ボクシングの反スポーツ性[「如是翁閑話」]『中央評論』83、6月1日[『日常性の中なる日本』収録]

三宅雪嶺を語る『実業之世界』60-7、7月1日

日本人の国語の性能について『国語国字』17、8月1日

[インタビュー記事「涼風に語る 長谷川如是閑氏 日本独自の個性が大切 やがて創造的文化の時代に」中の談]『東京新聞』8月21日

犬道[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』8月23日

[インタビュー記事「日本独自の個性が大切 戦後のモノマネ時代は去る」中の談]『講演時報』1179、9月1

日

行易不行難[「如是翁閑話」]『中央評論』84、9月1日[『日常性の中なる日本』、『選集7』、『如是閑集1』収録]

世界連邦への動き『うえの』54、10月1日

学鑑六十周年記念に際して『学鑑』60-10、10月5日

地に堕ちた『無冠の帝王』『潮』41、11月1日[『選集4』収録]

### 1964(昭和39)年

第二の平安時代はいつ来る? [「百家争鳴」]『室内』197、1月1日

「吾は是れ日本人」[「如是翁閑話」]『中央評論』15-4、1月1日[『日常性の中なる日本』収録]

「家」の道徳的教育—日本的特徴—[「道徳とは何か」]『毎日新聞』1月3日[『大阪毎日新聞』1月3日]

第二の平安時代“独自の典型”を生む[「三代の精神 日本文化の将来をおもう 明治」]『産経新聞』1月6日

無言の教訓—日本の「家」[「如是翁閑話」]『中央評論』16-2、3月1日[『日常性の中なる日本』、『長谷川如是閑集 第1巻』収録]

日本文化の世界性『ロータリーの友』12-4、4月1日

国際的文化交流の意義—その日本的特徴『国際文化』118、4月5日

心と行動を[「心のみちしるべ」]『中央大学新聞』670、4月16日

俗語に漢語を[「如是翁閑話」]『中央評論』16-2、6月1日[『日常性の中なる日本』収録]

文化的デモクラシー[「日本は誇っていい」]『読売新聞』8月3日

「形」の道徳—日本独自の[「如是翁閑話」]『中央評論』16-3、9月1日[『日常性の中なる日本』収録]

\*寿[書蹟]『ヒューマンタイムス』2、9月1日

読書の思い出[「特集 読書のすすめ」]『月刊東海テレビ』64、10月1日[『選集7』収録]

八旬荘の記『洛味』147、10月5日

スポーツと芸術[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』10月18日

大正デモクラシーと文学—雑誌「我等」のころ—『文学』32-11、11月1日【聞き手：丸山真男、紅野敏郎】

「運動」=「スポーツ」に[「私と中大」]『中央大学新聞』699、12月26日

### 1965(昭和40)年

明治・大正・昭和を生きて 如是閑翁に聞く『秋田魁新報』1月1日【殿木圭一によるインタビュー】

古るび[「百家争鳴」]『室内』121、1月1日

新聞の今昔[「新春随想」]『総合ジャーナリズム研究』2-1、1月1日

“ism” から “ismos” に還元[「如是翁閑話」]『中央評論』16-4、1月1日[『日常性の中なる日本』収録]

〔「わたしのほしいもの」』『婦人之友』59-1、1月1日  
日本文明の象徴的表現『瑞垣』66、1月1日  
日本人と日露戦争〔「30,000号 その歴史をかえりみて」』『〔大阪〕朝日新聞』1月14日  
ナショナリズムと日本の国民性『日本』8-2、2月1日  
〔「羽仁もと子選集1「幸いの根」を手にして よせられた諸家のお手紙や感想の中から」』『婦人之友』59-2、  
2月1日  
私の言葉『週刊新潮』10-11、3月15日〔インタビュー〕  
〔「多病長生」〔「如是翁閑話」』『中央評論』17-1、3月1日〔『日常性の中なる日本』収録〕  
長谷川如是閑氏を囲んで―回想・方法・日本文化論『東京大学新聞研究所紀要』13、3月30日【荒瀬豊・  
高橋徹によるインタビュー】  
如是閑、ラッセルを語る〔談〕『日本バートランド・ラッセル協会会報』1、5月18日  
教育の自主性 日本独特のもの『教育日本新聞』4、6月1日  
ターンバイク式〔「如是翁閑話」』『中央評論』17-2、6月1日〔『日常性の中なる日本』収録〕  
日本文化と宗教 固有の信仰と“外来”が同居〔「日曜版」』『毎日新聞』6月6日  
履歴のない履歴書〔「わが履歴書」』『中央公論』80-8、8月1日  
私の座右の書『洛味』157、8月5日〔選集7』収録〕  
日本人あれこれ『日本』8-9、9月1日【対談：笠信太郎】  
〔記事「長寿の日に改める 小田原市如是閑氏から一言」中の談〕『毎日新聞』9月13日  
無名人逝く〔「如是翁閑話」』『中央評論』17-3、9月1日〔『日常性の中なる日本』、『如是閑集1』収録〕  
明治の学生生活『中央大学学報』28-5、10月1日  
80年の歴史を語る 明治・大正・昭和『中央大学新聞』723、10月5日【対談：和田芳恵】  
現代小説について『中央大学新聞』732、12月28日【対談：和田芳恵】

## 1966(昭和41)年

日本文化の独自性「家」とそこでの生活『教育日本新聞』23、1月1日  
世界連邦と日本人〔「今後の運動の進め方 各界有識者に聞く」』『世界連邦新聞』158、1月1日  
模倣と創造〔「百家争鳴」』『室内』133、1月1日  
如是閑式健康法〔「長寿法九問」』『大法輪』33-1、1月1日〔『選集7』収録〕  
シロ子の叡智〔「如是翁閑話」』『中央評論』17-4、1月1日〔『日常性の中なる日本』収録〕  
日本国家の象徴―京都御所―『洛味』162、1月5日  
〔訪問記事「如是閑翁大いに語る―平和を愛する日本人・古代からの伝統で裏打ち」中の談〕『朝日新聞〔夕  
刊』〕1月10日  
日本人の科学的性格『教育日本新聞』27、2月21日

名誉都民如是閑先生に聞く 都市の改造には文化財の保護を忘れずに[談]『週刊とちょう』82、3月1日  
頭脳と五体[「如是翁閑話」]『中央評論』18-1、3月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
“読書”と好きな“細工”[談]『毎日新聞』3月30日  
小泉信三氏の思い出―適格無類な教育家『東京新聞[夕刊]』5月31日  
生活の芸術[「如是翁閑話」]『中央評論』18-2、6月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
独自の文明[「これからの日本」]『毎日新聞』7月30日  
写真に添えて[「大拙先生九十五年」]『大法輪』33-9、9月1日  
「法」の起源[「如是翁閑話」]『中央評論』18-3、9月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
日本文明の独自性『動向』1254、10月1日  
新聞の報道性と指導性『新聞研究』185、12月1日  
東京法学院の思い出『中央大学学会会報』1、12月15日

### 1967(昭和42)年

幼児の訓育 文明と家庭の環境『教育日本新聞』50、1月1日  
大黒柱[「百家争鳴」]『室内』145、1月1日  
明日の世界と日本『世界連邦新聞』170、1月1日  
日本文明を貫くもの『動向』1257、1月1日『明治の評価と明治人の感触』動向社編集部編、動向社、1967年5月15日  
[インタビュー記事「日本人の英知を信ずる―長谷川如是閑翁にきく」中の談]『中日新聞』1月1日([インタビュー記事「日本人の英知を信ずる 三代に生きる長谷川如是閑氏」中の談]『東京新聞[夕刊]』1月3日)  
明治維新に思う[特集 明治百年]『道徳と教育』9-10、1月1日  
伝統よ永遠なれ『日本経済新聞』1月1日  
対談―長谷川如是閑― 如是閑話『社会思想研究』19-1、1月15日[対談：江上照彦]  
日本の住宅[「如是翁閑話」]『中央評論』18-4、1月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
[インタビュー記事「あすを築く一票 如是閑翁にきく」中の談]『朝日新聞』1月29日  
断じて行なわざるもまた勇なり[「勇気ある言葉」]『毎日新聞』1月29日[『勇気あることば』(毎日新聞社、1967年)収録]  
「礼」の哲学の現実性『大法輪』34-2、2月1日  
明治の精神と昭和の心[「創刊95周年記念特集」]『毎日新聞』2月21日  
日本の衣食住文化の独自性[「随筆」]『中央公論』82-3、3月1日  
耳と眼[「如是翁閑話」]『中央評論』19-1、3月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
明治維新にみる日本人の心理と行動『動向』1259、4月1日[動向社編集部編『明治の評価と明治人の感触』(動向社、1967年)収録]  
日本人と言葉『動向』1260、5月1日

今の教育、昔の教育 教師に自由と責任を『月刊教育ジャーナル』6-3、6月1日【対談：柳内達雄】  
行動本位[「日本人である最低条件」]『潮』84、6月1日  
頓知の発達と自己規制[「如是翁閑話」]『中央評論』19-2、6月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
日本的教育の伝統—しつけ—『動向』1261、6月1日  
日本文明と日本人の食生活『動向』1262、7月1日  
女性による日本文学の創造『動向』1263、8月1日  
[インタビュー記事「如是閑翁近頃あれこれ」中の談]『神奈川新聞』8月11日  
両極性—日本文明の特徴[「如是翁閑話」]『中央評論』19-3、9月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
宗教的生活に見る日本人の特徴『動向』1264、9月1日  
明治日本の西洋化について『動向』1265、10月1日  
ジャーナリズム批判『道徳と教育』10-7、10月1日[対談：古川哲史]

### 1968(昭和43)年

\*[インタビュー記事「三代を生きる—長谷川如是閑氏 “インテリより庶民へ” 日本を動かす感覚」中の談]『新  
関西』1月1日  
明治との対話『総合ジャーナリズム研究』5-1、2、1月1日、2月1日【対談：萩原延寿】  
学生の今昔[「如是翁閑話」]『中央評論』19-4、1月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
日本人の日常生活と「礼儀」『動向』1267、1月1日  
独創力を語り継げ[「日本のこころ」]『毎日新聞』1月1日  
[インタビュー記事「明治百年を生きる—独自の筆に託して 評論界の最長老長谷川如是閑氏」中の談]『山陽新  
聞』1月3日([インタビュー記事「明治百年を生きぬく 評論界の最長老長谷川如是閑氏 日本をささえる庶  
民性、大正・昭和の論陣リード」中の談]『山梨時事新聞』1月3日)  
日本の庭[「如是翁閑話」]『中央評論』20-1、3月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
血湧き肉踊ったところと今[「追想」]『現代の眼』9-4、4月1日  
家塾の思い出[「隨筆」]『月刊教育ジャーナル』7-2、5月1日  
世界的協同体へ[「如是翁閑話」]『中央評論』20-2、6月1日[『日常性の中なる日本』収録]  
終戦記念日に考える 日本民族について『産経新聞[夕刊]』8月15日  
都市生活の退化[「如是翁閑話」]『中央評論』20-3、9月1日[『日常性の中なる日本』収録]

### 1969(昭和44)年

初めに行動ありき『日本及日本人』1469、1月1日  
歴史というもの『神奈川県史研究』2、1月16日  
如是閑翁談片『図書』244、12月1日【1956年3月4日対談：大内兵衛】



**1970(昭和 45)年**

〔「巻頭[一言一句]」〕『政治公論』60、4月1日

〔土田杏村宛書簡二通〕『土田杏村とその時代』12・13、4月10日〔『如是閑集 8』収録〕

**1983(昭和 58)年**

長谷川如是閑の未発表原稿－新聞批判『総合ジャーナリズム研究』20・2、4月1日

## VII 初出一覧(1 著書、2 著作選集)

\*収録評論と初出とを掲げた。収録時に改題されているものについては初出原題を示したが、括弧の用法(「、『』など)、句読法、仮名遣い、新旧漢字の単純な表記上の違いは無視した。収録時に加筆・修正されているものもある。

\*初出以外の底本が明らかなものは、( )に底本を記した。

### 1. 著書

#### 『倫敦』政教社、1912年5月1日

『世界の真中』チャーリング・クロツス	『大阪朝日新聞』	1911年3月2～6日
議論多きトラファルガル・スクエア	『大阪朝日新聞』	1911年3月7,8日
咄、ハイド・パーク	『大阪朝日新聞』	1911年3月9,11～15日
清浄なるケンシントン・ガーデンズ	『大阪朝日新聞』	1911年3月16,17日
素朴なるケンシントン・パレーズ	『大阪朝日新聞』	1911年3月18日
不人望のマーブル・アーチ	『大阪朝日新聞』	1911年3月19日
倫敦ストーン	『大阪朝日新聞』	1911年3月20日
ヴェクトリア・エンバンクメント	『大阪朝日新聞』	1911年3月21～23日
ピフテキを喰ふ人種	『大阪朝日新聞』	1911年3月24日
妖しき塔橋	『大阪朝日新聞』	1911年3月25日
お気の毒なる宮城	『大阪朝日新聞』	1911年3月26日
倫敦一の贅沢町	『大阪朝日新聞』	1911年3月27日
鉄道から見た倫敦	『大阪朝日新聞』	1911年3月28～31日、4月1,2日
英国政治の策源地	『大阪朝日新聞』	1911年4月4,5日
古本屋町	『大阪朝日新聞』	1911年4月6日
往来から見た倫敦	『大阪朝日新聞』	1911年4月7～13日
聖ポールの大伽藍	『大阪朝日新聞』	1911年4月14～18日
倫敦の鐘の聲	『大阪朝日新聞』	1911年4月19,20日
テムスより見たる巴力門	『大阪朝日新聞』	1911年4月21日
僕の昔馴染の倫敦	『大阪朝日新聞』	1911年4月22日
車のいろいろ	『大阪朝日新聞』	1911年4月23日
実感挑発的倫敦	『大阪朝日新聞』	1911年4月24～30日、5月1,2日
上院瞥見	『大阪朝日新聞』	1910年7月19,20日
不可解の下院	『大阪朝日新聞』	1911年5月3～8日
ウエストミンスター寺院	『大阪朝日新聞』	1911年5月9～15日
倫敦女房	『大阪朝日新聞』	1911年5月16～20日
英皇崩御の翌朝	『大阪朝日新聞』	1910年5月30,31日、6月1,3日
英皇靈棺安置式	『大阪朝日新聞』	1910年6月6,8,9日
大葬拝観	『大阪朝日新聞』	1910年6月14～17日
女権拡張示威運動	『大阪朝日新聞』	1910年7月16～18日
英国の工場村	『大阪朝日新聞』	1910年7月6～9日
<b>倫敦まで</b>		
シルビンスク号より	『大阪朝日新聞』	1910年3月28,29日
浦塩の二日	『大阪朝日新聞』	1910年3月30日、4月9日
万国寝台列車	『大阪朝日新聞』	1910年4月11日
日本人と大平面	『大阪朝日新聞』	1910年4月21日
西伯利亞に入る	『大阪朝日新聞』	1910年4月28,29日、5月1日
欧露に入る	『大阪朝日新聞』	1910年5月11日
暮斯科著	未発表	
<b>生駒にて</b>		
ブリマウスよりナポリまで	『大阪朝日新聞』	1910年9月28～30日
<b>帰路</b>		
ナポリを出づ	『大阪朝日新聞』	1910年10月29日
ナポリの今昔	『大阪朝日新聞』	1910年10月30日
フロンテス号	『大阪朝日新聞』	1910年10月31日
ポート・サイド	『大阪朝日新聞』	1910年11月1,2日
スエズの今昔	『大阪朝日新聞』	1910年11月3日
カナルの右岸	『大阪朝日新聞』	1910年11月7,8日

紅海	『大阪朝日新聞』1910年11月9日
印度洋	『大阪朝日新聞』1910年11月10日
コロンボの色	『大阪朝日新聞』1910年11月11日
ベンガル湾と二葉亭	『大阪朝日新聞』1910年11月12日
新嘉坡	『大阪朝日新聞』1910年11月13~15日
香港	『大阪朝日新聞』1910年11月16,18,19日

## 『搦手から』&lt;大正名著文庫 第13編&gt;至誠堂書店、1915年3月1日

【題言】	
ひとりもの	『日本及日本人』450、1907年1月1日
足のうら	『大阪朝日新聞』1909年1月8,9,11~13日
くつしたの穴	『日本及日本人』457,458、1907年4月15日、5月1日
殿さまお目ざめ	『日本及日本人』467,469,472,476,480、1907年9月15日、10月15日、11月15日、1908年1月15日、3月15日
フェルビゲラチオン	『大阪朝日新聞』1909年1月5日
にほひ	臭ひ『日本及日本人』471、1907年11月3日
無我の女?	『層雲』2-1、1912年5月1日
病める革命家の日記から	『日本及日本人』597、1913年1月1日
如是閑語	『日本及日本人』464~467,469、1907年8月1,15日、9月1,15日、10月15日

## 『現代国家批判』弘文堂書房、1921年6月15日

自序	
<b>第1編 国家</b>	
第1章 闘争本能と国家の発生	闘争本能と国家の進化『中央公論』35-11、1920年10月1日
第2章 生活の現実と超国家の死滅	『我等』2-6、1920年6月1日
第3章 国家意識の社会化	『我等』1-4、1919年4月1日
第4章 国家的万能力の進化	国家的万能力の不合理性『解放』2-7、1920年7月1日
第5章 国家悪と産業悪	『我等』2-8、1920年8月1日
第6章 国家の進化と愛国的精神	『改造』2-9、1920年9月1日
第7章 国家と真理との交戦状態	『我等』2-3、1920年3月1日
第8章 自国本位主義の解剖	『中央公論』36-2、1921年2月1日
<b>第2編 政治</b>	
第1章 実際政治に於ける自由主義と干渉主義	『我等』2-11、1920年11月1日
第2章 政治思想としての『無政府』と『独裁』	『無政府』と『独裁』—政治思想の両極に対する断片的考察『我等』2-10、1920年10月1日
第3章 政党政治の完成と自壊作用	政党主義の樹立と其自壊作用『太陽』26-9、1920年8月1日
第4章 政党政治の本質的欠陥	『大観』4-1,2、1921年1月1日、2月1日
第5章 議会政治の存在理由と崩壊	『解放』3-2、1921年2月1日
第6章 国家の商人化	国家の商人化と政治否定『我等』3-1、1921年1月1日
第7章 我が現代政治に於ける世界的傾向	『我等』2-4、1920年4月1日
<b>付録</b>	
(1) 形而上学的国家学説の批判	ヘーゲル派の自由[意志]説と国家 哲学的国家観に対するホブハウス教授の批判を紹介す『我等』2-1、1920年1月1日 絶対国家説に対する社会学的批判 ホブハウス教授の絶対国家説の批判『我等』2-2、1920年2月1日
(2) 社会連帯の国家法理	ソリダリティの法理に就いて『新社会への諸思想』聚英閣、1921年3月15日
(3) 主権説の成立と其崩壊	『我等』3-4、1921年4月1日

## 『現代社会批判』弘文堂書房、1922年1月25日

緒言	
<b>第1編</b>	
第1章 現代文化の特徴と其の転機	『太陽』26-6、1920年6月1日

第2章 階級意識と階級闘争	階級戦争の倫理『我等』1-13、1919年11月1日
第3章 生活享楽の分業と階級的反感	『雄弁』11-5、1920年5月1日
第4章 現代文化に対する民衆化の意義	民衆化と社会的頹廢 現代文化に対する民衆化の意義『我等』1-14、1919年12月1日
第5章 現代社会と集団意識	集団意識と協調主義『我等』3-5、1921年5月1日
第6章 文化否定の生活意識	『新文学』16-3、1921年3月1日
第7章 個人的優越の否定	『我等』1-10、1919年8月1日
<b>第2編</b>	
第1章 『労働の芸術化』に就て	「労働の芸術化」か「芸術の労働化」か『解放』2-2、1920年2月1日
第2章 快樂論的労働観を排す	『我等』2-7、1920年7月1日
第3章 生活としての労働	『中央公論』36-3、1921年3月1日
<b>第3編</b>	
第1章 財産に関する一考察	『我等』3-2、1921年2月1日
第2章 『企業』と『労働』との本質と変態	『企業』と『労働』とに関する一考察『我等』3-3、1921年3月1日
第3章 富の神化	『我等』2-9、1920年9月1日
第4章 企業参加権に就て	企業参加権の法的基礎『太陽』27-1、1921年1月1日
<b>第4編</b>	
第1章 性的に観た社会	『我等』2-12、1920年12月1日
第2章 生殖生活の解放から女子独裁へ	『婦人公論』5-11、1920年11月1日
第3章 性的感情の醇化	『我等』1-5、1919年4月15日
第4章 結婚制度に就て	進化せざる結婚制度『解放』2-10、1920年10月1日
<b>付録</b>	
(1) ラッセルの社会思想と支那	『読売新聞』1920年11月10～16日
(2) 社会思想の一考察	『雄弁』12-1、1921年1月1日
(3) 我が新聞紙の現在と将来	『雄弁』11-1、1920年1月1日
(4) 英国式社会観	英国我『日本及日本人』721、1918年1月1日

#### 『道徳の現実性』中外出版、1922年11月20日

緒言	
現実の道徳と非現実の道徳	『中外日報』1922年10月21、22、24日
正統の道徳と生活の道徳	『中外日報』1922年3月29～31日、4月1、2、5日
優越者の道徳	『中外日報』1922年4月30日、5月2～7日
支配の道徳と労働の道徳	『我等』4-7、1922年7月1日
現代的運動の特徴	『中外日報』1922年2月8～11、14日
生活の道徳と歴史の虚偽	初出未詳
文明と野蛮	『中外日報』1922年8月24～26日
文化思想と文化事実	文化思想と文化事業『中外日報』1922年9月3、5、6日
社会性の発見	神と人と社会『大観』5-4、1922年4月1日
体験と同情	『中外日報』1922年7月9、11、12日
教育者の生活問題	制度としての教育 特に教育者の生活問題『中外日報』1922年2月28日、3月1～4日

#### 『眞実はかく伴る』叢文閣、1924年2月5日

野蛮人のイニシエーション	『我等』1-3、1919年3月15日
最も弱きものゝ強味	『我等』1-8、1919年6月1日
山へ行け	『我等』1-9、1919年7月1日
死刑＝歴史は繰返す	『我等』1-10、1919年8月1日
黒白の争ひ	『我等』1-11、1919年9月1日
奴隷優遇	『我等』1-12、1919年10月1日
暴利取戻令	国家と成金『我等』1-13、1919年11月1日
血のバラドックス	『我等』1-14、1919年12月1日
未来を迎ふる心	『我等』2-1、1920年1月1日
埃及王を渡せ	『我等』2-2、1920年2月1日
農奴解放	『我等』2-3、1920年3月1日
埴輪以前	『我等』2-4、1920年4月1日
機械の人格化－人格の機械化	『我等』2-6、1920年6月1日
強き者に対する反逆	『我等』2-7、1920年7月1日
ゴリラに返れ	『我等』2-8、1920年8月1日

欺かれた靈魂と人間	『我等』 2-9、1920年9月1日
上から下へ	『我等』 2-10、1920年10月1日
楚王と漁夫	『我等』 2-11、1920年11月1日
衣服と肉体	『我等』 2-12、1920年12月1日
『たつた一人に六百人』	『我等』 3-2、1921年2月1日
舜と龍神	『我等』 3-3、1921年3月1日
十返舎一九のロジック	『我等』 3-4、1921年4月1日
『礼儀正しい泥棒』	『我等』 3-5、1921年5月1日
酒樽と人間	『我等』 3-6、1921年6月1日
孟子国字解	『我等』 3-7、1921年7月1日
火と鉄	『我等』 3-8、1921年8月1日
聖人	『我等』 3-9、1921年9月1日
『小僧の耳』	『我等』 3-11、1921年11月1日
優越と自然	『我等』 3-12、1921年12月1日
歳の始め	『我等』 4-1、1922年1月1日
蜂の子	『我等』 4-2、1922年2月1日
ロータトーリアの死	『我等』 4-3、1922年3月1日
奴隷であることの喜び	『我等』 4-4、1922年4月1日
エスキモー	『我等』 4-5、1922年5月1日
魂のさせる業	『我等』 4-6、1922年6月1日
盗跖の言葉	『我等』 4-7、1922年7月1日
不思議	『我等』 4-8、1922年8月1日
節約	『我等』 4-9、1922年9月1日
宗教と政治	『我等』 4-10、1922年10月1日
人間の値段付け	『我等』 4-11、1922年11月1日
聖人の妻	『我等』 4-12、1922年12月1日
一の字の不思議	『我等』 5-1、1923年1月1日
泥棒は正直	『我等』 5-2、1923年2月1日
踊り児の独語	『我等』 5-3、1923年3月1日
アリストートルの妄語	『我等』 5-4、1923年4月1日
善良な悪魔の涙	『我等』 5-5、1923年5月1日
猪の聖者	『我等』 5-6、1923年6月1日
魂の逃げ場	『我等』 5-7、1923年7月1日
逆賊の作った法律	『我等』 5-8、1923年8月1日
靈魂の獄舎	『我等』 5-9、1923年9月1日
序破急	『女性改造』 3-1、1924年1月1日

## 『犬・猫・人間』&lt;改造社随筆叢書 第1篇&gt;改造社、1924年5月1日

はしがき	
ピョートルの猫と私の猫	『中央公論』 39-1、1924年1月1日
亡友四匹	『中央公論』 37-6、1922年6月1日
猛犬ジャツクの話	『我等』 2-4、1920年4月1日
門	『我等』 3-8、1921年8月1日
玄關	『我等』 4-5、1922年5月1日
私の借りた家	『我等』 1-2、1919年3月1日
初めて逢った漱石	初めて逢った漱石君『大阪朝日新聞』1916年12月18日
原敬の人相	天才原敬氏『日本一』 6-8、1920年8月1日
大阪人の顔其他	郊外生活から見た大阪人『中央公論』 36-8、1921年7月15日(収録時に「大阪人の顔」の一節を追加して改題)
純日本式	『東京日日新聞』1923年1月8、9日
もし日本人がアメリカを発見してみたら	在米南朝日本『日本及日本人』 822、1921年11月11日
低気圧前後	『新小説』 25-4、1920年4月1日
或る亡友への手紙	亡友への手紙『我等』 1-9、1919年7月1日
マズィニのロンドン生活	マズィニの倫敦生活の一節『日本及日本人』 766、1919年9月20日

## 『歴史を捻ぢる』鉄塔書院、1930年6月15日

序	
神が人間を作る時の会議	『我等』 6-1、1924年1月1日

鯨の歯	『我等』 6-2、1924年3月1日
大虎の謎	『我等』 6-3、1924年4月1日
カント以前とカント以後	『我等』 6-4、1924年5月1日
モルモン宗徒は笑ふ	モルモン宗徒に学べ『我等』 6-5、1924年6月1日
蟻の国家主義	『我等』 6-6、1924年7月1日
物が神を創造する	『我等』 6-7、1924年8月1日
一文無しのロゼツク	『我等』 6-8、1924年9月1日
女の蘇る時代	『我等』 6-9、1924年10月1日
貝殻の虐政	『我等』 6-10、1924年11月1日
パラドックス	『我等』 6-11、1924年12月1日
闘争から光へ	『我等』 7-1、1925年1月1日
偽首と革囊	『我等』 7-3、1925年3月1日
豚と豚	『我等』 7-4、1925年4月1日
羨むべき『ケレケレ』	『我等』 7-5、1925年5月1日
犯罪と女	『我等』 7-6、1925年6月1日
嘘のやうなアメリカの話	『我等』 7-7、1925年7月1日
孟子の不勞所得	『我等』 7-8、1925年8月1日
猿語の映ひ	『我等』 7-9、1925年9月1日
『新経済政策』	『我等』 7-10、1925.10月1日
軍事教育の見本	『我等』 7-11、1925年11月1日
黒い骨と白い骨	『我等』 7-12、1925年12月1日
神々の作った真理	『我等』 8-1、1926年1月1日
翻訳の日本	『我等』 8-2、1926年2月1日
人間と大根	『我等』 8-4、1926年4月1日
大きな鼠	『我等』 8-5、1926年5月1日
支那の車夫	『我等』 8-6、1926年6月1日
支那人の家	『我等』 8-7、1926年7月1日
山で死ぬ人々	『我等』 8-8、1926年8月1日
軍神イコング	『我等』 8-9、1926年9月1日
プラトン式嘘つき	『我等』 8-10、1926年10月1日
ツワシトリの子供達	『我等』 8-11、1926年11月1日
奴隷の世界	『我等』 8-12、1926年12月1日
『我輩平民』	『我等』 9-1、1927年1月1日
呪はれた白人	『我等』 9-2、1927年2月1日
ある気遣ひ婆さんの死	『我等』 9-3、1927年3月1日
『ベンゴールのロヒラス』	『我等』 9-4、1927年4月1日
鉄の鋏と黄金の鋏	『我等』 9-5、1927年6月1日
とにかく儲けませう	『我等』 9-6、1927年7月1日
貴族一軍人一資本家の歴史	『我等』 9-7、1927年8月1日
人間から神を作る法	『我等』 9-8、1927年9月1日
外来思想の取締	『我等』 9-10、1927年12月1日
理論とその把持者	『我等』 10-1、1928年1月1日
馬	『我等』 10-2、1928年2月1日
組織の力	『我等』 10-3、1928年3月1日
『ラス』と紙片	『我等』 10-4、1928年4月1日
フランスの泥、日本の泥	『我等』 10-5、1928年5月1日
『唯心史観』	『我等』 10-6、1928年7月1日
罪人は誰れ?	『我等』 10-7、1928年8月1日
『不戦條約』劇(一幕)	『我等』 10-8、1928年9月1日
三千年前の俚謡	『我等』 10-9、1928年10月1日
船のやうな国	『我等』 10-10、1928年11月1日
満州にて	『我等』 10-11、1928年12月1日
戦争絶滅受合法案	『我等』 11-1、1929年1月1日
トルコを笑ふ者	『我等』 11-2、1929年2月1日
暗殺	『我等』 11-3、1929年3月1日
『珈琲は薄く、紅茶は濃く』	『我等』 11-4、1929年4月1日
裸にされたアメリカ主義	『我等』 11-5、1929年5月1日
ネロを支持する者	『我等』 11-6、1929年6月1日
にんにくの『イデオロギー』	『我等』 11-7、1929年7月1日
汝等の行くべき国	『我等』 11-8、1929年9月1日
ある日の新聞	『我等』 11-9、1929年10月1日

『合理化』	『我等』 11-10、1929年11月1日
殺老俗の復活	『我等』 11-11、1929年12月1日
ロンドン会議の場所錯誤	『我等』 12-1、1930年1月1日

## 『日本ファシズム批判』大畑書店、1932年11月20日(改訂版：大畑書店、1932年12月12日)

はしがき	
<b>第1篇 日本に於けるファシズムの発展</b>	
<b>1 ファシズムの社会・経済的条件</b>	
(1)イタリ－のファシズム	ファシズムの社会的条件と日本の特殊事情－日本にファシズムの可能性があるか『批判』2-3、1931年3月1日
(2)日本の特殊事情(一九三一年上半期)	我が国に於けるファシズムの可能と不可能－ファシズムの社会的条件と日本の特殊事情の続篇－『批判』2-4、1931年4月1日
<b>2 ファシズムの政治的条件</b>	
(1)日本の政治過程に於ける主動的勢力(一九二九年下半期)	日本の政治過程に於ける主動的勢力－田中内閣崩壊の動因『我等』11-7、1929年7月1日
(2)議会主義の破綻と『合法的』ファシズム(一九三一年上半期)	議会主義の破綻と『合法的』ファシズム『経済往来』6-4、1931年4月1日
(3)協力内閣の立消から復活へ(一九三二年上半期)	協力内閣の立消から復活へ『経済往来』7-1、1932年1月1日
(4)ブルジョア国家に於ける議会主義及び独裁主義(一九三二年上半期)	『改造』14-3、1932年3月1日
<b>3 ファシズムの観念形態</b>	
(1)資本主義・帝国主義・日本主義(一九三二年下半期)	『経済往来』7-7、1932年7月1日
(2)日本に於ける芸術的ファシズム(一九三二年上半期)	芸術に於けるファシズム『批判』3-3、4、1932年3月1日、4月1日
<b>第2篇 植民地政策を中心としての日本ファシズム</b>	
1 中国資本主義と日本資本主義(一九三一年下半期)－日支関係の『悪化』と帝国主義戦争の歪曲－	日支関係の「悪化」と帝国主義戦争の停頓『改造』13-10、1931年10月1日
2 満州に於ける日本の人口政策(一九二九年上半期)	満州における人口政策の失敗 満州の支那人々口増加『エコノミスト』7-3、1929年2月1日
3 日本の満州政策と併行線問題(一九三一年上半期)	併行線問題と日本の満洲政策『批判』2-2、1931年2月1日
4 『満鮮事件』と民族的対立(一九三一年上半期)	民族的対立と満鮮事件『批判』2-7、1931年7月15日
5 国家行動に於ける錯覚(一九三一年下半期)－『満州』事変に於けるその表現－	『批判』2-11、1931年12月1日
6 実践的ファシズムの盲目的人口論(一九三二年下半期)	実践的ファシズムの盲目的人口論『批判』3-1、1932年1月1日
<b>第3篇 最高資本主義とファシズム</b>	
1 民族主義と資本主義の諸段階(一九三〇年上半期)	民族主義と資本主義の諸段階『批判』1-2、1930年6月1日
2 大陸政策と島国政策(一九三一年上半期)	日本ブルジョアジーの大陸政策と島国政策－満洲事変の側面的解釈『批判』2-9、1931年10月1日
3 社会ファシズムへの発展(一九三二年上半期)	合法無産政党の清算期『中央公論』47-4、1932年4月1日
4 アンチ・ファシズムの合唱(一九三二年下半期)	斎藤内閣への必然的條件－並にアンチ・ファシズムの合唱『批判』3-6、1932年6月1日

## 『日本的性格』&lt;岩波新書&gt;岩波書店、1938年12月20日

はしがき	
1 日本的性格	日本的性格の再検討『改造』17-6、1935年6月1日
2 日本文明の伝統的特徴	『中央公論』53-7、1938年7月1日
3 伝統文化と現代文化	『中央公論』53-6、1938年6月1日
4 日本文明について－特に欧米人の理解のために－	『学芸協力と民族文化精神との相互理解』(英文)所収、1937年。未見

5 日本人の心理的特徴－特に欧米人の理解のために－	『日本評論』13-1、1938年1月1日
6 日本民族と伝統的態度－特に日本的態度に就て－	『思想』179、1937年4月1日
7 日本文明の表現形式	『新日本』1-2、1938年2月1日
8 日本文化と自然	『美 1936年版』平凡社、1936年12月2日
9 日本に於けるルネーサンス 付録 日本文化の成立	日本に於ける教権と人文主義『思想』173、1936年10月1日 初出未詳

『理想と現実』岩波書店、1941年8月25日

理想と現実	
純粹武人型	元帥の純粹武人型『読売新聞[夕刊]』1934年5月31日
スポーツの浄化	スポーツの浄化と職業野球団『読売新聞[夕刊]』1934年4月12日
日本式とヘボン式	『読売新聞[夕刊]』1934年7月19日
『官紀』と『民紀』	『読売新聞[夕刊]』1934年7月26日
『名古屋城異変』	『読売新聞[夕刊]』1934年8月16日
映画の国際的統制	『読売新聞[夕刊]』1934年9月20日
『日本アルプス』	山もし霊あらば『読売新聞[夕刊]』1934年10月25日
『大学街』の浄化	『読売新聞[夕刊]』1934年11月1日
スポーツ精神と教育精神	『読売新聞[夕刊]』1934年11月15日
農村教育の再認識	農村教育の再組織『読売新聞[夕刊]』1934年11月22日
『隠居』と『敬老』	『読売新聞[夕刊]』1934年11月29日
女性の『異国趣味』	『読売新聞[夕刊]』1934年12月13日
私生児に対する偏見	『読売新聞[夕刊]』1934年12月27日
国の若返り	『読売新聞[夕刊]』1935年1月10日
教育の重点	金箔教育の醜い『読売新聞[夕刊]』1935年2月14日
外国語偏重(?)	『読売新聞[夕刊]』1935年2月21日
不名誉の名所	国辱の名所『読売新聞[夕刊]』1935年2月28日
明治初年の新聞記者	野崎左文翁『読売新聞[夕刊]』1935年6月13日
女性と犯罪	『読売新聞[夕刊]』1935年6月27日
林恩忘却	林恩忘却の醜い『読売新聞[夕刊]』1935年7月4日
国立フィルム図書館	『読売新聞[夕刊]』1935年8月22日
海国民の趣味	海を嫌ふ海国民『読売新聞[夕刊]』1935年8月29日
ケーブルカー	ケーブルカーイズム『帝国大学新聞』591、1935年9月23日
裁判	裁判と教育『読売新聞[夕刊]』1935年9月26日
『討議』の教育	『読売新聞[夕刊]』1935年10月3日
明治の絵画	時代の表現『読売新聞[夕刊]』1935年10月17日
死刑が無罪に	『読売新聞[夕刊]』1935年10月24日
天災の責任	『読売新聞[夕刊]』1935年10月31日
木乃伊取り	真珠を豚と化す『読売新聞[夕刊]』1935年11月21日
文学の孤立	『読売新聞[夕刊]』1935年12月5日
宗教の変質	『読売新聞[夕刊]』1935年12月12日
国民性と犯罪	『読売新聞[夕刊]』1935年12月26日
相撲と拳闘	『読売新聞[夕刊]』1936年1月16日
政治的関心の指導	『読売新聞[夕刊]』1936年2月13日
合法性の原理	初出未詳、1936年3月
慈善事業の動念	慈善事業の失態『読売新聞[夕刊]』1936年4月16日
同伴自殺	『読売新聞[夕刊]』1936年4月23日
内面の芸術	『読売新聞[夕刊]』1936年5月28日
文化交通の自由	『読売新聞[夕刊]』1936年6月4日
『肅』の字	初出未詳、1936年6月
天文学と文明	天文学の教訓『読売新聞[夕刊]』1936年6月18日
士・農・工・商道	士道と平民道『読売新聞[夕刊]』1936年6月25日
蚊	『読売新聞[夕刊]』1936年7月10日
有閑教育	『読売新聞[夕刊]』1936年7月17日
投機心理	『読売新聞[夕刊]』1936年7月24日
体力と心力	『読売新聞[夕刊]』1936年8月7日
スペインの宿命	『読売新聞[夕刊]』1936年8月28日
民族的反感	『読売新聞[夕刊]』1936年9月4日
迷信の克服	『読売新聞[夕刊]』1936年9月11日



自治の伝統	『読売新聞[夕刊]』1936年10月16日
『家』の悲劇	『読売新聞[夕刊]』1936年10月23日
アマチュア精神	『読売新聞[夕刊]』1936年10月30日
白人精神の批判	初出未詳、1936年12月
私生児の保護	『読売新聞[夕刊]』1936年12月13日
時代と裁判	『読売新聞[夕刊]』1937年2月13日
日本の党首	『読売新聞[夕刊]』1937年2月19日
医療制度の誤謬	『読売新聞[夕刊]』1937年3月12日
飛行家に学ぶ	『読売新聞[夕刊]』1937年5月30日
芸術院とは	『読売新聞[夕刊]』1937年6月18日
芸術国策の基調	『読売新聞[夕刊]』1937年7月2日
宣伝下手	『読売新聞[夕刊]』1937年9月17日
日本人と支那人	『読売新聞[夕刊]』1937年10月1日
打ち勝ち難き心	『読売新聞[夕刊]』1937年10月9日
支那流と日本流	『読売新聞[夕刊]』1937年10月22日
宣伝主義	排宣伝主義『読売新聞[夕刊]』1937年11月5日
文化尊重	初出未詳、1937年11月
支那の政治	政治の不自然『読売新聞[夕刊]』1937年12月17日
隠居と停年	『読売新聞[夕刊]』1938年1月7日
憲法発布五十年	『読売新聞[夕刊]』1938年2月11日
『法』と『道』	初出未詳、1938年2月
支那語・漢学・英語	『読売新聞[夕刊]』1938年3月4日
文化外交官	“文化外交官”『読売新聞[夕刊]』1938年3月18日
支那といふ国?	『読売新聞[夕刊]』1938年3月25日
さくら	『読売新聞[夕刊]』1938年4月8日
断種法	『読売新聞[夕刊]』1938年4月17日
内容ある覚悟	『読売新聞[夕刊]』1938年4月30日
『嘉納先生』	『読売新聞[夕刊]』1938年5月6日
積極的節約へ	『読売新聞[夕刊]』1938年5月13日
自然と社会	『読売新聞[夕刊]』1938年5月29日
治水と支那の政治	『読売新聞[夕刊]』1938年6月17日
貯蔵本能	『読売新聞[夕刊]』1938年6月24日
現代教育の反省	職能教育の反省『読売新聞[夕刊]』1938年7月2日
科学的敏度	『読売新聞[夕刊]』1938年7月10日
二つの見方	『読売新聞[夕刊]』1938年7月15日
人工温度	『読売新聞[夕刊]』1938年7月22日
自治と公選	『読売新聞[夕刊]』1938年8月5日
偉大なる废品	『読売新聞[夕刊]』1938年8月12日
性格と組織	『読売新聞[夕刊]』1938年8月19日
アカデミズム	文部大臣賞『読売新聞[夕刊]』1938年8月26日
日本人は日本流	『読売新聞[夕刊]』1938年9月23日
国民的溶鉱炉	『読売新聞[夕刊]』1938年10月7日
娯楽の肅正	『読売新聞[夕刊]』1938年10月14日
小事が大事	『読売新聞[夕刊]』1938年10月21日
明治節所感	『読売新聞[夕刊]』1938年11月4日
輿論の超現実性	『読売新聞[夕刊]』1938年11月11日
崇物心理と科学	『読売新聞[夕刊]』1938年12月2日
コンドル機の教訓	『読売新聞[夕刊]』1938年12月9日
東洋文明へ	『読売新聞[夕刊]』1938年12月23日
島国から大陸へ	『読売新聞[夕刊]』1939年1月13日
物理と心理	『読売新聞[夕刊]』1939年1月20日
大学の自治	大学の自由『読売新聞[夕刊]』1939年2月3日
民族の抗争と協和	『読売新聞[夕刊]』1939年2月10日
『学外』と『学内』	『読売新聞[夕刊]』1939年2月18日
後天的性格	『読売新聞[夕刊]』1939年2月24日
二十世紀の科学	『読売新聞[夕刊]』1939年4月7日
弱味が強味	『読売新聞[夕刊]』1939年4月14日
欧大陸と支那大陸	『読売新聞[夕刊]』1939年4月21日
富の倫理	『読売新聞[夕刊]』1939年4月28日
声の道徳	『読売新聞[夕刊]』1939年5月5日
科学的規律	『読売新聞[夕刊]』1939年5月12日

言語の魅力	『読売新聞[夕刊]』1939年5月19日
統制時代と創造心	『読売新聞[夕刊]』1939年5月26日
一元的教育	『読売新聞[夕刊]』1939年6月2日
『学生お断り』	『読売新聞[夕刊]』1939年6月9日
輸出映画の差別観	『読売新聞[夕刊]』1939年6月16日
新秩序と旧秩序	『読売新聞[夕刊]』1939年6月30日
海外隣保の教育	『読売新聞[夕刊]』1939年7月7日
漢語漢字の教育	『読売新聞[夕刊]』1939年7月14日
商人と人間	『読売新聞[夕刊]』1939年7月21日
夏の女性	『読売新聞[夕刊]』1939年8月4日
都会の聖域	『読売新聞[夕刊]』1939年8月11日
政治的力量	『読売新聞[夕刊]』1939年8月18日
試験の問題	『読売新聞[夕刊]』1939年9月22日
優生道徳	『読売新聞[夕刊]』1939年9月29日
魂と機械	『読売新聞[夕刊]』1939年10月13日
宣伝の妙(?)	『読売新聞[夕刊]』1939年10月20日
日本の司法制度	初出未詳、1939年11月
師範教育	『読売新聞[夕刊]』1939年11月10日
日本語の取り戻し	『読売新聞[夕刊]』1939年12月1日
選手制度	『読売新聞[夕刊]』1939年12月22日
贈答『心』	『読売新聞[夕刊]』1939年12月29日
歴史を生かす道	『読売新聞[夕刊]』1940年1月5日
考査法の問題	『読売新聞[夕刊]』1940年2月23日
日・支の或る違ひ	『読売新聞[夕刊]』1940年3月15日
優生法是非	『読売新聞[夕刊]』1940年3月29日
『猿』教育	『読売新聞[夕刊]』1940年4月5日
明朗と厳粛	『読売新聞[夕刊]』1940年5月31日
軍事能力と経済能力	初出未詳、1940年6月
民族とスポーツ	『読売新聞[夕刊]』1940年6月7日
誤った伝統	『読売新聞[夕刊]』1940年6月28日
文明の奢侈	物か心か『読売新聞[夕刊]』1940年7月5日
『日本政治』	『日本政治』学『読売新聞[夕刊]』1940年8月30日
科学と感性	『読売新聞[夕刊]』1940年8月23日
創造的都市形態	『読売新聞[夕刊]』1940年9月6日
日本研究熱	『読売新聞[夕刊]』1940年9月20日
書後に	

『続日本的性格』<岩波新書>岩波書店、1942年12月21日

緒言	
1 日本歴史の持続的性格	『中央公論』55-1、1940年1月1日
2 東洋民族と日本文明	『文芸春秋』17-1、1939年1月1日
3 日本的生活の倫理性	生活の倫理性—日本的倫理性の基調『改造』23-7、1941年4月1日
4 倫理学の日本的性格	日本倫理学の性格—特に儒教倫理学の日本化に就て『改造』23-9、1941年5月1日
5 日本人の知性と感性	『知性』1-2、1938年6月1日
6 日本文化に於ける芸術性と科学性	芸術性と科学性—日本文化に於ける—『文化日本』5-7、1941年7月1日
7 日本人の技術的性能	『科学主義工業』4-5、1940年5月1日
8 日本的教養の直観性	日本的教養—その特徴としての直観性—『日本評論』16-2、1941年2月1日
9 日本人の住ひと住み方	『アトリエ』18-7、1941年7月1日
10 日本民族の優秀性	『日本評論』17-4、1942年4月1日
書後に	『日本的性格』といふこと

『日本の短詩形文学』新声閣、1943年3月20日

序	
短歌篇	
日本文学に於ける短歌の地位	『短歌研究』4-4、1935年4月1日

短歌の本質としての平俗性	『短歌研究』5-5、1936年5月1日
歌の日本的特徴	文学の歌と生活の歌—歌の日本的特徴—『短歌研究』9-12、1940年12月1日
短歌の典型と生活の典型	『短歌研究』7-5、1938年5月1日
短歌の文学化とその限界	『短歌研究』7-11、1938年11月1日
短歌の詩形の固定について	日本的社會形態と短歌—短歌形式の固定化について—『短歌研究』1-2、1932年11月1日(収録時に論旨の変更を含む加筆・修正)
国語の多様性と歌謡	国語の多様性について『短歌研究』11-1、1942年1月1日
短歌と語感の習性	『短歌研究』11-6、7、1942年6月1日、7月1日
短歌鑑賞の規準	『短歌研究』5-12、1936年12月1日
歌を詠む心と態度	『短歌研究』10-1、1941年1月1日
玄人と素人	『短歌研究』3-9、1934年9月1日
『新万葉集』について	歌人の歌と素人の歌[「新万葉集巻一を読む」]『短歌研究』7-3、1938年3月1日
『支那事変歌集』を瞥見して	事変歌集を瞥見して『短歌研究』8-2、1939年2月1日
二三の歌集について	詠む心と詠む心 二三の歌集について『短歌研究』10-4、1941年4月1日
<b>俳諧篇</b>	
俳諧とわが国民的性格	『俳句研究』1-2、1934年4月1日
聯想の文学としての連歌と俳句	『俳句研究』3-3、1936年3月1日
実感の文学としての俳句	『俳句研究』3-9、1936年9月1日
俳句の発生とその文学的宿命	『俳句研究』5-2、1938年2月1日
俳諧の文学的性格	『俳句研究』8-1、1941年1月1日
支那事変の俳句について	俳後の心を読む『俳句研究』5-12、1938年12月1日
<b>万葉篇</b>	
万葉の芸術曲線と生活曲線	『万葉集講座 第5巻 万葉美論篇』春陽堂、1933年9月15日
万葉集と古代の国民的教養	『文学』7-1、1939年1月1日
万葉集に於ける自然描写	短歌に於ける『自然』 特に万葉集に於ける自然描写『短歌研究』6-4、1937年4月1日
雄略帝の御製	雄略帝の御製歌『短歌研究』5-10、1936年10月1日
三山歌の文化史的鑑賞	文化史的鑑賞『短歌研究』4-1、1935年1月1日
万葉歌人の群像を描く	『短歌研究』3-5、1934年5月1日

## 『言葉の文化』中央公論社、1943年3月25日

緒言	
第1章 話し言葉の分化	『国民学術協会公開講座 第1輯 現代文化の問題』国民学術協会編、中央公論社、1941年6月8日
第2章 日本語の倫理性と情操性	『日本語』1-8、1941年12月1日
第3章 国語の文化的性格	『文学』9-4、1941年4月1日
第4章 文化語と生活語	『日本語』1-4、1941年7月1日
第5章 言語教養の意義と方法	『日本語』2-10、1942年10月1日
第6章 言葉の教育	言語の教育『東京日日新聞[夕刊]』1938年4月7~10日(『教育国語教育』1938年6月1日に転載)
第7章『文字の文学』と『言葉の文学』	『文字の文学』と『言語の文学』『図書』58、1940年11月5日
第8章『ことば』と『意味』	ことばについての雑感『思想』200、1939年1月1日
<b>付録</b>	
1 言葉の芸術	1941年、国語協会総会における講演要旨
2 明治維新と国語の問題	1926年、ローマ字会総会における講演草稿の補綴

## 『日本映画論』大日本映画協会、1943年7月20日

はしがき	
<b>序説</b>	
1 映画文化	映画文化論『映画教育講座』四海書房、1942年2月25日
2 原形芸術と複製芸術	『文芸』3-8、1935年8月1日
3 日本芸術の象徴性	『日本映画』6-1、1941年1月1日
4 シナリオ文学の制約	『日本映画』2-5、1937年5月1日
<b>劇映画</b>	
1 映画の日本的芸術性	『日本映画』7-2、1942年2月1日
2 劇映画と日本の生活	『日本映画』8-2、1943年2月1日

3 歴史映画の芸術的性格	『日本映画』 6-5、1941年5月1日
4 歴史映画の日本的特徴	歴史映画の日本的感覺『日本映画』 4-1、1939年1月1日
5 映画と女優	日本映画に於ける女優の芸術『日本映画』 2-8、1937年8月1日
<b>文化映画</b>	
1 文化映画の文化性	『文化映画』 1-5、1941年5月1日
2 文化映画の概念と技術	『日本映画』 5-1、1940年1月1日
3 文化映画に於ける科学性と芸術性	『日本映画』 7-8、1942年8月1日
<b>教養</b>	
1 芸術教育の基本問題	『日本映画』 5-5、1940年5月1日
2 映画を見る女性へ	映画を見る女性への言葉『婦人公論』 22-8、1937年8月1日
3 模倣文明の媒介としての映画	『文化日本』 3-12、1939年12月1日
<b>政策</b>	
1 映画政策の基本問題	『日本映画』 4-10、1939年10月1日
2 映画法と映画の芸術性	『日本映画』 3-5、1938年5月1日
3 映画の国際政策	『日本映画』 2-4、1937年4月1日
<b>鑑賞</b>	
1 映画になったゾラの「居酒屋」	映画になった「居酒屋」(ゾラ)『季刊文芸評論』 1-4、1934年12月1日
2 国際映画コンクールと日本映画	『日本映画』 4-8、1939年8月1日
3 『新しい土』と日本の芸術性	初出未詳、1937年
4 民族の祭典所感	『民族の祭典』所感『日本映画』 5-7、1940年7月1日
5 『暖流』と女優	イタリアから『暖流』へ(『改造』 22-12、1940年7月1日)抄
6 『空の神兵』その他	総合賞候補作品の審査について『文化日本』 6-12、1942年12月1日
7 『父ありき』と『母子草』	〔「日本映画賞審査会記」中の談〕『日本映画』 8-1、1943年1月1日
<b>付録</b>	
日本文化の成立と特徴	『日本映画』 3-8、1938年8月1日

『日本教育の伝統』玉川学園出版部、1943年12月15日

<b>序言</b>	
<b>前篇 伝統と教育</b>	
1 日本教育の基本的性格	書き下ろし
2 日本教育の伝統的特色	
3 日本的教養の本質	
4 国民的教養の伝統	
5 青年教育に於ける性格と職能	『青年と教育』 4-1、1939年1月1日
6 性能と精神との合一並びにその育成	日本の生活に於ける性能と精神との合一並びにその育成に就いて『日本教育』 3-2、1943年5月5日
7 職能教育の伝統と国民教育	
8 芸能の精神	
9 日本人の生活文化と教育	
10 教育・教養としての少国民文化	
11 「つとめ」と「やすみ」	
<b>後篇 時局と教育</b>	
1 生産と創造と教育	
2 大東亜共栄圏の樹立と国民教育	『少年保護』 7-9、1942年9月1日
3 大東亜建設と文化の理念	
4 近代的生活の反省	

『礼の美』一条書房、1944年2月25日

礼の美	
茶礼の成立	井口海仙等編『茶道全集 巻の二 茶会作法篇』創元社、1936年6月25日
「礼」と「寂び」	『礼』と『寂び』『瓶史』 1935年7月1日
弓道と茶道	『瓶史』 1934年7月1日
「く」の字の芸術	『く』の字の芸術『瓶史』 1933年1月
古物美について	『瓶史』 36、1939年7月30日
日本画は何処へ行く	『瓶史』 1937年10月1日
日本趣味の行方	『瓶史』 1937年1月1日

日本美の確認	『東京新聞』1943年1月2、4、5日
生活の節度	『毎日新聞』1943年5月28、29日
日本の生活の精神	『日本大学文学部研究年報』9、1943年8月10日
<b>付録</b>	
礼の話	『講演』355、1937年3月10日
心と形	1935年講演於去風洞大会

## 『我観中国—その政治と哲学—』東方書局、1947年4月5日

<b>緒言</b>	
1 政治学の二大典型	『日本評論』12-12、1937年11月1日
2 東洋の性格の多元性	『知性』2-12、1939年12月1日
3 孔子と老子	老子・孔子・支那民族『中央公論』50-7、1935年7月1日
4 老子の政治学	老子の政治学の動機『思想』185、1937年10月1日
5 儒教に於ける『礼』の意義と其『変質』	『思想』155、1935年4月1日
6 シナの国家形態の特異性	支那的国家形態の特異性『改造』19-10、1937年10月1日
7 中国民族性の二面	支那民族性の成立『文芸春秋』16-2、1938年2月1日
8 中国文明と日本	初出未詳
9 東亜の精神文化	東亜の精神文化と日本『国際文化』14、1941年6月7日
10 中日文化交流の基点	日支文化交流の基点『大陸』3-7、1940年7月1日
11 大陸と島国(其一)	大陸と日本『日本評論』13-8、1938年7月1日
12 大陸と島国(其二)	大陸と島国 日本と支那『セルパン』88、1938年5月1日

## 『礼の美』河原書店、1947年10月1日

<b>礼の美</b>	
茶礼の成立	井口海仙等編『茶道全集 巻の二 茶会作法篇』創元社、1936年6月25日
「礼」と「寂び」	『礼』と『寂び』『瓶史』1935年7月1日
弓道と茶道	『瓶史』1934年7月1日
「く」の字の芸術	『く』の字の芸術『瓶史』1933年1月
古物美について	『瓶史』36、1939年7月30日
日本画は何処へ行く	『瓶史』1937年10月1日
日本趣味の行方	『瓶史』1937年1月1日
美の倫理性	日本美の確認『東京新聞』1943年1月2、4、5日
生活の節度	『毎日新聞』1943年5月28、29日
<b>付録</b>	
礼の話	『講演』355、1937年3月10日
心と形	1935年講演於去風洞大会
生活の精神	日本の生活の精神『日本大学文学部研究年報』9、1943年8月10日

## 『新聞論』政治教育協会、1947年11月25日

<b>緒言</b>	
<b>前篇</b>	
1 日本新聞	
「日本的専制」と日本の新聞紙	新聞論『改造』27-4、5、1946年4月1日、5月1日
新聞の文化性と日本の新聞紙	
2 新聞紙とストライキの問題	
社会的欠陥	社会的欠陥『我等』1-11、1919年9月1日
「力の関係」から「協同の組織」へ	『改造』27-11、1946年11月1日
<b>後篇</b>	
1 輿論、芸術及び新聞—社会意識の表現形態としての—	
I 社会意識と其の表現形態	社会意識の表現形態としての輿論・芸術及び新聞『我等』10-8、9、11、1928年9月1日、10月1日、12月1日
II 輿論	
III 芸術	社会意識の表現形態としての芸術『我等』11-2、3、1929年2月1日、3月1日
IV 新聞	
(A) 「新聞」の社会的動機	新聞紙の社会的動機とその没却『社会学雑誌』49、1928年5月7日

(B) 輿論と新聞	社会意識の表現形態としての新聞『我等』11-4~6、1929年4月1日、5月1日、6月1日
(C) 社会的認識の態度と新聞	
(D) 新聞心理と群衆心理	
(E) 新聞紙と新聞人	
2新聞とジャーナリズム	ブルジョア・ジャーナリズム-資本主義と『新聞』の変質『総合ジャーナリズム講座』[第1巻、第2巻]内外社、1930年10月1日、11月1日

『大学及び大学生』明治書院、1949年11月15日

序文	
大学の起源-国家の機関か社会の機関か	大学=国家の機関?社会の機関?『改造』10-9、1928年9月1日
学生生活の規格	未詳
大学及び大学生	『セルパン』76、1937年5月1日
大学の独立性とその喪失	学術の機能と学術機関の独立性-大学の独立性の獲得と喪失-『我等』9-3、1927年3月1日
明治・大正・昭和の学生層	『東京新聞』1949年7月17~20日
付録 真実に対する人間の声	未詳
森戸助教授筆禍事件の論理的解剖	『我等』2-2、1920年2月1日

『真実はかく伴る』朝日新聞社、1950年7月10日

著者のことば	
英雄と民衆と真理	『我等』1-2、1919年3月1日
女の優越性	『我等』1-4、1919年4月1日
野蛮人のイニシエーション	『我等』1-3、1919年3月15日
『現実政治家』の叫び声	『我等』1-5、1919年4月15日
大世界と小世界	『我等』1-6、1919年5月1日
男女の利害関係	『我等』1-7、1919年5月15日
最も弱きものゝ強味	『我等』1-8、1919年6月1日
山へ行け	『我等』1-9、1919年7月1日
死刑=歴史は繰返す	『我等』1-10、1919年8月1日
黒白の争ひ	『我等』1-11、1919年9月1日
奴隷優遇	『我等』1-12、1919年10月1日
暴利取戻令	国家と成金『我等』1-13、1919年11月1日
血のパラドックス	『我等』1-14、1919年12月1日
未来を迎ふる心	『我等』2-1、1920年1月1日
埃及王を渡せ	『我等』2-2、1920年2月1日
農奴解放	『我等』2-3、1920年3月1日
埴輪以前	『我等』2-4、1920年4月1日
「公式」の恋人と画の餅	名の恋人と画の餅『我等』2-5、1920年5月1日
機械の人格化-人格の機械化	『我等』2-6、1920年6月1日
強き者に対する反逆	『我等』2-7、1920年7月1日
ゴリラに返れ	『我等』2-8、1920年8月1日
欺かれた霊魂と人間	『我等』2-9、1920年9月1日
上から下へ	『我等』2-10、1920年10月1日
楚王と漁夫	『我等』2-11、1920年11月1日
衣服と肉体	『我等』2-12、1920年12月1日
『世界統一』	『我等』3-1、1921年1月1日
『たった一人に六百人』	『我等』3-2、1921年2月1日
舜と龍神	『我等』3-3、1921年3月1日
十返舎一九のロジック	『我等』3-4、1921年4月1日
『礼儀正しい泥棒』	『我等』3-5、1921年5月1日
酒樽と人間	『我等』3-6、1921年6月1日
孟子国字解	『我等』3-7、1921年7月1日
火と鉄	『我等』3-8、1921年8月1日
宰予の聖人	聖人『我等』3-9、1921年9月1日
『小僧の耳』	『我等』3-11、1921年11月1日
優越と自然	『我等』3-12、1921年12月1日
始めか終りか	歳の始め『我等』4-1、1922年1月1日
蜂の子	『我等』4-2、1922年2月1日

ロータトーリアの死	『我等』 4-3、1922年3月1日
奴隷であることの喜び	『我等』 4-4、1922年4月1日
エスキモー	『我等』 4-5、1922年5月1日
魂のさせる業	『我等』 4-6、1922年6月1日
盗跖の言葉	『我等』 4-7、1922年7月1日
不思議	『我等』 4-8、1922年8月1日
節約	『我等』 4-9、1922年9月1日
宗教と政治	『我等』 4-10、1922年10月1日
人間の値段付け	『我等』 4-11、1922年11月1日
聖人の妻	『我等』 4-12、1922年12月1日
一の字の不思議	『我等』 5-1、1923年1月1日
泥棒は正直	『我等』 5-2、1923年2月1日
踊り児の独語	『我等』 5-3、1923年3月1日
アリストートルの妄語	『我等』 5-4、1923年4月1日
善良な悪魔の涙	『我等』 5-5、1923年5月1日
猪の聖者	『我等』 5-6、1923年6月1日
魂の逃げ場	『我等』 5-7、1923年7月1日
逆賊の作った法律	『我等』 5-8、1923年8月1日
靈魂の獄舎	『我等』 5-9、1923年9月1日
神が人間を作る時の会議	『我等』 6-1、1924年1月1日
鯨の齒	『我等』 6-2、1924年3月1日
大虎の謎	『我等』 6-3、1924年4月1日
カント以前とカント以後	『我等』 6-4、1924年5月1日
モルモン宗徒に学べ	『我等』 6-5、1924年6月1日
蟻の国家主義	『我等』 6-6、1924年7月1日
物が神を創造する	『我等』 6-7、1924年8月1日
一文無しのロゼツク	『我等』 6-8、1924年9月1日
女の蘇る時代	『我等』 6-9、1924年10月1日
貝殻の虐政	『我等』 6-10、1924年11月1日
パラドックス	『我等』 6-11、1924年12月1日
闘争から光へ	『我等』 7-1、1925年1月1日
偽せ首と革囊	『我等』 7-3、1925年3月1日
豚と豚	『我等』 7-4、1925年4月1日
羨むべき『ケレケレ』	『我等』 7-5、1925年5月1日
犯罪と女	『我等』 7-6、1925年6月1日
嘘のやうなアメリカの話	『我等』 7-7、1925年7月1日
孟子の不労所得	『我等』 7-8、1925年8月1日
猿語の矜ひ	『我等』 7-9、1925年9月1日
『新経済政策』	『我等』 7-10、1925.10月1日
軍事教育の見本	『我等』 7-11、1925年11月1日
黒い骨と白い骨	『我等』 7-12、1925年12月1日
神々の作った真理	『我等』 8-1、1926年1月1日
翻訳の日本	『我等』 8-2、1926年2月1日
人間と大根	『我等』 8-4、1926年4月1日
大きな鼠	『我等』 8-5、1926年5月1日
中国の車夫	支那の車夫『我等』 8-6、1926年6月1日
中国人の家	支那人の家『我等』 8-7、1926年7月1日
山で死ぬ人々	『我等』 8-8、1926年8月1日
軍神イコング	『我等』 8-9、1926年9月1日
プラトン式嘘つき	『我等』 8-10、1926年10月1日
ツワシトリの子供達	『我等』 8-11、1926年11月1日
奴隷の世界	『我等』 8-12、1926年12月1日
『我輩平民』	『我等』 9-1、1927年1月1日
黒人の幻滅	呪はれた白人『我等』 9-2、1927年2月1日
ある気遣ひ婆さんの死	『我等』 9-3、1927年3月1日
『ベンゴールのロヒラス』	『我等』 9-4、1927年4月1日
鉄の錠と黄金の錠	『我等』 9-5、1927年6月1日
とにかく儲けませう	『我等』 9-6、1927年7月1日
貴族一軍人一資本家の歴史	『我等』 9-7、1927年8月1日
人間から神を作る法	『我等』 9-8、1927年9月1日
外来思想の取締	『我等』 9-10、1927年12月1日

理論とその把持者	『我等』 10-1、1928年1月1日
馬	『我等』 10-2、1928年2月1日
組織の力	『我等』 10-3、1928年3月1日
『ラス』と紙片	『我等』 10-4、1928年4月1日
フランスの泥、日本の泥	『我等』 10-5、1928年5月1日
『唯心史観』	『我等』 10-6、1928年7月1日
罪人は誰れ?	『我等』 10-7、1928年8月1日
『不戦条約』劇(一幕)	『我等』 10-8、1928年9月1日
三千年前の俚謡	『我等』 10-9、1928年10月1日
船のやうな国	『我等』 10-10、1928年11月1日
満州にて	『我等』 10-11、1928年12月1日
戦争絶滅受合法案	『我等』 11-1、1929年1月1日
トルコを笑ふ者	『我等』 11-2、1929年2月1日
暗殺	『我等』 11-3、1929年3月1日
珈琲は薄く、紅茶は濃く	『我等』 11-4、1929年4月1日
裸にされたアメリカ主義	『我等』 11-5、1929年5月1日
ネロを支持する者	『我等』 11-6、1929年6月1日
にんにくの『イデオロギー』	『我等』 11-7、1929年7月1日
汝等の行くべき国	『我等』 11-8、1929年9月1日
ことばのいろいろ	未発表
ある日の新聞	『我等』 11-9、1929年10月1日
『合理化』	『我等』 11-10、1929年11月1日
殺老俗の復活	『我等』 11-11、1929年12月1日
ロンドン会議の場所錯誤	『我等』 12-1、1930年1月1日
「我等」から「批判」へ	『我等』から『現代批判』へ『我等』 12-2、1930年3月1日
遅蒔きの宗教心	資本主義寺院とソウエート・ロシア『批判』1-1、1930年5月1日
蝗軍蜂起	『批判』 1-2、1930年6月1日
歴史と暴力	『批判』 1-3、1930年7月1日
白く塗られた墓	『批判』 1-4、1930年8月1日
人間の道徳	『批判』 1-5、1930年9月1日
政治家登録法案	『批判』 1-6、1930年10月1日
傍若無黒人	『批判』 1-7、1930年12月1日
労資は唱ふ不景気時代	『批判』 2-1、1931年1月1日
「バケツから母牛へ」の叫び	『批判』 2-2、1931年2月1日
「枢」「密」「院」	『批判』 2-3、1931年3月1日
ミリタリストの使ひ途	ミリタリストの使途『批判』 2-4、1931年4月1日
棄てられたボロ椅子	『批判』 2-5、1931年5月1日
荒ぶる神	『批判』 2-6、1931年6月1日
大変な弔辞	もしアメリカが「故人」だったら『批判』 2-7、1931年7月15日
宗教及び「反宗教」	『批判』 2-8、1931年9月1日
日本の二枚舌	『批判』 2-9、1931年10月1日
「村正」資本主義と「丸腰」資本主義	『批判』 2-10、1931年11月1日
算盤・鉄砲組合	『批判』 2-11、1931年12月1日
ツアールは蘇へり給へり	『批判』 3-1、1932年1月1日
歴史の順序	『批判』 3-2、1932年2月1日
戦争・平和・楽土	『批判』 3-3、1932年3月1日
150	『批判』 3-4、1932年4月1日
我征徂西	遠征『批判』 3-5、1932年5月1日
百年前のアンチ・ファシスト	『批判』 3-6、1932年6月1日
「大和魂」	『批判』 3-7、1932年7月1日
「征夫」	『批判』 3-8、1932年8月1日
政党遊戯	『批判』 3-9、1932年9月1日
ナチス勝つ	『批判』 3-10、1932年10月1日
時代は逝く	『批判』 3-11、1932年11月1日
冬枯れの消息	『批判』 3-12、1932年12月1日
お初穂は拒まれた	『批判』 4-1、1933年1月1日
日本の「急激な進歩」	『批判』 4-2、1933年2月1日
世界大野蠻論	『批判』 4-3、1933年3月1日



法律は繰返す	『批判』4-4、1933年4月1日
鈴鈴零信	『批判』4-5、1933年5月1日
二千年前のファツシヨ革命	『批判』4-6、1933年6月1日
「転向」	『批判』4-7、1933年7月1日
「民友肅心」	『批判』4-8、1933年8月1日
象の神経衰弱	『批判』4-9、1933年9月1日
「民亦勞ス」	『民亦勞』『批判』4-10、1933年11月1日
「吾は点に興みせん」	『批判』5-2、1934年2月11日
序破急	『女性改造』3-1、1924年1月1日
著者後記	

『凡愚列伝 この人々を見よ』 岡書院、1950年11月15日

「凡愚列伝」とは―読者へのことば―	
髪結ひのおとら／食客越智／鳩婆さん／伝五爺や／詩人道平／小田青年／田宮主事	『此の人々を見よ』―凡人列伝―『中央公論』42-1、1927年1月1日
目が開いた日には大変な男／雲を廻す男／「凡骨」／二人の「ところてん」／酸素で死ぬ女／善良なト者	凡愚列伝『改造』9-4、1927年4月1日[目が開いた日には大変な男、雲を廻す男、凡骨の男、二人の凡人、酸素で死ぬ女、善良なト者]
真鍮の管に風を通はす男／猿と寝た男	凡愚列伝『改造』9-6、1927年6月1日[真鍮の管に風を通はす男、猿と寝た男、脅びやかされた男]
「クジ六」の軍功／哲学的保険勧誘人／七度び生れてアイスクリームを売る	凡愚列伝『改造』9-8、1927年8月1日
「のつぽ」／「重役よ！」／赤も白もない親爺／二つの典型	凡愚列伝『改造』9-10、1927年10月1日
ある男爵家の系図／障子の穴／姓名の祟り	凡愚列伝『改造』9-12、1927年12月1日[ある男爵家の系図、穴、姓名の祟り]
神に欺された男	凡愚列伝『改造』10-5、1928年5月1日
無知識階級	無知識階級―凡愚列伝のうち―『改造』10-12、1928年12月1日
寺院に救はれた男	寺院に棄てられた男・寺院に救はれた男―凡愚列伝のうち―『改造』11-7、1929年7月1日
観念的棒術の達人	『改造』15-5、1933年5月1日
殴り殺された流行作家	『改造』15-6、1933年6月1日
バリカン学生監／老校長の「左遷」	彼等は余りにも教育家である(凡愚列伝)『改造』15-7、1933年7月1日
「人馬一体」	馬『中央公論』37-10、1922年9月1日
デュボン博士とその妻	デュボン博士の妻―凡愚列伝のうち―『改造』10-8、1928年8月1日
正真正銘の仏弟子	未発表

『失はれた日本―日本的教養の伝統―』 慶友社、1952年4月15日

序にかえて	
日本的教養の特徴	未発表
日本の教育・教養の謎	初出未詳
日本芸術の伝統的特徴	『日本評論』15-6、1940年6月1日
日本文学のある特徴について	『理想』88、1938年9月1日
日本文明の典型	『改造』20-4、1938年4月1日
日本人気質の由来	日本人気質の成立(『日本人気質』御茶の水書房、1950年)
日本人の平和性と楽天性	『世界文化』1-2、1946年3月1日
封建時代の女性	『婦人公論』32-6、1948年6月1日
日本人の生活と文化	『日本人の生活と文化』日本文化中央聯盟、1940年4月20日
付録 日本の改造と民族的文化性	『潮流』1-1、1946年1月1日

『生活・叡知・思索』 雲井書店、1953年9月30日

読者へのことば	
現代知識階級論	『朝日評論』1-5、1946年7月1日
日本のジャーナリズム	ジャーナリズム論『女性線』4-9、1949年9月1日
自由について	『読売評論』2-9、1950年9月1日
若き世代への言葉	『思索』19、1949年2月1日

私の青年時代と今の青年	『婦人公論』34-7、1950年7月1日
封建時代の日本の女性	初出未詳
明るい生活	初出未詳
個人の幸福について	『雄鶏通信』1-2、1945年12月1日
日本のヒューマニズム	『文芸』9-1、1952年1月1日

『新聞』朝日新聞社、1954年4月1日

まえがき	
社会意識と新聞、新聞の社会性、新聞の個性、新聞と公論、新聞意識の倫理性、新聞意識の英知性と倫理性、新聞意識の構成過程、新聞的感覚・情操、新聞の生理と病理、ジャーナリズムの社会的意義、新聞の政治性、新聞の文化性と芸術性、報道の迅速と確実、解説の客観性と主観性、表現の自由と制約、新聞と歴史、新聞の経営と組織、マス・コミュニケーションと新聞	新聞および新聞人『朝日新聞』1954年1月25～31日、2月1～24日
輿論とその変遷、輿論の心理、輿論に於ける判断とその錯誤、輿論と宗教的象徴主義、輿論の社会性、輿論の反社会性	社会意識の表現形態としての輿論・芸術及び新聞（『我等』10-8、9、11、1928年9月1日、10月1日、12月1日）の「二輿論」を収録

『日本さまざま』大法輪閣、1962年12月20日

はしがき	
日本さまざま	『大法輪』27-1～12、28-1～12、1961年1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、1962年1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日
別録	
日本歴史の性格	『朝日新聞』1962年1月1日
職人かたぎ	『文芸春秋』35-8、1957年8月1日
「職人かたぎ」補遺	『文芸春秋』35-9、1957年9月1日
日本文化の世界性	『世連研究』1-1、1959年春
日本文明の総合性	『綜合文化』6-6、1960年6月1日
マス・コミの日本的倫理性	マス・コミュニケーションにおける日本の倫理性『道徳と教育』3-7、1960年10月1日
日本の古代歌謡の現代性について	『無限』4、1960年5月1日
日本人と宗教	『大法輪』26-6、1959年6月1日
日本人の誇りと反省	1962年9月17日於第14回公明選挙推進協議会主催講演
The Nature of Japanese History	『Japan Quarterly』9-2、Apr.-June、1963

『如是閑八句荘対談』総合図書、1967年6月25日

まえがき	
前編	
東と西の対話	『政治公論』34、1958年12月1日
伝統と文化について	『政治公論』35、1959年4月1日
批判の本質	『政治公論』36、1959年9月1日
言葉と文明について	『政治公論』38、1960年5月1日
日本の西欧化と近代化について	日本の近代化と西欧化について『政治公論』44、1962年1月1日
後編 国家・人格・法をめぐる対話	
第1回 国家行動について	『国家行動論』随聞記『政治公論』46、47、51、53、54、1962年10月1日、1963年3月1日、1965年2月1日、1966年3月1日、1967年3月1日
第2回 国家と人格	
第3回 人格と職能	
第4回 法と秩序	

## 『日常性の中なる日本』中央大学出版部、1969年4月20日

はしがき	
<b>I</b>	
大学の伝統と日本の大学	『中央評論』61、1959年3月12日
大学の国際性と自治性	『中央評論』73、1961年3月15日
耳と目	『中央評論』19-1、1967年3月1日
学生の今昔	『中央評論』19-4、1968年1月1日
ドイツ学からイギリス学へ	『中央評論』11、1951年1月20日
「観念の自由」から「現実の自由」へ	『中央評論』7、1950年7月1日
思想よりは行動	『中央評論』82、1963年3月1日
実学	『中央評論』74、1961年5月15日
その右にいつる	『中央評論』78、1962年1月15日
「超心理」から「超物理」へ	『中央評論』80、1962年9月5日
「形」の道徳－日本独自の	『中央評論』16-3、1964年9月1日
“ism” から “ismos” に還元	『中央評論』16-4、1965年1月1日
「法」の起源	『中央評論』18-3、1966年9月1日
<b>II</b>	
「廃刀令」から「廃銃令」に	『中央評論』76、1961年9月5日
ボクシングの反スポーツ性	『中央評論』83、1963年6月1日
俗語に漢語を	『中央評論』16-2、1964年6月1日
日本の住宅	『中央評論』18-4、1967年1月1日
両極性－日本文明の特徴	『中央評論』19-3、1967年9月1日
日本の庭	『中央評論』20-1、1968年3月1日
世界的協同体へ	『中央評論』20-2、1968年6月1日
都市生活の退化	『中央評論』20-3、1968年9月1日
「前衛芸術」と日本	『中央評論』81、1963年1月20日
生活の芸術	『中央評論』18-2、1966年6月1日
<b>III</b>	
日常生活	『中央評論』75、1961年6月15日
具象文明の国	『中央評論』77、1961年11月10日
歴史の逆転	『中央評論』79、1962年3月15日
「吾は是れ日本人」	『中央評論』15-4、1964年1月1日
無言の教訓－日本の「家」	『中央評論』16-2、1964年3月1日
私の読書歴	『中央評論』60、1958年12月15日
行易不行難	『中央評論』84、1963年9月1日
「多病長生」	『中央評論』17-1、1965年3月1日
ターンパイク式	『中央評論』17-2、1965年6月1日
無名人逝く	『中央評論』17-3、1965年9月1日
シロ子の叡智	『中央評論』17-4、1966年1月1日
頭脳と五体	『中央評論』18-1、1967年3月1日
頓知の発達と自己規制	『中央評論』19-2、1967年6月1日

## 2. 著作選集

### 『長谷川如是閑創作集 第1編』我等社、1923年2月5日

奇妙な精神病者の話	『我等』1-1、1919年2月11日
虎使ひ志願	『我等』1-3、1919年3月15日
一人の鮎屋	『我等』1-8、1919年6月1日
『京に行つて居た娘』	『我等』1-12、1919年10月1日
二人の軽業師	『新小説』26-8、1921年8月1日
子爵夫人と孤児	『女性日本人』1-2、1920年10月1日
ヘロデのユトウピア 一名『強盜共和国』	『我等』2-1、1920年1月1日

### 『長谷川如是閑創作集 第2編』我等社、1923年3月17日

お猿の番人になるまで	『解放』3-2、5、7、1921年2月1日、5月1日、7月1日
打ちのめされた男	『大観』3-7、1920年7月1日
あたま	『中央公論』35-8、1920年7月15日
虎から豹へ	『中央公論』37-1、1922年1月1日

### 『長谷川如是閑創作集 第1編』叢文閣、1924年5月10日

象やの傘さん	『中央公論』36-1、1921年1月1日
反抗と否定	『改造』2-10、1920年10月1日
或るカフエーの娘	『新小説』26-1、1921年1月1日
乞食同士の会話	『大観』3-11、1920年11月1日
幻覚	『太陽』27-4、1921年4月1日
めぐりあひ	『大観』4-7、1921年7月1日
万人風呂	『解放』4-8、1922年8月1日

### 『長谷川如是閑創作集 第2編』叢文閣、1924年9月28日

老人形師と彼れの妻	『我等』2-5、6、1920年5月1日、6月1日
子爵と三人の女	『中央公論』36-4、1921年4月1日
露助の我慢	『大観』4-4、1921年4月1日
或る謀殺犯人の陳述	『新小説』26-4、1921年4月1日
その日	『解放』4-3、1922年3月1日
馬	『中央公論』37-10、1922年9月1日
踏んだり蹴たり	『中央公論』38-4、1923年4月1日

### 『長谷川如是閑創作集 第3編』叢文閣、1925年6月5日

秋刀魚先生	『我等』5-4、1923年4月1日
奇妙な精神病者の話	『我等』1-1、1919年2月11日
虎使ひ志願	『我等』1-3、1919年3月15日
一人の鮎屋	『我等』1-8、1919年6月1日
京に行つてみた娘	『我等』1-12、1919年10月1日
二人の軽業師	『新小説』26-8、1921年8月1日
子爵夫人と孤児	『女性日本人』1-2、1920年10月1日
ヘロデのユトウピア 一名・強盜共和国	『我等』2-1、1920年1月1日

### 『奇妙な精神病者 長谷川如是閑集』現代ユウモア全集刊行会、1929年3月15日

奇妙な精神病者の話	『我等』1-1、1919年2月11日
支那人の顔其他	『中央公論』36-13、1921年12月1日
両極の一致(一幕)	『改造』8-1、1926年1月1日
大阪人の顔其他	郊外生活から見た大阪人『中央公論』36-8、1921年7月15日(『犬・猫・人間』収録時に「大阪人の顔」の一節を追加・改題)
踏んだり蹴たり	『中央公論』38-4、1923年4月1日
ヘロデのユトウピア一名強盜共和国	『我等』2-1、1920年1月1日

もし日本人がアメリカを発見してみたら	在米南朝日本『日本及日本人』822、1921年11月11日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
足のうら	『大阪朝日新聞』1909年1月8、9、11～13日
如是閑語	『日本及日本人』464～467、469、1907年8月1、15日、9月1、15日、10月15日(『搦手から』)
無我の女?	『層雲』2-1、1912年5月1日
五条河原	『我等』10-3、1928年3月1日
原敬の人相	天才原敬氏『日本一』6-8、1920年8月1日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
フランス髯/馬鹿殿評定	『三分劇』三つ『我等』7-10、1925年10月1日
ヴェランダ	『改造』6-1、1924年1月1日
無線電心機	『大正日日新聞[夕刊]』1920年5月10～20、23～31日、6月1～10日
低気圧前後	『新小説』25-4、1920年4月1日(『犬・猫・人間』)
門	『我等』3-8、1921年8月1日(『犬・猫・人間』)
私の借りた家	『我等』1-2、1919年3月1日(『犬・猫・人間』)
玄関	『我等』4-5、1922年5月1日(『犬・猫・人間』)

## 『現代日本文学全集 第41篇長谷川如是閑集・内田魯庵集・武林無想庵集』改造社、1930年7月13日

額の男	?『大阪朝日新聞』1909年3月22～31日、4月1～30日、5月1～7日(『額の男』)
ふたすぢ道	『新著月刊』2-3、1898年2月3日
めぐりあひ	『大観』4-7、1921年7月1日
馬	『中央公論』37-10、1922年9月1日
象やの糸さん	『中央公論』36-1、1921年1月1日
反抗と否定	『改造』2-10、1920年10月1日
乞食同士の会話	『大観』3-11、1920年11月1日
老人形師と彼の妻 或る謀殺犯人の陳述	『我等』2-5、6、1920年5月1日、6月1日 『新小説』26-4、1921年4月1日
虎使ひ志願	『我等』1-3、1919年3月15日
京に行つてみた娘	『我等』1-12、1919年10月1日
二人の軽業師	『新小説』26-8、1921年8月1日
くらげと穴熊	『週刊朝日』5-15、1924年4月5日
ある富豪の教訓	或る富豪の教訓『我等』6-1、1924年1月1日
喰ひ違ひ	『我等』4-3、1922年3月1日
エチル・ガソリン	『我等』7-1、1925年1月1日
アンチ・ミリタリストの孫	『改造』6-12、1924年12月1日
アンチ・ヒロイズム断片	『中央公論』41-1、1926年1月1日
権力の外に在る世界	『東京日日新聞』1925年1月3～6日
街頭で考へる	『東京朝日新聞』1928年1月1、3～8、10、11日
北京再遊問答	『我等』8-8、9、11、12、1926年8月1日、9月1日、11月1日、12月1日
哈爾賓直行	『我等』10-10、11、11-1、1928年11月1日、12月1日、1929年1月1日

## 『如是閑文芸全集 第1巻 小説1』学芸社、1933年5月30日

ふたすぢ道	『新著月刊』2-3、1898年2月3日(『現代日本文学全集41』)
ロハ台の厭世観	『日本及日本人』452、1907年2月1日
十傑	『日本及日本人』460～462、1907年6月1、15日、7月1日
殿さまお目ざめ	『日本及日本人』467、469、472、476、480、1907年9月15日、10月15日、11月15日、1908年1月15日、3月15日
にほひ	臭ひ『日本及日本人』471、1907年11月3日(『搦手から』収録時に改題)
上げ汐だア	『日本及日本人』481、1908年4月1日
くつしたの穴	『日本及日本人』457、458、1907年4月15日、5月1日
芋屋の娘	『日本及日本人』484、1908年5月15日
足のうら	『大阪朝日新聞』1909年1月8、9、11～13日
額の男	?『大阪朝日新聞』1909年3月22～31日、4月1～30日、5月1～7日(『額の男』)
べんどる君	『日本及日本人』524、1910年1月1日

無我の女？	『層雲』2-1、1912年5月1日
-------	-------------------

『如是閑文芸全集 第2巻 小説2』学芸社、1933年6月30日

病める革命家の日記から	『日本及日本人』597、1913年1月1日
奇妙な精神病者の話	『我等』1-1、1919年2月11日
虎使ひ志願	『我等』1-3、1919年3月15日
一人の鮎屋	『我等』1-8、1919年6月1日
反抗と否定	『改造』2-10、1920年10月1日
京に行ってみた娘	『我等』1-12、1919年10月1日
無線電機	『大正日日新聞[夕刊]』1920年5月10～20、23～31日、6月1～10日
あたま	『中央公論』35-8、1920年7月15日
ヘロデのエトウピア	『我等』2-1、1920年1月1日
老人形師と彼れの妻	『我等』2-5、6、1920年5月1日、6月1日
打ちのめされた男	『大観』3-7、1920年7月1日
子爵夫人と孤児	『女性日本人』1-2、1920年10月1日
乞食同士の会話	『大観』3-11、1920年11月1日
或る知識	『我等』2-12、1920年12月1日
或るカフェーの娘	『新小説』26-1、1921年1月1日

『如是閑文芸全集 第5巻 随筆』学芸社、1933年7月15日

名犬たることの不幸	『解放』5-11、1926年11月1日
或る日の聯想	『文芸春秋』5-1、1927年1月1日
アルゲマインギュルチヒ	『文芸春秋』5-7、1927年7月1日
私の書齋と読書法	『帝国大学新聞』439、1932年6月29日
ある哲学者の死	『文芸春秋』10-8、1932年8月1日
愛犬トチの死を語る	『読売新聞』1932年9月2、3、7、10、11、13日
「く」の字の芸術	『瓶史』1933年1月
堺利彦	『批判』4-2、1933年2月1日
吉野博士と私	『批判』4-4、1933年4月1日
「大陸」から「大島」へ	『中央公論』48-6、1933年6月1日
<b>【随筆篇】</b>	
ひとりもの	『日本及日本人』450、1907年1月1日
如是閑語	『日本及日本人』464～467、469、1907年8月1、15日、9月1、15日、10月15日(『搦手から』)
屠蘇に酔った骸骨	『日本及日本人』475、1908年1月1日
フェルビゲラチオン	『大阪朝日新聞』1909年1月5日
亮輔君と僕	『日本及日本人』564、1911年8月15日
電車内の世間と電車外の自我	『日本及日本人』579～581、583、1912年4月1、15日、5月1日、6月1日
呪はれた天才青木繁	『日本及日本人』606、1913年5月15日
初めて逢った漱石	初めて逢った漱石君『大阪朝日新聞』1916年12月18日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
私を中心として	「私」を中心として『大阪朝日新聞[夕刊]』1918年7月1～31日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
私の借りた家	『我等』1-2、1919年3月1日(『犬・猫・人間』)
種を蒔いた日の聯想	『我等』1-6、1919年5月1日
或る亡友への手紙	亡友への手紙『我等』1-9、1919年7月1日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
マズィニのロンドン生活	マズィニの倫敦生活の一節『日本及日本人』766、1919年9月20日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
原敬の人相	天才原敬氏『日本一』6-8、1920年8月1日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
猛犬ジャックの話	『我等』2-4、1920年4月1日(『犬・猫・人間』)
門	『我等』3-8、1921年8月1日(『犬・猫・人間』)
もし日本人がアメリカを発見してみたら	在米南朝日本『日本及日本人』822、1921年11月11日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
大阪人の顔其の他	郊外生活から見た大阪人『中央公論』36-8、1921年7月15日(『犬・猫・人間』収録時に新規追加・改題)

支那人の顔其他	郊外生活から見た大阪人『中央公論』36-8、1921年7月15日(『犬・猫・人間』収録時に「大阪人の顔」の一節を追加・改題)
低気圧前後	『新小説』25-4、1920年4月1日(『犬・猫・人間』)
街頭で考へる	『東京朝日新聞』1928年1月1、3~8、10、11日
玄関	『我等』4-5、1922年5月1日(『犬・猫・人間』)
亡友四匹	『中央公論』37-6、1922年6月1日(『犬・猫・人間』)
ピョートルの猫と私の猫	『中央公論』39-1、1924年1月1日(『犬・猫・人間』)
権力の外に在る世界	『東京日日新聞』1925年1月3~6日
アンチ・ミタリストの孫	『改造』6-12、1924年12月1日
大庭柯公のこと	『我等』7-5、1925年5月1日
純日本式	『東京日日新聞』1923年1月8、9日(『犬・猫・人間』)
アンチ・ヒロイズム断片	『中央公論』41-1、1926年1月1日

## 『如是閑文芸全集 第7巻 紀行1』学芸社、1933年8月20日

山又山	『大阪朝日新聞』1911年7月24~31日、8月1~20、23~26日
金沢行	『大阪朝日新聞』1908年5月28~31日、6月1~4、6~12日
広島みやげ	『大阪朝日新聞』1908年11月8~12、14~16、22、24~30日
泉州行脚	紀泉行脚『大阪朝日新聞』1909年7月26~31日、8月1、2、15~21日
日本アルプス縦断記	『日本アルプス縦断記』大鑑閣、1917年7月23日
支那を見て来た男の言葉	『我等』3-11、12、4-1、2、4、5、7、10~12、5-1~3、1921年11月1日、12月1日、1922年1月1日、2月1日、4月1日、5月1日、7月1日、10月1日、11月1日、12月1日、1923年1月1日、2月1日、3月1日
北京再遊問答	『我等』8-8、9、11、12、1926年8月1日、9月1日、11月1日、12月1日
蒙古から帰つて	『中央公論』41-10、1926年10月1日
哈爾賓直行	『我等』10-10、11、11-1、1928年11月1日、12月1日、1929年1月1日

## 『如是閑文芸全集 第6巻 題言録』学芸社、1933年12月30日

英雄と民衆と真理	『我等』1-2、1919年3月1日
野蛮人のイニシエーション	『我等』1-3、1919年3月15日
女の優越性	『我等』1-4、1919年4月1日
『現実政治家』の叫び声	『我等』1-5、1919年4月15日
大世界と小世界	『我等』1-6、1919年5月1日
男女の利害関係	『我等』1-7、1919年5月15日
最も弱きものゝ強味	『我等』1-8、1919年6月1日
山へ行け	『我等』1-9、1919年7月1日
死刑=歴史は繰返す	『我等』1-10、1919年8月1日
黒白の争ひ	『我等』1-11、1919年9月1日
奴隷優遇	『我等』1-12、1919年10月1日
暴利取戻令	国家と成金『我等』1-13、1919年11月1日
血のパラドックス	『我等』1-14、1919年12月1日
未来を迎ふる心	『我等』2-1、1920年1月1日
埃及王を渡せ	『我等』2-2、1920年2月1日
農奴解放	『我等』2-3、1920年3月1日
埴輪以前	『我等』2-4、1920年4月1日
名の恋人と画の餅	『我等』2-5、1920年5月1日
機械の人格化—人格の機械化	『我等』2-6、1920年6月1日
強き者に対する逆逆	『我等』2-7、1920年7月1日
ゴリラに返れ	『我等』2-8、1920年8月1日
欺かれた靈魂と人間	『我等』2-9、1920年9月1日
上から下へ	『我等』2-10、1920年10月1日
楚王と漁夫	『我等』2-11、1920年11月1日
衣服と肉体	『我等』2-12、1920年12月1日
世界の統一	『世界統一』『我等』3-1、1921年1月1日
たつた一人に六百人	『我等』3-2、1921年2月1日

舜と龍神	『我等』 3-3、1921年3月1日
十返舎一九のロジック	『我等』 3-4、1921年4月1日
礼儀正しい泥棒	『我等』 3-5、1921年5月1日
酒樽と人間	『我等』 3-6、1921年6月1日
孟子国字解	『我等』 3-7、1921年7月1日
火と鉄	『我等』 3-8、1921年8月1日
聖人	『我等』 3-9、1921年9月1日
小僧の耳	『我等』 3-11、1921年11月1日
優越と自然	『我等』 3-12、1921年12月1日
歳の始め	『我等』 4-1、1922年1月1日
蜂の子	『我等』 4-2、1922年2月1日
ロータトーリアの死	『我等』 4-3、1922年3月1日
奴隷であることの喜び	『我等』 4-4、1922年4月1日
エスキモー	『我等』 4-5、1922年5月1日
魂のさせる業	『我等』 4-6、1922年6月1日
盗跖の言葉	『我等』 4-7、1922年7月1日
不思議	『我等』 4-8、1922年8月1日
節約	『我等』 4-9、1922年9月1日
宗教と政治	『我等』 4-10、1922年10月1日
人間の値段付け	『我等』 4-11、1922年11月1日
聖人の妻	『我等』 4-12、1922年12月1日
一の字の不思議	『我等』 5-1、1923年1月1日
泥棒は正直	『我等』 5-2、1923年2月1日
踊り尻の独語	『我等』 5-3、1923年3月1日
アリストートルの妄語	『我等』 5-4、1923年4月1日
善良な悪魔の涙	『我等』 5-5、1923年5月1日
猪の聖者	『我等』 5-6、1923年6月1日
魂の逃げ場	『我等』 5-7、1923年7月1日
逆賊の作った法律	『我等』 5-8、1923年8月1日
靈魂の獄舎	『我等』 5-9、1923年9月1日
序破急	『女性改造』 3-1、1924年1月1日
神が人間を作る時の会議	『我等』 6-1、1924年1月1日
鯨の齒	『我等』 6-2、1924年3月1日
大虎の謎	『我等』 6-3、1924年4月1日
カント以前とカント以後	『我等』 6-4、1924年5月1日
モルモン宗徒は笑ふ	モルモン宗徒に学べ『我等』 6-5、1924年6月1日
蟻の国家主義	『我等』 6-6、1924年7月1日
物が神を創造する	『我等』 6-7、1924年8月1日
一文無しのロヂツク	『我等』 6-8、1924年9月1日
女の蘇る時代	『我等』 6-9、11924年0月1日
貝殻の虐政	『我等』 6-10、1924年11月1日
パラドックス	『我等』 6-11、1924年12月1日
闘争から光へ	『我等』 7-1、1925年1月1日
偽せ首と革囊	『我等』 7-3、1925年3月1日
豚と豚	『我等』 7-4、1925年4月1日
羨むべき『ケレケレ』	『我等』 7-5、1925年5月1日
犯罪と女	『我等』 7-6、1925年6月1日
嘘のやうなアメリカの話	『我等』 7-7、1925年7月1日
孟子の不勞所得	『我等』 7-8、1925年8月1日
猿語の映ひ	『我等』 7-9、1925年9月1日
『新經濟政策』	『我等』 7-10、1925.10月1日
軍事教育の見本	『我等』 7-11、1925年11月1日
黒い骨と白い骨	『我等』 7-12、1925年12月1日
神々の作った真理	『我等』 8-1、1926年1月1日
翻訳の日本	『我等』 8-2、1926年2月1日
人間と大根	『我等』 8-4、1926年4月1日
大きな鼠	『我等』 8-5、1926年5月1日
支那の車夫	『我等』 8-6、1926年6月1日
支那人の家	『我等』 8-7、1926年7月1日
山で死ぬ人々	『我等』 8-8、1926年8月1日
軍神イコング	『我等』 8-9、1926年9月1日



プラトン式嘘つき	『我等』 8-10、1926年10月1日
ツワシトリの子供達	『我等』 8-11、1926年11月1日
奴隷の世界	『我等』 8-12、1926年12月1日
『我輩平民』	『我等』 9-1、1927年1月1日
黒人の幻滅	呪はれた白人『我等』 9-2、1927年2月1日
ある気違ひ婆さんの死	『我等』 9-3、1927年3月1日
ベンゴールのロヒラス	『我等』 9-4、1927年4月1日
鉄の鋏と黄金の鋏	『我等』 9-5、1927年6月1日
とにかく儲けませう	『我等』 9-6、1927年7月1日
貴族—軍人—資本家の歴史	『我等』 9-7、1927年8月1日
人間から神を作る法	『我等』 9-8、1927年9月1日
『惜しいことには』	『我等』 9-9、1927年11月1日
外来思想の取締	『我等』 9-10、1927年12月1日
理論とその把持者	『我等』 10-1、1928年1月1日
馬	『我等』 10-2、1928年2月1日
組織の力	『我等』 10-3、1928年3月1日
『ラス』と紙片	『我等』 10-4、1928年4月1日
フランスの泥、日本の泥	『我等』 10-5、1928年5月1日
『唯心史観』	『我等』 10-6、1928年7月1日
罪人は誰れ？	『我等』 10-7、1928年8月1日
『不戦條約』劇（一幕）	『我等』 10-8、1928年9月1日
三千年前の民謡	三千年前の俚謡『我等』 10-9、1928年10月1日
船のやうな国	『我等』 10-10、1928年11月1日
満州にて	『我等』 10-11、1928年12月1日
戦争絶滅受合法案	『我等』 11-1、1929年1月1日
トルコを笑ふ者	『我等』 11-2、1929年2月1日
『珈琲は薄く、紅茶は濃く』	『我等』 11-4、1929年4月1日
裸にされたアメリカ主義	『我等』 11-5、1929年5月1日
ネロを支持する者	『我等』 11-6、1929年6月1日
にんにくの『イデオロギー』	『我等』 11-7、1929年7月1日
汝等の行くべき国	『我等』 11-8、1929年9月1日
ある日の新聞	『我等』 11-9、1929年10月1日
合理化	『我等』 11-10、1929年11月1日
殺老俗の復活	『我等』 11-11、1929年12月1日
ロンドン会議の場所錯誤	『我等』 12-1、1930年1月1日
資本主義寺院とソヴェート・ロシア	『批判』 1-1、1930年5月1日
蝗軍蜂起	『批判』 1-2、1930年6月1日
歴史と暴力	『批判』 1-3、1930年7月1日
『白く塗られた墓』	『批判』 1-4、1930年8月1日
人間の道徳	『批判』 1-5、1930年9月1日
政治家登録法案	『批判』 1-6、1930年10月1日
傍若無黒人	『批判』 1-7、1930年12月1日
労資は唱ふ不景気時代	『批判』 2-1、1931年1月1日
『バケツから母牛へ』の叫び	『批判』 2-2、1931年2月1日
ミリタリストの使途	『批判』 2-4、1931年4月1日
棄てられたボロ椅子	『批判』 2-5、1931年5月1日
荒ぶる神	『批判』 2-6、1931年6月1日
もしアメリカが「故人」だったら	『批判』 2-7、1931年7月15日
宗教及び『反宗教』	『批判』 2-8、1931年9月1日
日本の二枚舌	『批判』 2-9、1931年10月1日
『村正』資本主義と『丸腰』資本主義	『批判』 2-10、1931年11月1日
算盤・鉄砲組合	『批判』 2-11、1931年12月1日
ツアールは蘇へり給へり	『批判』 3-1、1932年1月1日
歴史の順序	『批判』 3-2、1932年2月1日
戦争・平和・楽土	『批判』 3-3、1932年3月1日
150	『批判』 3-4、1932年4月1日
遠征	『批判』 3-5、1932年5月1日
百年前のアンチ・ファシスト	『批判』 3-6、1932年6月1日
『大和魂』	『批判』 3-7、1932年7月1日
征夫	『批判』 3-8、1932年8月1日
政党遊戯	『批判』 3-9、1932年9月1日

ナチス勝つ	『批判』 3-10、1932年10月1日
時代は逝く	『批判』 3-11、1932年11月1日
冬枯れの消息	『批判』 3-12、1932年12月1日
お初穂は拒まれた	『批判』 4-1、1933年1月1日
日本の『急激な進歩』	『批判』 4-2、1933年2月1日
世界大野蛮論	『批判』 4-3、1933年3月1日
法律は繰返す	『批判』 4-4、1933年4月1日
鈴鈴零信	『批判』 4-5、1933年5月1日
二千年前のファツシヨ革命	『批判』 4-6、1933年6月1日
民友肅心	『批判』 4-8、1933年8月1日
象の神経衰弱	『批判』 4-9、1933年9月1日
「民亦勞ス」	『民亦勞』『批判』 4-10、1933年11月1日

『如是閑文芸全集 第8巻 紀行2』学芸社、1933年12月30日

倫敦	『倫敦』政教社、1912年5月1日
----	-------------------

『如是閑著作集 第1巻 国家篇』養徳社、1948年5月15日

付録を除き、『現代国家批判』(弘文堂書房、1921年)を収録

『如是閑著作集 第8巻 創作篇2』養徳社、1948年11月30日

秋刀魚先生と重吉	
秋刀魚先生	『我等』 5-4、1923年4月1日
重吉の宿	『我等』 5-5~7、1923年5月1日、6月1日、7月1日
重吉とお絹	未発表、1947年筆。
或る謀殺犯人の陳述	『新小説』 26-4、1921年4月1日
老人形師と彼れの妻	『我等』 2-5、6、1920年5月1日、6月1日

『現代隨想全集 第2巻 長谷川如是閑・福原麟太郎集』創元社、1953年11月30日

逍遙塾時代	『ある心の自叙伝』(朝日新聞社、1950年6月20日)抄
アンチ・ヒロイズム断片	『中央公論』 41-1、1926年1月1日
大陸と島国	『我觀中国』(「大陸と日本」『日本評論』 13-8、1938年7月1日と「大陸と島国 日本と支那」『セルバン』88、1938年5月1日)を『我觀中国』収録時に「大陸と島国」(其一)、(其二)と改題)
日本的教養の特徴	『失はれた日本—日本的教養の伝統—』慶友社、1952年
文明と野蛮	『中外日報』 1922年8月24~26日(『道徳の現実性』)
社会性の発見	神と人と社会『大觀』 5-4、1922年4月1日(『道徳の現実性』収録時に改題)
門	『我等』 3-8、1921年8月1日(『犬・猫・人間』)
「犬の家の主人の家族」と家族	『少年少女』 3-6、1950年6月1日
長寿の道徳	鎌倉だより(4)『新女苑』 16-6、1952年6月1日
私のイギリス観	『あるびよん』 2、1949年10月5日
私の読書法	『あるびよん』 4、1950年12月1日
低気圧前後	『新小説』 25-4、1920年4月1日(『犬・猫・人間』)
もし日本人がアメリカを発見してみたら	在米南朝日本『日本及日本人』 822、1921年11月11日(『犬・猫・人間』収録時に改題)
生活を明るくするには	『それいゆ(生活の絵本)』 1952年9月
日本の弓矢と弓術	
クツみがき	『週刊朝日』 56-20、1951年5月6日
森戸事件前後の研究室の人たち	1949年執筆、未発表
眞実は如く伴る	
山へ行け	『我等』 1-9、1919年7月1日
上から下へ	『我等』 2-10、1920年10月1日
小僧の耳	『我等』 3-11、1921年11月1日
聖人の妻	『我等』 4-12、1922年12月1日
泥棒は正直	『我等』 5-2、1923年2月1日
蟻の国家主義	『我等』 6-6、1924年7月1日

山で死ぬ人々	『我等』8-8、1926年8月1日
「我等」から「批判」へ	『我等』から『現代批判』へ『我等』12-2、1930年3月1日

## 『昭和文学全集 第37巻 長谷川如是閑 大内兵衛 笠信太郎集』角川書店、1954年5月30日

ふたすぢ道	『新著月刊』2-3、1898年2月3日(『現代日本文学全集41』)
ある心の自叙伝[「日本新聞のころ」抄]	『ある心の自叙伝』抄録
如是閑語[1]	『日本及日本人』464、8月1日(抄)(『搦手から』)
<b>思想の流れ</b>	
永代哲学	『日本』1900年12月24日
続永代哲学	『日本』1901年1月7日
ロハ台の厭世観	『日本及日本人』452、1907年2月1日
「大阪朝日」から「我等」へ	『我等』1-1、1919年2月11日
「我等」から「批判」へ	『我等』から『現代批判』へ『我等』12-2、1930年3月1日
「批判」の終刊について	『批判』5-2、1934年2月11日
<b>動物愛と人間愛</b>	
虎使ひ志願	『我等』1-3、1919年3月15日
虎から豹へ	『中央公論』37-1、1922年1月1日
お猿の番人になるまで	『解放』3-2、5、7、1921年2月1日、5月1日、7月1日
象やの象さん	『中央公論』36-1、1月1日
<b>日本の国民性</b>	
日本人の国民性—多角的・具体的・生活的	『東洋経済新報』2607~2609、1954年1月2、16、23日
日本のヒューマニズム	『生活・叡知・思索』雲井書店、1953年9月30日
<b>真実はかく伴る</b>	
血のバラドックス	『我等』1-14、1919年12月1日
小僧の耳	『我等』3-11、1921年11月1日
吾は点に与みせん	『批判』5-2、1934年2月11日
如是閑語[2]	『日本及日本人』465、8月15日(抄)(『搦手から』)
<b>凡愚列伝</b>	
髪結ひのおとら	『此の人を見よ』—凡人列伝—『中央公論』42-1、1927年1月1日
「重役よ！」	凡愚列伝『改造』9-10、10月1日
如是閑語[3]	『日本及日本人』466、9月1日(抄)(『搦手から』)
<b>倫敦</b>	
車のいろいろ	倫敦！倫敦？『大阪朝日新聞』1911年4月23日(『倫敦』)
ベンガル湾と二葉亭	帰路『大阪朝日新聞』1910年11月12日(『倫敦』)
如是閑語[4]	『日本及日本人』469、9月15日(抄)(『搦手から』)

## 『現代知性全集 第32巻 長谷川如是閑集』日本書房、1960年5月28日

近代思想の展開	『現代思想講座 1 現代思想の展望』白鷗社、1948年9月15日
現代知識階級論	『朝日評論』1-5、1946年7月1日
日本のヒューマニズム	『生活・叡知・思索』雲井書店、1953年9月30日
日本に於けるファシズムの発展	『日本ファシズム批判』(大畑書店、1932年11月20日)第1篇を収録
東洋文化と西洋文化	『東洋文化と西洋文化』研究社、1947年1月15日
大陸と島国	『我観中国』収録時に「大陸と日本」『日本評論』13-8、1938年7月1日と「大陸と島国 日本と支那」『セルパン』88、1938年5月1日を『我観中国』収録時に「大陸と島国」(其一)、(其二)と改題し、『現代随想全集2』収録時に「大陸と島国」と改題。
礼の美	『礼の美』(河原書店、1947年)から収録
心と形	『礼の美』(河原書店、1947年)から収録
美の倫理性	日本美の確認『東京新聞』1943年1月2、4、5日、『礼の美』(一条書房、1944年)収録、『礼の美』(河原書店、1947年)で「美の倫理性」と改題。
大学及び大学生	『セルパン』76、1937年5月1日(『大学及び大学生』)
若き世代への言葉	『思索』19、1949年2月1日(『生活・叡知・思索』)

新聞とジャーナリズム	ブルジョア・ジャーナリズムー資本主義と『新聞』の変質『総合ジャーナリズム講座』[第1巻、第2巻]内外社、1930年10月1日、11月1日(『新聞論』)
日本の新聞 1 日本の専制と日本の新聞紙 2 「新聞」の文化性と日本の新聞紙	新聞論『改造』27-4、5、1946年4月1日、5月1日(『新聞論』)

長谷川如是閑集『随想全集 第12巻』尚学図書、1969年10月5日

アンチ・ヒーロイズム断片	『中央公論』41-1、1926年1月1日
逍遙塾時代(抄)	『ある心の自叙伝』(朝日新聞社、1950年6月20日)抄
日常生活にある芸術性	日本文明十話(二)『毎日新聞』1962年6月19日
「家」と青少年のあり方	日本文明十話(三)『毎日新聞』1962年6月21、22日
オンアボキヤー	日本文明十話(八)『毎日新聞』1962年6月27日
さくら	『読売新聞[夕刊]』1938年4月8日
<b>理想と現実</b>	
クツみがき	『週刊朝日』56-20、1951年5月6日
女の優越性	『我等』1-4、1919年4月1日
蟻の国家主義	『我等』6-6、1924年7月1日
山で死ぬ人々	『我等』8-8、1926年8月1日
機械の人格化ー人格の機械化	『我等』2-6、1920年6月1日
舜と竜神	『我等』3-3、1921年3月1日
人間と大根	『我等』8-4、1926年4月1日
権力の外に在る世界	『東京日日新聞』1925年1月3~6日
愛犬トチの死を語る	『読売新聞』1932年9月2、3、7、10、11、13日
初めて逢った漱石	初めて逢った漱石君『大阪朝日新聞』1916年12月18日

『長谷川如是閑選集 第1巻』栗田出版会、1969年10月20日

如是閑語	
<b>眞実はかくいつわる&lt;朝日新聞社版から収録&gt;</b>	
著者のことば	
英雄と民衆と真理	『我等』1-2、1919年3月1日
女の優越性	『我等』1-4、1919年4月1日
野蛮人のイニシエーション	『我等』1-3、1919年3月15日
「現実政治家」の叫び声	『我等』1-5、1919年4月15日
大世界と小世界	『我等』1-6、1919年5月1日
男女の利害関係	『我等』1-7、1919年5月15日
最も弱きものゝ強味	『我等』1-8、1919年6月1日
山へ行け	『我等』1-9、1919年7月1日
死刑=歴史は繰返す	『我等』1-10、1919年8月1日
黒白の争ひ	『我等』1-11、1919年9月1日
奴隷優遇	『我等』1-12、1919年10月1日
暴利取戻令	国家と成金『我等』1-13、1919年11月1日
血のパラドックス	『我等』1-14、1919年12月1日
未来を迎ふる心	『我等』2-1、1920年1月1日
エジプト王を渡せ	埃及王を渡せ『我等』2-2、1920年2月1日
農奴解放	『我等』2-3、1920年3月1日
埴輪以前	『我等』2-4、1920年4月1日
「公式」の恋人と画の餅	名の恋人と画の餅『我等』2-5、1920年5月1日
機械の人格化ー人格の機械化	『我等』2-6、1920年6月1日
強き者に対する反逆	『我等』2-7、1920年7月1日
ゴリラに返れ	『我等』2-8、1920年8月1日
欺かれた靈魂と人間	『我等』2-9、1920年9月1日
上から下へ	『我等』2-10、1920年10月1日
楚王と漁夫	『我等』2-11、1920年11月1日
衣服と肉体	『我等』2-12、1920年12月1日
「世界統一」	『世界統一』『我等』3-1、1921年1月1日
たった一人に六百人	『我等』3-2、1921年2月1日
舜と龍神	『我等』3-3、1921年3月1日
十返舎一九のロジック	『我等』3-4、1921年4月1日

礼儀正しい泥棒	『我等』3-5、1921年5月1日
酒樽と人間	『我等』3-6、1921年6月1日
孟子国字解	『我等』3-7、1921年7月1日
火と鉄	『我等』3-8、1921年8月1日
宰予の「聖人」	聖人『我等』3-9、1921年9月1日
小僧の耳	『我等』3-11、1921年11月1日
優越と自然	『我等』3-12、1921年12月1日
始めか終りか	歳の始め『我等』4-1、1922年1月1日
蜂の子	『我等』4-2、1922年2月1日
ロータトーリアの蘇生	ロータトーリアの死『我等』4-3、1922年3月1日
奴隷であることの喜び	『我等』4-4、1922年4月1日
エスキモー	『我等』4-5、1922年5月1日
魂のさせる業	『我等』4-6、1922年6月1日
盗跖の言葉	『我等』4-7、1922年7月1日
不思議	『我等』4-8、1922年8月1日
節約	『我等』4-9、1922年9月1日
宗教と政治	『我等』4-10、1922年10月1日
人間の値段付け	『我等』4-11、1922年11月1日
聖人の妻	『我等』4-12、1922年12月1日
一の字の不思議	『我等』5-1、1923年1月1日
泥棒は正直	『我等』5-2、1923年2月1日
踊り兒の独語	『我等』5-3、1923年3月1日
アリストテレスの妄語	アリストートルの妄語『我等』5-4、1923年4月1日
善良な悪魔の涙	『我等』5-5、1923年5月1日
猪の聖者	『我等』5-6、1923年6月1日
魂の逃げ場	『我等』5-7、1923年7月1日
逆賊の作った法律	『我等』5-8、1923年8月1日
靈魂の獄舎	『我等』5-9、1923年9月1日
神が人間を作る時の会議	『我等』6-1、1924年1月1日
鯨の齒	『我等』6-2、1924年3月1日
大虎の謎	『我等』6-3、1924年4月1日
カント以前とカント以後	『我等』6-4、1924年5月1日
モルモン宗徒に学べ	『我等』6-5、1924年6月1日
蟻の国家主義	『我等』6-6、1924年7月1日
物が神を創造する	『我等』6-7、1924年8月1日
一文無しのロヂツク	『我等』6-8、1924年9月1日
女の蘇る時代	『我等』6-9、1924年10月1日
貝殻の虐政	『我等』6-10、1924年11月1日
パラドックス	『我等』6-11、1924年12月1日
闘争から光へ	『我等』7-1、1925年1月1日
偽首と革囊	『我等』7-3、1925年3月1日
豚と豚	『我等』7-4、1925年4月1日
羨むべき「ケレケレ」	『我等』7-5、1925年5月1日
犯罪と女	『我等』7-6、1925年6月1日
孟子の不勞所得	『我等』7-8、1925年8月1日
猿語の歎ひ	『我等』7-9、1925年9月1日
新經濟政策	『我等』7-10、1925.10月1日
黒い骨と白い骨	『我等』7-12、1925年12月1日
神々の作った真理	『我等』8-1、1926年1月1日
人間と大根	『我等』8-4、1926年4月1日
大きな鼠	『我等』8-5、1926年5月1日
中国の車夫	支那の車夫『我等』8-6、1926年6月1日
中国人の家	支那人の家『我等』8-7、1926年7月1日
山で死ぬ人々	『我等』8-8、1926年8月1日
軍神イコング	『我等』8-9、1926年9月1日
プラトン式嘘つき	『我等』8-10、1926年10月1日
ツワシトリの子供達	『我等』8-11、1926年11月1日
奴隷の世界	『我等』8-12、1926年12月1日
「我輩平民」	『我等』9-1、1927年1月1日
黒人の幻滅	呪はれた白人『我等』9-2、1927年2月1日
ある気違ひ婆さんの死	『我等』9-3、1927年3月1日

ベンゴールのロヒラス	『我等』9-4、1927年4月1日
鉄の鋏と黄金の鋏	『我等』9-5、1927年6月1日
とにかく儲けましよう	『我等』9-6、1927年7月1日
貴族—軍人—地主の歴史	貴族—軍人—資本家の歴史『我等』9-7、1927年8月1日
人間から神を作る法	『我等』9-8、1927年9月1日
「惜しいことには」	『我等』9-9、1927年11月1日
外来思想の取締	『我等』9-10、1927年12月1日
理論とその把持者	『我等』10-1、1928年1月1日
馬	『我等』10-2、1928年2月1日
組織の力	『我等』10-3、1928年3月1日
「ラス」と紙片	『我等』10-4、1928年4月1日
フランスの泥、日本の泥	『我等』10-5、1928年5月1日
「唯心史観」	『我等』10-6、1928年7月1日
罪人は誰れ?	『我等』10-7、1928年8月1日
「不戦條約」劇(一幕)	『我等』10-8、1928年9月1日
三千年前の俚語	『我等』10-9、1928年10月1日
船のやうな国	『我等』10-10、1928年11月1日
満州にて	『我等』10-11、1928年12月1日
「戦争絶滅受合法案」	『我等』11-1、1929年1月1日
トルコを笑う者	『我等』11-2、1929年2月1日
暗殺	『我等』11-3、1929年3月1日
珈琲は薄く、紅茶は濃く	『我等』11-4、1929年4月1日
ネロを支持する者	『我等』11-6、1929年6月1日
にんにくの「イデオロギー」	『我等』11-7、1929年7月1日
汝等の行くべき国	『我等』11-8、1929年9月1日
ことばのいろいろ	未発表
ある日の新聞	『我等』11-9、1929年10月1日
「合理化」	『我等』11-10、1929年11月1日
復老俗の復活	『我等』11-11、1929年12月1日
ロンドン会議の場所錯誤	『我等』12-1、1930年1月1日
遅蒔きの宗教心	資本主義寺院とソウエート・ロシア『批判』1-1、1930年5月1日
いなご軍蜂起	蝗軍蜂起『批判』1-2、1930年6月1日
歴史と暴力	『批判』1-3、1930年7月1日
「白く塗られた墓」	『批判』1-4、1930年8月1日
人間の道徳	『批判』1-5、1930年9月1日
政治家登録法案	『批判』1-6、1930年10月1日
傍若無黒人	『批判』1-7、1930年12月1日
労資は唱う不景気時代	『批判』2-1、1931年1月1日
「バケツから母牛へ」の叫び	『批判』2-2、1931年2月1日
「枢」「密」「院」	『批判』2-3、1931年3月1日
ミリタリストの使い途	ミリタリストの使途『批判』2-4、1931年4月1日
棄てられたボロ椅子	『批判』2-5、1931年5月1日
荒ぶる神	『批判』2-6、1931年6月1日
大変な弔辞	もしアメリカが「故人」だったら『批判』2-7、1931年7月15日
宗教及び「反宗教」	『批判』2-8、1931年9月1日
日本の二枚舌	『批判』2-9、1931年10月1日
「村正」資本主義と「丸腰」資本主義	『批判』2-10、1931年11月1日
算盤・鉄砲組合	『批判』2-11、1931年12月1日
ツァーは蘇り給えり	ツァールは蘇へり給へり『批判』3-1、1932年1月1日
歴史の順序	『批判』3-2、1932年2月1日
戦争・平和・楽土	『批判』3-3、1932年3月1日
150	『批判』3-4、1932年4月1日
「我征徂西」	遠征『批判』3-5、1932年5月1日
百年前のアンチ・ファシスト	『批判』3-6、1932年6月1日
「大和魂」	『批判』3-7、1932年7月1日
「征夫」	『批判』3-8、1932年8月1日
政党遊戯	『批判』3-9、1932年9月1日
ナチス勝つ	『批判』3-10、1932年10月1日

時代は逝く	『批判』3-11、1932年11月1日
冬枯れの消息	『批判』3-12、1932年12月1日
お初穂は拒まれた	『批判』4-1、1933年1月1日
日本の「急激な進歩」	『批判』4-2、1933年2月1日
世界大野蛮論	『批判』4-3、1933年3月1日
法律は繰返す	『批判』4-4、1933年4月1日
鈴鈴零信	『批判』4-5、1933年5月1日
二千年前のファッション革命	『批判』4-6、1933年6月1日
「転向」	『批判』4-7、1933年7月1日
「民友肅心」	『批判』4-8、1933年8月1日
象の神経衰弱	『批判』4-9、1933年9月1日
「民亦勞」	『批判』4-10、1933年11月1日
吾は点に与みせん	『批判』5-2、1934年2月11日
序破急	『女性改造』3-1、1924年1月1日
「大阪朝日」から「我等」へ	『我等』1-1、1919年2月11日
「我等」から「批判」へ	『我等』から『現代批判』へ『我等』12-2、1930年3月1日
「批判」の終刊について	『批判』5-2、1934年2月11日

## 『長谷川如是閑選集 第2巻』栗田出版会、1969年12月10日

日本再建の基本的態度	『改造』31-8、1950年8月1日
<b>現代国家批判</b>	『現代国家批判』(弘文堂書房、1921年6月15日)から付録を除き収録
闘争本能と国家の発生	闘争本能と国家の進化『中央公論』35-11、1920年10月1日
生活の現実と超国家の死滅	『我等』2-6、1920年6月1日
国家意識の社会化	『我等』1-4、1919年4月1日
国家的万能力の進化	国家的万能力の不合理性『解放』2-7、1920年7月1日
国家悪と産業悪	『我等』2-8、1920年8月1日
国家の進化と愛国的精神	『改造』2-9、1920年9月1日
国家と眞理との交戦状態	『我等』2-3、1920年3月1日
自国本位主義の解剖	『中央公論』36-2、1921年2月1日
実際政治における自由主義と干渉主義	『我等』2-11、1920年11月1日
政治思想としての「無政府」と「独裁」	『無政府』と『独裁』—政治思想の両極に対する断片的考察『我等』2-10、1920年10月1日
政党政治の完成と自壊作用	政党主義の樹立と其自壊作用『太陽』26-9、1920年8月1日
政党政治の本質的欠陥	『大観』4-1、2、1921年1月1日、2月1日
議会政治の存在理由とその崩壊	『解放』3-2、1921年2月1日
国家の商人化 —政治的支配と産業的支配の渾一	国家の商人化と政治否定『我等』3-1、1921年1月1日
わが現代政治における世界的傾向	『我等』2-4、1920年4月1日
<b>日本ファシズム批判</b>	『日本ファシズム批判』(大畑書店、1932年)から著者自身が伏字をおこした「第1篇日本に於けるファシズムの発展」(『現代知性全集32』収録)を収録。
<b>1 ファシズムの社会・経済的条件</b>	
(1)イタリーのファシズム	ファシズムの社会的条件と日本の特殊事情—日本にファシズムの可能性があるか『批判』2-3、1931年3月1日
(2)日本の特殊事情(一九三一年上半期)	我が国に於けるファシズムの可能と不可能—ファシズムの社会的条件と日本の特殊事情の続篇—『批判』2-4、1931年4月1日
<b>2 ファシズムの政治的条件</b>	
(1)日本の政治過程に於ける主動的勢力(一九二九年下半期)	日本の政治過程に於ける主動的勢力—田中内閣崩壊の動因『我等』11-7、1929年7月1日
(2)議会主義の破綻と『合法的』ファシズム(一九三一年上半期)	議会主義の破綻と『合法的』ファシズム『経済往来』6-4、1931年4月1日
(3)協力内閣の立消から復活へ(一九三二年上半期)	協力内閣の立消から復活へ『経済往来』7-1、1932年1月1日
(4)ブルジョア国家に於ける議会主義及び独裁主義(一九三二年上半期)	『改造』14-3、1932年3月1日

<b>3 ファシズムの観念形態</b>	
(1) 資本主義・帝国主義・日本主義(一九三二年下半期)	『経済往来』7-7、1932年7月1日
(2) 日本に於ける芸術的ファシズム(一九三二年上半期)	芸術に於けるファツシヨ『批判』3-3、4、1932年3月1日、4月1日

『長谷川如是閑選集 第3巻』栗田出版会、1970年1月20日

現代社会批判	『現代社会批判』(弘文堂書房、1922年1月25日)から収録
現代文化の特徴とその転機	『太陽』26-6、1920年6月1日
階級意識と階級闘争	階級戦争の倫理『我等』1-13、1919年11月1日
生活享楽の分業と階級の反感	『雄弁』11-5、1920年5月1日
現代文化に対する民衆化の意義	民衆化と社会的頹廢 現代文化に対する民衆化の意義『我等』1-14、1919年12月1日
現代社会と集団意識	集団意識と協調主義『我等』3-5、1921年5月1日
個人的優越の否定	『我等』1-10、1919年8月1日
「労働の芸術化」について	「労働の芸術化」か「芸術の労働化」か『解放』2-2、1920年2月1日
快楽論的労働観を排す	『我等』2-7、1920年7月1日
生活としての労働	『中央公論』36-3、1921年3月1日
財産に関する一考察	『我等』3-2、1921年2月1日
「企業」と「労働」との本質と変態	『企業』と『労働』とに関する一考察『我等』3-3、1921年3月1日
富の神化	『我等』2-9、1920年9月1日
企業参加権について	企業参加権の法的基礎『太陽』27-1、1921年1月1日
性的に観た社会	『我等』2-12、1920年12月1日
生殖生活の解放から女子独裁へ	『婦人公論』5-11、1920年11月1日
性的感情の醇化	『我等』1-5、1919年4月15日
結婚制度について	進化せざる結婚制度『解放』2-10、1920年10月1日
近代思想の展開	『現代思想講座 1 現代思想の展望』白鷗社、1948年9月15日
現代知識階級論	『朝日評論』1-5、1946年7月1日
ドイツ学からイギリス学へー学問内容の自立性のためにー	『中央評論』11、1951年1月20日
大学の伝統と日本の大学	『中央評論』61、1959年3月12日
大学および大学生	『セルバン』76、1937年5月1日(『大学及び大学生』)
大学の起源ー国家の機関か社会の機関かー	大学=国家の機関?社会の機関?『改造』10-9、1928年9月1日(『大学及び大学生』)
学生生活の規格ー日本伝来の生活ー	『大学及び大学生』明治書院、1949年11月15日
大学の独立性とその喪失	学術の機能と学術機関の独立性ー大学の独立性の獲得と喪失ー『我等』9-3、1927年3月1日(『大学及び大学生』)
明治・大正・昭和の学生層	『東京新聞』1949年7月17~20日(『大学及び大学生』)
森戸助教授筆禍事件の論理的解剖	『我等』2-2、1920年2月1日(『大学及び大学生』)
森戸事件前後の研究室の人たち	『現代随想全集 第2巻』創元社、1953年11月30日

『長谷川如是閑選集 第4巻』栗田出版会、1970年3月5日

新聞	
新聞と新聞人	新聞および新聞人『朝日新聞』1954年1月25~31日、2月1~24日(『新聞』)
輿論	社会意識の表現形態としての輿論・芸術及び新聞(『我等』10-8、9、11、1928年9月1日、10月1日、12月1日)の「二輿論」(『新聞』)
資本主義社会における新聞紙の変質ー新聞紙の商品化とその奪回ー	『我等』11-1、1929年1月1日
社会意識の表現形態としての新聞	「新聞」(「新聞紙の社会的動機とその没却」(『社会学雑誌』49、1928年5月7日)、「社会意識の表現形態としての新聞」(『我等』11-4~6、1929年4月1日、5月1日、6月1日)を編集・改題して『新聞論』収録)
新聞とジャーナリズム	ブルジョア・ジャーナリズムー資本主義と『新聞』の変質『総合ジャーナリズム講座』【第1巻、第2巻】内外社、1930年10月1日、11月1日(『新聞論』収録時に改題)



客観的事実と歴史・新聞・芸術－最近の情勢について	『批判』4-4、5、1933年4月1日、5月1日
新聞文学	『岩波講座日本文学 第4巻』岩波書店、1933年4月20日
日本の新聞 1 日本の専制と日本の新聞紙 2 「新聞」の文化性と日本の新聞紙	新聞論『改造』27-4、5、1946年4月1日、5月1日
新聞道徳論	『新聞講座 編集編 第2(東京講座)』日本新聞協会、1949年5月25日
新聞の性格の退化－現代日本の新聞紙に対する考察－	『新聞研究』42、1955年1月1日
地に堕ちた無冠の帝王	『無冠の帝王』『潮』41、1963年11月1日
マスコミの日本的倫理性	マス・コミュニケーションにおける日本的倫理性『道徳と教育』3-7、1960年10月1日
新聞紙休刊問題－社会的欠陥－	社会的欠陥『我等』1-11、1919年9月1日
「力の関係」から「協同の組織」へ	『改造』27-11、1946年11月1日
日本新聞と朝日新聞	個性をもつ新聞を『五十人の新聞人』電通、1955年7月1日
「造化精妙」	『上野理一伝』朝日新聞社社史編修室編、朝日新聞社、1959年12月25日
ラジオ文化の根本問題	『中央公論』51-9、1936年9月1日
マス・コミュニケーションと現代社会－ラジオ、テレビの世界的機能	『放送文化』7-6、1952年6月1日
放送ジャーナリズム論	『放送文化』15-3、1960年3月1日

## 『長谷川如是閑選集 第5巻』栗田出版会、1970年4月20日

<b>日本的性格</b>	『日本的性格』岩波書店、1938年12月20日
はしがき	
1 日本の性格	日本の性格の再検討『改造』17-6、1935年6月1日
2 日本文明の伝統的特徴	『中央公論』53-7、1938年7月1日
3 伝統文化と現代文化	『中央公論』53-6、1938年6月1日
4 日本文明について	『学芸協力と民族文化精神との相互理解』(英文)、1937年。未見
5 日本人の心理的特徴	『日本評論』13-1、1938年1月1日
6 日本民族と伝統的態度	民族と伝統の態度－特に日本的態度に就て－『思想』179、1937年4月1日
7 日本文明の表現形式	『新日本』1-2、1938年2月1日
8 日本文化と自然	『美 1936年版』松野一夫編、平凡社、1936年12月2日
9 日本に於けるルネサンス	日本に於ける教権と人文主義『思想』173、1936年10月1日
付録 日本文化の成立	初出未詳
<b>続日本的性格</b>	『続日本的性格』岩波書店、1942年12月21日
緒言	
1 日本歴史の持続的性格	『中央公論』55-1、1940年1月1日
2 東洋民族と日本文明	『文芸春秋』17-1、1939年1月1日
3 日本的生活の倫理性	生活の倫理性－日本的倫理性の基調『改造』23-7、1941年4月1日
4 倫理学の日本的性格	日本倫理学の性格－特に儒教倫理学の日本化に就て『改造』23-9、1941年5月1日
5 日本人の知性と感性	『知性』1-2、1938年6月1日
6 日本文化に於ける芸術性と科学性	芸術性と科学性－日本文化に於ける－『文化日本』5-7、1941年7月1日
7 日本人の技術的性能	『科学主義工業』4-5、1940年5月1日
8 日本的教養の直観性	日本的教養－その特徴としての直観性－『日本評論』16-2、1941年2月1日
9 日本人の住むと住み方	『アトリエ』18-7、1941年7月1日
10 日本民族の優秀性	『日本評論』17-4、1942年4月1日
書後に	
礼の美	『礼の美』(河原書店、1947年)から収録
日本のヒューマニズム	『生活・叡知・思索』(雲井書店、1953年)から収録
日本人と宗教	『大法輪』26-6、1959年6月1日(『日本さまざま』)
日本文化の世界性	『世連研究』1-1、1959年(『日本さまざま』)

日本文明の総合性－国際的接触の結晶－	『綜合文化』6-6、1960年6月1日(『日本さまざま』)
文化的デモクラシーの国	日本さまざま(1)『大法輪』27-1、1961年1月1日(『日本さまざま』)
明治・大正・昭和三代の性格－神話時代からの歴史的持続とその中断－	『中央公論』74-5、1959年4月1日
日本文明十話	『毎日新聞』1962年6月18、19、21、22、24～29日(『十人百話』毎日新聞社、1963年1月25日)

『長谷川如是閑選集 第6巻』栗田出版会、1970年6月5日

奇妙な精神病者の話	『我等』1-1、1919年2月11日
額の男	?『大阪朝日新聞』1909年3月22～31日、4月1～30日、5月1～7日(『額の男』)
食い違い	『我等』4-3、1922年3月1日
虎使い志願	『我等』1-3、3月15日
お猿の番人になるまで	『解放』3-2、5-7、1921年2月1日、5月1日、7月1日
<b>秋刀魚先生と重吉</b>	
秋刀魚先生	『我等』5-4、1923年4月1日
重吉の宿	『我等』5-5～7、1923年5月1日、6月1日、7月1日
重吉とお絹	『著作集 8』

『長谷川如是閑選集 第7巻』栗田出版会、1970年7月20日

<b>凡愚列伝－この人々を見よ－</b>	
「凡愚列伝」とは－読者へのことば	『凡愚列伝 この人々を見よ』岡書院、1950年11月15日
髪結ひのおとら／鳩婆さん	『此の人を見よ』－凡人列伝－『中央公論』42-1、1927年1月1日
「凡骨」／二人の「ところてん」	凡愚列伝『改造』9-4、1927年4月1日
猿と寝た男	凡愚列伝『改造』9-6、1927年6月1日
哲学的保険勧誘人	凡愚列伝『改造』9-8、1927年8月1日
「重役よ！」	凡愚列伝『改造』9-10、1927年10月1日
ある男爵家の系図	凡愚列伝『改造』9-12、1927年12月1日
寺院に救はれた男	寺院に棄てられた男・寺院に救はれた男－凡愚列伝のうち－『改造』11-7、1929年7月1日
観念的捧術の達人	『改造』15-5、1933年5月1日
老校長の「左遷」	彼等は余りにも教育家である(凡愚列伝)『改造』15-7、1933年7月1日
「人馬一体」	馬『中央公論』37-10、1922年9月1日
職人かたぎ	『文芸春秋』35-8、1957年8月1日
「職人かたぎ」補遺	『文芸春秋』35-9、9月1日
クツみがき	『週刊朝日』56-20、1951年5月6日
<b>犬・猫・人間</b>	
はしがき	『犬・猫・人間』改造社、1924年5月1日
ピョートルの猫と私の猫	『中央公論』39-1、1924年1月1日(『犬・猫・人間』)
亡友四匹	『中央公論』37-6、1922年6月1日(『犬・猫・人間』)
猛犬ジャツクの話	『我等』2-4、1920年4月1日(『犬・猫・人間』)
門	『我等』3-8、1921年8月1日(『犬・猫・人間』)
玄関	『我等』4-5、1922年5月1日(『犬・猫・人間』)
シナの自然	初出未詳
もし日本人がアメリカを発見してみたら	在米南朝日本『日本及日本人』822、1921年11月11日(『犬・猫・人間』)
低気圧前後	『新小説』25-4、1920年4月1日(『犬・猫・人間』)
シロ子嬢	1964年、初出未詳
私の信条	『世界』57、1950年9月1日
行易不行難	『中央評論』84、1963年9月1日
イズム教と日本	『文芸春秋』35-5、1957年5月1日
私の座右の書	『溶味』157、1965年8月5日
読書の思い出	『月刊東海テレビ』64、1964年10月1日
私の履歴書	『日本経済新聞』1963年1月1、3～31日
長寿ということ	『東京だより』102、1958年1月1日
如是閑式健康法	『大法輪』33-1、1966年1月1日
日本アルプス縦断記	『日本アルプス縦断記』(大鏡閣、1917年7月23日)

私の七十余年の短歌歴	『洛味』128、1963年3月5日
短歌	

## 『長谷川如是閑選集 補巻』栗田出版会、1970年9月20日

ふたすじ道	『新著月刊』2-3、1898年2月3日(『現代日本文学全集41』)
におい	臭ひ『日本及日本人』471、1907年11月3日
上げ汐だア	『日本及日本人』481、1908年4月1日(『文芸全集1』)
一人の鮎屋	『我等』1-8、1919年6月1日
京に行っていた娘	『我等』1-12、1919年10月1日
二人の軽業師	『新小説』26-8、1921年8月1日
虎から豹へ	『中央公論』37-1、1922年1月1日
象やの象さん	『中央公論』36-1、1921年1月1日
老人形師と彼れの妻	『我等』2-5、6、1920年5月1日、6月1日
ある謀殺犯人の陳述	『新小説』26-4、1921年4月1日
くらげと穴熊	『週刊朝日』5-15、1924年4月5日
エチル・ガソリン	『我等』7-1、1925年1月1日
フランス髻	『三分劇』三つ『我等』7-10、1925年10月1日
五条河原	『我等』10-3、1928年3月1日
無線電信機	『大正日日新聞[夕刊]』1920年5月10~20、23~31日、6月1~10日

## 『強盗共和国 如是閑創作集』栗田出版会、1973年3月20日

強盗共和国	ヘロデのエトウピア一名強盗共和国『我等』2-1、1920年1月1日
幻覚	『太陽』27-4、1921年4月1日
踏んだり蹴ったり	踏んだり蹴ったり『中央公論』38-4、1923年4月1日
あたま	『中央公論』35-8、1920年7月15日
ひとりもの	『日本及日本人』450、1907年1月1日
くつしたの穴	『日本及日本人』457、458、1907年4月15日、5月1日
病める革命家の日記から	『日本及日本人』597、1913年1月1日
足のうら	『大阪朝日新聞』1909年1月8、9、11~13日
兄の失恋	『女性日本人』2-8、1921年8月1日
子爵夫人と孤児	『女性日本人』1-2、1920年10月1日
乞食同士の会話	『大観』3-11、1920年11月1日
インテリゲンチァ	『中央公論』40-1、1925年1月1日
フェルビグセラチオン	『大阪朝日新聞』1909年1月5日
馬	『中央公論』37-10、1922年9月1日(『現代日本文学全集41』)
ハ爾賓の幻想	『改造』18-1、1936年1月1日
奇異なる葬儀(1幕)	『改造』11-1、1929年1月1日
喜劇強盗(1幕)	『文芸春秋』6-3、1928年3月1日
喜劇大臣候補(1幕)	『中央公論』39-4、1924年4月1日(『日本戯曲全集 第49巻 現代篇 第17輯』(春陽堂、1929年))
喜劇 根管充填(2幕)	『中央公論』41-4、1926年4月1日(『日本戯曲全集 第49巻 現代篇 第17輯』(春陽堂、1929年))
屠蘇に酔った骸骨	『日本及日本人』475、1908年1月1日(『文芸全集5』)

## 『現代日本文学大系 40』筑摩書房、1973年2月20日

日本的性格(抄)	
日本的性格	『日本的性格』(岩波書店、1938年12月20日)から収録
日本文明について	
日本人の心理的特徴	
日本のヒューマニズム	『生活・叢知・思索』(雲井書店、1953年9月30日)から収録
日本文化の世界性	『日本さまざま』(大法輪閣、1962年12月20日)から収録
日本文明の総合性	
文化的デモクラシーの国	
ふたすじ道	『新著月刊』2-3、1898年2月3日(『現代日本文学全集41』)
象やの象さん	『中央公論』36-1、1921年1月1日

『近代日本思想大系 15 長谷川如是閑集』筑摩書房、1976年1月20日

日本的性格	『日本的性格』岩波書店、1938年12月20日(『選集5』)
続日本的性格	『続日本的性格』岩波書店、1942年12月21日(『選集5』)から「10 日本民族の優秀性」を除き収録
現代国家批判	『現代国家批判』弘文堂書房、1921年6月15日(『選集2』)から付録を除き収録
現代知識階級論	『朝日評論』1-5、1946年7月1日(『選集3』)

『近代日本ユウモア叢書 2 長谷川如是閑集』双柿舎、1981年4月1日<都立中央>

<b>秋刀魚先生と重吉</b>	
I 秋刀魚先生	『我等』5-4、1923年4月1日(『創作集3』(叢文閣))
II 重吉の宿	『我等』5-5~7、1923年5月1日、6月1日、7月1日
III 重吉とお絹	『著作集 8』
ふたすぢ道	『新著月刊』2-3、1898年2月3日(『現代日本文学全集41』)
或る謀殺犯人の陳述	『新小説』26-4、1921年4月1日(『現代日本文学全集41』)
喰ひ違ひ(喜劇一幕物)	『我等』4-3、1922年3月1日
ひとりもの	『日本及日本人』450、1907年1月1日

『長谷川如是閑評論集』<岩波文庫>岩波書店、1989年6月16日

権力の外に在る世界	『東京日日新聞』1925年1月3~6日(『現代日本文学全集41』)。
アンチ・ヒロイズム断片	『中央公論』41-1、1926年1月1日(『文芸全集5』)
余技界のギルドに対する叛逆者	『改造』6-8、1924年8月1日
私の書齋と読書法	『帝国大学新聞』439、1932年6月29日(『文芸全集5』)
「リットル・クリティックス」-臆は語る-	『改造』19-2、1937年2月1日
<b>眞実はかく伴る(抄)</b>	
血のパラドックス	『我等』1-14、1919年12月1日(『眞実はかく伴る』(朝日新聞社))
酒樽と人間	『我等』3-6、1921年6月1日(『眞実はかく伴る』(朝日新聞社))
始めか終りか	歳の始め『我等』4-1、1922年1月1日(『眞実はかく伴る』(朝日新聞社))
中国の車夫	支那の車夫『我等』8-6、1926年6月1日(『眞実はかく伴る』(朝日新聞社))
労資は唱ふ不景気時代	『批判』2-1、1931年1月1日(『眞実はかく伴る』(朝日新聞社))
「枢」「密」「院」	『枢』『密』『院』『批判』2-3、1931年3月1日
「吾は点に與みせん」	『吾は点に與みせん』『批判』5-2、1934年2月11日(『眞実はかく伴る』(朝日新聞社))
国家の進化と愛国的精神	『改造』2-9、1920年9月1日(『現代国家批判』)
快樂論的労働観を排す	『我等』2-7、1920年7月1日(『現代社会批判』)
孔子と老子	老子・孔子・支那民族『中央公論』50-7、1935年7月1日(『我観中国』)
日本文化と自然	『美 1936年版』松野一夫編、平凡社、1936年12月2日、『日本的性格』
生活様式から見た日本人気質	『日本人気質』御茶の水書房、1950年3月15日
明治を思う	『世界』85、1953年1月1日
森戸助教授筆禍事件の論理的解剖	『我等』2-2、1920年2月1日(『大学及び大学生』)
<b>傾向及び批判(抄)</b>	
日本の軍国教育と米國	『我等』4-5、1922年5月1日
大学生の軍事研究	『我等』5-6、1923年6月1日
教育に対する軍国的侵略	『我等』6-8、1924年9月1日
滑稽な中等教育の要旨	『我等』10-9、1928年10月1日
<b>一日一題(抄)</b>	
現代日本の欠乏	『読売新聞[夕刊]』1935年6月6日
一元即多元	『読売新聞[夕刊]』1936年4月30日
議会の再認識	『読売新聞[夕刊]』1936年12月25日
時代と教育	『読売新聞[夕刊]』1938年6月5日
「学外」と「学内」	『読売新聞[夕刊]』1939年2月18日(『理想と現実』)
現代の新聞と新聞記者	『改造』11-3、1929年3月1日

ラヂオ文化の根本問題	『中央公論』51-9、1936年9月1日
三宅雪嶺の人と哲学	『近代日本の教養人』実業之日本社、1950年6月1日
初めて逢った漱石	初めて逢った漱石君『大阪朝日新聞』1916年12月18日 (『犬・猫・人間』)
堺利彦	『批判』4-2、1933年2月1日(『文芸全集5』)
吉野作造博士と彼の時代	『中央公論』48-5、1933年5月1日
如是閑語[抄]	『日本及日本人』464~469、1907年8月1、15日、9月1、15日、10月1、15日。468号以外は『搦手から』(至誠堂書店、1915年3月1日)収録

## 『長谷川如是閑集 第1巻』岩波書店、1989年10月20日

呪われた天才青木繁	『日本及日本人』606、1913年5月15日
初めて逢った漱石君	『大阪朝日新聞』1916年12月18日
天文学から宇宙哲学へ	『現代之科学』9-6、1921年3月1日
有島武郎の死	有島武郎君の死『我等』5-8、1923年8月1日
「永遠の叛逆者」有島君	『改造』5-8、1923年8月1日
水島爾保布著『愚談』序	水島爾保布『愚談』厚生閣、1923年5月15日
日本新聞と陸さんの印象	『日本及日本人』869、1923年9月1日
『人類の爲めに』はしがき	ワシリー・エロシェンコ『人類の爲めに』東京刊行社、1924年10月5日
大庭柯公のこと	『我等』7-5、1925年5月1日
エッセイストとしての田口鼎軒	『我等』11-7、1929年7月1日
ある哲学者の死	『文芸春秋』10-8、1932年8月1日
堺利彦	『批判』4-2、1933年2月1日
吉野博士と私	『批判』4-4、1933年4月1日
吉野博士の思ひ出	『書物展望』3-5、1933年5月1日
吉野作造博士と彼の時代	『中央公論』48-5、1933年5月1日
井口孝親著『自殺の社会学的研究』序	井口孝親著『自殺の社会学的研究』清和書店、1934年9月15日
櫛田君と新聞記者	『中央公論』49-12、1934年12月1日
櫛田民蔵君の殉職	『経済往来』9-12、1934年12月1日
逍遥先生のある一面	『改造』17-4、1935年4月1日
青屋翁の書	『日本及日本人』431、1944年5月8日
森戸事件前後の研究室の人たち	『現代随想全集 第2巻』創元社、1953年11月30日
三宅雪嶺の人と哲学	『近代日本の教養人』実業之日本社、1950年6月1日
淡として水の如し	『高嶋米峰自叙伝』学風書院、1950年11月15日
柳瀬正夢を想ふ	『長谷川如是閑選集 補巻 月報』栗田出版会、1970年9月
丸山幹治君のこと	『毎日新聞』1955年8月23日
丸山幹治著『硯滴・余録』	『東京日日新聞』1942年3月1日
鉄腸と私—記者時代の安藤君—	『安藤正純遺稿』安藤正純先生遺徳顕彰会編・刊、1957年10月14日
徳富蘇峰	『講座現代倫理 第9巻 世界と日本の道德教育』筑摩書房、1958年7月25日
狄嶺の語ることば	『江渡狄嶺著作集 第1巻 場の研究』[江渡狄嶺著]平凡社、1958年11月20日
「造化精妙」	『上野理一伝』朝日新聞社社史編修室編、朝日新聞社、1959年12月25日
追憶	『三淵前長官をしのぶ』財団法人法曹会、1961年7月14日
無名人逝く	『中央評論』17-3、1965年9月1日
種を蒔いた日の聯想	『我等』1-6、1919年5月1日
門	『我等』3-8、1921年8月1日
六根清浄	『新小説』27-8、1922年8月1日
純日本式	『東京日日新聞』1923年1月8、9日
余技界のギルドに対する叛逆者	『改造』6-8、1924年8月1日
アンチ・ミリタリストの孫	『改造』6-12、1924年12月1日
権力の外に在る世界	『東京日日新聞』1925年1月3~6日
アンチ・ヒロイズム断片	『中央公論』41-1、1926年1月1日
軍人の進化	『文芸春秋』4-10、1926年10月1日
或る日の聯想	『文芸春秋』5-1、1927年1月1日
アルゲマインギュルチヒ	『文芸春秋』5-7、1927年7月1日
群的被害者としてのスポーツ大衆	『経済往来』5-10、1930年10月1日

「美しい馬鹿」	『満州日報[夕刊]』1931年9月1日
私の書齋と読書法	『帝国大学新聞』439、1932年6月29日
愛犬トチの死を語る	『読売新聞』1932年9月2、3、7、10、11、13日
スタイルは踊る	『行動』2-10、1934年10月1日
書物七癖	『書窓』2-2、1935年11月10日
<b>語は語る</b>	
支那のある小景	『改造』19-1、1937年1月1日
「リトル・クリティックス」	『改造』19-2、1937年2月1日
嘘の道徳性	『改造』19-7、1937年7月1日
敗けに乗じる	『文芸春秋』23-6、1945年12月1日
発言の自由	『りべらる』1-2、1946年3月1日
クツみがき	『週刊朝日』56-20、1951年5月6日
行易不行難	『中央評論』84、1963年9月1日
無言の教訓－日本の「家」	『中央評論』16-2、1964年3月1日

『長谷川如是閑集 第2巻』岩波書店、1989年11月10日長谷川如是閑選集

<b>眞実はかく伴る(抄)</b>	
英雄と民衆と真理	『我等』1-2、1919年3月1日
女の優越性	『我等』1-4、1919年4月1日
「現実政治家」の叫び声	『我等』1-5、1919年4月15日
大世界と小世界	『我等』1-6、1919年5月1日
血のパラドックス	『我等』1-14、1919年12月1日
未来を迎ふる心	『我等』2-1、1920年1月1日
埴輪以前	『我等』2-4、1920年4月1日
名の恋人と画の餅	『我等』2-5、1920年5月1日
機械の人格化－人格の機械化	『我等』2-6、1920年6月1日
ゴリラに返れ	『我等』2-8、1920年8月1日
欺かれた靈魂と人間	『我等』2-9、1920年9月1日
上から下へ	『我等』2-10、1920年10月1日
楚王と漁夫	『我等』2-11、1920年11月1日
衣服と肉体	『我等』2-12、1920年12月1日
「たつた一人に六百人」	『我等』3-2、1921年2月1日
十返舎一九のロジック	『我等』3-4、1921年4月1日
「礼儀正しい泥棒」	『我等』3-5、1921年5月1日
酒樽と人間	『我等』3-6、1921年6月1日
孟子国字解	『我等』3-7、1921年7月1日
「小僧の耳」	『我等』3-11、1921年11月1日
優越と自然	『我等』3-12、1921年12月1日
歳の始め	『我等』4-1、1922年1月1日
蜂の子	『我等』4-2、1922年2月1日
エスキモー	『我等』4-5、1922年5月1日
盗跖の言葉	『我等』4-7、1922年7月1日
節約	『我等』4-9、1922年9月1日
聖人の妻	『我等』4-12、1922年12月1日
踊り児の独語	『我等』5-3、1923年3月1日
善良な悪魔の涙	『我等』5-5、1923年5月1日
猪の聖者	『我等』5-6、1923年6月1日
神が人間を作る時の会議	『我等』6-1、1924年1月1日
鯨の歯	『我等』6-2、1924年3月1日
大虎の謎	『我等』6-3、1924年4月1日
カント以前とカント以後	『我等』6-4、1924年5月1日
モルモン宗徒に学べ	『我等』6-5、1924年6月1日
物が神を創造する	『我等』6-7、1924年8月1日
パラドックス	『我等』6-11、1924年12月1日
闘争から光へ	『我等』7-1、1925年1月1日
偽せ首と葦藁	『我等』7-3、1925年3月1日
豚と豚	『我等』7-4、1925年4月1日
羨むべき『ケレケレ』	『我等』7-5、1925年5月1日
嘘のやうなアメリカの話	『我等』7-7、1925年7月1日
猿語の映ひ	『我等』7-9、1925年9月1日

「新経済政策」	『我等』 7-10、1925.10月1日
軍事教育の見本	『我等』 7-11、1925年11月1日
黒い骨と白い骨	『我等』 7-12、1925年12月1日
翻訳の日本	『我等』 8-2、1926年2月1日
人間と大根	『我等』 8-4、1926年4月1日
支那の車夫	『我等』 8-6、1926年6月1日
ソワシトリの子供達	『我等』 8-11、1926年11月1日
奴隷の世界	『我等』 8-12、1926年12月1日
馬	『我等』 9-1、1927年1月1日
呪はれた白人	『我等』 9-2、1927年2月1日
ある気遣ひ婆さんの死	『我等』 9-3、1927年3月1日
鉄の鉄と黄金の鉄	『我等』 9-5、1927年6月1日
外来思想の取締	『我等』 9-10、1927年12月1日
馬	『我等』 10-2、1928年2月1日
組織の力	『我等』 10-3、1928年3月1日
『ラス』と紙片	『我等』 10-4、1928年4月1日
フランスの泥、日本の泥	『我等』 10-5、1928年5月1日
『不戦條約』劇（一幕）	『我等』 10-8、1928年9月1日
船のやうな国	『我等』 10-10、1928年11月1日
満州にて	『我等』 10-11、1928年12月1日
戦争絶滅受合法案	『我等』 11-1、1929年1月1日
暗殺	『我等』 11-3、1929年3月1日
「珈琲は薄く、紅茶は濃く」	『我等』 11-4、1929年4月1日
裸にされたアメリカ主義	『我等』 11-5、1929年5月1日
汝等の行くべき国	『我等』 11-8、1929年9月1日
『我等』から『現代批判』へ	『我等』 12-2、1930年3月1日
資本主義寺院とソヴェート・ロシア	『批判』 1-1、1930年5月1日
蝗軍蜂起	『批判』 1-2、1930年6月1日
歴史と暴力	『批判』 1-3、1930年7月1日
政治家登録法案	『批判』 1-6、1930年10月1日
労資は唱ふ不景気時代	『批判』 2-1、1931年1月1日
「枢」「密」「院」	『批判』 2-3、1931年3月1日
荒ぶる神	『批判』 2-6、1931年6月1日
もしアメリカが「故人」だったら	『批判』 2-7、1931年7月15日
日本の二枚舌	『批判』 2-9、1931年10月1日
「村正」資本主義と「丸腰」資本主義	『批判』 2-10、1931年11月1日
戦争・平和・楽土	『批判』 3-3、1932年3月1日
遠征	『批判』 3-5、1932年5月1日
百年前のアンチ・ファシスト	『批判』 3-6、1932年6月1日
政党遊戯	『批判』 3-9、1932年9月1日
鈴鈴零信	『批判』 4-5、1933年5月1日
「転向」	『転向』『批判』 4-7、1933年7月1日
象の神経衰弱	『批判』 4-9、1933年9月1日
「民亦勞ス」	『批判』 4-10、1933年11月1日
「吾は点に与みせん」	『批判』 5-2、1934年2月11日
<b>倫敦!倫敦?(抄)</b>	
世界の真中チャーリング・クロツス	『大阪朝日新聞』 1911年3月2~6日
お気の毒なる宮城	『大阪朝日新聞』 1911年3月26日
鉄道から見た倫敦	『大阪朝日新聞』 1911年3月28~31日、4月1、2日
往来から見た倫敦	『大阪朝日新聞』 1911年4月7~13日
車のいろいろ	『大阪朝日新聞』 1911年4月23日
倫敦女房	『大阪朝日新聞』 1911年5月16~20日
上院瞥見	『大阪朝日新聞』 1910年7月19、20日
<b>街頭で考へる ほか</b>	
永代哲学	『日本』 1900年12月24日
続永代哲学	『日本』 1901年1月7日
ロハ台の厭世観	『日本及日本人』 452、1907年2月1日
如是閑語	『日本及日本人』 464~469、8月1、15日、9月1、15日、10月1、15日
街頭で考へる	『東京朝日新聞』 1928年1月1、3~8、10、11日
「大陸」から「大島」へ	『中央公論』 48-6、1933年6月1日

『長谷川如是閑集 第3巻』岩波書店、1989年12月20日

現代社会批判(抄)	
階級戦争の倫理	『我等』1-13、1919年11月1日
民衆化と社会的頹廢	『我等』1-14、1919年12月1日
「労働の芸術化」か「芸術の労働化」か	『解放』2-2、1920年2月1日
現代文化の特徴と其の転機	『太陽』26-6、1920年6月1日
快樂論的労働観を排す	『我等』2-7、7月1日
進化せざる結婚制度	『解放』2-10、1920年10月1日
性的に観た社会	『我等』2-12、1920年12月1日
社会思想の一考察	『雄弁』12-1、1921年1月1日
財産に関する一考察	『我等』3-2、1921年2月1日
生活としての労働	『中央公論』36-3、1921年3月1日
集団意識と協調主義	『我等』3-5、1921年5月1日
『現代社会批判』緒言	『現代社会批判』弘文堂書房、1922年1月25日
道徳の現実性(抄)	
生活の道徳と歴史の虚偽	初出未詳
現代的運動の特徴	『中外日報』1922年2月8～11、14日
正統の道徳と生活の道徳	『中外日報』1922年3月29～31日、4月1、2、5日
神と人と社会	『大観』1922年5-4、4月1日
優越者の道徳—其道徳の不道徳性	『中外日報』1922年4月30日、5月2～7日
支配道徳と労働道徳	『我等』4-7、1922年7月1日
体験と同情	『中外日報』1922年7月9、11、12日
文明と野蛮	『中外日報』1922年8月24～26日
現実の道徳と非現実の道徳	『中外日報』1922年10月21、22、24日
『道徳の現実性』緒言	『道徳の現実性』中外出版、1922年11月20日
現代社会思潮ほか	
現代運動に於ける分化的傾向	『我等』3-9、1921年9月1日
近代的精神の崩壊	『改造』3-13、1921年12月1日
現代運動としての社会的態度	『我等』4-9、1922年9月1日
政治的行動と社会的行動	『我等』4-10、1922年10月1日
二元社会に於ける文明の成立と崩壊	『改造』7-1、1925年1月1日
現代社会思潮	『岩波講座 世界思潮 第11冊』岩波書店、1929年3月10日

『長谷川如是閑集 第4巻』岩波書店、1990年1月19日

傾向及批判(抄)	
一票だけの権利／芸術から政治へ／労働組合の障碍／女子の労働演説	『我等』1-2、1919年3月1日
智的奴隷としての少壮官僚／少壮官僚と市民的良心／出版物検閲官へ／公私生活の合一	『我等』1-3、1919年3月15日
社会的ブーメラン／政治的精神療法／官吏の道徳的倒錯	『我等』1-8、1919年6月1日
戦後の国家目的／『生産減少』の教訓／悟らざる政治家	『我等』1-11、1919年9月1日
西侯と『日本の孤立』／政府の代表と労働者の代表	『我等』1-12、1919年10月1日
政治を悲観する傾向	『我等』1-13、1919年11月1日
所謂『人権問題』／賭博と実業／改造と既得権／法文科の合併	『我等』2-1、1920年1月1日
思想の安全性と危険性	『我等』2-2、1920年2月1日
文化貴族と武門貴族と財閥貴族／秘密裁判と社会的公安／性的よりも社会的	『我等』2-3、1920年3月1日
政局と政治の虚偽／言論に対する境界線	『我等』2-4、1920年4月1日
投機に立脚する政治	『我等』2-5、1920年5月1日
市民と反抗の道徳／罷工権剥奪の立法	『我等』2-6、1920年6月1日
自由民の虐政／失職者たる勇氣	『我等』2-8、1920年8月1日
社会主義同盟の禁止	『我等』2-9、1920年9月1日
女子の社会化と女子教育	『我等』2-10、1920年10月1日
『憂惧』より『安心』へ	『我等』2-11、1920年11月1日
罵しらるべき私学	『我等』3-2、1921年2月1日
満鉄事件の必然性／流行性暴力病	『我等』3-4、1921年4月1日
政党の主権と司法／神棚調査	『我等』3-5、1921年5月1日



労働争議と官憲の態度／明大事件と学問の制馭	『我等』3-6、1921年6月1日
『社会化』の暗殺	『我等』3-7、1921年7月1日
商行為としての賄賂	『我等』3-9、1921年9月1日
一九二一年から二二年へ	『我等』4-1、1922年1月1日
革命的立法	『我等』4-4、1922年4月1日
日本の軍国教育と米国	『我等』4-5、1922年5月1日
過渡の政治と過渡の人	『我等』4-6、1922年6月1日
民族的感情の濫用／ヨツフエ招ねかる	『我等』5-3、1923年3月1日
近代国家と土匪／大学生の軍事研究	『我等』5-6、1923年6月1日
大学と維持員制度／宗教的アナーキズム	『我等』5-9、1923年9月1日
流言と暴行の社会的性質	『我等』5-10、1923年11月1日
政党政治の新紀元へ／英国の政局との対照	『我等』6-1、1924年1月1日
教育に対する軍国的侵略	『我等』6-8、1924年9月1日
軍閥政党化の過程	『我等』7-5、1925年5月1日
憲政内閣と労働組合法案	『我等』7-9、1925年9月1日
国家形態と無産者運動の左右系	『我等』7-10、1925年10月1日
反動心理の回顧	『我等』7-12、1925年12月1日
支那の軍閥と現代国家	『我等』8-5、1926年5月1日
教化によるか裁判によるか	『我等』8-8、1926年8月1日
軍国的反動の空想	『我等』9-6、1927年7月1日
政党政治の野蛮性	『我等』9-7、1927年8月1日
勝利と敗北の性質	『我等』9-9、1927年11月1日
楊宇霆の失言	『我等』9-10、1927年12月1日
南京政府と支那統一	『我等』10-6、1928年7月1日
帝国主義と民政党の分裂	『我等』10-7、1928年8月1日
日本の自治体の変態的性質	『我等』10-8、1928年9月1日
滑稽な中等教育の要旨	『我等』10-9、1928年10月1日
すべての政党の分解期	『我等』11-9、1929年10月1日
スポーツによる曝露	『我等』11-10、1929年11月1日
政党政治家の生活根拠－就職の必然性	『我等』11-11、1929年12月1日
総選挙に於ける無産政党の得票	『我等』12-2、1930年3月1日
<b>一日一題 (抄)</b>	
何がブラジルを誤らしめたか	『読売新聞[夕刊]』1934年6月7日
シャーツ・マニア	『読売新聞[夕刊]』1934年8月2日
交通機関の罷業	『読売新聞[夕刊]』1934年9月6日
議会の再認識	『読売新聞[夕刊]』1934年10月18日
議会の機能	『読売新聞[夕刊]』1934年12月6日
学問と人格	『読売新聞[夕刊]』1935年3月7日
歴史は繰り返す	『読売新聞[夕刊]』1935年3月14日
独裁自由主義	『読売新聞[夕刊]』1935年5月9日
現代日本の欠乏	『読売新聞[夕刊]』1935年6月6日
沢庵石の斤量	『読売新聞[夕刊]』1935年7月25日
土匪	『読売新聞[夕刊]』1935年9月12日
鼻を吸る音	『読売新聞[夕刊]』1935年10月10日
議会か政党か	『読売新聞[夕刊]』1936年4月9日
一元即多元	『読売新聞[夕刊]』1936年4月30日
国民意志と議会	『読売新聞[夕刊]』1936年5月14日
政治的中枢神経	『読売新聞[夕刊]』1936年7月3日
求心力	『読売新聞[夕刊]』1936年10月9日
国家的対立	『読売新聞[夕刊]』1936年12月4日
議会の再認識	『読売新聞[夕刊]』1936年12月25日
国策機関と議会	『読売新聞[夕刊]』1937年1月15日
現実政治の秩序	『読売新聞[夕刊]』1937年1月29日
政治家の喪失	『読売新聞[夕刊]』1937年2月5日
両成敗	『読売新聞[夕刊]』1937年4月2日
反対党と「諍臣」	『読売新聞[夕刊]』1937年4月16日
「屋下屋を架す」	『読売新聞[夕刊]』1937年4月23日
日本の政党	『読売新聞』1937年5月21日
近衛内閣への餞け	『読売新聞[夕刊]』1937年6月4日
洋式官僚主義	『読売新聞[夕刊]』1937年6月11日
二つの立場	『読売新聞[夕刊]』1938年3月11日

時代と教育	『読売新聞[夕刊]』1938年6月5日
「学外」と「学内」	『読売新聞[夕刊]』1939年2月18日
弛緩の危険	『読売新聞[夕刊]』1939年9月8日
素人揃ひ	『読売新聞[夕刊]』1939年11月17日
「独善」の矯正	『読売新聞[夕刊]』1939年12月8日
組織の国民的特性	『読売新聞[夕刊]』1940年7月26日

『長谷川如是閑集 第5巻』岩波書店、1990年2月20日

<b>現代国家批判(抄)</b>	
国家意識の社会化	『我等』1-4、1919年4月1日
国家と真理との交戦状態	『我等』2-3、1920年3月1日
我が現代政治に於ける世界的傾向	『我等』2-4、1920年4月1日
生活の現実と超国家の破滅	『我等』2-6、1920年6月1日
国家的万能力の不合理性	『解放』2-7、1920年7月1日
政党主義の樹立と其自壊作用	『太陽』26-9、1920年8月1日
国家悪と産業悪	『我等』2-8、1920年8月1日
国家の進化と愛国的精神	『改造』2-9、1920年9月1日
闘争本能と国家の進化	『中央公論』35-11、1920年10月1日
實際政治に於ける自由主義と干渉主義	『我等』2-11、1920年11月1日
国家の商人化と政治否定	『我等』3-1、1921年1月1日
議会政治の存在理由と崩壊	『解放』3-2、1921年2月1日
『現代国家批判』自序	『現代社会批判』弘文堂書房、1922年1月25日
<b>日本ファシズム批判(抄)</b>	
ファシズムの社会的条件と日本の特殊事情	『批判』2-3、1931年3月1日
我が国に於けるファシズムの可能と不可能	『批判』2-4、1931年4月1日
民族的対立と満鮮事件	『批判』2-7、1931年7月15日
ブルジョア国家に於ける「議会主義」及び「独裁主義」	『改造』14-3、1932年3月1日
資本主義・帝国主義・日本主義	『経済往来』7-7、1932年7月1日
『日本ファシズム批判』はしがき	『日本ファシズム批判』大畑書店、1932年11月20日
<b>政治的概念としての大衆ほか</b>	
民衆政治を超越して	『改造』5-2、1923年2月1日
日本の近代政治に於ける「官僚」	『太陽』33-13、1927年11月1日
政治的概念としての大衆	『中央公論』43-4、1928年4月1日
近代政治の性質と自治体の墮落	『都市問題』8-1、1929年1月1日
ブルジョア国家に於ける軍部の地位	『時事新報[夕刊]』1931年9月9～12、14～17日
議会政治は復活するか―常識的に考へて	常識的に考へて[「議会政治は復活するか」]『日本評論』11-7、1936年7月1日

『長谷川如是閑集 第6巻』岩波書店、1990年5月18日

<b>メディア</b>	
『大阪朝日』から『我等』へ	『我等』1-1、1919年2月11日
新聞紙休刊問題	社会的欠陥[「新聞紙休刊問題」]『我等』1-11、1919年9月1日
我が新聞紙の現在と将来	『雄弁』11-1、1920年1月1日
社会的感覚機関としての新聞紙	『解放』5-9、1923年9月1日
社会的意識状態としての新聞紙	『日本及日本人』83、1925年10月5日
新聞紙の現代的特徴	『新聞総覧 昭和二年』日本電報通信社、1927年6月25日
『我等』の第百号と時代の流れ	『我等』9-6、1927年7月1日
現代の新聞と新聞記者	『改造』11-3、1929年3月1日
対立的社会的感覚の表現としてのジャーナリズム	『中央公論』45-11、1930年11月1日
ブルジョア・ジャーナリズム	『総合ジャーナリズム講座』[第1巻、第2巻]内外社、1930年10月1日、11月1日
現代新聞総評	『中央公論』46-7、1931年7月1日
『批判』の終刊について	『批判』5-2、1934年2月11日
野崎左文翁	『読売新聞[夕刊]』1935年6月13日
ラヂオと統制時代	『中央公論』50-9、1935年9月1日
新聞紙に於ける社会的感覚の欠乏	『中央公論』51-3、1936年3月1日
ラヂオ文化の根本問題	『中央公論』51-9、1936年9月1日

アメリカニズムの跋扈	『帝国大学新聞』649、1936年11月26日
映画の社会性及び機械性	『帝国大学新聞』661、1937年2月23日
新聞紙の文化的使命	『東京朝日新聞』1941年12月2～4日
ジャーナリズム論	『女性線』4-9、1949年9月1日
<b>社会</b>	
森戸助教授筆禍事件の論理解剖	『我等』2-2、1920年2月1日
地方の講演に出かけて	『中央公論』35-13、1920年12月1日
郊外生活から見た大阪人	『中央公論』36-8、1921年7月15日
いかさま都市の滅亡と新帝都	『中央公論』38-11、1923年10月1日
社会科学的研究に対する非科学的圧迫	『中央公論』40-2、1925年2月1日
子規と治安維持法	『東京日日新聞[夕刊]』1925年2月21日
大正時代を特徴づけた社会的転機	『東京朝日新聞』1927年1月4～8日
「左傾」する理由と「右傾」する理由	『批判』3-2、1932年2月1日
自分の縄で自分を縛る者	『京都帝国大学新聞』185、1933年7月5日
都市生活と自然環境	『都市問題』19-1、1934年7月1日
ケーブルカーイズム	『帝国大学新聞』591、1935年9月23日
<b>文化</b>	
私は素人でゐたい	『時事新報[夕刊]』1920年9月30日、11月1～3日
生活の基点としての都会文化と地方文化	『我等』4-2、1922年2月1日
明治維新と国字問題	『改造』8-13、1926年12月1日
「笑」の社会的性質とユーモア芸術	『改造』16-4、1934年3月1日
原形芸術と複製芸術	『文芸』3-8、1935年8月1日
漱石と江戸ッ子文学	『思想』162、1935年11月1日
日本を知らせる	『帝国大学新聞』695、1937年11月22日
アカデミズムに就て	『科学ペン』3-3、3月1日
国際的文化交通と写真	『季刊]写真文化』<国際報道写真協会>2、1939年2月10日
来るべき文明の性格	『日本評論』15-10、1940年10月1日

## 『長谷川如是閑集 第7巻』岩波書店、1990年4月20日

批判的見地より観たる我国国民性	『解放』3-4、1921年4月1日
日本思想の实在主義的傾向	『批判』3-9、1932年9月1日
国民的性格としての日本精神	『思想』144、1934年5月1日
日本の性格の再検討	『改造』17-6、6月1日
文化の自由性と文化統制の原理	『セルバン』79、1937年8月1日
本居学の学問的態度	『日本評論』13-5、1938年4月1日
日本の進歩主義及保守主義	『改造』20-10、1938年10月1日
日本歴史の持続的性格	『中央公論』55-1、1940年1月1日
日本芸術の象徴性	『日本映画』6-1、1941年1月1日
生活と教育	『日本教育の伝統』(玉川学園出版部、1943年12月15日)から「前篇 2 日本教育の伝統的特色 7 生活と教育」を収録
日本の改造と民族的文化性	『潮流』1-1、1946年1月1日
文化交通の自由	『現代』27-1、1946年1月1日
『日本の性格』はしがき	『日本の性格』<岩波新書>岩波書店、1938年12月20日
『理想と現実』書後に	『理想と現実』岩波書店、1941年8月25日
『続日本の性格』書後に	『続日本の性格』岩波書店、1942年12月21日
『封建文化』はしがき	『封建文化』岩波書店、1947年7月20日
『封建文化と近代文化』はしがき	『封建文化と近代文化』弘文堂、1949年5月15日
『日本人気質』はしがき	『日本人気質』御茶の水書房、1950年3月15日
『失はれた日本』序に代へて	『失はれた日本—日本の教養の伝統—』慶友社、1952年4月15日
ラッセルの社会思想と支那	『読売新聞』1920年11月10～16日
老子・孔子・支那民族	『中央公論』50-7、1935年7月1日
支那的国家形態の特異性	『改造』19-10、1937年10月1日
政治学の二大典型	『日本評論』12-12、1937年11月1日
私のイギリス観	『あるびよん』2、1949年10月5日
支那を見て来た男の言葉(抄)	『我等』3-11、4-4、5、7、10～12、1921年11月1日、1922年4月1日、5月1日、7月1日、10月1日、11月1日、12月1日

『長谷川如是閑集 第8巻』岩波書店、1990年9月7日

書簡	
幼い心の自叙伝	『中央公論』52-1、1937年1月1日
白紙に映った心像	『中央公論』53-2、1938年2月1日
「憲法発布」の頃	『憲法発布』の頃『中央公論』53-3、1938年3月1日

『如是閑文芸選集 第1巻 小説1』岩波書店、1990年11月28日

ふたすぢ道	『新著月刊』2-3、1898年2月3日(『現代日本文学全集41』)
お猿の番人になるまで	『解放』3-2、5、7、1921年2月1日、5月1日、7月1日(『創作集2』(我等社))
虎使ひ志願	『我等』1-3、1919年3月15日(『創作集1』(我等社))
虎から豹へ	『中央公論』37-1、1922年1月1日(『創作集2』(我等社))
二人の軽業師	『新小説』26-8、1921年8月1日(『創作集1』(我等社))
馬	『中央公論』37-10、1922年9月1日
象やの象さん	『中央公論』36-1、1月1日(『創作集1』(我等社))
<b>凡愚列伝(抄)</b>	
「凡愚列伝」とは一読者へのことば	『凡愚列伝 この人々を見よ』岡書院、1950年11月15日
髪結ひのおとら／鳩婆さん	『此の人を見よ』－凡人列伝－『中央公論』42-1、1927年1月1日(『凡愚列伝』)
目が開いた日には大変な男／雲を廻す男	凡愚列伝『改造』9-4、1927年4月1日(『凡愚列伝』)
「クジ六」の軍功	凡愚列伝『改造』9-8、1927年8月1日(『凡愚列伝』)
ある男爵家の系図	凡愚列伝『改造』9-12、1927年12月1日(『凡愚列伝』)
老校長の「左遷」	彼等は余りにも教育家である(凡愚列伝)『改造』15-7、1933年7月1日(『凡愚列伝』)
デュボン博士とその妻	デュボン博士の妻－凡愚列伝のうち－『改造』10-8、1928年8月1日(『凡愚列伝』)
正真正銘の仏弟子	『凡愚列伝 この人々を見よ』岡書院、1950年11月15日

『如是閑文芸選集 第2巻 小説2』岩波書店、1990年12月

額の男	『額の男』政教社、1909年
上げ汐だア	『日本及日本人』481、1908年4月1日(『文芸全集1』)
ひとりもの	『日本及日本人』450、1907年1月1日(『搦手から』)
勝ち誇ったやうに	『日本及日本人』639、1914年9月20日
反抗と否定	『改造』2-10、1920年10月1日(『創作集1』(我等社))
秋刀魚先生	『我等』5-4、1923年4月1日

『如是閑文芸選集 第3巻 小説3』岩波書店、1991年1月28日

奇妙な精神病者の話	『我等』1-1、1919年2月11日(『創作集1』(我等社))
ヘロデのユトウピア一名「強盗共和国」	『我等』2-1、1920年1月1日(『創作集1』(我等社))
幻覚	『太陽』27-4、1921年4月1日(『創作集1』(叢文閣))
或る謀殺犯人の陳述	『新小説』26-4、1921年4月1日(『創作集2』(叢文閣))
無線電心機	『大正日日新聞[夕刊]』1920年5月10～20、23～31日、6月1～10日(『奇妙な精神病者』)
めぐりあひ	『大観』4-7、1921年7月1日(『創作集1』(叢文閣))
叔母さん	伯母さん『大阪朝日新聞[夕刊]』1918年7月5～13日
或るカフェーの娘	『新小説』26-1、1921年1月1日(『創作集1』(我等社))
老人形師と彼れの妻	『我等』2-5、6、1920年5月1日、6月1日

『如是閑文芸選集 第4巻 戯曲・紀行』岩波書店、1991年2月28日

<b>戯曲</b>	
喰ひ違ひ	『我等』4-3、1922年3月1日(『日本戯曲全集 第49巻 現代篇 第17輯』(春陽堂、1929年))
大臣候補	『中央公論』39-4、1924年4月1日(『日本戯曲全集 第49巻 現代篇 第17輯』(春陽堂、1929年))
エチル・ガソリン	『我等』7-1、1925年1月1日(『現代日本文学全集41』)
フランス髻/馬鹿殿評定	『三分劇』三つ『我等』7-10、1925年10月1日(『奇妙な精神病者』)
両極の一致	『改造』8-1、1926年1月1日(『奇妙な精神病者』)

根管充填	『中央公論』41-4、1926年4月1日(『日本戯曲全集 第49巻 現代篇 第17輯』(春陽堂、1929年))
甲冑御披露	『批判』1-3、1930年7月1日
国賊を中心として	『批判』1-4、1930年8月1日
太閤の犢鼻褌	『批判』1-5、1930年9月1日
<b>紀行</b>	
山又山	『大阪朝日新聞』1911年7月24～31日、8月1～20、23～26日
日本アルプス縦断記	『日本アルプス縦断記』大鑑閣、1917年7月23日